FREED

オーナーズマニュアル

はじめに

安全に関する表示について

「運転者や他の人が傷害を受ける可能性のあること」を回避方法と共に、下記の表示で記載しています。これらは重要ですので、しっかりお読みください。

⚠危険
指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告
指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意
指示にしたがわないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示について

お車が故障や破損することを防ぐためのアドバイスや、取り扱いに注意いただきたいことを説明しています。

カスタマイズ可能な機能であることを示しています。

取扱説明書について

取扱説明書は、全てのモデルを対象としています。お客様のお車にはない装備や機能が記載されている場合があり、内容がお車と一致しない場合があります。
イラストは代表例です。実際のお車と必ずしも一致するものではありません。
仕様変更やシステムアップデートにより、お車の仕様と異なる場合があります。最新の情報については、Honda ホームページをご覧ください。
https://www.honda.co.jp/ownersmanual/HondaMotor/auto/

※: QR コード読み取り機能付きの携帯電話をお持ちの場合は、左の QR コードをご利用ください。ご利用にあたっては、お手持ちの携帯電話取扱説明書をご覧ください。QR コードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

Honda Total Care プレミアム

Honda CONNECT を搭載したクルマと緊急サポートセンターやスマートフォンがつながることで、お客様のカーライフがさらに安心・ストレスフリーになるコネクテッドサービスを受けることができます。ご利用になるにはお申込み・ご契約が必要です。Honda Total Care プレミアムの詳しいサービスの内容、およびご契約については Honda Total Care プレミアムのホームページをご覧ください。
https://www.honda.co.jp/hondatotalcare/premium/
また、本書では、Honda Total Care プレミアムのサービスをご利用されるうえで、車両側の特有部分について説明があります。サービスをご利用になる際は、ホームページの詳細説明とともに本書の内容もご参照ください。
サービス内容並びに仕様について予告なく変更、または終了することがあります。

車両特有部分について

緊急通報
緊急通報 ▶P.344
トラブルサポート
トラブルサポート ▶P.345

お車についてのお問い合わせ

お車についてのお問い合わせ、ご相談は、まず Honda 販売店にお気軽にご相談ください。下記アドレスより最新の Honda 販売店を検索することが可能です。
Honda ホームページ https://www.honda.co.jp
(Honda ホームページにある検索ボックスに「販売店」と入力してください。)

携帯電話からは、携帯電話用の Honda ホームページをご覧ください。
https://shopsearch.honda.co.jp/auto/area/

※: QR コード読み取り機能付きの携帯電話をお持ちの場合は、左の QR コードをご利用ください。ご利用にあたっては、お手持ちの携帯電話取扱説明書をご覧ください。QR コードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記のお客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社 お客様相談センター

フリーダイヤル 0120-112010

受付時間 9:00～12:00 13:00～17:00

電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

お車に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速に対応させていただくために、あらかじめ、お手元にお車の車検証をご準備いただき、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。
❶ 車検証記載事項：車両型式、車台番号、原動機の型式、登録番号、登録年月日
❷ 車種名、タイプ名、走行距離 ❸ ご購入年月日 ❹ 販売店名

車両データの記録について

この車には、車両の操作や制御、車両に搭載された各機能の作動履歴などに関するデータを記録する機能が装備されています。各機能の作動時や操作状況により、主に次のようなデータを記録します（車内の映像や音声は記録しません）。

- 車両の状態（車速など）
- 運転状態（アクセル、ブレーキ、ステアリング等の操作状況）
- SRS エアバッグシステムの作動状況
- 衝突軽減ブレーキ作動時の前方カメラ画像
- 車両の故障診断情報

データの取り扱いについて

Honda および Honda が委託した第三者は、記録されたデータを、不具合解析のための技術的診断や、Honda の車両の研究開発、品質向上のために、取得し利用することがあります。Honda は、取得したデータを、以下の場合を除き、第三者に開示または提供することはありません。

- お車の使用者の同意（リース車、レンタカーの場合は借主の同意）がある場合
- 警察、裁判所、政府機関等からの、法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行う等、所有者や使用者、お車が特定できないように加工したデータを、研究機関等に提供する場合

取扱説明書表示機能について✤

取扱説明書を表示するアプリケーションが搭載されているオーディオ装置が装備されている場合は、ソフトウェアの更新を自動的に Honda のサーバーへ問い合わせます。アプリケーションは、次の内容を Honda の定める任意のタイミングで Honda のサーバーに送信します。

- 車台番号、オーディオ装置のシリアル番号、設定言語、取扱説明書バージョン、インターネットプロトコルアドレス、データ処理のログ（アラートまたは更新の表示、更新のダウンロードとインストール、ソフトウェアステータス、表示ページおよび検索キーワード等）

お客様の個人情報

Honda に送信された前述の情報がお客様の個人情報となる場合、当該情報は、個人情報保護法に従って扱われます。
Honda は、送信された情報をソフトウェアのアップデートに利用するほか、Honda のプライバシーポリシーに従って取扱います。詳細については、Honda Web サイト（https://www.honda.co.jp/privacy/hm/）を参照してください。

※: 取扱説明書表示機能は予告なくサービス終了する場合があります。サービス終了の際は引き続き Honda ホームページの取扱説明書をご利用ください。既にインストールされている車両においては、本体設定の初期化を実施しない限り引き続きご利用いただけます。

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

目次

1 運転の前に 12

運転の前に確認していただきたいこと ▶**14** I キー ▶**46** I 施錠/解錠 ▶**51** I ハンドル ▶**61** I
シート ▶**62** I シートベルト ▶**79** I ミラー ▶**87** I パワーウィンドー ▶**89** I テールゲート ▶**92** I
スライドドア ▶**94**

2 運転するときの操作 102

エンジンの始動・停止 ▶**103** I 発進・走行中 ▶**107** I 駐停車 ▶**109** I リアワイドカメラシステム✤▶**111** I
マルチビューカメラシステム✤▶**112** I 給油 ▶**124** I シフト操作 ▶**127** I ブレーキ ▶**129** I
ウィンカー・ライト ▶**137** I ワイパー・ウォッシャー ▶**146** I デフロスター（くもり止め）▶**149** I
フロントガラス熱線スイッチ（霜取り）✤▶**151** I 走行に関する機能 ▶**152**

3 各部の操作 156

室内灯 ▶**157** I 室内装備品 ▶**160** I シートヒーター✤▶**173** I USB ジャック ▶**175** I エアコン ▶**177** I
オーディオ ▶**182**

4 安全運転支援システム 183

Honda SENSING▶**185** I 衝突軽減ブレーキ（CMBS）▶**193** I 踏み間違い衝突軽減システム ▶**200** I
急アクセル抑制機能✤▶**205** I 路外逸脱抑制機能 ▶**210** I 歩行者事故低減ステアリング ▶**215** I
渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール（ACC）▶**219** I 車線維持支援システム（LKAS）▶**231** I
トラフィックジャムアシスト（渋滞運転支援機能）▶**237** I 先行車発進お知らせ機能 ▶**242** I
標識認識機能 ▶**245** I ブラインドスポットインフォメーション✤▶**249** I 後退出庫サポート✤▶**252** I
パーキングセンサーシステム ▶**255**

5 メーターについて 259

警告灯と表示灯 ▶**260** I メーター ▶**267** I マルチインフォメーションディスプレイ ▶**271**

6 メンテナンス 280

メンテナンスの前に ▶**281** I ボンネット内のメンテナンス ▶**283** I ワイパー ▶**287** I タイヤ ▶**291** I
エアコンのお手入れ ▶**296** I 清掃 ▶**298**

7 万一の場合には 303

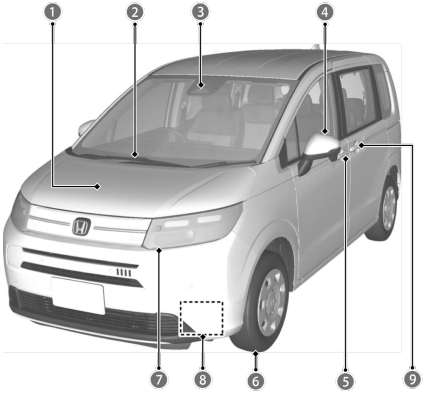
工具、発炎筒 ▶**304** I 電球が切れたとき ▶**307** I スマートキーの電池が切れたとき ▶**309** I
パンクしたとき ▶**311** I ジャッキの取り扱い ▶**321** I エンジンが始動しない ▶**323** I
12V バッテリーがあがったとき ▶**326** I シフトレバーが動かない ▶**329** I
オーバーヒートしたとき ▶**330** I 異常が起きたとき ▶**332** I ヒューズが切れたとき ▶**333** I
けん引したいとき ▶**340** I テールゲートが開かないとき ▶**343** I 緊急時や車両トラブルのとき ▶**344**

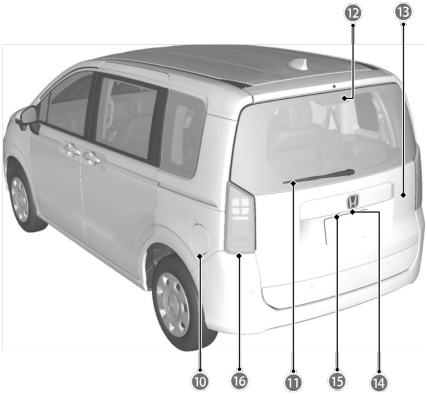
8 車両仕様 346

仕様 ▶**347** I オープンソースライセンス ▶**349**

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

ビジュアル目次





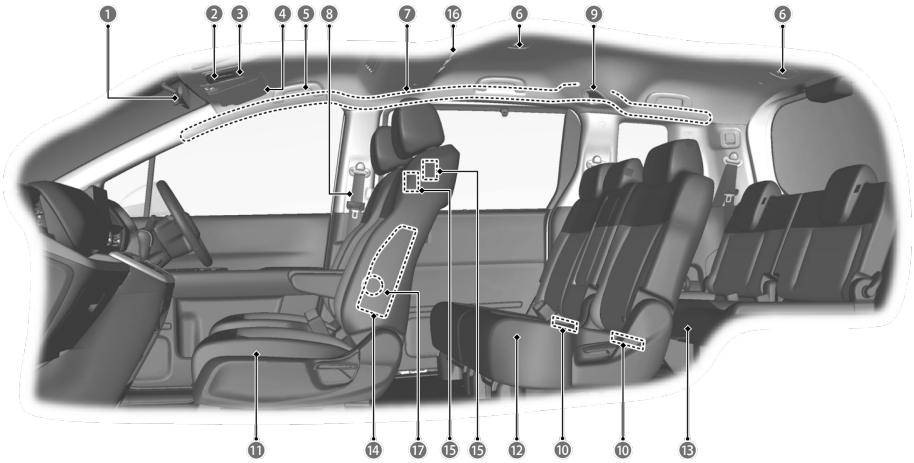
❶	エンジンルーム	▶283
❷	ワイパー	▶146
		▶287
❸	フロントワイドビューカメラ	▶189
❹	ドアミラー	▶87
	ドアミラーウィンカー	▶137
		▶307
	サイドアンダーミラー（助手席側）	▶88
❺	施錠/解錠	▶51
❻	タイヤ	▶291
		▶311

❼	ヘッドライト	▶137
		▶307
	デイタイムランニングライト/車幅灯	▶137
		▶139
		▶307
	ウィンカー	▶137
		▶307
❽	フォグライト✤	▶139
		▶307
❾	スライドドア	▶95
❿	給油	▶125
⓫	リヤワイパー	▶147
		▶289
⓬	ハイマウントストップランプ	▶307
⓭	テールゲート	▶92
⓮	番号灯	▶307

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

⓯	リアワイドカメラシステム✤※	▶111
	マルチビューカメラシステム✤	▶112
⓰	制動灯	▶307
	尾灯	▶137
		▶307
	ウィンカー	▶137
		▶307
	後退灯	▶307

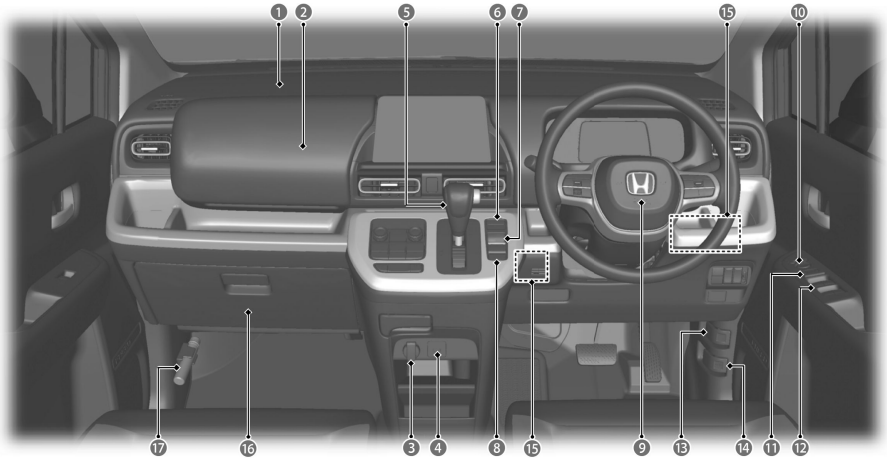
※: ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。



❶	ルームミラー	▶87
❷	室内灯✤	▶157
	マップランプ	▶158
❸	緊急通報ボタン	▶344
	トラブルサポートボタン	▶345
❹	サンバイザー	
	バニティミラー✤	
❺	グラブレール	
❻	室内灯	▶157
❼	サイドカーテンエアバッグシステム	▶43
❽	シートベルト	▶79

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

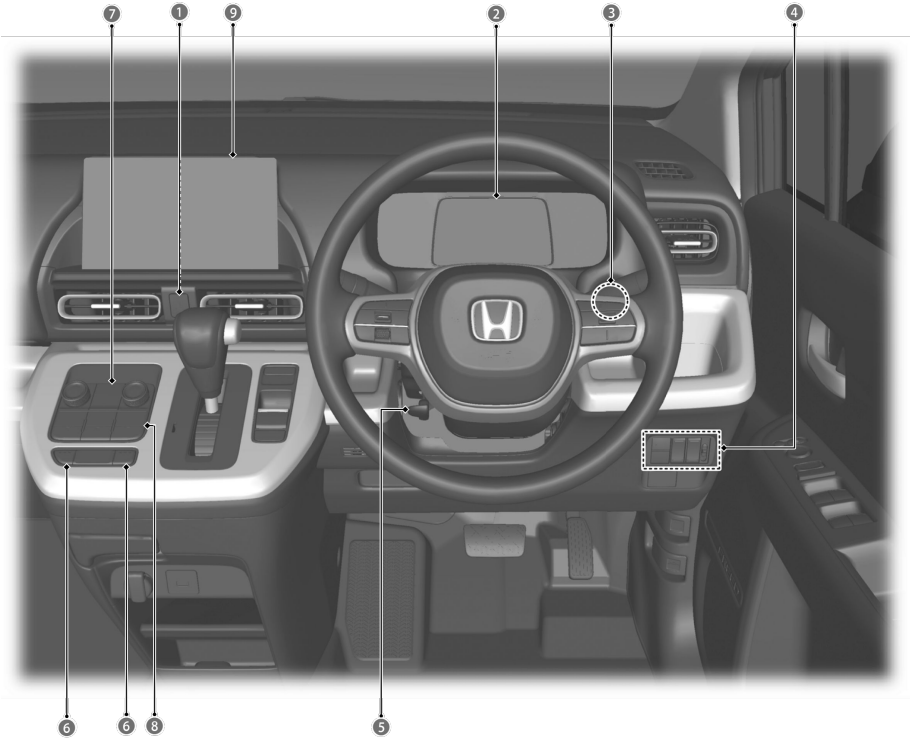
❾	分離収納式シートベルト✤	▶83
❿	ISOFIX/i-Size 取付装置	▶30
⓫	フロントシート	▶66
⓬	セカンドシート	▶67 ▶69
⓭	サードシート✤	▶75
⓮	サイドエアバッグシステム	▶41
⓯	USB ジャック（充電専用）✤	▶175
⓰	後席用クーラー✤	▶180
⓱	コンビニフック✤	▶164



❶	SRS エアバッグシステム（助手席用）	▶40
❷	助手席アッパーボックス	▶160
❸	アクセサリーソケット	▶162
❹	USB ジャック（通信/充電用）※	▶175
❺	シフトレバー	▶127
❻	ECON スイッチ	▶152
❼	パーキングブレーキスイッチ	▶130
❽	オートマチックブレーキホールドスイッチ	▶133
❾	SRS エアバッグシステム（運転席用）	▶40
❿	ドアミラー調節スイッチ	▶87
⓫	マスタードアロックスイッチ	▶57
⓬	パワーウィンドースイッチ	▶89
⓭	フューエルリッドオープナー	▶125
⓮	ボンネット解除ノブ	▶284
⓯	室内ヒューズボックス	▶335 ▶337
⓰	グローブボックス	▶160
⓱	発炎筒	▶305

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

※: ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

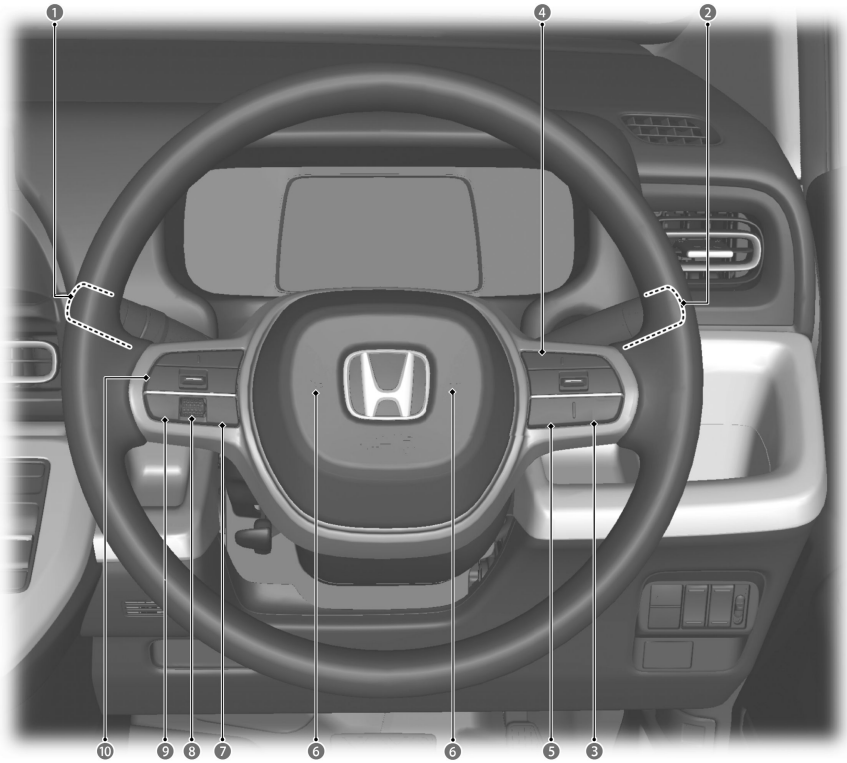


❶	非常点滅表示灯（ハザードスイッチ）	
❷	警告灯	▶260
	表示灯	▶260
	メーター	▶267
	マルチインフォメーションディスプレイ	▶271
❸	ENGINE START/STOP スイッチ	▶103
❹	（VSA OFF）スイッチ	▶154
	フロントガラス熱線スイッチ✤	▶151
	パワースライドドアスイッチ	▶99
❺	ハンドル位置調節レバー	▶61
❻	シートヒータースイッチ✤	▶173
❼	オートエアコン	▶179
❽	リヤデフロスター/ヒーテッドドアミラースイッチ✤	▶149

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

❾ ナビゲーションまたはオーディオ✤※

※: ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。



❶	ワイパー/ウォッシャースイッチ	▶146
	マルチビューカメラシステム✤	▶112
❷	ライト/方向指示器（ウィンカー）スイッチ	▶137
		▶137
	フォグライトスイッチ✤	▶139
❸	スイッチ	▶233
❹	スイッチ	▶220
❺	ディスタンススイッチ	▶223
❻	ホーンスイッチ（ 周辺）	
❼	発話スイッチ※	
❽	レフトセレクターホイール	▶271
❾	スイッチ	▶271

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

⑩ オーディオリモートコントロールスイッチ※	

※: ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

❶ アクセサリーソケット✤	▶162
❷ ユーティリティーナット✤	▶165
❸ テールゲート照明灯✤	▶159
❹ カーゴスペース照明灯✤	▶158
❺ フロアボード✤	▶171
❻ カーゴフック✤	▶164

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

運転の前に

運転の前に確認していただきたいこと

運転の準備……14
運転時の注意事項……16
降車時の注意事項……17
お子さまの安全……18
乳幼児の安全……19
チャイルドシートの取り付けかた……30
大きなお子さまの安全……34
排気ガスの危険性……36
改造とアクセサリー……37
エアバッグについて……38
SRS エアバッグ（フロントエアバッグ）……40
サイドエアバッグ……41
サイドカーテンエアバッグ……43
エアバッグシステム警告灯……44
エアバッグのお手入れ……45

キー

キーについて……46
内蔵キー……49
キーナンバータグ……50

施錠/解錠

キーレスエントリーシステムを使った施錠/解錠方法……51
Honda スマートキーを携帯した施錠/解錠方法……52
降車時オートドアロック機能を用いた施錠方法……53
予約ロック機能を用いた施錠方法……55
内蔵キーを使った施錠/解錠方法……55
Honda スマートキーを使わない施錠方法……56
車内の施錠/解錠方法……57
衝撃感知ドアロック解除システム……58
チャイルドプルーフ……59
こんなときは……59

ハンドル

ハンドルの調整方法……61

シート

シートの調整について……62
フロントシートの調整方法……66
フロントシートアームレストの調節方法……67
セカンドキャプテンシート✤の調整方法……67
セカンドキャプテンシートアームレスト✤の操作……68
セカンドベンチシート✤の調整方法……69
セカンドベンチシートアームレスト✤の操作……70
セカンドベンチシートのはね上げかた……70
セカンドベンチシートの背もたれの倒しかた……72
エクステンションボード✤……74
サードシート✤の調整方法……75
サードシート✤のはね上げかた……75
リヤシートリマインダー……77

シートベルト

シートベルトについて……79
正しい着用法……80
分離収納式シートベルトの着用法✤……83
シートベルトリマインダー……85
シートベルトのアンカーポイント……86

ミラー

ルームミラー……87
ドアミラー……87
サイドアンダーミラー……88

パワーウィンドー

パワーウィンドーの開閉方法……89

テールゲート

テールゲートの開閉時の注意……92

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

運転の前に

スライドドア

スライドドアの開閉について…… 94
スライドドアの開閉操作……95
イージードアクローザー…… 101

運転の前に確認していただきたいこと

運転の準備

乗車前の確認事項

- 車の周囲に子供はいないか、車の周りに障害物はないか
  ≫運転席から見えない死角や、バックミラーでは確認できない死角がありますので、乗車する前に確認してください。
- タイヤは正常か
  ≫空気圧、亀裂、損傷や異常な摩耗がないかを確認してください。
  タイヤのメンテナンスについて ►P.291
- ボンネットは完全に閉まっているか
  ≫走行中にボンネットが開くと、視界がさえぎられて危険です。
- 窓やミラーの視界、灯火器類の光をさえぎるものがないか
  ≫霜、雪、氷が付着している場合は取り除いてください。
  ≫屋根に雪が積もっている場合は、走行時に滑り落ちて視界をさえぎる可能性があるため取り除いてください。氷結しているときは、氷が溶けてから取り除いてください。
  ≫足回りに氷塊が付着している場合は、部品を損傷しないよう注意しながら取り除いてください。
- ドアが凍結していないか
  ≫凍結している場合は、ドアを無理にはがさずお湯をかけて溶かしてください。お湯をかける際は、ドアのキー穴部にかからないようにしてください。無理にはがすと、ドアまわりのゴムがはがれます。凍結防止のため、お湯をかけた後は水分をよくふき取ってください。
- ボンネット内に可燃物の置き忘れや、燃えやすいものがないか
  ≫車両を長期間使用しなかった場合や、メンテナンスの後は、特に注意してください。火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

> ! キーの電子部品の故障など、不具合が発生した場合は Honda 販売店にご相談ください。

乗車後の確認事項

- ドア、テールゲートは完全に閉まっているか
  ≫すべてのドア、テールゲートが施錠されていることを確認してください。
  キーレスエントリーシステムを使った施錠/解錠方法 ►P.51

- ドアやテールゲートが開いていたり、完全に閉まっていないと警告表示がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。
  ≫ドア、テールゲートをもう一度正しく閉め直してください。警告表示は消灯し、正常な状態に戻ります。
  マルチインフォメーションディスプレイについて ▶P.271
- 運転しやすい姿勢にシート位置を調節しているか
  ≫正しい運転姿勢がとれるよう、シート位置やヘッドレストの調節をしてください。
  フロントシートの調整方法 ▶P.66
  シートの調整について ▶P.62
- 同乗者のシートは安全が保たれるよう調節しているか
  ≫ダッシュボードからできるだけ離れた位置までシートを下げてください。
  フロントシートの調整方法 ▶P.66
  シートの調整について ▶P.62
- 乗員全員が正しくシートベルトを着用しているか
  ≫運転者と乗員が正しくシートベルトを着用していることを確認してください。
  シートベルトについて ▶P.79
- エアバッグシステム警告灯などが点灯していないか
  ≫エアバッグに関する説明をお読みいただき、シートの位置などを調節してください。
  エアバッグについて ▶P.38
  エアバッグシステム警告灯 ▶P.44
- お子さまの安全を守るために、チャイルドシートやシートベルトを着用しているか
  ≫お子さまが同乗する場合は、お子さまの年齢や身長・体重に応じてチャイルドシートやシートベルトなどで安全を確保するようにしてください。
  お子さまの安全 ▶P.18
- フロアマットは車に合ったものを適切に使用しているか
  ≫ペダルに引っかかっていたり、固定されていなかったり、重ねて使っているとブレーキやアクセルの操作の妨げとなり危険です。
- フロントシートの足元にものを置いていないか
  ≫ブレーキやアクセルの操作の妨げとなり危険です。
- 積み込んだ荷物が適切に固定されているか
  ≫不適切な荷物の積み込みは、タイヤに負担をかけたり走行中のバランスを維持できず危険です。
- 荷物はシートの高さを越えていないか
  ≫後方視界を妨げたり急ブレーキのときに荷物が飛び出したりするおそれがあり危険です。
- ルームミラー、ドアミラー、ハンドルは適切に調節したか
  ≫正しい運転姿勢ですわり、それぞれ適切な位置に調節します。
  ルームミラー ▶P.87
  ドアミラー ▶P.87
  ハンドルの調整方法 ▶P.61

- 動物を乗せるときは、動きまわらないようにしているか
  ≫運転の妨げになったり、急ブレーキのときなどに思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- メーターに異常を示す警告灯などが点灯していないか？
  ≫異常を示す警告灯の異常を解決してから走行します。
  警告灯と表示灯一覧 ▶P.260

運転時の注意事項

霧が出た場合

視界が悪くなるため、昼間でもヘッドライトを下向きで点灯し、中央線、ガードレール、先行車のテールランプなどを目安にして、速度を落として走行してください。

風が強い場合

車が横に流されるようなときは、ハンドルをしっかり握り、速度を徐々に落として進路を立て直してください。トンネルの出口、橋、土手の上、山を削った切り通しの走行時や大型トラックの追い越し時などには、特に横風の影響を受けやすいため、十分に注意してください。

雨が降っている場合

路面が滑りやすくなっているため、急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け通常より注意深く運転してください。また、わだちなどの水のたまりやすい場所ではハイドロプレーニング現象を起こしやすくなります。

> ! 冠水路などの深い水たまりは走行しないでください。
> エンジンや駆動系の破損、電装品の故障につながるおそれがあります。

その他

走行中、床下に強い衝撃を受けたときは、思わぬ事故につながるおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してブレーキフルードや燃料の漏れ、各部に損傷がないかを確認してください。
下記のような場合には、アンダースポイラーを損傷するおそれがあります。

- 車止めのある場所への駐車
- 路肩に沿っての駐車
- 平坦路から上り坂・下り坂および上り坂・下り坂から平坦路への乗り入れ
- 路肩等段差のある場所への乗り降り

- 凹凸やわだちのある道路の走行
- くぼみ（穴）のある箇所の通過

停車中や極低速のときハンドル操作を繰り返したり、ハンドルに力をかけて保持すると、EPS（電動パワーステアリング）システムの温度が上昇し、システム保護がはたらきハンドル操作が徐々に重くなります。

≫システムの温度が下がると復帰します。

≫断続的にシステム保護がはたらくと、システム破損の原因となります。

降車時の注意事項

坂道で駐車する場合

- パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしているか

  ≫タイヤに輪留めをすると効果が高まります。

  シフトポジションについて ▶P.127

車から離れる場合

- お子さまや介護を必要とされる方、ペットを車内に残していないか

  ≫炎天下などでは車内が高温になることがあります。車内にお子さまや介護を必要とされる方、ペットを残したままにしないようにしてください。

- 車内にライターや炭酸飲料缶を放置していないか

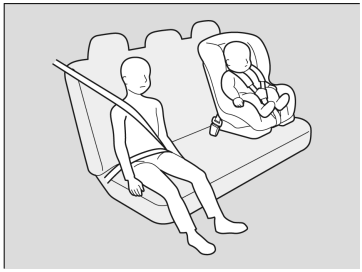
  ≫車内温度上昇によりライターなどの可燃物が自然発火したり、缶などは破裂したりするおそれがあります。

お子さまの安全

お子さまの安全を守るために

お子さまが乗車するときは、下記の注意点を確認し、お子さまの安全を確保してください。

- お子さまはセカンドシートまたはサードシート✤に乗せる
  ≫お子さまを助手席に乗せると、不意の動作が気になったり、スイッチ類をいたずらしたりするなど運転の妨げになるおそれがあります。また、SRS エアバッグが膨らむ際、強い衝撃があります。



- お子さまにも必ずシートベルトを着用させる
  ≫お子さまを抱えたり、ひざの上に乗せないでください。衝突したときに支えることができません。正しい着用方法でお子さまにもシートベルトをしてください。
- 乳幼児にはチャイルドシートを使用する
  ≫乳幼児を乗せるときは、必ずチャイルドシートを使用します。
- 車外に手や顔、ものを出さない
  ≫走行中や一時停止時などに、お子さまが車外に手や顔、ものなどを出さないようにしてください。思わぬ障害物により事故のおそれがあります。
- ドア、ウィンドー、シートなどの操作は必ず大人が行う
  ≫思わぬけがの原因となりますので、お子さまにはドア、ウィンドー、シートなどの操作をさせないでください。
- 車を離れるときは、お子さまを連れて出る
  ≫お子さまだけを車内に残さないでください。特に、炎天下の車内は高温になります。また、お子さまのいたずらにより、車の発進、火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠警告

チャイルドシートは後席に設置する。

助手席に設置すると SRS エアバッグが作動したときの衝撃で、重大な傷害を受けたり、死亡するおそれがあります。

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

⚠警告

シート前方の作動可能なエアバッグで保護されたシートには、後ろ向きチャイルドシートを絶対に取り付けないでください。

お子さまが死亡、または重大な傷害を受けるおそれがあります。

❗ お子さまを助手席に乗せることをおすすめしない理由は下記の通りです。

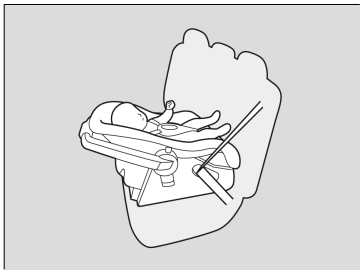
- お子さまが助手席のシートに正しく乗車できないと、SRS エアバッグが膨らんだときに重大な傷害を負うおそれがある
- お子さまの体の一部がサイドエアバッグの作動範囲に入ると、サイドエアバッグが膨らんだときに重大な傷害を負うおそれがある

乳幼児の安全

乳児のチャイルドシート

首のすわっていない乳児は、乳児用のチャイルドシートを正しく固定し、乗せてください。

後ろ向きのチャイルドシートの設置場所



セカンドシートまたはサードシート✤に設置することができます。

≫推奨するのは、助手席の真後ろの席への設置です。その場合、助手席には人を乗せず助手席のシートをできるだけ前に出してください。

≫設置したチャイルドシートとフロントシートが接触していないことを確認してください。

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

⚠警告

後ろ向きのチャイルドシートを前向きにして使わない。

前向きにして使うと前方から衝突したときに、乳児が重大な傷害を負うおそれがあります。

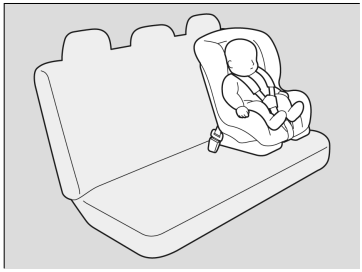
後ろ向きのチャイルドシートは助手席に設置しない。

助手席の SRS エアバッグが膨らんだときに、チャイルドシートの背面にエアバッグが当たり、乳児が重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。

幼児のチャイルドシート

チャイルドシートメーカーが指定する範囲内の幼児は、前向きのチャイルドシートを正しく固定し、乗せてください。

前向きのチャイルドシートの設置場所



セカンドシートまたはサードシート✤への設置を推奨します。

⚠警告

助手席に前向きのチャイルドシートを設置しない。

助手席に前向きのチャイルドシートを設置すると、助手席のシートが前に出すぎていたり、衝突したときに幼児の頭が前に投げ出されると SRS エアバッグで強い衝撃を受けるため、重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。やむをえず助手席に前向きのチャイルドシートを設置する場合は、助手席のシートをできるだけ後ろに下げて設置してください。

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

チャイルドシートの選びかた

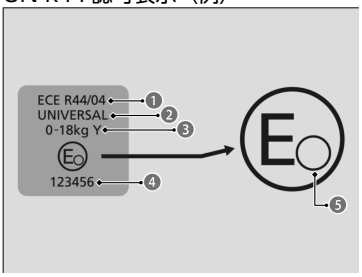
チャイルドシートを購入するときは、シートベルト固定タイプチャイルドシートまたは ISOFIX/i-Size チャイルドシートをお選びください。
シートベルト固定タイプチャイルドシートは、シートベルトを用いて座席に固定します。
ISOFIX/i-Size チャイルドシートは、セカンドシート外側 2 座席に付属している下部取付金具とトップテザー取付金具またはサポートレッグで固定します。

チャイルドシート選択の条件

- チャイルドシートが一覧表に案内されているお子さまに合ったタイプとサイズであること
- チャイルドシートが取り付ける車の座席にあったものであること
- チャイルドシートが安全基準に適合したものであること
  UN R44/R129 に適合したチャイルドシートをお勧めします。

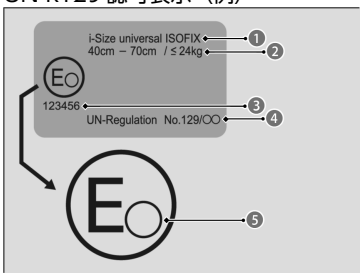
UN 基準の認可を受けたチャイルドシートには、認可マークが表示されています。
チャイルドシートについている認可マークを確認してください。

UN R44 認可表示（例）



❶ 法規番号
❷ カテゴリー
❸ 体重範囲
❹ 認可番号
❺ 国番号

UN R129 認可表示（例）



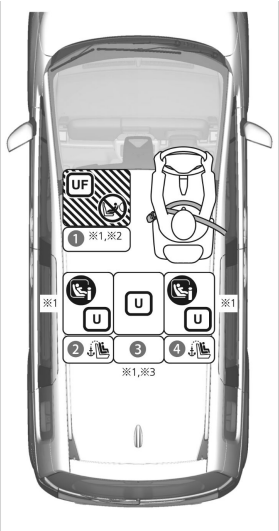
❶ カテゴリー
❷ 身長範囲/体重範囲
❸ 認可番号
❹ 法規番号
❺ 国番号

Honda 純正のチャイルドシートをご用意しています。ご購入、ご使用に際しては Honda 販売店にご相談ください。

チャイルドシートについて

シート位置別チャイルドシート情報

▼ 2 列仕様車



U	車両のシートベルトで固定するタイプの汎用(ユニバーサル)チャイルドシートに適している
UF	車両のシートベルトで固定するタイプの前向きに取付ける汎用(ユニバーサル)チャイルドシートに適している
	i-Size および ISOFIX チャイルドシートに適している
	前向きチャイルドシートのみに適している
	後ろ向きのチャイルドシート取り付け禁止
	トップテザー取付金具を装備している座席

※1: シートスライドを最も後ろの位置に調節してください。
※2: ベルトユニバーサルタイプを取り付ける時はシートバックを最も前のロック位置に調節してください。
※3: 後席中央席にチャイルドシートを取り付けると右側席のシートベルトが使用できなくなります。

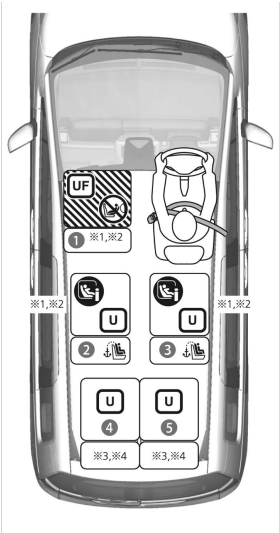
- チャイルドシートがヘッドレストに干渉して安定しない場合はヘッドレストを上げてください。取り外しができるヘッドレストは取り外してください。ヘッドレストを上げる事で干渉を避けられる場合は、ヘッドレストを取り外す必要はありません。なお、取り外したヘッドレストは、急ブレーキや衝突時に飛ばないように、ラゲッジルームに収納してください。また、チャイルドシートを外した場合は、ヘッドレストを元のシートに取り付け、ロックされていることを確認してください。ただし、ブースタークッションのみを使用する場合は、ヘッドレストを取り外さないでください。
- サポートレッグ付きのチャイルドシートは、i-Size チャイルドシートが搭載可能ではない着座位置にも取り付けることができます。
- ジュニアシートが安定して固定できない場合は、シートバック角度をチャイルドシート背面と平行になるように調節してください。その時、チャイルドシートがシートベルトのショルダーアンカーより前方にあることを確認してください。ショルダーアンカーが前過ぎてチャイルドシートが安定しない場合シートバック角度やシートスライドを調節してください。

			シートの位置及びシート位置番号			
	サイズグループ 重量 身長		❶ 助手席※1,※5	❷ 後席(左側)※1	❸ 後席(中央)※1,※3	❹ 後席(右側)※1
ベルト固定の汎用(ユニバーサル)チャイルドシートが搭載可能な着座位置(有/無)	グループ 0	10kg 以下	無	有	有	有
	グループ 0+	13kg 以下				
	グループⅠ	9-18kg	有※2	有	有	有
	グループⅡ	15-25kg				
	グループⅢ	22-36kg				
i-Size チャイルドシートが搭載可能な着座位置(有/無)	150cm 以下		無	有	無	有
推奨チャイルドシートが搭載可能な着座位置(有/無)※4	Honda 純正 チャイルドシートリスト参照		有	有	有	有
搭載可能な横向きチャイルドシート固定具(L1/L2)	—		無	無	無	無
搭載可能な最大後ろ向きチャイルドシート固定具 (R1/R2X/R2/R3)	グループ 0	10kg 以下	無	R3	無	R3
	グループ 0+	13kg 以下				
	グループⅠ	9-18kg				
搭載可能な最大の前向きチャイルドシート固定具(F2X/F2/F3)	グループⅠ	9-18kg	無	F3	無	F3
搭載可能な最大の前向きジュニアシート固定具(B2/B3)	150cm 以下		B3	B3	B3	B3

※1: シートスライドを最も後ろの位置に調節してください。
※2: ベルトユニバーサルタイプを取り付ける時はシートバックを最も前のロック位置に調節してください。
※3: 後席中央席にチャイルドシートを取り付けると右側席のシートベルトが使用できなくなります。
※4: 記載のチャイルドシートは車両販売時点の Honda 純正チャイルドシートです。最新の Honda 純正チャイルドシートについては販売店にお問い合わせください。Honda 純正チャイルドシート以外にも取り付けることができる場合があります。チャイルドシートメーカーにお問い合わせください。
※5: 前向き取り付けのみ

- チャイルドシートがヘッドレストに干渉して安定しない場合はヘッドレストを上げてください。取り外しができるヘッドレストは取り外してください。ヘッドレストを上げる事で干渉を避けられる場合は、ヘッドレストを取り外す必要はありません。なお、取り外したヘッドレストは、急ブレーキや衝突時に飛ばないように、ラゲッジルームに収納してください。また、チャイルドシートを外した場合は、ヘッドレストを元のシートに取り付け、ロックされていることを確認してください。ただし、ブースタークッションのみを使用する場合は、ヘッドレストを取り外さないでください。
- サポートレッグ付きのチャイルドシートは、i-Size チャイルドシートが搭載可能ではない着座位置にも取り付けることができます。
- ジュニアシートが安定して固定できない場合は、シートバック角度をチャイルドシート背面と平行になるように調節してください。その時、チャイルドシートがシートベルトのショルダーアンカーより前方にあることを確認してください。ショルダーアンカーが前過ぎてチャイルドシートが安定しない場合シートバック角度やシートスライドを調節してください。

▼ 3 列仕様セカンドキャプテンシート装備車



U	車両のシートベルトで固定するタイプの汎用(ユニバーサル)チャイルドシートに適している
UF	車両のシートベルトで固定するタイプの前向きに取付ける汎用(ユニバーサル)チャイルドシートに適している
	i-Size および ISOFIX チャイルドシートに適している
	前向きチャイルドシートのみに適している
	後ろ向きのチャイルドシート取り付け禁止
	トップテザー取付金具を装備している座席

※1: シートスライドを最も後ろの位置に調節してください。
※2: ベルトユニバーサルタイプを取り付ける時はシートバックを最も前のロック位置に調節してください。
※3: シートバックを最も前のロック位置に調節してください。
※4: ベルトユニバーサルタイプを取り付ける場合、前座席のシートスライドを最前端ロック位置に調節してください。

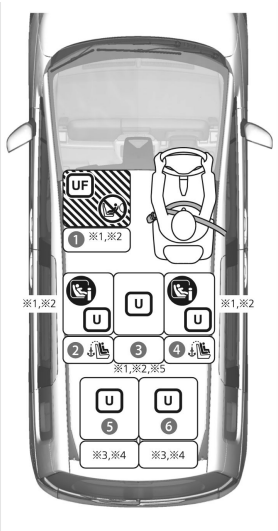
- チャイルドシートがヘッドレストに干渉して安定しない場合はヘッドレストを上げてください。取り外しができるヘッドレストは取り外してください。ヘッドレストを上げる事で干渉を避けられる場合は、ヘッドレストを取り外す必要はありません。なお、取り外したヘッドレストは、急ブレーキや衝突時に飛ばないように、ラゲッジルームに収納してください。また、チャイルドシートを外した場合は、ヘッドレストを元のシートに取り付け、ロックされていることを確認してください。ただし、ブースタークッションのみを使用する場合は、ヘッドレストを取り外さないでください。
- サポートレッグ付きのチャイルドシートは、i-Size チャイルドシートが搭載可能ではない着座位置にも取り付けることができます。ただし、3 列目を除く。
- ジュニアシートが安定して固定できない場合は、シートバック角度をチャイルドシート背面と平行になるように調節してください。その時、チャイルドシートがシートベルトのショルダーアンカーより前方にあることを確認してください。ショルダーアンカーが前過ぎてチャイルドシートが安定しない場合シートバック角度やシートスライドを調節してください。

			シートの位置及びシート位置番号				
	サイズグループ 重量 身長		❶ 助手席※1,※5	❷ 2 列目席(左側)※1	❸ 2 列目席(右側)※1	❹ 後席(左側)※3	❺ 後席(右側)※3
ベルト固定の汎用(ユニバーサル)チャイルドシートが搭載可能な着座位置(有/無)	グループ 0	10kg 以下	無	有※2	有※2	有※4	有※4
	グループ 0+	13kg 以下					
	グループⅠ	9-18kg	有※2	有※2	有※2	有※4	有※4
	グループⅡ	15-25kg					
	グループⅢ	22-36kg					
i-Size チャイルドシートが搭載可能な着座位置(有/無)	150cm 以下		無	有	有	無	無
推奨チャイルドシートが搭載可能な着座位置(有/無)※6	Honda 純正 チャイルドシートリスト参照		有	有	有	有	有
搭載可能な横向きチャイルドシート固定具(L1/L2)	—		無	無	無	無	無
搭載可能な最大後ろ向きチャイルドシート固定具(R1/R2X/R2/R3)	グループ 0	10kg 以下	無	R3	R3	無	無
	グループ 0+	13kg 以下					
	グループⅠ	9-18kg					
搭載可能な最大の前向きチャイルドシート固定具(F2X/F2/F3)	グループⅠ	9-18kg	無	F3	F3	無	無
搭載可能な最大の前向きジュニアシート固定具(B2/B3)	150cm 以下		B3	B3	B3	B3	B3

※1: シートスライドを最も後ろの位置に調節してください。
※2: ベルトユニバーサルタイプを取り付ける時はシートバックを最も前のロック位置に調節してください。
※3: シートバックを最も前のロック位置に調節してください。
※4: ベルトユニバーサルタイプを取り付ける場合、前座席のシートスライドを最前端ロック位置に調節してください。
※5: 前向き取り付けのみ
※6: 記載のチャイルドシートは車両販売時点の Honda 純正チャイルドシートです。最新の Honda 純正チャイルドシートについては販売店にお問い合わせください。Honda 純正チャイルドシート以外にも取り付けることができる場合があります。チャイルドシートメーカーにお問い合わせください。

- チャイルドシートがヘッドレストに干渉して安定しない場合はヘッドレストを上げてください。取り外しができるヘッドレストは取り外してください。ヘッドレストを上げる事で干渉を避けられる場合は、ヘッドレストを取り外す必要はありません。なお、取り外したヘッドレストは、急ブレーキや衝突時に飛ばないように、ラゲッジルームに収納してください。また、チャイルドシートを外した場合は、ヘッドレストを元のシートに取り付け、ロックされていることを確認してください。ただし、ブースタークッションのみを使用する場合は、ヘッドレストを取り外さないでください。
- サポートレッグ付きのチャイルドシートは、i-Size チャイルドシートが搭載可能ではない着座位置にも取り付けることができます。ただし、3 列目を除く。
- ジュニアシートが安定して固定できない場合は、シートバック角度をチャイルドシート背面と平行になるように調節してください。その時、チャイルドシートがシートベルトのショルダーアンカーより前方にあることを確認してください。ショルダーアンカーが前過ぎてチャイルドシートが安定しない場合シートバック角度やシートスライドを調節してください。

▼ 3 列仕様セカンドベンチシート装備車



U	車両のシートベルトで固定するタイプの汎用(ユニバーサル)チャイルドシートに適している
UF	車両のシートベルトで固定するタイプの前向きに取付ける汎用(ユニバーサル)チャイルドシートに適している
	i-Size および ISOFIX チャイルドシートに適している
	前向きチャイルドシートのみに適している
	後ろ向きのチャイルドシート取り付け禁止
	トップテザー取付金具を装備している座席

※1: シートスライドを最も後ろの位置に調節してください。
※2: ベルトユニバーサルタイプを取り付ける時はシートバックを最も前のロック位置に調節してください。
※3: シートバックを最前部のロック位置に調節してください。
※4: ベルトユニバーサルタイプを取り付ける場合、前座席のシートスライドを最前端ロック位置に調節し、シートバックを最も前のロック位置に調節してください。
※5: 中央席にチャイルドシートを取り付ける場合、右側のシートベルトは使用することが出来ません。

- チャイルドシートがヘッドレストに干渉して安定しない場合はヘッドレストを上げてください。取り外しができるヘッドレストは取り外してください。ヘッドレストを上げる事で干渉を避けられる場合は、ヘッドレストを取り外す必要はありません。なお、取り外したヘッドレストは、急ブレーキや衝突時に飛ばないように、ラゲッジルームに収納してください。また、チャイルドシートを外した場合は、ヘッドレストを元のシートに取り付け、ロックされていることを確認してください。ただし、ブースタークッションのみを使用する場合は、ヘッドレストを取り外さないでください。
- サポートレッグ付きのチャイルドシートは、i-Size チャイルドシートが搭載可能ではない着座位置にも取り付けることができます。ただし、3 列目を除く。
- ジュニアシートが安定して固定できない場合は、シートバック角度をチャイルドシート背面と平行になるように調節してください。その時、チャイルドシートがシートベルトのショルダーアンカーより前方にあることを確認してください。ショルダーアンカーが前過ぎてチャイルドシートが安定しない場合シートバック角度やシートスライドを調節してください。

<table>
<tr><th colspan="2"></th><th colspan="2"></th><th colspan="6">シートの位置及びシート位置番号</th></tr>
<tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="2" rowspan="2">サイズグループ
重量
身長</th><th>❶</th><th>❷</th><th>❸</th><th>❹</th><th>❺</th><th>❻</th></tr>
<tr><th>助手席※1,※6</th><th>2 列目席(左側)※1</th><th>2 列目席(中央)※1,※5</th><th>2 列目席(右側)※1</th><th>後席(左側)※3</th><th>後席(右側)※3</th></tr>
<tr><td rowspan="5">ベルト固定の汎用(ユニバーサル)チャイルドシートが搭載可能な着座位置(有/無)</td><td>グループ 0</td><td>10kg 以下</td><td rowspan="2">無</td><td rowspan="2">有※2</td><td rowspan="2">有※2</td><td rowspan="2">有※2</td><td rowspan="2">有※4</td><td rowspan="2">有※4</td></tr>
<tr><td>グループ 0+</td><td>13kg 以下</td></tr>
<tr><td>グループ Ⅰ</td><td>9-18kg</td><td rowspan="3">有※2</td><td rowspan="3">有※2</td><td rowspan="3">有※2</td><td rowspan="3">有※2</td><td rowspan="3">有※4</td><td rowspan="3">有※4</td></tr>
<tr><td>グループⅡ</td><td>15-25kg</td></tr>
<tr><td>グループⅢ</td><td>22-36kg</td></tr>
<tr><td>i-Size チャイルドシートが搭載可能な着座位置(有/無)</td><td colspan="2">150cm 以下</td><td>無</td><td>有</td><td>無</td><td>有</td><td>無</td><td>無</td></tr>
<tr><td>推奨チャイルドシートが搭載可能な着座位置(有/無)※7</td><td colspan="2">Honda 純正
チャイルドシートリスト参照</td><td>有</td><td>有</td><td>有</td><td>有</td><td>有</td><td>有</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td></td><td colspan="2"></td><td colspan="6">シートの位置及びシート位置番号</td></tr>
<tr><td rowspan="2"></td><td colspan="2" rowspan="2">サイズグループ
重量
身長</td><td>❶</td><td>❷</td><td>❸</td><td>❹</td><td>❺</td><td>❻</td></tr>
<tr><td>助手席※1,※6</td><td>2列目席(左側)※1</td><td>2列目席(中央)※1,※5</td><td>2列目席(右側)※1</td><td>後席(左側)※3</td><td>後席(右側)※3</td></tr>
<tr><td>搭載可能な横向きチャイルドシート固定具(L1/L2)</td><td colspan="2">—</td><td>無</td><td>無</td><td>無</td><td>無</td><td>無</td><td>無</td></tr>
<tr><td rowspan="3">搭載可能な最大後ろ向きチャイルドシート固定具(R1/R2X/R2/R3)</td><td>グループ 0</td><td>10kg 以下</td><td rowspan="3">無</td><td rowspan="3">R3</td><td rowspan="3">無</td><td rowspan="3">R3</td><td rowspan="3">無</td><td rowspan="3">無</td></tr>
<tr><td>グループ 0+</td><td>13kg 以下</td></tr>
<tr><td>グループ I</td><td>9-18kg</td></tr>
<tr><td>搭載可能な最大の前向きチャイルドシート固定具(F2X/F2/F3)</td><td>グループ I</td><td>9-18kg</td><td>無</td><td>F3</td><td>無</td><td>F3</td><td>無</td><td>無</td></tr>
<tr><td>搭載可能な最大の前向きジュニアシート固定具(B2/B3)</td><td colspan="2">150cm 以下</td><td>B3</td><td>B3</td><td>B3</td><td>B3</td><td>B3</td><td>B3</td></tr>
</table>

※1: シートスライドを最も後ろの位置に調節してください。
※2: ベルトユニバーサルタイプを取り付ける時はシートバックを最も前のロック位置に調節してください。
※3: シートバックを最前部のロック位置に調節してください。
※4: ベルトユニバーサルタイプを取り付ける場合、前座席のシートスライドを最前端ロック位置に調節し、シートバックを最も前のロック位置に調節してください。
※5: 中央席にチャイルドシートを取り付ける場合、右側のシートベルトは使用することが出来ません。
※6: 前向き取り付けのみ
※7: 記載のチャイルドシートは車両販売時点の Honda 純正チャイルドシートです。最新の Honda 純正チャイルドシートについては販売店にお問い合わせください。Honda 純正チャイルドシート以外にも取り付けることができる場合があります。チャイルドシートメーカーにお問い合わせください。

- チャイルドシートがヘッドレストに干渉して安定しない場合はヘッドレストを上げてください。取り外しができるヘッドレストは取り外してください。ヘッドレストを上げる事で干渉を避けられる場合は、ヘッドレストを取り外す必要はありません。なお、取り外したヘッドレストは、急ブレーキや衝突時に飛ばないように、ラゲッジルームに収納してください。また、チャイルドシートを外した場合は、ヘッドレストを元のシートに取り付け、ロックされていることを確認してください。ただし、ブースタークッションのみを使用する場合は、ヘッドレストを取り外さないでください。
- サポートレッグ付きのチャイルドシートは、i-Size チャイルドシートが搭載可能ではない着座位置にも取り付けることができます。ただし、3 列目を除く。

- ジュニアシートが安定して固定できない場合は、シートバック角度をチャイルドシート背面と平行になるように調節してください。その時、チャイルドシートがシートベルトのショルダーアンカーより前方にあることを確認してください。ショルダーアンカーが前過ぎてチャイルドシートが安定しない場合シートバック角度やシートスライドを調節してください。

推奨チャイルドシート

適用範囲	チャイルドシート	カテゴリー
身長 100cm 以下	Honda Baby & Kids i-Size	i-Size(後向き)
身長 71cm 以上 かつ月齢 15 か月以上ー身長 100cm 以下	Honda Baby & Kids i-Size	i-Size
身長 100cm 以上 150cm 以下	Honda Junior i-Size	i-Size Booster seat

推奨チャイルドシートのご購入は Honda 販売店にご相談ください。
チャイルドシートをご購入する際は、ISOFIX サイズ等級に一致したものをお選びください。

固定具	お子さまの大きさ	使用の向き	形状、大きさ
ISO/L1 ISO/L2 ISO/R1	乳児 乳児 乳児	左 右 後ろ	寝台式 寝台式 ー
ISO/R2X ISO/R2 ISO/R3 ISO/F2X ISO/F2 ISO/F3	幼児 幼児 幼児 幼児 幼児 幼児	後ろ 後ろ 後ろ 前 前 前	小型 小型 大型 低型 低型 全高
ISO/B2 ISO/B3	学童 学童	前 前	狭幅 全幅

⚠警告

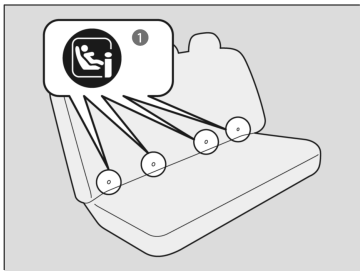
シートベルトは必ず正しく着用する。

シートベルトを正しく着用しないと、衝突したときに重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

チャイルドシートの取り付けかた

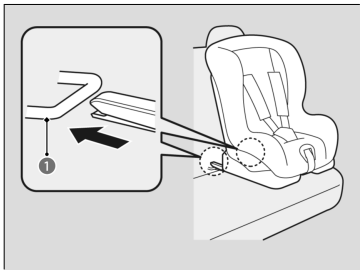
ISOFIX/i-Size チャイルドシートの取り付け

ISOFIX/i-Size チャイルドシートは、セカンドシート外側 2 座席に設置できます。チャイルドシートは、下部取付金具とトップテザー取付金具で固定します。



[1] マークの下にあるシートの切れ目から下部取付金具を確認する。

❶ マーク



[2] チャイルドシートを座席に置き、チャイルドシートの取扱説明書にしたがって下部取付金具に取り付ける。

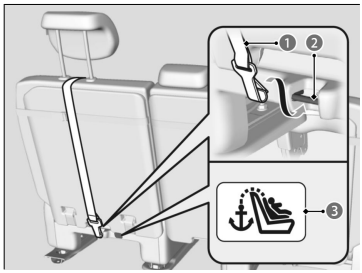
≫取り付けの際に、異物やシートベルトなどが下部取付金具にかみ込まないようにしてください。

❶ 下部取付金具

▼ トップテザーストラップ付きチャイルドシート

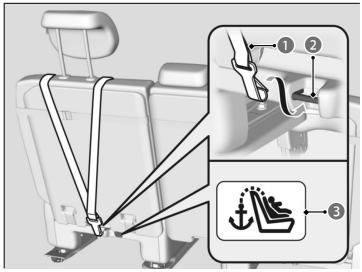
▼ 2 列シート

▼ 1 本タイプ



❶ トップテザーストラップ
❷ トップテザー取付金具
❸ トップテザー取付金具シンボル

▼ 2 本タイプ



❶ トップテザーストラップ
❷ トップテザー取付金具
❸ トップテザー取付金具シンボル

▼ 2 列仕様車

[3] 背もたれのボードが格納されていることを確認してください。

エクステンションボード* ▶P.74

▼ 全仕様車

[4] ヘッドレストを調節して最上段で固定し、トップテザーストラップが 1 本タイプの場合はヘッドレストレッグの間を通し、2 本タイプの場合はヘッドレストレッグの外側に通す。

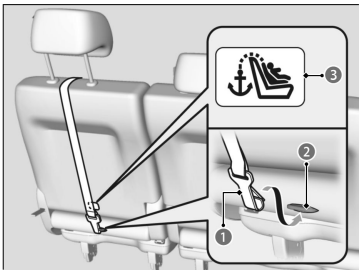
≫このときトップテザーストラップがねじれないように注意してください。

[5] トップテザーストラップをトップテザー取付金具に引っかけ、ストラップを締める。

[6] チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する。

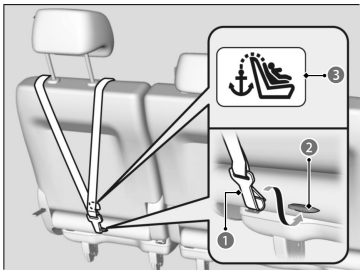
▼ 3 列仕様セカンドベンチシート

▼ 1 本タイプ



❶ トップテザーストラップ
❷ トップテザー取付金具
❸ トップテザー取付金具シンボル

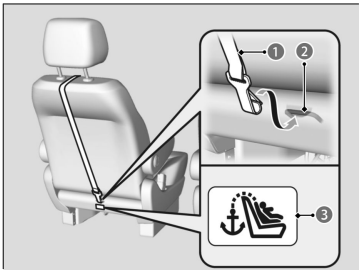
▼ 2 本タイプ



❶ トップテザーストラップ
❷ トップテザー取付金具
❸ トップテザー取付金具シンボル

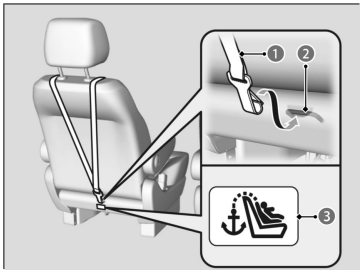
▼ 3 列仕様セカンドキャプテンシート

▼ 1 本タイプ



❶ トップテザーストラップ
❷ トップテザー取付金具
❸ トップテザー取付金具シンボル

▼ 2 本タイプ

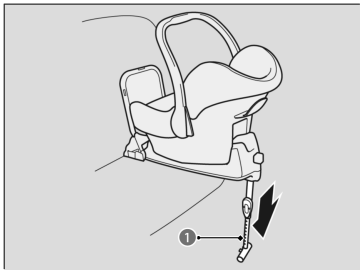


❶ トップテザーストラップ
❷ トップテザー取付金具
❸ トップテザー取付金具シンボル

⚠注意

トップテザー取付金具シンボルが無いフックに、トップテザーストラップを使用しないでください。

▼ サポートレッグ付きチャイルドシート



❶ サポートレッグ

[3] サポートレッグをチャイルドシートの取扱説明書にしたがってフロアにつくまで伸ばす。

≫サポートレッグを設置するフロア面は水平な面であることを確認してください。シートの前後左右✤位置によっては、サポートレッグの設置フロア面が水平ではなく安定しない場合があります。その場合は、シート前後左右✤位置を調整してください。

≫スライドレールやカバーにサポートレッグが接地しないことを確認してください。

≫設置したチャイルドシートとフロントシートが接触していないことを確認してください。

- ISOFIX/i-Size チャイルドシートは、シートベルトで固定する必要はありません。
- チャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んでください。

⚠注意

チャイルドシートが確実に固定されているか確認する。

確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

⚠注意

下部取付金具周辺に、異物やシートベルトのかみ込みがないか確認する。

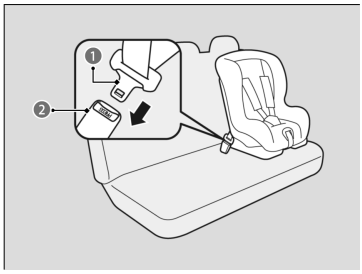
異物やシートベルトをかみ込むとチャイルドシートが確実に固定されず、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

セカンドシートおよびチャイルドシートが確実に固定されているか確認する。

確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにシートといっしょにチャイルドシートが動き、傷害を受けるおそれがあります。

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

シートベルトでの取り付け

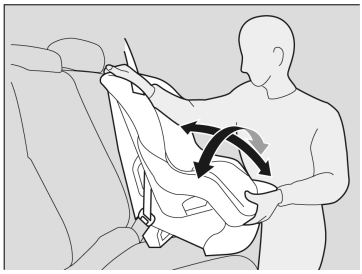


[1] チャイルドシートを座席に置く。

[2] シートベルトをチャイルドシートに通し、タングプレート（❶）をバックル（❷）に差し込む。

≫このとき、バックルが「カチッ」という音がするまできちんと差し込んでください。

≫チャイルドシートの種類によりシートベルトの固定に固定金具（ロッキングクリップ）が必要になります。



[3] チャイルドシートに付属の取扱説明書にしたがって取り付ける。

[4] チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する。

- チャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んでください。

⚠注意

チャイルドシートが確実に固定されているか確認する。

確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

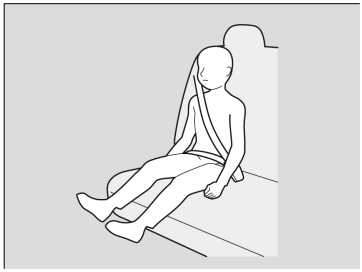
大きなお子さまの安全

シートの使用について

幼児用のチャイルドシートの使用条件を超えるお子さまは、セカンドシートまたはサードシート✤に乗せて三点式シートベルトを着用させてください。お子さまをシートに深くすわらせ、以下の確認項目でひとつでも適合しない場合、ジュニアシートの使用が必要です。

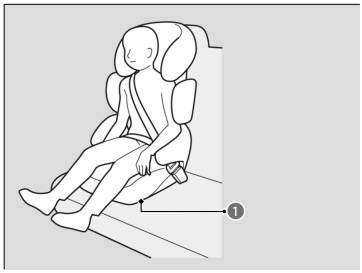
✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

確認項目



- お子さまのひざがシートの前端で無理なく曲がっているか？
- 肩ベルトがお子さまの首と腕の間にかかっているか？
- 腰ベルトが低い位置にあり、お子さまの太ももに触れているか？
- 乗車中、無理なくすわっていられるか？

ジュニアシートに乗せる場合



三点式シートベルトを使用できず、ジュニアシートを用いる必要があるお子さまは、ジュニアシートをセカンドシートまたはサードシート✤に設置して使用してください。安全のため、お子さまがジュニアシートの使用に適した範囲に入っているか確認してください。

❶ ジュニアシート

- ジュニアシートの取り付けについては、ジュニアシートに付属の取扱説明書をよく読み、正しく取り付けてください。
  ジュニアシートには、座高の高いものと低いものがあります。お子さまが適切にシートベルトを着用できるものを選択してください。

やむをえず、お子さまを助手席に乗せる場合

正しい姿勢ですわる、走行中にシートベルトを着用するなどの規則をお子さまが守ることができ、お子さまを助手席に乗せても安全と判断した場合、下記の項目を守ってお子さまを乗車させてください。

- 取扱説明書をよく読み、シートベルトに関する指示と安全に関して十分に理解する
- 助手席を一番後ろまで下げる
- 上体を起こし、シートに深く腰かけるように指示する
- お子さまのシートベルトが正しい位置で、しっかり固定されているか確認する

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

⚠警告

お子さまは助手席に乗せない。

お子さまを助手席に乗せると、SRS エアバッグが膨らんだときに、重大な傷害を負うおそれがあります。やむをえず、助手席にお子さまを乗せる場合は、できるだけシートを後方に下げ、必要ならばジュニアシートを使用し、適切にシートベルトを着用してすわらせてください。

排気ガスの危険性

一酸化炭素について

この車の排気ガスには一酸化炭素が含まれています。車をきちんと保守していれば、一酸化炭素が車内に入ることはありません。以下の場合は、排気ガスのもれがないかHonda 販売店で点検を受けてください。

- 排気音に異常を感じたとき
- 車が衝突し、排気システムが損傷した可能性があるとき

⚠警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。

一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。

密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。

周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。

エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

ガレージなどの密閉された場所は、一酸化炭素が急に充満するおそれがあります。

ガレージのドアを閉めたままエンジンを始動しないでください。ドアが開いている場合でも、ガレージから車を出す直前にエンジンを始動してください。

改造とアクセサリー

改造について

- 車の改造はしないでください。
- Honda 純正部品以外の、車の性能や機能に適さない部品を使用しないでください。
  ≫Honda が国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違反になることがあります。
- 診断コネクターは、故障診断用の診断装置などの機器のみを接続するためのものです。
  ≫それ以外の機器を接続すると、車の電子機器に悪影響をおよぼしたり、12V バッテリーがあがるなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。
- 無線装置などの取り付けの際には、必ず Honda 販売店にご相談ください。
  ≫装置や取り付け方法が適切でない場合、電子機器部品に悪影響をおよぼすことがあります。

⚠警告

不正改造、電装品の分解・改造は、絶対に行わないでください。

- 法律で禁止されています。
- 適正な性能や機能を発揮しない可能性があります。
- 故障や火災など思わぬ事故につながる可能性があります。

車の性能、品質を維持するために、Honda 車に最も適した Honda 純正部品をお使いください。

純正部品には下記のマークが付いています。

お求め、装着に際しては、Honda 販売店にご相談ください。

HONDA

GENUINE PARTS

アクセサリーの取り付け

アクセサリーを取り付ける場合は、下記の項目を確認してください。

- アクセサリーをフロントガラスに取り付けていないか
  ≫アクセサリーの揺れる動きが車外の状況認識を遅らせることがあります。
  ≫吸盤がレンズのはたらきをして、火災につながるおそれがあります。
- エアバッグの作動や視界の妨げになる場所にアクセサリーを取り付けていないか

エアバッグについて

エアバッグは、パワーモードが ON モードのときに車体が衝突による衝撃を受けると膨らみ、運転者および同乗者の受ける衝撃を緩和させます。エアバッグには下記の種類があり、衝突の方向や条件などにより作動が一部異なります。

- SRS エアバッグ：フロントシートの前方向エアバッグ
- サイドエアバッグ：フロントシートの横方向エアバッグ
- サイドカーテンエアバッグ：窓側の天井部両側についたエアバッグ

エアバッグの作動について

SRS エアバッグは、次のような場合に作動します。

- 20～30km/h 以上の速度で、きわめて厚い固定されたコンクリートの壁に真正面から衝突したときと同等か、それ以上の衝撃を受けたとき
- 車両の前方左右約 30 度以内の方向から強い衝撃を受けたとき

衝撃を吸収できるもの（車やガードレールのように変形するもの）に衝突した場合、作動するときの車速は高くなります。
次のような場合、車両下部に強い衝撃を受け、SRS エアバッグが作動することがあります。

- 縁石や地面の突起物に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ちたとき
- 高いところから落ちたとき

次のような場合、SRS エアバッグが作動しないことがあります。

- 電柱、立ち木などへの衝突
- トラックなどへの潜り込み
- 部分的な衝突や斜め方向からの衝突

車体の部位によって衝撃の吸収度合いが異なりますので、損傷状態の大小と SRS エアバッグの作動は必ずしも一致しません。
シートベルトだけで乗員を保護できるような低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果がないので作動しません。

- 横方向からの衝突
- 後部からの衝突
- 横転または転覆

事故の状況、形態によっては、SRS エアバッグが作動することがあります。

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受け、サイドエアバッグが作動することがあります。

- 縁石や地面の突起物に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ちたとき
- 高いところから落ちたとき

次のような場合、サイドエアバッグが作動しないことがあります。

- 乗員付近以外の側面への衝突

サイドエアバッグは乗員の受ける衝撃の大きさによって作動するようになっていますので、車両の損傷状態の大小とサイドエアバッグの作動は必ずしも一致しません。
低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果がないので作動しません。
ただし事故の状況、形態によっては、サイドエアバッグが作動することがあります。

- 正面衝突
- 後部からの衝突
- 横転または転覆

サイドカーテンエアバッグの作動条件は、サイドエアバッグと同じ条件です。
前方向から衝突したときのサイドカーテンエアバッグの作動について

- 前方向からの衝突時、横方向に一定以上の力がかかると、SRS エアバッグが膨らんだ後必要な側のサイドカーテンエアバッグが膨らみます。

⚠警告

エアバッグ装備車でもシートベルトは必ず使用する。

エアバッグは、衝撃を緩和するためのシステムで、シートベルトの補助拘束具です。エアバッグ装備車であっても、必ず正しくシートベルトを着用してください。シートベルトを着用しないと、衝突時にエアバッグの効果が十分に発揮されず、重大な傷害や死亡などの危険性が高くなります。

⚠注意

エアバッグが膨らんだ直後は、構成部品に触れない。

エアバッグの構成部品が熱くなっているため、やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

エアバッグの分解、取り外しはしない。

不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

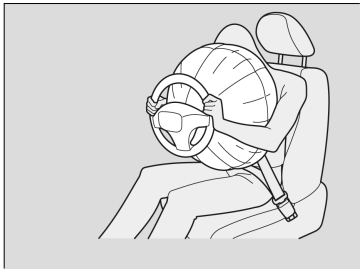
エアバッグは非常に速い速度で膨らみます。
エアバッグとの接触により、すり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。

この車にはイベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。
SRS エアバッグが作動したとき、もしくは一定以上の衝突が発生した場合に車両データを記録します。
車両データの記録について ▶P.3

エアバッグが膨らむときに、空中に粉が舞うことがあります。
この粉は無害ですが、場合によっては一時的に不快感をおぼえることがあります。安全を確認後、ただちに車外に出てください。

SRS エアバッグ（フロントエアバッグ）

SRS：サプリメンタルレストレイントシステム（Supplemental Restraint System）の略で、シートベルトの補助拘束の意味。



運転席と助手席についています。前方向から衝突すると、シートベルトが乗員の下半身と胴体を拘束し、SRS エアバッグが頭と胸部を保護します。運転者の視界を妨げたり、ハンドル操作の邪魔にならないように、SRS エアバッグは膨らんだ後すぐにしぼみます。

運転席側はハンドルの中央、助手席側はダッシュボードに SRS エアバッグが格納されています。どちらも「SRS AIRBAG」と表示されています。

⚠警告

インストルメントパネルに手をついたり頭や胸を近づけた状態で乗車しない。

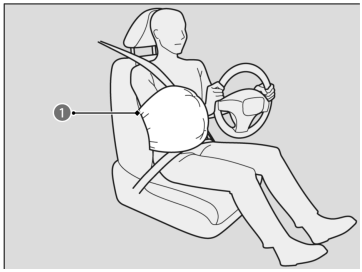
SRS エアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠注意

ハンドルやインストルメントパネル上面に、ステッカーを貼ったり、ものを置いたりしない。

SRS エアバッグが正常に機能しなくなったり、エアバッグが膨らんだときに置いたものが飛んで運転者や同乗者がけがをする原因になります。

サイドエアバッグ



フロントシートの背もたれの外側にあるエアバッグです。
側面からの衝突により、エアバッグが膨らみ、運転者と助手席の同乗者の胸部への衝撃を緩和します。

❶ サイドエアバッグ

運転席、助手席ともにシートの背もたれ外側に格納されています。どちらも「SIDE AIRBAG」と表示されています。

⚠注意

ドアやその周辺にアクセサリーなどを取り付けたり、ものを置いたりしない。

正常に作動しなかったり、作動時にこれらのものが飛ぶことがあります。

サイドエアバッグ格納部に衝撃や無理な力を加えない。

ドアに寄りかからない。

サイドエアバッグの格納部に手や顔を必要以上に近づけない。

セカンドシート同乗者は、フロントシートの背もたれを抱えない。

サイドエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け傷害を受けるおそれがあります。

サイドエアバッグの分解、取り外しはしない。

不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

❗ サイドエアバッグは、シートベルトを着用し上体を起こしてシートに深く腰かけているときに保護効果を発揮します。

サイドエアバッグの保護効果を維持するために、シートベルトは正しく着用してください。

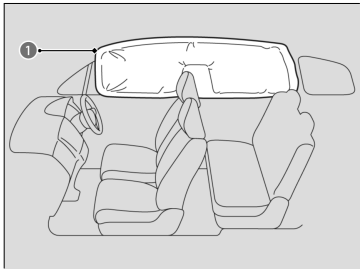
❗ サイドエアバッグがシートカバーによっては、正常に機能できなくなります。

フロントシートへのシートカバー装着にあたってはHonda販売店にご相談ください。

サイドカーテンエアバッグ

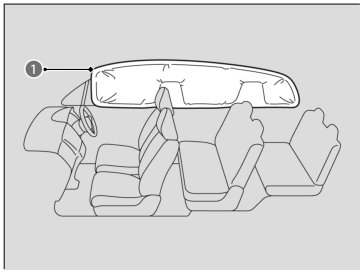
窓側の天井部にあるエアバッグです。側面からの衝突により、エアバッグが膨らみ、乗員の頭部への衝撃を緩和します。

▼ 2 列仕様



❶ サイドカーテンエアバッグ

▼ 3 列仕様



❶ サイドカーテンエアバッグ

運転席側、助手席側ともに窓側の天井部に格納されています。どちらも「SIDE CURTAIN AIRBAG」と表示されています。

⚠注意

サイドカーテンエアバッグが正常に作動しなかったり、作動時にものが飛んだりすることがあるので、以下のことに注意する。

- フロントガラス、ドアガラス、フロント、センター、リヤの各ピラーまわりにアクセサリーなどを取り付けない
- グラブレールにものをかけない

サイドカーテンエアバッグ収納部に衝撃を加えない。

収納部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、Honda 販売店で交換してください。

サイドカーテンエアバッグは、シートベルトを着用し上体を起こしてシートに深く腰かけているときに保護効果を発揮します。
サイドカーテンエアバッグの保護効果を維持するために、シートベルトは正しく着用してください。

サイドカーテンエアバッグは衝撃を受けた側のみ作動します。
サイドカーテンエアバッグは側面からの衝突に対して作動するため、衝撃を受けた側のみ作動します。また、助手席側が衝撃を受けた場合は、助手席側に乗員がいないときでもサイドカーテンエアバッグが作動します。

エアバッグシステム警告灯

エアバッグやシートベルトプリテンショナーの異常などを、警告灯やマルチインフォメーションディスプレイで知らせます。

エアバッグシステム警告灯

- パワーモードを ON モードにしたとき

パワーモードを ON モードにすると、エアバッグシステム警告灯が数秒間点灯し、消灯すれば正常です。

- 異常が発生したとき

エアバッグシステムまたはプリテンショナーシステムに異常があるときに点灯します。

エアバッグシステム警告灯が点灯状態のときは、Honda 販売店で点検を受けてください。
パワーモードを ON モードにしたときにエアバッグシステム警告灯が点灯しない場合も、エアバッグシステムまたはプリテンショナーシステムに異常がある可能性があります。ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

⚠警告

エアバッグシステム警告灯を無視しない。
エアバッグシステム警告灯を無視すると、エアバッグシステム、プリテンショナーシステムが正しく機能せず、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。エアバッグシステム警告灯が点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

エアバッグのお手入れ

エアバッグシステムは、メンテナンスを必要とせず、部品交換の必要もありません。ただし、以下の場合は Honda 販売店で点検を受けてください。

エアバッグが作動し、膨らんだとき

一度作動したエアバッグは、コントロールユニットやその他の関連部品とともに必ず交換する必要があります。
また、シートベルトプリテンショナーも同様に、一度作動した場合は新品と交換する必要があります。

❗ エアバッグ関連部品の再利用はしないでください。

キー

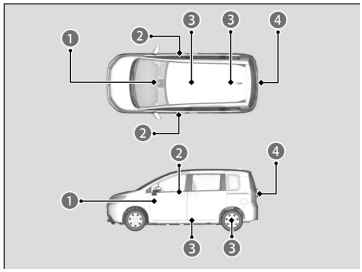
キーについて

エンジンの始動、停止のほかに、すべてのドア、テールゲートの施錠・解錠に使用できます。

微弱電波

Honda スマートキーを使用してドア、テールゲートの施錠/解錠操作をするときやエンジンを始動するとき、Honda スマートキーとの電子照合を行うために車両から電波が発信されます。
そのため、次のような場合に正常に作動しなかったり、不安定な動作となったりすることがあります。

- 強い電磁波を発する機器や設備が近くにあるとき
- 携帯電話や無線機などの通信機器やノートパソコンと一緒に Honda スマートキーを携帯しているとき
- Honda スマートキーが金属物に触れていたり覆われていたりするとき



❶ 車室内発信機（インストルメントパネル内）
❷ 車室外発信機（ドアハンドル内）
❸ 車室内発信機（フロア下）
❹ 車室外発信機（テールゲート内）

- 電池寿命は、使用状況により異なりますが約 2 年間です。Honda スマートキーは車両との通信のために常時受信動作をしているため、常に電池を消耗しています。
- 電波の受信動作を停止させ、電池の消耗を抑えることができます。Honda スマートキーの施錠ボタンと解錠ボタンを同時に約 3 秒長押しするとインジケーターが 2 回点滅し、電波の受信が停止します。 Honda スマートキーのいずれかのボタンを 1 回押すと電波の受信が再開します。

⚠注意

植込み型心臓ペースメーカや植込み型除細動器などの医療機器を装着されている方は、車両に搭載されている発信機から 22cm 以内 に近づかない。

Honda スマートキーシステムで発信されている電波が、機器の作動に影響を与える可能性があります。医療用電子機器を使用しているかたは、医師や医療用機器製造者に影響を確認してからご使用ください。

キーの故障を防ぐため、下記の点をお守りください。

- 日本国内でのみ使用する。
- 直射日光が当たる場所、高温、多湿の場所に置かない
- キーを落としたり、重いものをのせない
- キーに液体をかけない
- 砂や埃を避ける
- 電池交換時以外は分解しない

スマートキーの電池交換方法 ▶P.309

- 改造をしない
- 火であぶらない
- テレビ、オーディオなど磁気を帯びた機器の近くに置いたりしない

Honda スマートキーは、特定小電力無線設備の技術基準適合証明を受けています。

キーの内部にある技術基準適合表示を故意に消去、改ざんしないでください。分解・改造したものを使用することは法律で禁止されています。

Honda スマートキーは運転者が携帯し、車内に残したまま降車しないでください。 他の動作で施錠されると、キーの閉じ込めが起こるおそれがあります。

強い電波を受信し続けると電池を著しく消耗することがあるため、テレビやパソコンなどの電化製品の近くには置かないでください。

Honda スマートキー持ち去り警告ブザー

パワーモードが ON のとき

Honda スマートキーを車外に持ち出しドアを閉めると、メーター内に警告を表示するとともに、車内警告ブザーと車外警告ブザーが鳴ります。

パワーモードがアクセサリーモードのとき

Honda スマートキーを車外に持ち出しドアを閉めると、車外警告ブザーが鳴ります。

Honda スマートキーを、インストルメントパネル、グローブボックスなどに置いた場合、電波状態により警告ブザーが鳴ることがあります。
Honda スマートキーがエンジン始動の作動範囲内にあっても、周囲の環境や電波状態により警告ブザーが鳴ることがあります。

Honda スマートキーを持ち出した状態で、パワーモードを OFF モードにすると、パワーモードの操作ができなくなります。
パワーモードを操作するときは、Honda スマートキーを持っていることを確認してください。

窓からの受け渡しでは、Honda スマートキー持ち去り警告は作動しません。

警告ブザーの解除方法

パワーモード ON の作動範囲内に Honda スマートキーを戻してドアを閉める。
≫警告状態が続くときは、Honda スマートキーの携帯位置を変更してください。

イモビライザーシステム

イモビライザーシステムとは、あらかじめ登録されたキーでないとエンジンの始動ができないようにしたシステムです。イモビライザーシステムでは、車両とキーの電子照合を行うときに微弱な電波を使用するため、下記の点に注意してください。

- ENGINE START/STOP スイッチの近くに強い電波を発するものを近づけない
- キーを金属に触れさせたり、覆ったりしない
- ほかの車両のイモビライザーシステムのキーを近づけない
- 磁気を帯びたキーホルダーなどをキーと一緒に取り付けない

- システムの改造や追加をしないでください。システムが故障するおそれがあります。
- ENGINE START/STOP を押したとき、キーの情報を認識できないとメーター内のイモビライザーシステム表示灯が点滅します。

セキュリティアラームシステム

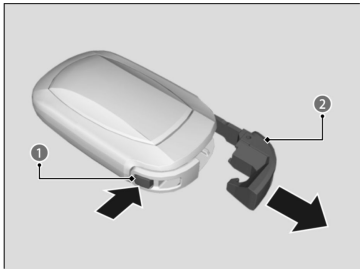
Honda スマートキーシステム、キーレスエントリーシステムまたは内蔵キーを使わずにドア等を開けると警報装置が作動するシステムです。作動時はホーンが断続的に鳴り、非常点滅表示灯が点滅します。システムを解除させるには解錠するか、エンジンを始動します。 セキュリティアラームシステムは、すべてのドア、テールゲート、ボンネットが閉まっているときに施錠されると自動的にセットされ、メーター内にあるセキュリティアラームシステム作動表示灯が点滅します。
警報装置はセキュリティアラームシステムを停止させるまで、約 5 分間作動します。
ホーンおよび非常点滅表示灯は、1 回の作動につき約 30 秒間作動し、その警報作動が 10 回行われます。
状況によっては、5 分間以上作動することがあります。
車内に人が乗っているときやウィンドーが開いているときでも、セキュリティアラームシステムは作動します。警報装置の思わぬ作動を防ぐために、人が乗っていたりウィンドーが開いているときには、セキュリティアラームシステムをセットしないでください。
セキュリティアラームシステムをセットした後に 12V バッテリーがあがり、12V バッテリーの充電、交換をすると、警報装置が作動することがあります。
そのときは、解錠操作でセキュリティアラームシステムを解除してください。

- システムの改造や追加をしないでください。システムが故障するおそれがあります。

内蔵キー

Honda スマートキーの電池が切れたときや車の 12V バッテリーがあがったときは、内蔵キーを使用してください。

取り出し方法

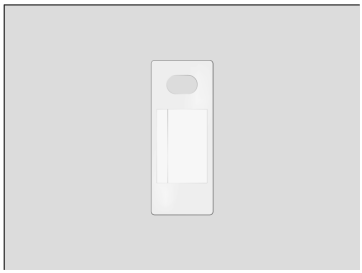


ボタンを押しながら取り出します。

≫収納するときは、「カチッ」と音がするまで差し込みます。

❶ ボタン
❷ 内蔵キー

キーナンバータグ



キーナンバータグには、キーを購入する際に必要となる番号が記載されています。

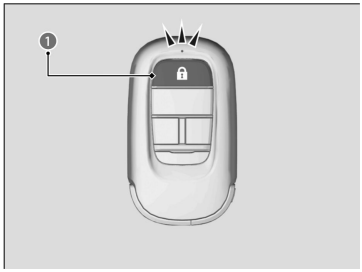
- キーを紛失したときや、追加購入したいときは、Honda 販売店に依頼してください。

❗ キーナンバータグは、キーとは別に車両以外の場所に大切に保管してください。

施錠/解錠

キーレスエントリーシステムを使った施錠/解錠方法

施錠



施錠ボタン（❶）を押す。

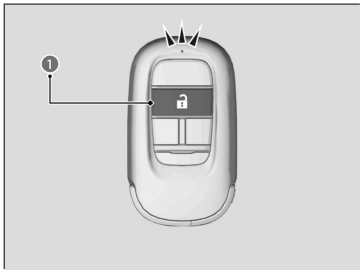
1 回目：

≫非常点滅表示灯が 1 回点滅し、すべてのドアやテールゲートが施錠されます。

2 回目（施錠ボタンを押して 5 秒以内）：

≫アンサーバックブザーが鳴りドア、テールゲートが施錠されたか確認できます。

解錠

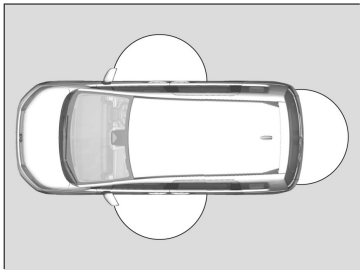


解錠ボタン（❶）を押す。

≫非常点滅表示灯が 2 回点滅し、すべてのドア、テールゲートが解錠されます。

キーレスエントリーシステムで解錠操作をした場合、30 秒以内にドア、テールゲートを開けないと、再び自動的に施錠されます。

Honda スマートキーを携帯した施錠/解錠方法



ドアロックボタン、ドアハンドル、テールゲートロックボタン、テールゲートオープンスイッチ を操作することで、施錠/解錠します。

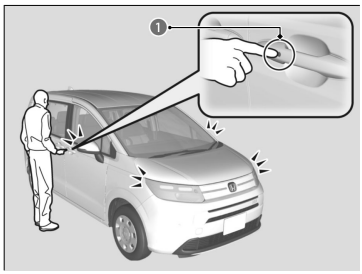
≫施錠/解錠の作動範囲は約 80cm 以内です。

- 作動範囲内に Honda スマートキーがあるときは、大雨や洗車などで大量の水がドアハンドルにかかると、解錠されることがあります。

施錠/解錠時に鳴るアンサーバックブザーは、マルチインフォメーションディスプレイを使って音量を変えたりブザーが鳴らないようにすることができます。

時計✤/車両設定 ▶P.276

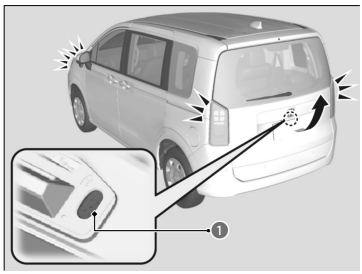
施錠



運転席ドア、助手席ドアまたはテールゲートハンドルのロックボタンを押します。

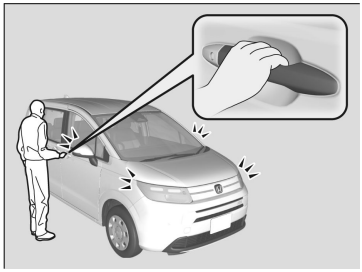
≫「ピッ」というアンサーバック音が鳴り非常点滅表示灯が 1 回点滅し、すべてのドア、テールゲートが施錠されます。

❶ ロックボタン



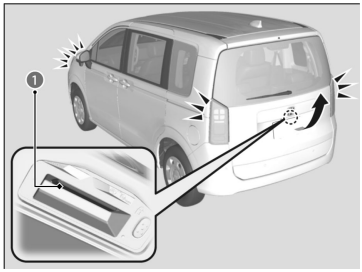
❶ ロックボタン

解錠



運転席または助手席ドアハンドルを握るか、テールゲートオープンスイッチを操作します。

≫「ピピッ」というアンサーバック音が鳴り非常点滅表示灯が 2 回点滅し、すべてのドア、テールゲートが解錠されます。



❶ テールゲートオープンスイッチ

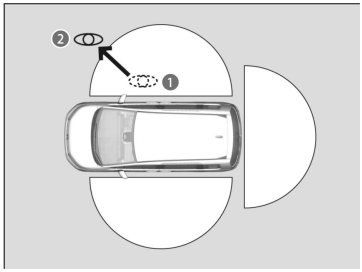
Honda スマートキーシステムで解錠してから、約 30 秒以内にドア、テールゲートを開けなかった場合は、自動的に再度施錠されます。
パワーモードが OFF モード以外のときは Honda スマートキーシステムによる施錠/ 解錠はできません。

施錠/解錠できないとき

- 革製やスキー用の手袋などを着用しているとき
- 施錠後約 2 秒間
- ドアハンドルを握った直後
- テールゲートオープンスイッチを押した直後
- Honda スマートキーが地面の近くや高い位置にあるとき
- ドアやドアガラス、テールゲートに近づきすぎているとき

降車時オートドアロック機能を用いた施錠方法

Honda スマートキーを携帯し、パワーモードが OFF の状態で車から離れると、すべてのドアやテールゲートが自動的に施錠します。



Hondaスマートキーを携帯し、降車する。すべてのドアとテールゲートを閉める。

[1] 運転席または助手席のドアハンドル、テールゲートから周囲約 1.5 m以内で待つ。

≫音が鳴り、降車時オートロック機能が起動します。

[2] 運転席または助手席のドアハンドル、テールゲートから周囲約 1.5 m以上離れて、約 2 秒待つ。

≫音が鳴り、非常点滅表示灯が 1 回点滅し施錠します。

- 降車時オートロック機能起動後に、作動範囲内で約 30 秒待つ場合も施錠します。
- 降車時オートロック機能の起動後に、正常に作動しなかった場合はオートロック作動中止警告ブザーが鳴ります。

  ≫オートロック機能が起動してからドアを開けた場合、オートロック機能は中断されます。
- 降車時オートドアロック機能の工場出荷時の設定は OFF になっています。ON にするときは、マルチインフォメーションディスプレイのカスタマイズ機能で設定を変更してください。

時計✤/車両設定 ►P.276

オートロック機能を使用する時は、車内に残っている人がいないことを確認し、車から離れてください。
意図しないタイミングでオートロック機能が作動した場合、車外にいるときは再度解錠してください。
乗車しているときは、ENGINE START/STOP スイッチを押し、車両を ON モードにしてください。

一時的にオートロック機能を OFF にするとき

[1] エンジンを停止し、運転席ドアを開ける。

[2] マスタードアロックスイッチを「施錠→解錠→施錠→解錠」の順番で押す。

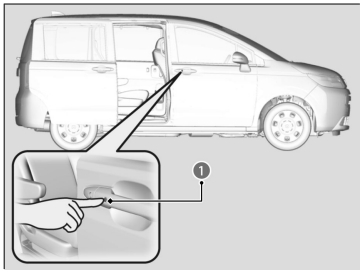
≫アンサーバック音が鳴ります。

降車時オートロック機能を ON に戻すとき

以下のいずれかの操作をした場合、降車時オートロック機能が ON に戻ります。

- エンジンを始動する
- 内蔵キー、キーレスエントリーシステムもしくは Honda スマートキーシステムですべてのドアとテールゲートを施錠する
- Hondaスマートキーを携帯したまま降車時オートロック機能の作動範囲内から離れる
- いずれかのドアを開ける

予約ロック機能を用いた施錠方法



❶ ロックボタン

あらかじめ施錠操作をすることでパワースライドドアを閉めた後、自動で施錠する機能です。
パワースライドドア以外を閉めてから操作をしてください。

[1] ドアロックボタン、または Honda スマートキーの施錠ボタンを押します。
≫通知音が鳴り、予約ロックが設定されます。

[2] パワースライドドアを閉める。
≫施錠が完了すると通知音とハザード点滅で施錠を知らせます。

施錠が完了したことを確認してから車両から離れてください。

- 予約ロックによる施錠が完了する前に閉まっているドアまたはテールゲートを開くと予約ロックはキャンセルされます。

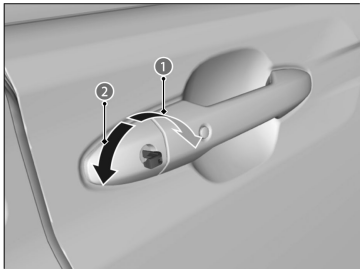
マルチインフォメーションディスプレイで予約ロックの ON/OFF 設定を変更することができます。
時計*/車両設定 ►P.276

⚠注意

パワースライドドアに指などを挟みこまないように注意する。特にお子さまには気をつけてください。

内蔵キーを使った施錠/解錠方法

Honda スマートキーのボタンで施錠/解錠できない場合は内蔵キーを使用してください。
スマートキーの電池交換方法 ►P.309



キーを差し込んで回す。

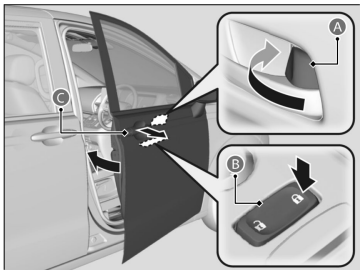
≫運転席ドアにキーを差し込んで施錠/解錠すると、ほかのすべてのドアやテールゲートも同時に施錠/解錠されます。

❶ 施錠
❷ 解錠

Honda スマートキーを使わない施錠方法

Honda スマートキーが正常に作動しなくなったときや、内蔵キーを所持していないときに、Honda スマートキーや内蔵キーを使わずに施錠することができます。

運転席のドアの施錠方法



ノブ（A）を押し込むか、マスタードアロックスイッチ（B）を施錠のほうに押し、外側のドアハンドル（C）を引いたままドアを閉める。

≫運転席ドアで施錠すると、他のすべてのドア、テールゲートも同時に施錠されます。

運転席以外のドアの施錠方法

ノブを押し込み、ドアを閉める

キー閉じ込み防止装置

Honda スマートキーが車内の作動範囲内に置いてあると、施錠できません。

車内の施錠/解錠方法

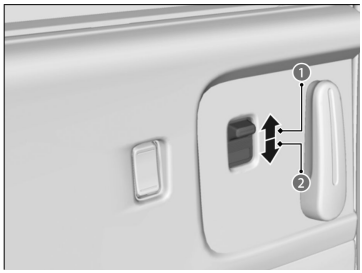
ノブを利用した施錠/解錠

▼ フロント

＜施錠＞ノブを押し込む
＜解錠＞ノブを引き出す
≫運転席ドアのノブで施錠/解錠すると、ほかのすべてのドアやテールゲートも同時に施錠/解錠されます。

❶ 施錠
❷ 解錠

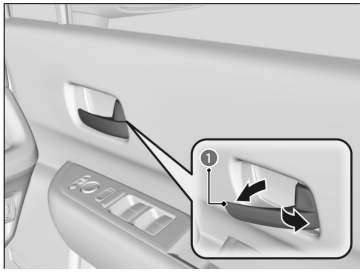
▼ リヤ



＜施錠＞ノブを下げる
＜解錠＞ノブを上げる

❶ 解錠
❷ 施錠

運転席ドアハンドルでの解錠



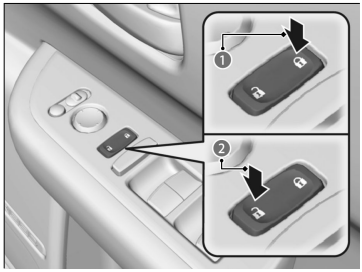
運転席ドアの内側のハンドルを引く。

≫施錠していてもドアが開きます。

❶ ハンドル

> ❗ 走行中でも運転席の内側のハンドルを引くとドアが解錠するため、走行中はドアハンドルを操作しないでください。

マスタードアロックスイッチでの施錠/解錠



マスタードアロックスイッチを押す。

≫ほかのすべてのドアやテールゲートも同時に施錠/解錠されます。

❶ 施錠
❷ 解錠

衝撃感知ドアロック解除システム

車両に衝撃が加わったときに、自動的にすべてのドア、テールゲートを解錠するシステムです。作動するのは以下の場合です。

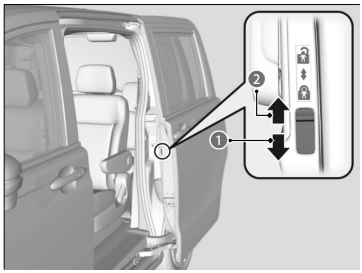
- 正面からの衝撃：SRS エアバッグが作動したとき
- 側面からの衝撃：サイドエアバッグ/ サイドカーテンエアバッグが作動したとき
- 後面からの衝撃：衝撃が大きいとき
  ≫いずれの場合も、安全性を考慮して衝撃を受けてから約 10 秒後に解錠します。

衝撃の加わりかたや大きさによっては解錠しない場合があります。

チャイルドプルーフ

走行中などにお子さまが車外に放り出されることを防止するため、ノブの位置に関係なく、後席ドアを車内から開けることができないようにする機能です。
≫お子さまをリヤシートに乗せるときなどにお使いください。

チャイルドプルーフのセット方法



後席ドアについているツマミを、施錠(❶)の位置にしてドアを閉める。

❶ 施錠
❷ 解錠

- ドアを開ける場合は、外側のハンドルで開けてください。
- チャイルドプルーフセット時に車内から開けたい場合は、ノブを解錠状態にして後席ウィンドーを下げ、窓から手を出して外側のドアハンドルを引いてください。
- 運転席スイッチ、キーレスエントリーシステムでも開閉できます。

こんなときは

後席ドアが車内から開けられないとき

チャイルドプルーフが施錠の位置になっていると思われます。後席ドアを外から開け、チャイルドプルーフのレバーを解錠の位置にしてください。
チャイルドプルーフ ▶P.59

運転席ドアを開けるとブザーが鳴るとき

以下の場合に該当していることが想定されます。
- パワーモードがアクセサリーモードになっている
- ライトを消し忘れている

ドアを閉めた後、車から離れるとブザーが鳴るとき

ドアが閉まりきる前に降車時オートドアロックの作動範囲から離れている可能性があります。

降車時オートドアロック機能を用いた施錠方法 ▶P.53

スマートキーの作動が安定しないとき

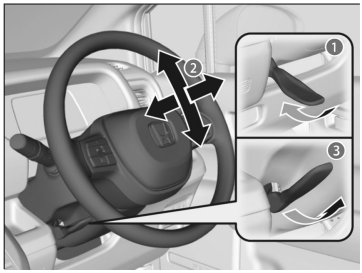
作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられます。
ボタンを押したときにインジケーターが点灯しない場合は、電池切れです。

スマートキーの電池交換方法 ▶P.309

ハンドル

ハンドルの調整方法

適切な運転姿勢で無理なくハンドルを握れるように、ハンドルの位置を調節することができます。



❶ 解除
❷ 調整
❸ 固定

［1］ハンドル位置調節レバーを押し下げる。

≫ハンドル位置調節レバーは、コラムカバーの下にあります。

［2］ハンドルの位置を調節する。

≫調節した位置で、メーターや表示灯が見えることを確認してください。

［3］ハンドル位置調節レバーを引き上げ、ハンドルを固定する。

≫位置調節後、ハンドルに上下前後方向の力を加え、ハンドルがしっかり固定されていることを確認してください。

⚠注意

走行中にハンドル位置を調節しない。

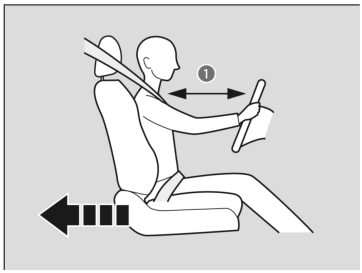
走行中に調節すると、ハンドル位置が動き、正確なハンドル操作ができないことがあり、衝突して重大な傷害を負うおそれがあります。ハンドルの調節は、必ず停車中に行ってください。

シート

シートの調整について

正しい姿勢

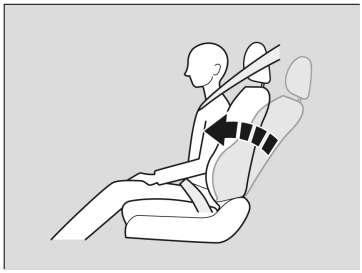
正しい姿勢がとれるようにシートを調節します。正しい運転姿勢とは、シートに深く腰かけた状態で、背もたれから背を離すことなくペダルを十分に踏み込め、ハンドル操作が楽にできる姿勢をいいます。 同乗者の正しい姿勢とは、シートに深く腰かけた状態で、背もたれから背が離れていない姿勢をいいます。



❶ 十分な距離をとる

シート位置の調整

運転者とハンドルとの間に十分な距離をとれるように、シートをできるだけ後ろに下げます。
助手席の同乗者のシートも同様に、ダッシュボードの SRS エアバッグからできるだけ離れた位置までシートを下げます。
シートの位置を調節したら、シートを前後に揺すり、固定されていることを確認します。



背もたれ角度の調節

シートに深く腰かけ、楽な姿勢ですわれるように背もたれを起こし調節します。
助手席の同乗者のシートも同様に、楽な姿勢ですわれるように背もたれ角度を調節します。

⚠警告

SRS エアバッグからできるだけ離れた位置までシートを下げる。

ハンドルやダッシュボードに近づきすぎると、フロントエアバッグが膨らむ際に重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

背もたれを必要以上に倒さない。

背もたれを必要以上に倒すと、衝突したときに重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

背もたれと背中の間にクッションなどを入れない。

正しい運転姿勢がとれません。また、シートベルトなどの効果が十分に発揮されません。

走行中にシートの調節はしない。

走行中に調節するとシートが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行前に行い、確実に固定されていることを確認してください。

シートを操作するときは、手などをはさまないように十分注意する。

シートの下に物を置かない。

物がはさまってシートが固定されず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

▼ セカンドベンチシート装備車

⚠注意

座面をはね上げたときや戻したときは、座面を前後にゆすって確実に固定されていることを確認する。

固定されていないと、座面が前に倒れるおそれがあります。

⚠注意

操作するときは十分注意する。

背もたれが急に動いてシートがはね上がり、顔などにけがをしたり、手や足などをはさむおそれがあります。特にお子さまには気をつけてください。

▼ サードシート装備車

⚠注意

セカンドシートをはね上げた状態でサードシートに人を乗せない。

ブレーキや加速、衝突のときなどにけがをするおそれがあります。

▼ 共通

❗ フロントシートに純正以外のシートカバーを取り付けないでください。

サイドエアバッグがシートカバーによっては、正常に機能できなくなります。フロントシートへのシートカバー装着にあたってはHonda販売店にご相談ください。

⚠警告

シートベルト着用時にアームレストに引っかけない。

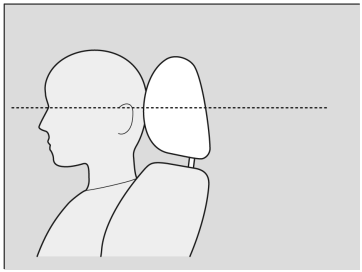
万一のときにシートベルトの機能が発揮できず、重大な傷害を負うおそれがあります。

❗ アームレストに腰をかけたり荷物を載せるなどの大きな力を加えない。

アームレストが破損するおそれがあります。

ヘッドレスト

ヘッドレストの正しい位置



後頭部の中心が、ヘッドレストの中心に来るようにヘッドレストの高さを調節します。

⚠警告

ヘッドレストは必ず正しい位置に調節する。

ヘッドレストの高さが適切でないと、ヘッドレストの効果が低くなり、衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

ヘッドレストを外した状態で走行しない。

衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠警告

ヘッドレストを固定できる高さを超えて使用しない。

走行前に必ず正しい位置に調節してください。

⚠警告

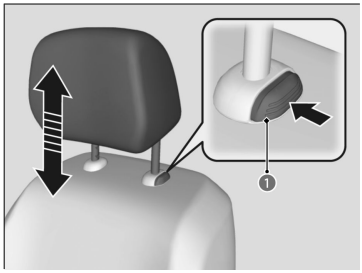
セカンドシート、サードシート✤のヘッドレストを下げた状態で走行しない。

衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

セカンドシート、サードシート✤に乗車するときは、走行する前にヘッドレストを引き上げて、確実に固定します。

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

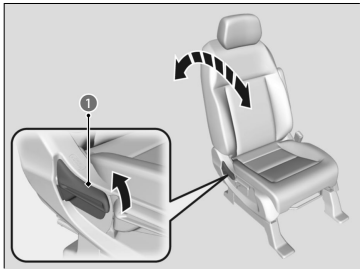
フロントシートの調整方法



❶ ノブ

ヘッドレストの調節

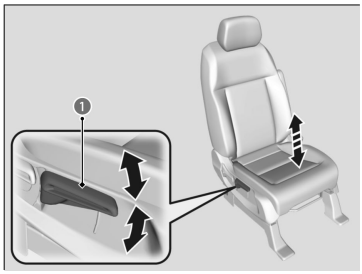
- 高くするときは、引き上げる
- 低くするときは、ノブを押しながら下げる
- 取り外すときは、ノブを押しながら引き上げる
- 取り付けるときは、ヘッドレストの脚を元の位置に差し込む
  ≫ヘッドレストを軽く上下させ、確実に固定する



❶ レバー

背もたれの角度調節

レバーを引き上げる

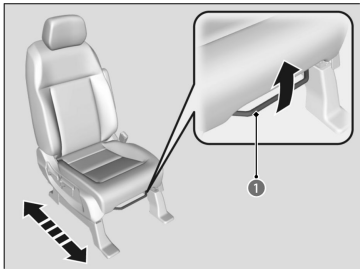


❶ レバー

高さの調節✤

レバーを繰り返し引き上げ/下げする

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。



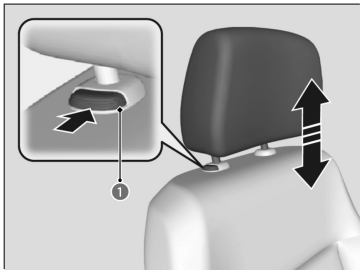
前後位置の調節
レバーを引き上げる

❶ レバー

フロントシートアームレストの調節方法

前に倒す

セカンドキャプテンシート✤の調整方法

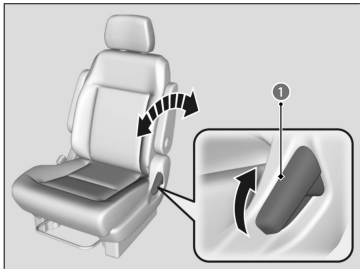


ヘッドレストの調節

- 高くするときは、引き上げる
- 低くするときは、ノブを押しながら下げる
- 取り外すときは、ノブを押しながら引き上げる
- 取り付けるときは、ヘッドレストの脚を元の位置に差し込む
  ≫ヘッドレストを軽く上下させ、確実に固定する

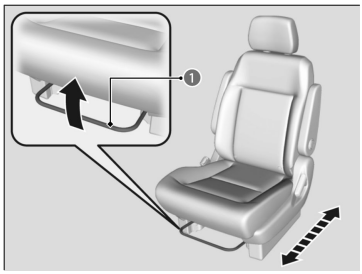
❶ ノブ

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。



背もたれの角度調節
レバーを引き上げる

❶ レバー



前後位置の調節
レバーを引き上げる

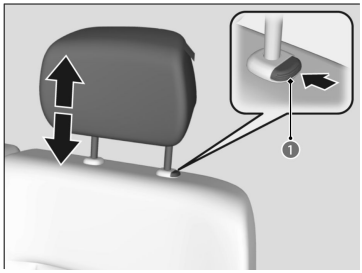
❶ レバー

セカンドキャプテンシートアームレスト✤の操作

前に倒す

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

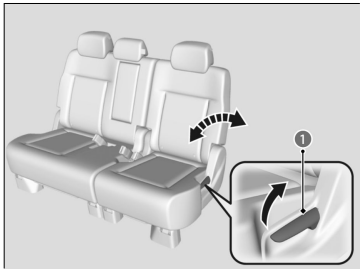
セカンドベンチシート✤の調整方法



ヘッドレストの調節

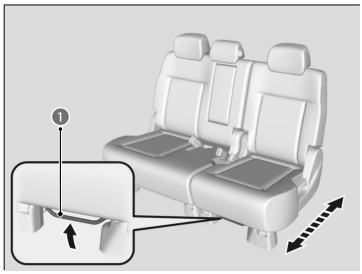
- 高くするときは、引き上げる
- 低くするときは、ノブを押しながら下げる
- 取り外すときは、ノブを押しながら引き上げる
- 取り付けるときは、ヘッドレストの脚を元の位置に差し込む
  ≫ヘッドレストを軽く上下させ、確実に固定する

❶ ノブ



背もたれの角度調節
レバーを引き上げる

❶ レバー



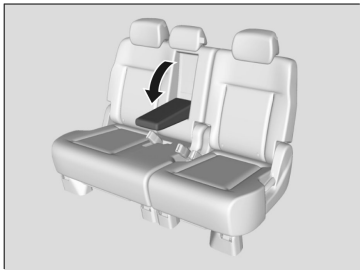
前後位置の調節
レバーを引き上げる

❶ レバー

セカンドベンチシートのヘッドレストを下げた状態で走行しない。
衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

セカンドベンチシートアームレスト✤の操作



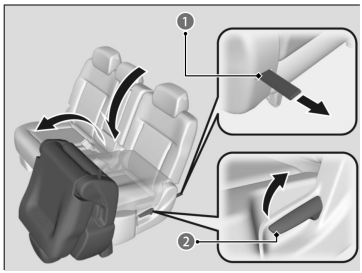
前に倒す

▼7 人乗り車

セカンドベンチシートのはね上げかた

▼ 共通操作

[1] ヘッドレストを一番下に下げる。
[2] セカンドシートを後方いっぱいに動かす。



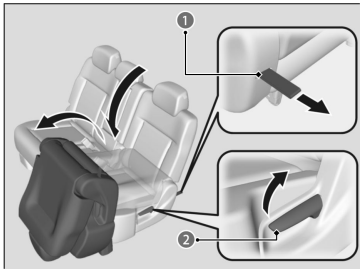
❶ ストラップ
❷ レバー

ウォークイン機構：

[3] 背もたれ調節レバーを引き上げ、背もたれを前に倒してシートをはね上げる。
≫シート下部のストラップを引いても、操作できます。

走行する前にシートを元に戻し、前後位置を調節してください。

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

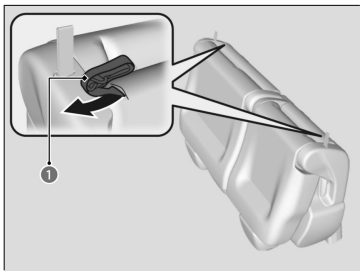


固定するとき：

[3] 背もたれ調節レバーを引き上げ、背もたれを前に倒してシートをはね上げる。

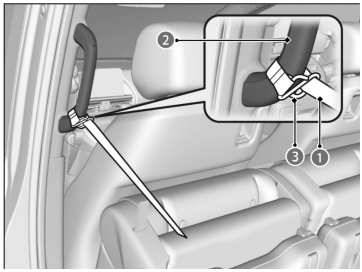
≫シート下部のストラップを引いても、操作できます。

❶ ストラップ
❷ レバー



[4] 座面に収納されている固定ストラップを引き出す。

❶ 固定ストラップ



[5] 固定ストラップをグリップに通し、フックをかける。

元に戻すときは逆の手順で行います。

❶ 固定ストラップ
❷ グリップ
❸ フック

> ❗ セカンドシートをはね上げた場合、フロントシートの背もたれの調節角度は制限されます。

シートをはね上げるときは、あらかじめ中央の三点式シートベルトを分離・収納してください。

分離収納式シートベルトの着用法❖ ▶P.83

背もたれが倒れているときは、一旦背もたれを起こしてから操作してください。

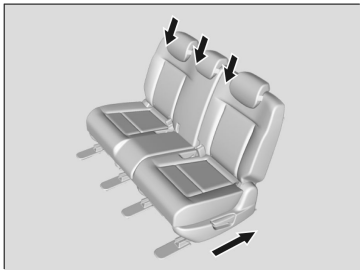
セカンドシートをはね上げた場合、フロントシートのスライド量は制限されます。

シートを操作したら、シートを前後にゆすり、確実に固定されていることを確認してください。

背もたれを起こすときは、シートベルトを背もたれではさみ込まないようにしてください。

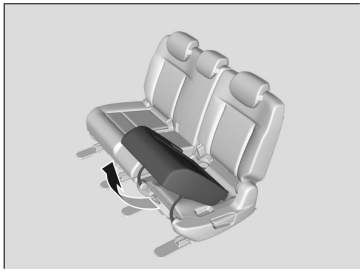
▼5 人乗り車

セカンドベンチシートの背もたれの倒しかた

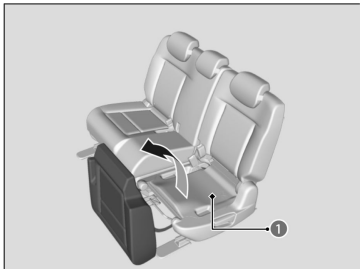


セカンドシートを倒してカーゴスペースを広くできます。片側ずつ独立して行えます。

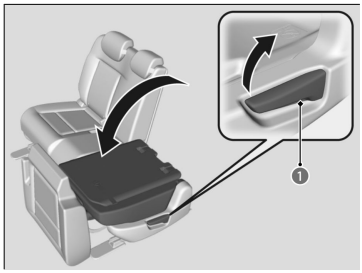
[1] セカンドシートのヘッドレストを一番下に下げる。
[2] セカンドシートを後方いっぱいまで動かす。



[3] セカンドシートの座面を前方に持ち上げて、引き起こす。



❶ アンダーカバー



[4] 背もたれ調節レバーを引いて、背もたれを手で支えながら前方に倒す。

元に戻すときは逆の手順で行います。

❶ レバー

⚠注意

エンジンをかけた状態でシートを操作するときは、排気管の後方に立たない。

やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

❗ アンダーカバーの上に乗ったり、重いものを置いたりしないでください。

破損や変形のおそれがあります。

背もたれを倒すときは、あらかじめ中央の三点式シートベルトを分離・収納してください。

分離収納式シートベルトの着用法✤ ▶P.83

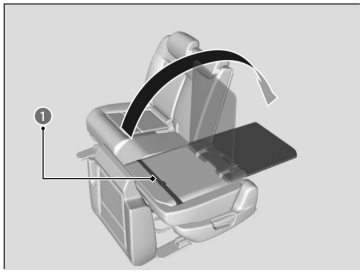
シートを操作したら、シートを前後にゆすり、固定されていることを確認してください。

背もたれを倒した後にシートの前後位置を調節するときは、一度背もたれを起こして、前後位置調節レバーを操作してください。

セカンドベンチシート✤の調整方法 ▶P.69

▼5 人乗り車

エクステンションボード✤



固定バンドを緩めてエクステンションボードを後方に倒す。

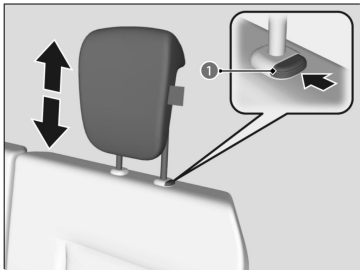
≫荷室をより広く使用することができます。

❶ 固定バンド

背もたれを戻す際、エクステンションボードは収納してください。

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

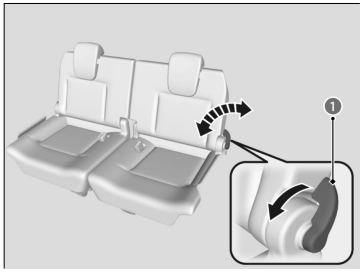
サードシート✤の調整方法



ヘッドレストの調節

- 高くするときは、引き上げる
- 低くするときは、ノブを押しながら下げる
- 取り外すときは、ノブを押しながら引き上げる
- 取り付けるときは、ヘッドレストの脚を元の位置に差し込む
  ≫ヘッドレストを軽く上下させ、確実に固定する

❶ ノブ



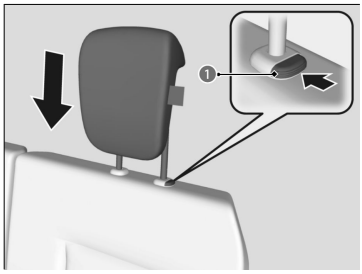
背もたれの角度調節

レバーを前に倒す

❶ レバー

サードシートのヘッドレストを下げた状態で走行しない。衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

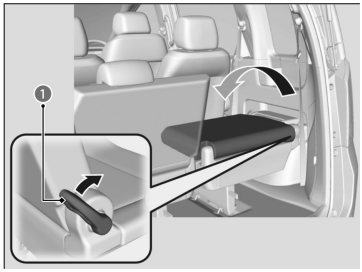
サードシート✤のはね上げかた



[1] ヘッドレストを下げる。

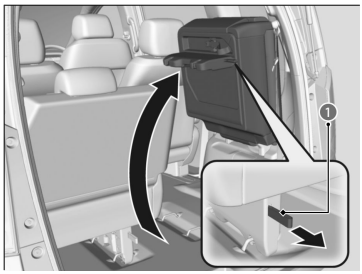
❶ ノブ

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。



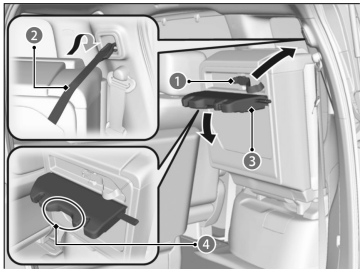
[2] 背もたれのレバーを前に倒しながら、背もたれを前方に倒す。

❶ レバー



[3] 下部のストラップを引きながら、シートを窓側に起こす。

❶ ストラップ



[4] シートのフックを外してリアピラーガーニッシュのバーに確実にはめ込み、シートを固定し、脚を折りたたむ。

≫脚を折りたたむ際は、グリップを持って操作してください。

元に戻すときは逆の手順でおこないます。

≫シートを戻すときは必ず手を添えて操作してください。

❶ フック
❷ ストラップ
❸ 脚
❹ グリップ

⚠注意

エンジンをかけた状態でシートを操作するときは、排気管の後方に立たない。

やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

背もたれを前に倒した状態でシートの上に荷物を載せたり、人を乗せたりしないでください。
背もたれがこわれるおそれがあります。

バックルやタングプレートを収納してからシートをはね上げてください。

はね上げた状態で、シートやストラップにものをかけたり、ぶらさげたりすると、リアピラーガーニッシュのバーが破損したり、シートフックが外れるおそれがあります。

シートを操作したら、シートを前後にゆすり、固定されていることを確認してください。

リヤシートリマインダー

セカンドシートまたはサードシート✤への人や荷物の置き去りがないようにお知らせする機能です。この機能は、パワーモードを ON モードにする直前または直後に、後席ドアを開けた場合に作動します。

作動後、パワーモードを OFF モードにしたとき、マルチインフォメーションディスプレイにお知らせが表示され、音が鳴ります。

- パワーモードを OFF モードにしたとき、お知らせが行われ機能が終了します。
- 後席ドアを開けた後、10 分以内にパワーモードを ON モードにしなかった場合は作動しません。
- このシステムは後席の人や荷物をセンサーで検出するのではなく、後席ドアの開閉の記録から後席に人や荷物がある可能性をお知らせします。

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

お知らせ機能が作動しないように設定することができます。

時計✤/車両設定 ►P.276

シートベルト

シートベルトについて

シートベルトは、シートに体を固定することで安全を確保するための安全装置です。体の動きに合わせて伸縮し、強い衝撃を受けるとベルトが自動的にロックします。すべての席に三点式シートベルトが装備されています。

シートベルトの点検方法

シートベルトを安全にお使いいただくために、以下の点検を定期的に行ってください。異常がある場合は Honda 販売店で点検を受けてください。

- すべてのベルトをいっぱいまで引き出し、ほつれ、破れ、焼けこげ、すり切れがないか
- バックルが確実に固定されているか
- ベルトがスムーズに巻き取られるか

> **シートベルトがロックしたとき**
> 一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ベルトをゆっくり引き出してください。

> **シートベルトがスムーズに巻き取られないとき**
> ベルトが汚れていないことを確認してください。
> ベルトが汚れているとスムーズに巻き取られない場合があります。
> ベルトが破損していたり、正しく作動しない場合は、ベルトを交換してください。

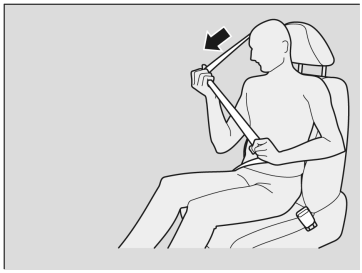
シートベルトプリテンショナー

シートベルトプリテンショナーは、フロントシートおよびセカンドシート外側 2 座席に装備しています。一定以上の前方向や側面からの衝撃を受けると自動的にシートベルトを引き込み、拘束します。
シートベルトプリテンショナーは、一度作動すると使用できません。
衝突によりシートベルトプリテンショナーが作動するとエアバッグシステム警告灯が点灯します。
衝突したときは、Honda 販売店で点検を受け、作動済みの場合は交換してください。

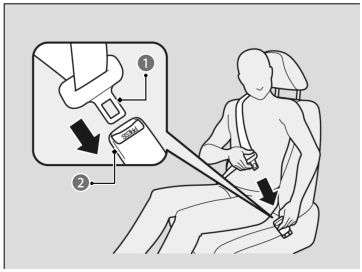
⚠注意

シートベルト引き込み装置の取り外し、分解などはしない。
誤作動や故障の原因となります。

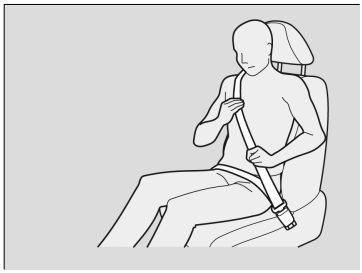
正しい着用法



[1] 正しい姿勢でシートにすわる。
[2] シートベルトをゆっくり引き出す。



[3] タングプレート（❶）をバックル（❷）に差し込む。
≫ベルトにねじれや引っかかりがないようにしてください。



[4] シートベルトが正しく着用できているか確認する。
≫肩ベルトは鎖骨の中心を通るように合わせ、首やあごに当たらないようにしてください。
≫腰ベルトは腰骨のできるだけ低い位置に合わせてください。
≫ベルトにたるみやねじれがないようにしてください。
[5] ベルトを引っ張り、バックルが固定されていることを確認する。

- シートベルトを外すには、バックルの赤色の PRESS を押してください。そのとき、ベルトが完全に収納されるようベルトに手を添えてください。

シートベルトが完全に引き込まれた位置でロックされた場合、一度シートベルトをしっかりと引っ張り、そしてもう一度巻き取らせることでロックが解除できます。
シートベルトロックを解除することが出来ない場合、そのシートに着座しないでください。
シートベルトについて ▶P.79

⚠警告

シートベルトは乗員全員が必ず正しく着用する。

シートベルトを正しく着用しないと、エアバッグが装備されていても、衝突したときに重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

乗車中は正しい姿勢を保つ。

正しい姿勢ですわらないと、衝突したときに傷害を受ける危険性が高くなります。

⚠警告

シートベルト着用時にアームレストに引っかけない。

万一のときにシートベルトの機能が発揮できず、重大な傷害を負うおそれがあります。

⚠注意

肩ベルトは腕の下に通したり、首の後ろに回さない。

シートベルトを正しく着用しないと、本来の機能を果たさず衝突時などに、けがをするおそれがあります。

シートベルトを十分に機能させるため、バックルおよび自動巻き取り装置の内部に異物を入れないようにしてください。

シートベルトの分解、改造はしないでください。正常に作動しないおそれがあります。

シートベルトの着用にあたっては、以下の点に注意してください。

- 運転者は正しい運転姿勢で、シートベルトを必ず着用
- 同乗者にも必ずシートベルトを着用
- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、必ずチャイルドシートを使用
- 1 本のシートベルトを 2 人以上で使用しない
- ベルトにはクリップや洗たくばさみなどでたるみをつけない

シートベルトを着用した状態で事故にあったときは、Honda 販売店で点検を受け、ベルトが破損していたり、正しく作動しない場合は、ベルトを交換してください。

妊娠中のかたの着用法

肩ベルトは腹部を避け胸部にかかるように着用する。
腰ベルトは腹部を避けて、必ず腰骨のできるだけ低い位置にぴったり着用する。

⚠注意

妊娠中のシートベルト着用は、医師に確認する。

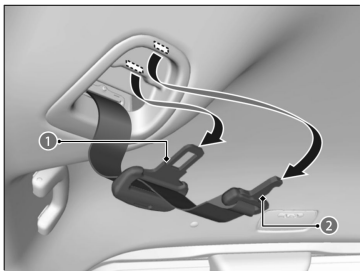
万一のとき、腹部、胸部、肩部などに圧迫を受けることがあります。

妊娠中のかたが運転または同乗するときは、ご自身と赤ちゃんを守るために、常に三点式シートベルトを着用してください。

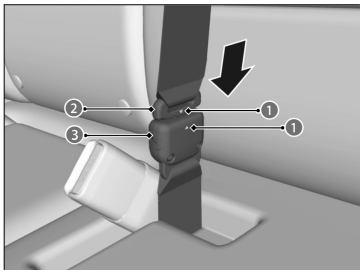
妊娠中のかたは以下の点を注意してください。
万一の衝突時にフロントエアバッグによって、ご自身と赤ちゃんが傷害を受ける危険性が軽減されます。

- 運転するときは上体を起こして、運転に支障のない範囲でシートをなるべく後ろに下げる
- 助手席にすわる場合も、シートはできるだけ後ろに下げる

分離収納式シートベルトの着用法✤



[1] 天井の固定部からシートベルトのタングプレート（❶）とラッチプレート（❷）を外す。

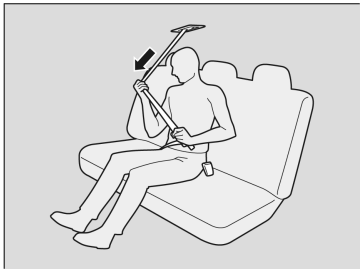


[2] ラッチプレート（❷）を引き出し、▲マークがついているバックル（❸）に差し込む。

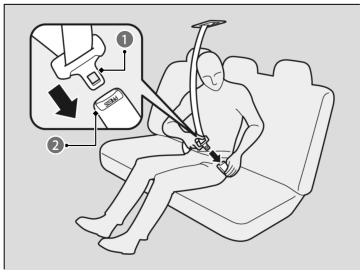
≫ラッチプレートの▼マークとバックルの▲マークを合わせて差し込みます。

❶ ▲/▼マーク

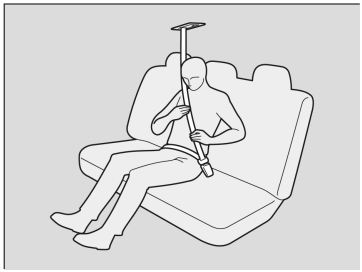
✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。



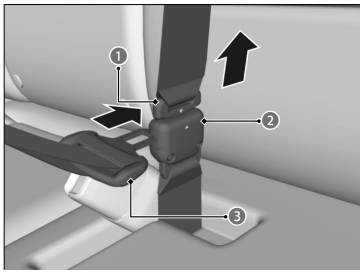
[3] 正しい姿勢でシートにすわる。
[4] タングプレートをつかみ、ゆっくり引き出す。



[5] タングプレート（❶）をバックル（❷）に差し込む。
≫ベルトにねじれや引っかかりがないように注意します。



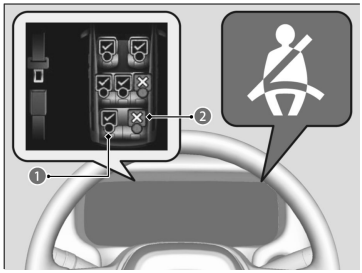
[6] ベルトを腰骨のできるだけ低い位置にかかるように合わせる。
[7] ベルトを引っ張り、バックルが固定されていることを確認する。



シートベルトを分離・収納するときは、タングプレート（❸）を▲マークがついているバックル（❷）の溝に差し込み、ラッチプレート（❶）を外してください。

❗ リヤシートのシートベルトのバックルをゴムバンドから外さないでください。
シートアレンジなどのときにバックルがシートクッションの下に落ちることがあります。

シートベルトリマインダー



シートベルトリマインダーは乗員のシートベルトの未着用をお知らせします。シートベルトを着用すると警告は消えます。

❶ シートベルト着用
❷ シートベルト未着用

シートベルトを着用せずに走行した場合、停車したときや一定時間経過したときは、ブザーが停止します。

≫助手席に人がいないときでも、荷物を置くと反応することがあります。

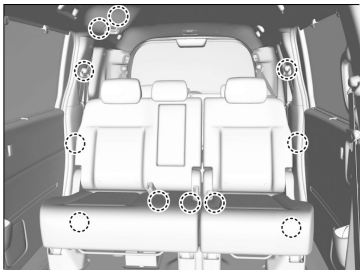
≫助手席にお子さまや小柄な方を乗せたり、クッションを使用しているときは、反応しないことがあります。

シートベルトのアンカーポイント

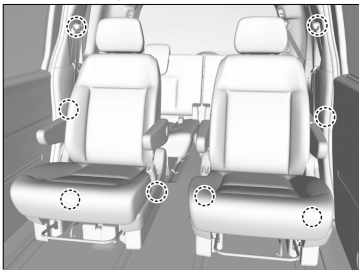
シートベルトを交換する場合、図で示されるアンカーポイントを使用してください。

フロントシート

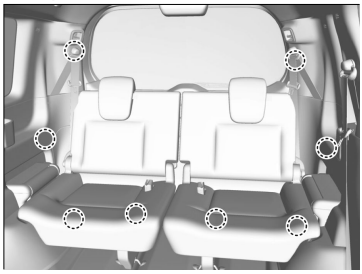
セカンドベンチシート✤



セカンドキャプテンシート✤



サードシート✤



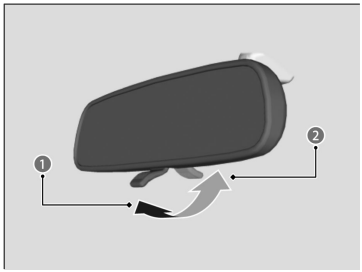
✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

ミラー

ルームミラー

ルームミラーの角度は、正しい運転姿勢ですわった位置で走行前に調節してください。

手動式防眩ミラー

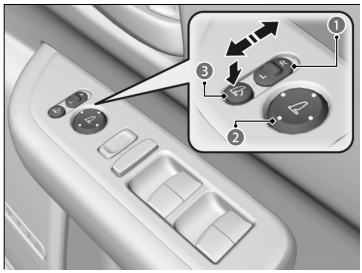


夜間走行時、後続車のヘッドライトの反射を弱くするための切り換えができます。

❶ 夜
❷ 昼

ドアミラー

ドアミラーの操作は、パワーモードが ON モードのときに行います。



❶ 左右切り換えスイッチ：
右か左を選択するスイッチです。角度調節後、中央の位置に戻します。

❷ 角度調整スイッチ：
上下左右に鏡面を動かすスイッチです。

❸ 格納スイッチ：
ドアミラーの格納ができます。もう一度押すと、元の位置に戻ります。

オートリトラミラー✤

キーレスエントリーシステムや Honda スマートキーシステムでのドアの施錠や解錠に連動して、パワーモードが OFF モードの状態でも、ドアミラーの格納や元の状態への復帰が行えます。

格納するときの操作方法

- Honda スマートキーの施錠ボタンを押す
- Honda スマートキーを携帯し、運転席ドア、助手席ドアのドアハンドルやテールゲートのロックボタンを押す

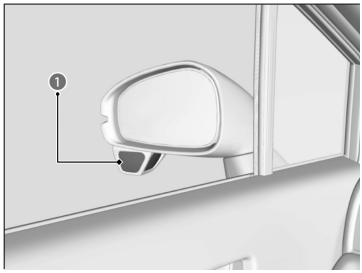
元の位置に戻すときの操作方法

- Honda スマートキーの解錠ボタンを押す
- Honda スマートキーを携帯し、運転席または助手席ドアハンドルを握るか、テールゲートハンドルを押す
- パワーモードを ON モードにする

格納スイッチを押してドアミラーを格納した場合、オートリトラミラー機能ではドアミラーを元の位置に戻せません。

オートリトラミラーの設定を変更することができます。
時計✤/車両設定 ▶P.276

サイドアンダーミラー



助手席側ドアミラーの下部についています。停車時や発進前などに車両左側下部を確認するときに役立ちます。

❶ サイドアンダーミラー

- サイドアンダーミラーの角度調節はできません。

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

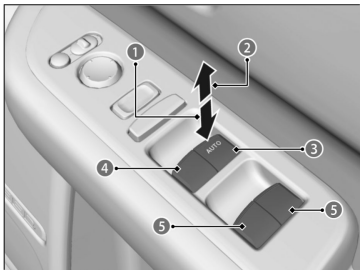
パワーウィンドー

パワーウィンドーの開閉方法

パワーモードが ON モードのときに、パワーウィンドーの開閉操作を行うことができます。開閉はそれぞれのドアにあるスイッチで行います。
運転席のスイッチでは、すべてのウィンドーの開閉操作を行うことができます。運転席以外のウィンドーの開閉は、運転席のパワーウィンドーロックボタンを OFF にしてから行います。パワーウィンドーロックボタンを OFF にすると、ボタンにある表示灯が消灯します。
パワーウィンドーロックボタンを ON にしておくと、運転席以外のウィンドーは作動しません。お子さまを乗せているときなどは、パワーウィンドーロックボタンを ON にしておいてください。

手動開閉

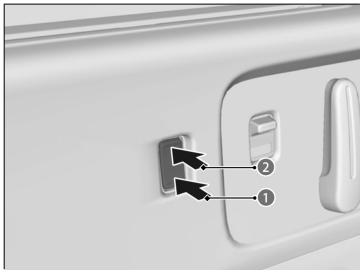
▼ フロント



希望の位置で手を放すことで、窓の開閉を調節します。
開けるとき
スイッチを軽く押す
閉めるとき
スイッチを軽く引き上げる

❶ 開
❷ 閉
❸ 運転席用スイッチ
❹ 助手席スイッチ
❺ 後席用スイッチ

▼ リヤ



希望の位置で手を離すことで、窓の開閉を調節します。

開けるとき

スイッチの下部を押す

閉めるとき

スイッチの上部を押す

❶ 開
❷ 閉

自動開閉(運転席用スイッチのみ)

自動的に全開/全閉します。途中で止めるには、スイッチを反対側に軽く上げ/下げします。

開けるとき

スイッチを強く押す

閉めるとき

スイッチを強く引き上げる

- パワーモードを OFF モードにしても、約 10 分間は自動開閉機能付きのパワーウィンドーを開閉できます。ただし、運転席のドアを開閉すると、ウィンドーの開閉はできなくなります。
- はさみ込み防止のため、自動開閉機能付きのパワーウィンドーを自動で閉めているときに障害物を検知するとウィンドーが少し開いて止まります。
- 故障や路面、走行条件による衝撃などではさみ込み防止機構が作動し、自動でウィンドーを閉めることができなくなったときは、スイッチを軽く引き上げ続けると閉めることができます。

❗ お子さまだけを車内に残さない。必ず Honda スマートキーを携帯しドアをロックしてお子さまと一緒に車外に出てください。

⚠ 警告

パワーウィンドーを閉めるときは、同乗者が窓から手や顔などを出していないことを確認する。

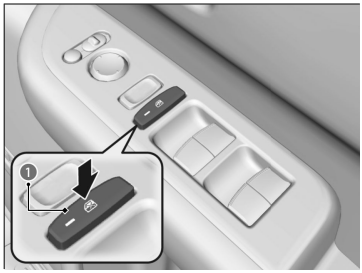
手や顔などをパワーウィンドーにはさむと、重大な傷害を負うおそれがあります。特にお子さまには気をつけてください。

⚠注意

指などをはさみ込まないように注意する。

確実に閉めるため、閉め切る直前の部分に、はさみ込みを検知しないエリアがあります。

パワーウィンドーロックボタン



❶ パワーウィンドーロックボタン

パワーウィンドーロックボタンを ON(表示灯点灯)にしておくと、運転席以外のウィンドーは作動しません。

❗ お子さまを乗せているときなどは、パワーウィンドーロックボタンを ON にしておいてください。

テールゲート

テールゲートの開閉時の注意

テールゲートを開閉する前に、必ず人や物がテールゲートから離れていることを確認してください。

- テールゲートは上までしっかりと開ける。
  ≫途中までしか開けていないと、自重で閉まることがあり、手などをはさむおそれがあります。
- 風にあおられてテールゲートが閉まらないようにする。
  ≫テールゲートにはさまれて、けがをするおそれがあります。
- テールゲートを開けたまま走行しない。
  ≫テールゲートが破損するおそれがあります。
  ≫車内に排気ガスが侵入し、有毒な一酸化炭素などを吸い込むおそれがあります。
  一酸化炭素について ▶P.36
- Honda スマートキーは運転者が携帯してください。
- 作動範囲内に Honda スマートキーがある場合、携帯していない人がテールゲートを解錠できます。

⚠注意

テールゲートを閉めるときは、頭をぶつけたり手をはさまないようにする。

重大な傷害を負うおそれがあります。特にお子さまには気をつけてください。

エンジンをかけた状態で手荷物を出し入れするときは、排気管の後方に立たないようにする。

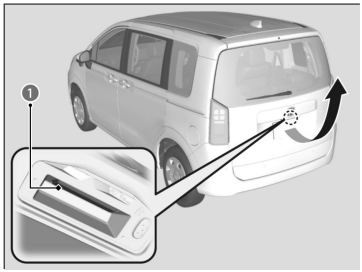
やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

カーゴスペース内に、人を乗せない。

ブレーキや加速、衝突のときにけがをするおそれがあります。

テールゲートの開閉方法

開ける場合の操作方法



❶ テールゲートオープンスイッチ

ドアを解錠し、テールゲートオープンスイッチを押して引き上げる。

閉める場合の操作方法

テールゲートのインナーハンドルを持って引き下げ、外側より押して閉めます。

スライドドア

スライドドアの開閉について

スライドドア開閉時の注意

- スライドドアはストッパーで固定されるまでしっかりと開ける。
  ≫途中までしか開けていないと、自重で閉まることがあります。
- Honda スマートキーを、車内に置き忘れないようにする。
  ≫運転席ドアを施錠したあとにスライドドアを閉めると、施錠されてスライドドアが開かなくなります。
- スライドドアのドリンクホルダーに、はみ出すものを入れていると、開閉の妨げになったり、車体に傷をつけるおそれがあります。

⚠注意

スライドドアを開閉するときはドアの内側と外側の安全を十分に確認し、手、足、顔などをはさまないよう注意する。

特にお子さまには気をつけてください。

傾斜地ではスライドドアを開けたままにしない。

ドアが不意に閉まるおそれがあります。

ドアハンドルをしっかり持って開閉する。

ドア本体を持って閉めたり、車体側に手をかけているとけがをするおそれがあります。

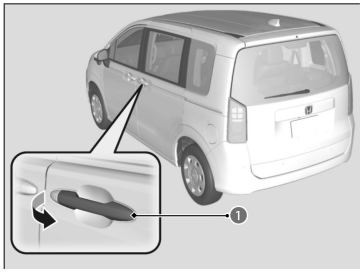
ドアのアームやレールなどには、手、足をかけない。

❗ 小さなお子さまが同乗しているときは、お子さまがスライドドアを誤って操作しないように、チャイルドプルーフをセットしてください。

チャイルドプルーフ ►P.59

スライドドアの開閉操作

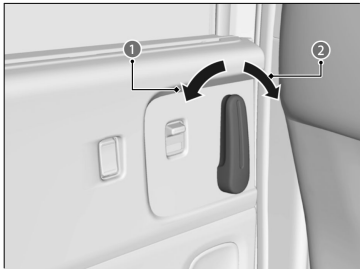
車外から開閉するとき



開けるとき：ドアハンドルを引き後方へスライドさせる。
閉めるとき：ドアハンドルを引き前方へスライドさせる。

❶ ドアハンドル

車内から開閉するとき

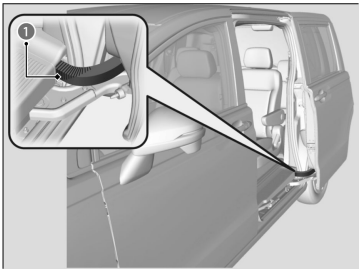


開けるとき：ハンドルを持ち後方へ引いてスライドさせる。
閉めるとき：ハンドルを持ち前方へ押してスライドさせる

❶ 開
❷ 閉

助手席のスライドドアはフューエルリッドが開いているとストッパーが作動して途中で止まります。フューエルリッドを閉めてスライドドアを少し戻してから開けると全開できます。

スライドドアの内側にあるカバーおよび内部の電線が傷つくと、作動不良の原因となります。踏まないように注意してください。



❶ カバー

パワースライドドアの開閉操作

キーレスエントリーシステムや運転席にあるパワースライドドアスイッチを使って、パワースライドドアを自動で開閉することができます。また、ドアハンドルを引いて自動で開閉することもできます。

自動で開閉するときの条件

- メインスイッチが ON のとき
- パワースライドドアが解錠されているとき
- パワーモードが OFF のとき（キーレスエントリーシステムで開閉する場合）

坂道でパワースライドドアを途中停止させたままにすると、約 30 分後自動で傾斜方向に作動します。
パワースライドドアを自動開閉中に障害物を検知すると、はさみ込み防止機構によりパワースライドドアが反対側に動きます。このとき、ブザーが「ピーピーピー」と鳴ります。

作動しないとき

- パワースライドドアが作動中のときに、シフトポジションを P 以外の位置でブレーキペダルから足を離したり、パーキングブレーキを解除すると、ブザーが鳴ります。
- フューエルリッドが開いた状態で、助手席側パワースライドドアの操作を行うとブザーが鳴り作動しません。
- パワーモードが ON モードのときに、シフトポジションが P 以外の位置で、内側または外側のハンドル操作するとパワースライドドアはブザーが鳴り作動しません。

⚠警告

パワースライドドアを開閉するときは、ドアの内側と外側の安全を十分確認する。

ドアが動いているときは触ったり、近づいたりしないでください。ドアにはさまれて重大な傷害を受けるおそれがあります。 特にお子さまには気をつけてください。

⚠警告

ドアを開閉する前に、ドア付近に障害物がないことを必ず確認する。

はさみ込み防止機能は、万一のときに、障害物を検知して、ドアにはさまれてしまうことを防ぐためのものです。ドアにはさまれると重大な傷害を受けるおそれがあります。 特にお子さまには気をつけてください。

⚠注意

後輪タイヤを交換するときは、メインスイッチを OFF にする。

ON のままだと、誤ってメインスイッチに触れたりしてドアが開き、思わぬ事故を起こすおそれがあります。

車両が完全に停止した状態でパワースライドドアを開閉する。

また乗り降りのときも車両が動き出さないように、確実にブレーキをかける。

パワースライドドアの開閉中や乗り降りのときに車両が動き出すと、思わぬ事故を起こすことがあります。

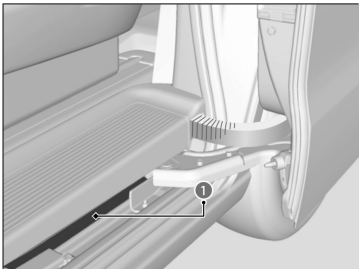
⚠注意

パワースライドドアに指などをはさみ込まないように注意する。

パワースライドドアを確実に閉め切るため、閉め切る直前の部分にはさみ込みを検知しないエリアがあります。

パワースライドドアのローラーの滑走面に石などの異物があると、作動不良になる場合があります。

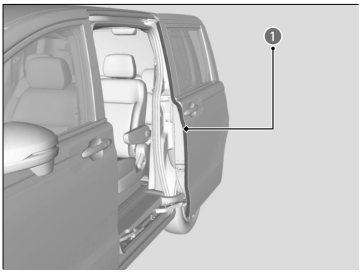
異物を取り除く場合は、水平な場所で必ずメインスイッチを OFF にして行ってください。



❶ ローラー滑走面

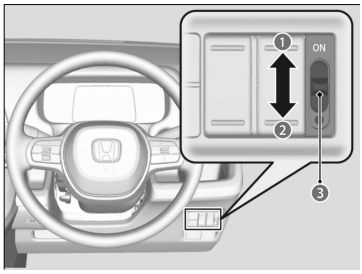
パワースライドドア前端にあるセンサーに触れない。

センサーに触れるとパワースライドドアが閉まりません。また、センサーを鋭利なものなどで傷つけないでください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。



❶ センサー部

自動開閉と手動開閉の切り換え



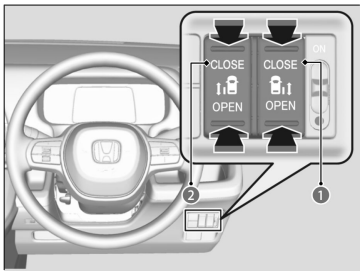
自動開閉：メインスイッチを ON にする
手動開閉：メインスイッチを OFF にする
スライドドアの開閉操作 ▶P.95

❶ ON
❷ OFF
❸ メインスイッチ

メインスイッチを OFF にしているときも、イージードアクローザーは作動します。
イージードアクローザー ▶P.101

> ❗ 坂道などでドアを開閉中にメインスイッチを OFF にしないでください。
> 落下防止機構が作動し、ブザーが鳴り、スライドドアはゆっくりと傾斜方向へ移動します。
>
> ❗ 落下防止機構が作動中は、再度メインスイッチを ON にして、ドアを自動で閉めてください。
> ドアハンドルを操作したり、メインスイッチの切り替えを繰り返した場合、落下防止機構が解除され、ドアが自重で動くことがあるので注意してください。

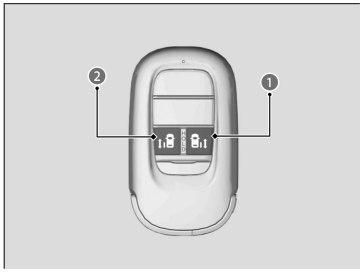
パワースライドドアスイッチで開閉する



OPEN 側を押すと開き、CLOSE 側を押すと閉まります。
開閉中に動かしているドア側のパワースライドドアスイッチを押すと、ブザー音が鳴り、パワースライドドアは途中で止まります。
再度ドアの開閉をするには、同様の操作をします。

❶ 運転席側
❷ 助手席側

キーレスエントリーシステムで開閉する

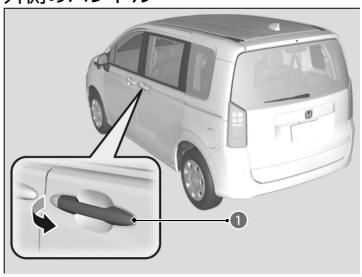


パワースライドドアボタンを約 1 秒以上押すと、自動で開閉することができます。
開閉中に動かしているドア側のパワースライドドアボタンを押すと、ブザーが鳴り、パワースライドドアは途中で止まります。再度ボタンを押すと反対側に動きます。

❶ 運転席側パワースライドドアボタン
❷ 助手席側パワースライドドアボタン

ドアハンドルで開閉する

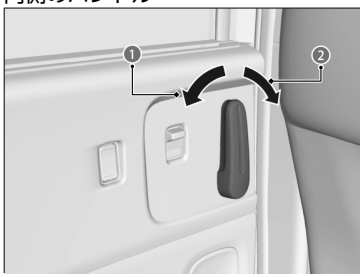
外側のハンドル



ハンドルを引くと自動で開閉することができます。
施錠されていても、Honda スマートキーを携帯してハンドルを引き、戻すと、自動的にすべてのドア、テールゲートが解錠されパワースライドドアが開きます。開閉中にハンドルを操作するとブザーが鳴り、途中で止まります。
再度ハンドルを引くと反対側に動きます。

❶ ドアハンドル

内側のハンドル



ハンドルを後ろ側に引くと自動で開き、前側に押すと自動で閉じます。
開閉中にハンドルを操作すると、ブザーが鳴り、途中で止まります。再度ドアの開閉をするには、同様の操作をします。

❶ 開
❷ 閉

イージードアクローザー

スライドドアを半ドア状態の位置まで閉めると、自動的に閉まります。
パワースライドドアのメインスイッチの位置に関係なくイージードアクローザーが作動します。

- イージードアクローザー作動中にスライドドアのハンドルを引くと、作動が止まり半ドア状態のままになります。また、スライドドアのハンドルを引いたままドアを閉めると、イージードアクローザーは作動しません。

⚠注意

半ドア状態の位置からドアが自動的に閉まるため、手などをはさまないように注意する。

❗ 故障の原因になるので、イージードアクローザーが作動しているときは、無理な力をかけないでください。

運転するときの操作

エンジンの始動・停止

ENGINE START/STOP スイッチ…… 103
エンジンの始動…… 104
エンジンの停止…… 105
こんなときは……106

発進・走行中

発進時の操作……107
こんなときは……108

駐停車

駐停車の操作……109

リアワイドカメラシステム✤

リアワイドカメラシステムについて…… 111

マルチビューカメラシステム✤

マルチビューカメラシステムについて……112
マルチビューカメラの使いかた……118

給油

指定燃料とタンク容量…… 124
給油のしかた……125

シフト操作

シフトポジションについて……127
シフトレバーの操作……128

ブレーキ

フットブレーキ…… 129
電子制御パーキングブレーキ…… 130
オートマチックブレーキホールド…… 133
ABS（アンチロックブレーキシステム）……135
エマージェンシーストップシグナル…… 136

ウィンカー・ライト

ウィンカー（方向指示器）の操作方法……137
ヘッドライト・車幅灯…… 137

ワイパー・ウォッシャー

フロントワイパー・ウォッシャーの操作方法‥146
リヤワイパー・ウォッシャーの操作方法…… 147
こんなときは……147

デフロスター（くもり止め）

デフロスターの使用方法……149
こんなときは……150

フロントガラス熱線スイッチ（霜取り）✤

フロントガラス熱線スイッチ(霜取り)の使用方法‥
…… 151

走行に関する機能

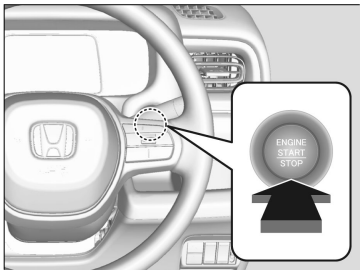
ECON モード……152
VSA（ビークルスタビリティアシスト）…… 153
アジャイルハンドリングアシスト…… 155
リアルタイム AWD <インテリジェント・コントロール・システム>✤……155

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

エンジンの始動・停止

ENGINE START/STOP スイッチ

パワーモードの切り替え一覧



Honda スマートキーを携帯し、ENGINE START/STOP を押すごとにモードが切り替わります。

OFF モード（消灯）
すべての電源が OFF になる

アクセサリーモード
オーディオシステムなどのアクセサリーが使用できる

ON モード
すべてのアクセサリーが使用できる

- Honda スマートキーが車内にある場合にパワーモードを切り替えることができます。
- Honda スマートキーが車外にあっても、ドアやドアガラスに近づきすぎていると、パワーモードが ON モードになることがあります。
- パワーモードが OFF モードからアクセサリーモードに切り換わらないときは、ハンドルロックを解除します。
  ≫ハンドルを左右に回しながら、ENGINE START/STOP を押してください。ハンドルロックが解除されます。

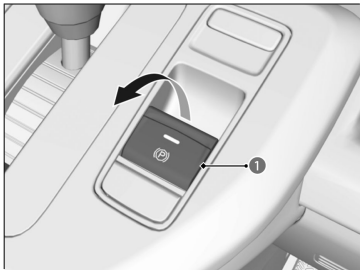
パワーモードオートオフ機能

シフトポジションが P でパワーモードがアクセサリーモードのときに 30 分～60 分経過すると、12V バッテリー保護のため自動的にパワーモードが OFF モードになります。このときはハンドルはロックされません。またキーレスエントリーシステムおよび Honda スマートキーシステムによる施錠/解錠ができなくなります。ENGINE START/STOP を押してパワーモードを再度 OFF モードに切り換えてください。

パワーモード警告ブザー

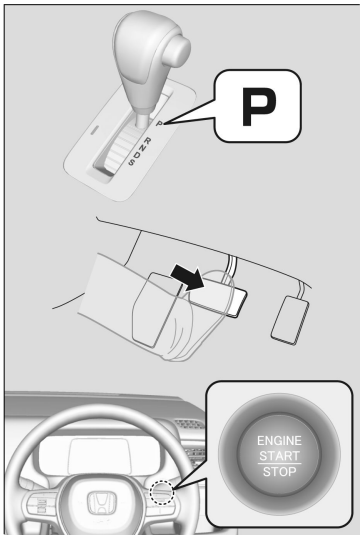
パワーモードがアクセサリーモードの状態で、運転席ドアを開けた場合、警告ブザーが鳴ります。

エンジンの始動



[1] パーキングブレーキスイッチ（❶）をゆっくりと確実に引き上げる。

≫パーキングブレーキがかかっていると、ブレーキ警告灯（レッド）が約 30 秒間点灯します。



[2] シフトポジションが P の状態でブレーキペダルを踏み、ENGINE START/STOP を押す。

⚠警告

12V バッテリー液が不足しているときは、エンジンを始動しない。

12V バッテリーが破裂するおそれがあります。

⚠注意

エンジンを始動するときは、ブレーキペダルをしっかりと踏む。

❗ 思わぬ事故を防ぐため、始動時にアクセルペダルを踏まないでください。

- 寒いときのエンジンの始動は、12V バッテリーの消耗を防ぐためにライト、空調などの電気アクセサリーを OFF にしてください。
- 始動しない場合は、30 秒以上待ってから再度操作してください。
- Honda スマートキーが強い電波を受けていると、エンジンが始動しないことがあります。

エンジンの停止

車が完全に停車した状態でシフトポジションを P にし、ENGINE START/STOP を押す。

こんなときは

Honda スマートキーの電池が切れているとき

始動するには、キーを ENGINE START/STOP にかざして直接認識させる必要があります。

スマートキーの電池が切れたときの始動方法 ►P.324

Honda スマートキーの電池は早めの交換をお勧めします。

スマートキーの電池交換方法 ►P.309

エンジンが始動しないとき

あらかじめ登録されたキーが必要です。

イモビライザーシステム ►P.48

Honda スマートキーをインストルメントパネル上、カーゴスペースやグローブボックス、ドアポケットなどの各種小物入れに置いた場合、電波状態によってはパワーモードの ON 機能が作動しないことがあります。

排気音が変わったり、車内でガソリンや排気ガスのにおいが消えないとき

排気系や燃料系の異常が考えられます。Honda 販売店で点検を受けてください。

ボンネット内からモーター音が聞こえたとき

エンジンの始動直後や走行中、システムチェックのためボンネット下からモーター音が聞こえることがあります。

ENGINE START/STOP を押しても電源が OFF にならないとき

シフトポジションを P にしてください。

発進・走行中

発進時の操作

[1] ブレーキペダルを踏んだ状態で、シフトポジションを選択する。
[2] ブレーキペダルを離して、アクセルペダルをゆっくりと踏む。

≫パーキングブレーキは自動で解除されます。パーキングブレーキスイッチの操作でも解除することができます。

電子制御パーキングブレーキ ▶P.130

⚠注意

アクセルペダルを踏んだまま、シフトポジションを操作しない。

急発進して思わぬ事故の原因となります。

❗ 走行中はエンジンを停止しないでください。下記の状態になり危険です。

- ブレーキの倍力装置が作動しないため、ブレーキの効きが悪くなる
- パワーステアリングのパワー装置が作動しないためハンドル操作が重くなる。

❗ 走行中はシフトポジションを N にしないでください。エンジンブレーキが全く効かず、思わぬ事故の原因となります。

❗ 1,000km 走行するまでは、エンジンや駆動系の保護のため急発進、急加速を避け、控えめな運転をしてください。

❗ 滑りやすい路面やカーブでは、アクセルペダルは特に慎重に操作してください。

ヒルスタートアシストシステム

坂道での発進時にブレーキペダルから足を離したとき、車両の後退を緩和するためにブレーキ力を短時間保持します。

≫緩やかな坂道では、作動しないことがあります。

無段変速オートマチック

クリープ現象

エンジンがかかっているとき、シフトポジションが P 、 N 以外に入っていると、クリープ現象によりアクセルペダルを踏まなくても、車がゆっくり動き出します。

≫エンジン回転が上がるとクリープ現象が強くなるため、ブレーキペダルをしっかりと踏んでください。

≫上り坂でクリープ現象による前進の力よりも後退する力が大きくなったとき、車が後退する場合があります。ブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキをかけてください。

キックダウン

シフトポジションが D 、 S で走行中にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、自動的に変速比が変わり、力強く加速します。

≫滑りやすい路面やカーブに注意し、アクセルペダルは慎重に操作してください。

こんなときは

アクセルを踏んでもパーキングブレーキが自動で解除されないとき

運転席のシートベルトを装着しているか確認してください。

駐停車

駐停車の操作

[1] ブレーキペダルをしっかり踏む。
[2] ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキスイッチをゆっくりと確実に引き上げる。
[3] シフトポジションを P にし、エンジンを停止する。
≫車から離れるときは必ず施錠してください。

⚠注意

駐車時はエンジンを止める。
万一、シフトポジションが P 、 N 以外に入っていた場合、クリープ現象により車が動き出したり、乗り込む際に誤ってアクセルペダルを踏み、急発進するおそれがあります。

⚠注意

停車中の空ぶかしはしない。
万一、シフトポジションが P 、 N 以外の場合、思わぬ急発進のもとになります。

坂道に駐車をするときは、かならずパーキングブレーキをかけてください。

以下を行うと、駆動系が損傷する原因となります。
- アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏む
- 車が完全に止まらないうちに P に入れる
- 上り坂で、アクセルを調節しながら車を停車させる

燃えやすいものがあるところには駐停車しないでください。排気管や排気ガスの熱により、着火するおそれがあります。

寒冷時は、パーキングブレーキをかけずに、輪留めをしてください。路面の凍結によって車が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

リアワイドカメラシステム✤

リアワイドカメラシステムについて

リアワイドカメラシステムの取り扱いについては、ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

マルチビューカメラシステム✤

マルチビューカメラシステムについて

運転席から死角となる部分を、画面に映る画像で確認することができます。このシステムを補助的に使用することで、次のような場合に運転者の負担を軽減します。

- 見通しの悪い交差点で左右を確認する
  前方の障害物を確認するには ►P.118
- 狭い道でのすれ違いや路肩への幅寄せ、車庫入れなどで前方の障害物を確認する
  前方の障害物を確認するには ►P.118
  前方側面の障害物を確認するには ►P.120
- 後方の障害物を確認する
  後方の障害物を確認するには ►P.121

⚠警告

周囲の安全は、マルチビューカメラシステムの画像だけに頼らず、目視やミラーなどで直接確かめてください。

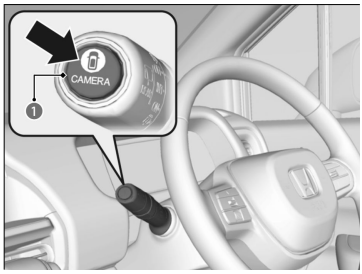
このシステムは運転者の操作をサポートするためのものであり、事故や衝突を防止するためのシステムではありません。
運転操作時は、必ず目視やミラーなどで後方および周囲の安全を直接確認して運転してください。

状況によっては、表示できない可能性があるため、画面の表示のみを頼って操作すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

事故防止のため、周囲の安全を確かめてご使用ください。

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

カメラ画像の表示のしかた



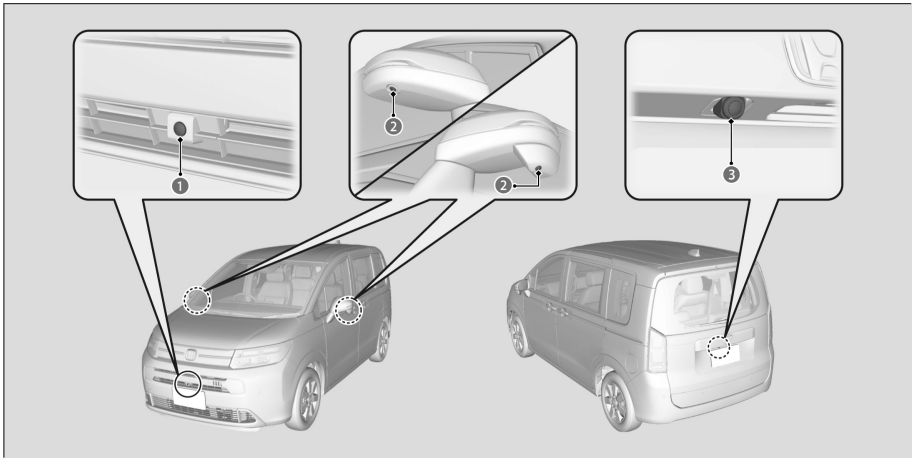
前方表示：シフトポジションが R 以外のときに CAMERA スイッチ（1）を押します。

後方表示：停車中にシフトポジションを R にして、CAMERA スイッチ（1）を押します。

- パーキングセンサーが障害物を検知するとインジケーターが表示されます。
  パーキングセンサーシステムについて ▶P.255
- 車両が後方から接近していることが検知されると、後退出庫サポートが警告します。
  後退出庫サポートについて ▶P.252

表示設定はカスタマイズできます。ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

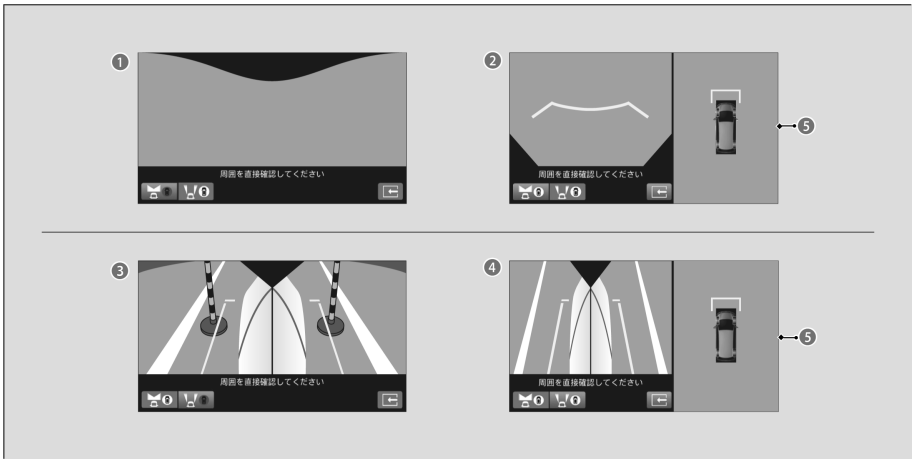
カメラの設置場所と画像について



❶ フロントカメラ
❷ サイドカメラ
❸ リアカメラ

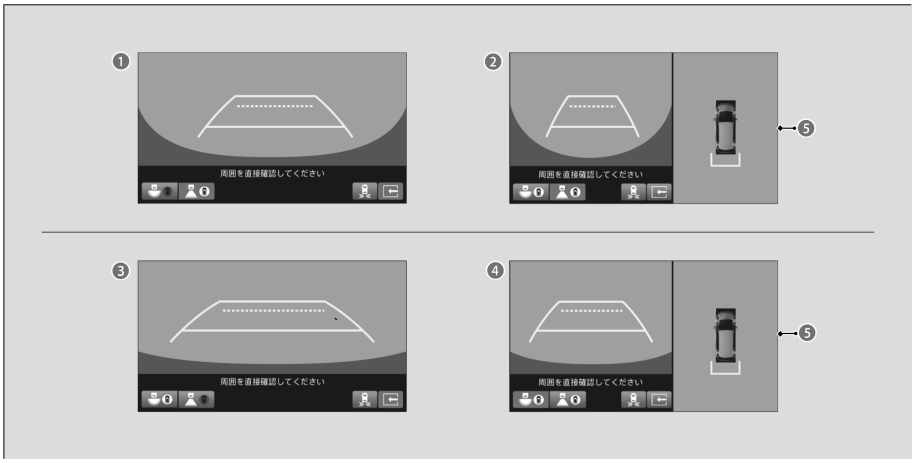
カメラは特殊なレンズを使用しています。そのため、画面上の距離と実際の距離が異なって見えたり、対象物が変形して表示されることがあります。車両から離れるほど、その傾向は強くなります。

前方表示



❶ フロントブラインドビュー
❷ フロントビュー+グラウンドビュー
❸ サイドビュー
❹ サイドビュー+グラウンドビュー
❺ グラウンドビュー画面は、車両の周囲を表示します。4 台のカメラでとらえた合成画像で、車両を真上から見たイメージで表現されます。

後方表示



❶ リアワイドビュー
❷ リアワイドビュー+グラウンドビュー
❸ リアビュー
❹ リアビュー+グラウンドビュー
❺ グラウンドビュー画面は、車両の周囲を表示します。4 台のカメラでとらえた合成画像で、車両を真上から見たイメージで表現されます。

目安ガイド線と予測ガイド線表示

マルチビューカメラシステムが起動している状態のときに以下のガイド線を表示できます。
目安ガイド線：車両からの距離を表示することができます。
予測ガイド線：ハンドル操作に応じて、車両の動く方向を表示することができます。

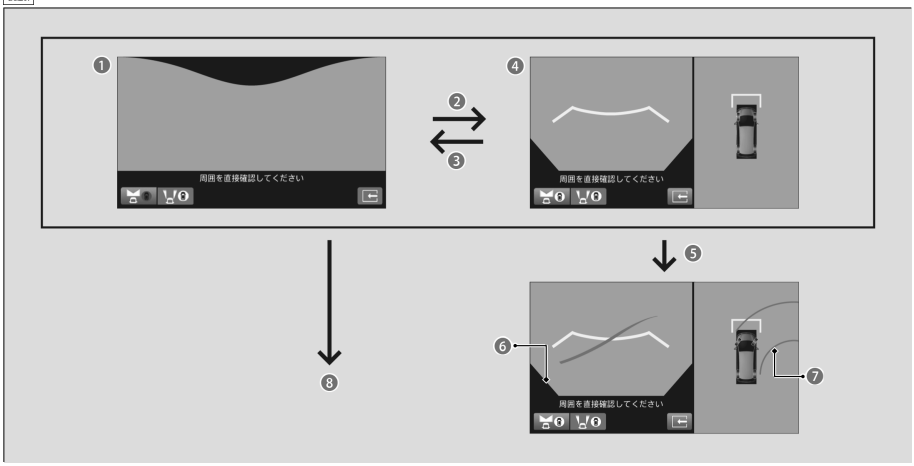
目安ガイド線および予測ガイド線とカメラ画像が示す距離は、車高の変化や路面の状態の影響などにより、実際の距離と異なることがあります。
目安ガイド線および予測ガイド線はあくまでも参考としてお使いください。

目安ガイド線および予測ガイド線はカスタマイズにより表示/非表示を切り換えることができます。ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

マルチビューカメラの使いかた

前方の障害物を確認するには

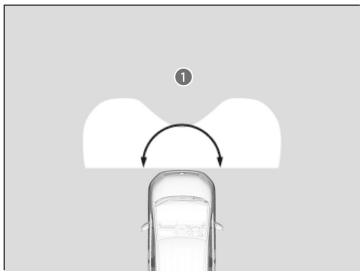
CAMERA スイッチを押すと前方画面が表示できます。



❶ フロントブラインドビュー
❷ または、
❸ または、
❹ フロントビュー+グラウンドビュー
❺ ハンドルを 90 度以上切る
❻ 死角になる部分は黒く表示されます。
❼ 予測ガイド線は、車両の外側から約 25cm の位置に表示されます。
❽ 、 または、 CAMERA スイッチで、前方側面の画面表示に切り替わります。

- 車速が 25km/h を超えると前方画面は自動的に表示が切り替わります。
- ドアミラーを格納してもグラウンドビューは表示されますが表示エリア、死角が異なります。

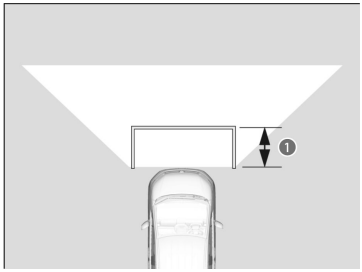
カメラの表示範囲



フロントブラインドビュー画面の表示範囲（❶）は、約 180 度です。
車両前方の左右を表示して、見通しの悪い交差点の左右を確認できます。

≫広い範囲を映すため、画像は大きくゆがんで表示されます。また障害物との距離が実際より近くまたは遠くに見えることがあります。

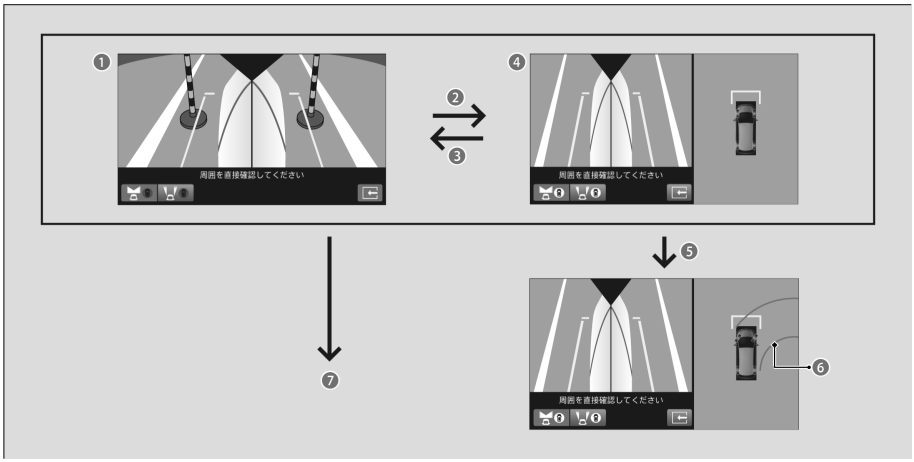
ガイド線の距離



ガイド線の距離（❶）は、約 1.0m です。

前方側面の障害物を確認するには

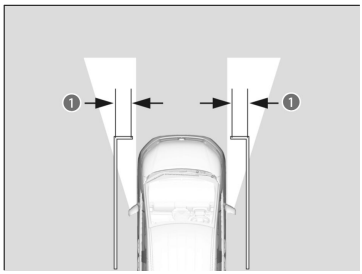
前方画面の表示中に、、または、スイッチで前方側面の表示に切り替えます。



❶ サイドビュー
❷ または、
❸ または、
❹ サイドビュー+グラウンドビュー
❺ ハンドルを 90 度以上切る
❻ 予測ガイド線は、車両の外側から約 25cm の位置に表示されます。
❼ または、で、前方の画面表示に切り替わります。

- 車速が 25km/h を超えるとサイドビュー画面は自動的に表示が切り替わります。
- ドアミラーを格納してもグラウンドビューは表示されますが表示エリア、死角が異なります。
- サイドビューは、ドアミラーを格納しているときは表示されません。

ガイド線の距離



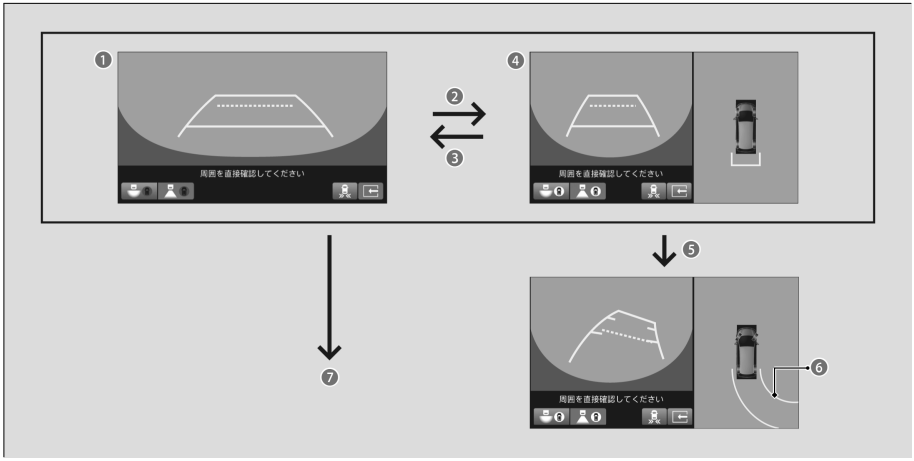
サイドカメラの画像で車両の前方側面を表示します。
ガイド線の距離（❶）は、車両外側から約 30cm です。

後方の障害物を確認するには

シフトポジションを R にすると、自動的に後方画面表示に切り換わります。

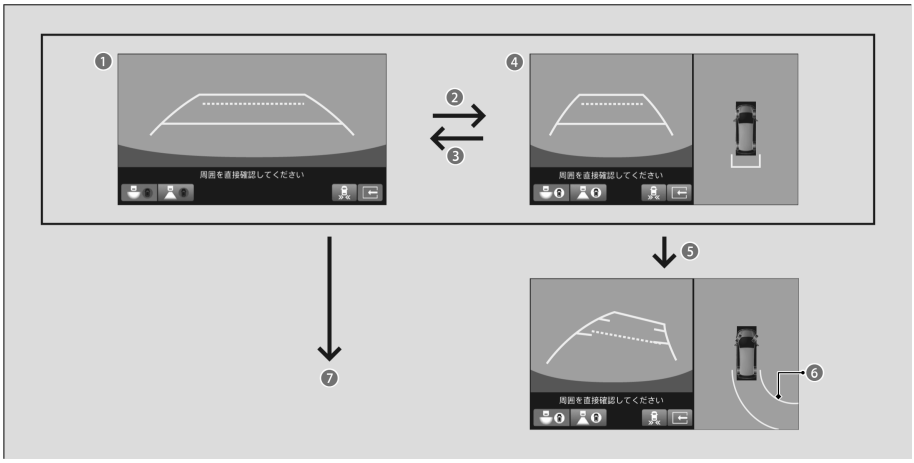
- シフトポジションを R に切り換えたときに、後方画面表示が遅れて切り換わることがあります。

リアワイドビュー



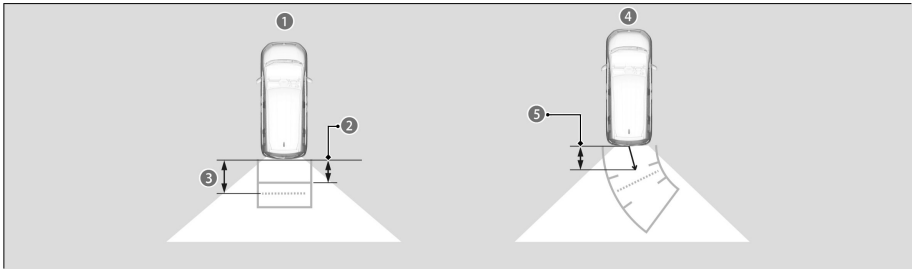
❶ リアワイドビュー
❷ または、
❸ または、
❹ リアワイドビュー+グラウンドビュー
❺ ハンドルを 90 度以上切る
❻ 予測ガイド線は、車両の外側から約 25cm の位置に表示されます。
❼ 、 または、 CAMERA スイッチで、後方の画面表示（リアビュー）に切り替わります。

リアビュー



❶ リアビュー
❷ または、
❸ または、
❹ リアビュー+グラウンドビュー
❺ ハンドルを 90 度以上切る
❻ 予測ガイド線は、車両の外側から約 25cm の位置に表示されます。
❼ 、 または、 CAMERA スイッチで、後方の画面表示（リアワイドビュー）に切り替わります。

ガイド線の距離



❶ 目安ガイド線の距離
❷ 約 0.5m
❸ 約 1.2m
❹ 予測ガイド線の距離
❺ 約 1m

マルチビューカメラシステムの制限

以下の条件でカメラ画像が不鮮明になることがあります。その場合は目視やミラーで直接周囲を確認してください。レンズが汚れたときは水や中性洗剤などを含ませた布で汚れを拭き取ってください。

- 雨、霧、雪などの悪天候のとき、または周囲が暗いとき
- カメラが高温になったとき
- トンネルの出入り口などで明るさが変化したとき
- 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行するとき
- カメラのレンズに傷がついたとき

以下の場合は Honda 販売店にご相談ください。

- 予測ガイド線が不正確な状態になったとき
- カメラもしくはその周囲に強い衝撃が加わったとき
- マルチビューカメラシステムを使用中に周囲にエラーメッセージが表示されたとき
- 20km/h 以下で走行中に画面に映像が表示されないとき

給油

指定燃料とタンク容量

指定燃料

無鉛レギュラーガソリン
レギュラーバイオ混合ガソリン（E10/ETBE22）

> ❗ 指定燃料以外の燃料（粗悪ガソリン、軽油、灯油等）を補給したり、不適切な燃料添加剤を使用しないでください。触媒装置、エンジンや燃料系などの損傷や悪影響を与えるおそれがあります。
> プレミアムガソリンも使用できますが、本来のエンジン性能が大きく変わることはありません。

タンク容量

▼ 2WD 車

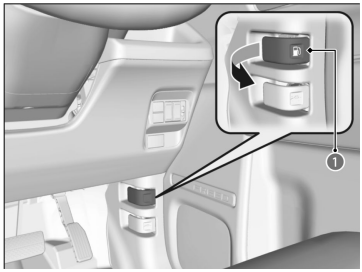
42 リットル

▼ AWD 車

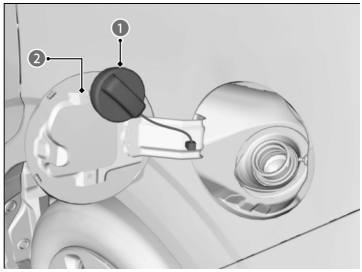
53 リットル

給油のしかた

給油の手順



[1] エンジンを停止し、フューエルリッドオープナー（❶）を引いてリッドを開ける。



[2] ツマミをゆっくり回し、フューエルキャップ（❶）を開ける。
[3] キャップをホルダー（❷）にかける。

[4] 給油ノズルを奥まで差し込み、給油する。
[5] 給油後、「カチッ」という音が 1 回以上するまでキャップを締め、フューエルリッドを閉める。

⚠警告

燃料補給時は火気厳禁。

燃料や燃料蒸気は引火しやすいため火災や爆発のおそれがあります。燃料を扱っているときは下記の項目を厳守してください。

- エンジンは常に停止させる
- 炎、火花を近づけない
- たばこを吸わない
- 燃料の取り扱いは屋外で行う
- こぼれた燃料はすみやかに拭き取る

燃料補給作業は、フューエルキャップを開ける前に車体などの金属に触れて身体の静電気を除去してから行う。

静電気の放電による火花により気化したガソリンに引火し、やけどを負うおそれがあります。

⚠注意

キャップはゆっくり開ける。
急激に開けると燃料補給口より吹き返しが発生し、火災になるおそれがあります。

給油ノズルの自動停止後は、追加補給しない。
気温などの変化により燃料があふれ、火災になるおそれがあります。

キャップが確実に閉まっていることを確認する。
閉まっていないと燃料がもれ、火災になるおそれがあります。

気温などの変化により燃料があふれないように、タンク容量に達すると燃料タンクに空間を残して給油ノズルの自動停止がはたらくようになっています。
自動停止後に追加補給をすると、燃料が満タン容量以上に入ることがあります。

❗ ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。

❗ 「シュー」という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開けてください。

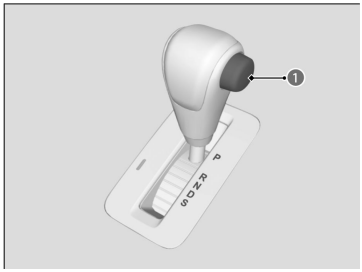
❗ 燃料補給は、静電気を放電した人のみで行ってください。
燃料補給中に車内に戻ると、再び帯電することがあります。再度、静電気を放電してください。

❗ 燃料蒸気を吸わないでください。有害物質を含んでいる場合があります。

❗ Honda 純正以外のキャップを使わないでください。
純正品を使用しないと、火災などを起こすおそれがあります。

シフト操作

シフトポジションについて

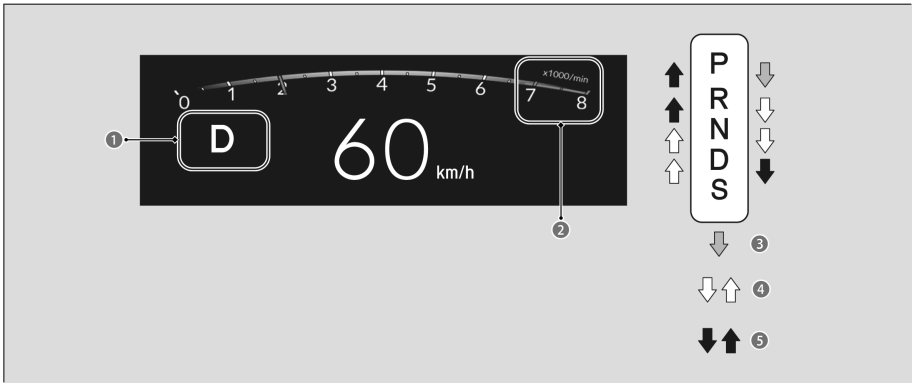


❶ シフトレバーボタン

P （パーキング）
駐車またはエンジン始動時に使用
R （リバース）
車を後退させるときに使用
N （ニュートラル）
駆動力を伝達させないときに使用
D （ドライブ）
通常走行時に使用
S （ドライブ（S））
上り坂や下り坂を走行時に使用
≫エンジンを高い回転領域まで有効に使用できます。

シフトレバーの操作

シフトポジションは、メーター部にあるシフトポジション表示灯と連動し、現在のポジションを表示灯の点灯で表示します。



❶ シフトポジション表示灯/（トランスミッション警告灯）
❷ タコメーターのレッドゾーン
❸ ブレーキペダルを右足で踏み、シフトレバーボタンを押して操作
❹ シフトレバーボタンを押さずそのまま操作
❺ シフトレバーボタンを押して操作

> ❗ トランスミッションの破損を防ぐため、車が完全に停車した状態で前進と後退を切り替えてください。

> ❗ トランスミッション警告灯が点滅しているときは、トランスミッションに異常があります。急加速を避け、Honda 販売店で点検を受けてください。

- シフトポジション表示灯でシフトレバーの位置を確認してから発進してください。
- 外気温がマイナス 30 度以下のときはシフトポジションの表示が少し遅れることがあります。
- エンジンの回転をあやまってタコメーターのレッドゾーン（限界回転数）以上で運転した場合、エンジン保護装置により燃料供給が停止されます。そのとき、軽い衝撃を感じることがありますが、異常ではありません。
- シフトレバーボタンを押したままブレーキペダルを踏んだ場合、レバーの操作ができないことがあります。先にブレーキペダルを踏んだ状態で操作を行ってください。

ブレーキ

フットブレーキ

車の減速や停止をするためのブレーキで、ブレーキペダルで操作します。

> ! 水たまりを走行したときは、ブレーキの効き具合を確認してください。
> 効きが悪いときは、効き具合が戻るまでブレーキペダルを何回か軽く踏んでください。

> ! ブレーキを踏んでいる間、絶えず金属的な摩擦音が聞こえる場合はブレーキパッドを交換してください。
> Honda 販売店で点検を受けてください。

> ! 長い下り坂では、ブレーキペダルを踏み続けないでください。
> ブレーキが過熱し、ブレーキの効きが悪くなり危険です。長い下り坂などでは回生ブレーキも使用してください。

電子制御ブレーキアシスト

緊急制動時に、より大きな力を発生させ運転者のブレーキ操作を補助する装置です。ブレーキペダルを強く踏み込んだときに、ブレーキがより強く効くようになります。

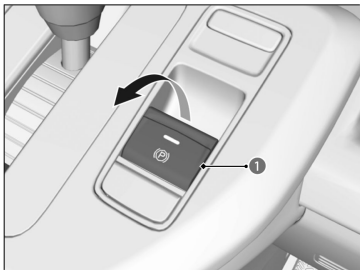
≫ブレーキアシストが作動すると、ペダルが小刻みに動いたり、作動音が聞こえたりすることがあります。

電子制御パーキングブレーキ

停車中や駐車時に使用するブレーキです。自動での解除および手動での操作ができます。

- パーキングブレーキを操作すると作動音が聞こえます。
- パーキングブレーキを操作するとブレーキペダルが動くことがあります。
- 12V バッテリーがあがっているときは、パーキングブレーキは操作できません。
- 走行中にパーキングブレーキスイッチを引き続けている間はパーキングブレーキがかかります。

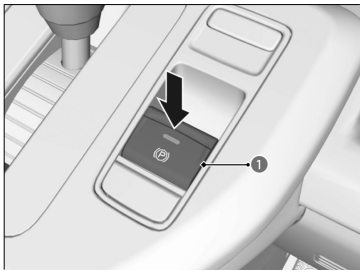
手動でパーキングブレーキをかける方法



パーキングブレーキスイッチ（❶）を引き上げる。

≫パーキングブレーキが作動すると、スイッチのインジケーターとメーター内のブレーキ警告灯（レッド）が点灯します。

手動でパーキングブレーキを解除する方法



右足でブレーキペダルをしっかりと踏んだ状態で、パーキングブレーキスイッチ（❶）を押す。

≫ブレーキ警告灯（レッド）が消灯します。

- パワーモードが ON モードのときに操作してください。
- 急な下り坂の発進時などに利用するとスムーズな発進を行うことができます。

自動パーキングブレーキ作動機能

パワーモードを OFF モードにすると自動でパーキングブレーキがかかります。

- この機能は工場出荷時 OFF になっています。

自動作動機能の ON/OFF

パワーモードが ON モードのときに、以下の操作で ON と OFF が切り替わります。

[1] シフトポジションを P にする。

[2] ブレーキペダルを踏まずに、パーキングブレーキスイッチを引き上げる。

≫ブレーキ警告灯（レッド）が点灯していることを確認してください。

[3] パーキングブレーキスイッチを引き上げたままにする。音が鳴り始めたら手を離し、3 秒以内に再びパーキングブレーキスイッチを引き上げたままにする。

[4] 操作完了音が聞こえたらスイッチから手を離す。

≫ON:「ピーッ ピーッ」と鳴ります。

≫OFF:「ピー」と鳴ります。

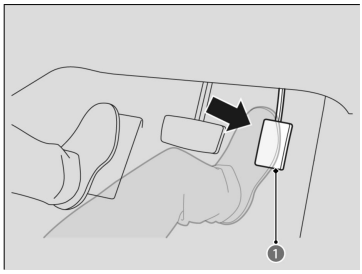
≫パーキングブレーキの作動状態は、ブレーキ警告灯（レッド）で確認してください。

以下の状態のときは、パーキングブレーキが自動で作動します。

- 10 分以上渋滞追従機能付 ACC またはオートマチックブレーキホールドシステムが作動している状態で停車しているとき
- 渋滞追従機能付 ACC またはオートマチックブレーキホールドシステムが作動している状態で運転席のシートベルトを外したとき
- 渋滞追従機能付 ACC またはオートマチックブレーキホールドシステムが作動している状態でエンジンを停止したとき

> ! 寒冷時は、自動パーキングブレーキ作動機能を OFF にし、石などで輪留めをしてください。パーキングブレーキをかけると、凍結するおそれがあります。また、自車をけん引する場合は、必要に応じて機能を OFF にしてください。

解除方法



アクセルペダル（❶）をゆっくりと踏み、車両を発進させる。

≫ブレーキ警告灯(レッド)が消灯します。

> ❗ 運転席シートベルトを装着していない場合はパーキングブレーキは自動で解除されません。

次の警告灯が点灯しているときは、自動解除できないことがあります。

- PGM-FI 警告灯、トランスミッション警告灯、ブレーキ警告灯（オレンジ）、VSA 警告灯、ABS 警告灯、エアバッグシステム警告灯

自動作動機能の一時 OFF

下記操作を行うと自動作動が一時的に OFF になります。

[1] ブレーキペダルを踏んで停車する。

[2] パワーモードを OFF モードにした後、2 秒以内にパーキングブレーキスイッチを押す。

≫自動作動機能の ON/OFF 設定は変わりません。

≫渋滞追従機能付 ACC、オートマチックブレーキホールドシステムが OFF の状態で行ってください。

≫パーキングブレーキの作動状態は、ブレーキ警告灯（レッド）で確認してください。

オートマチックブレーキホールド

停車中に、ブレーキペダルを踏み続けなくてもブレーキを保持する機能です。保持中にアクセルペダルを踏むと、自動でブレーキが解除されます。信号待ちや渋滞などの一時的な停車に適しています。

⚠警告

急な坂道やすべりやすい路面の場所では、ブレーキペダルから足を離さない。

急な坂道やすべりやすい路面の場所では、オートマチックブレーキホールドが作動していても、ブレーキペダルから足を離したときに車が動くことがあります。
不意に車が動くことにより衝突の原因となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

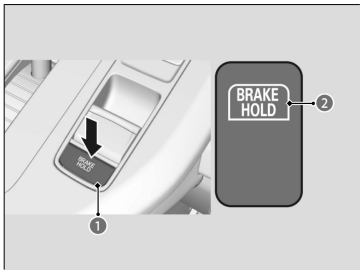
駐車をする目的でオートマチックブレーキホールドを作動させない。

不意に車が動くことにより衝突の原因となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
オートマチックブレーキホールドシステム作動中は絶対に車から離れないでください。駐車する際はシフトポジションを P にしてパーキングブレーキをかけてください。

オートマチックブレーキホールドを使用する際は、オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯するまでブレーキペダルから足を離さない。

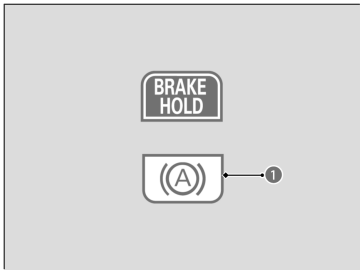
不意に車が動くことにより衝突の原因となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯した後にブレーキペダルから足を離してください。

作動方法



[1] シートベルトを着用し、エンジンを始動してからオートマチックブレーキホールドスイッチ（❶）を押す。

≫オートマチックブレーキホールドシステム表示灯（❷）が点灯し、システムが待機状態になります。



[2] シフトポジションが D、S の状態で、ブレーキペダルを踏んで停車する。

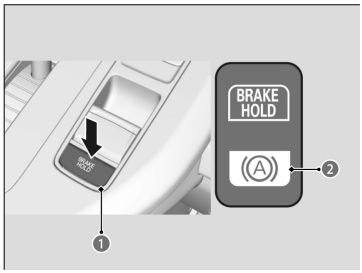
≫オートマチックブレーキホールド表示灯（❶）が点灯し、ブレーキホールド機能が作動します。ブレーキペダルから足を離してください。

≫ブレーキホールド機能は、10 分間作動します。

> ❗ 自動洗車機を使用するときは、システムが OFF になっていることを確認してください。

- 次回以降のエンジン始動時に運転席シートベルトを着用すると、待機状態で復帰します。

システムの OFF



❶ を押すと、システムが OFF になります。

❷ が点灯しているときは、ブレーキペダルを踏みながら OFF にしてください。

- システムを OFF にした場合は、次回以降のエンジン始動時も OFF のままです。

ブレーキホールド機能が自動的に解除されるとき

- シフトポジションが P もしくは R で、ブレーキペダルを踏んでいるとき
- パーキングブレーキスイッチを引いたとき

以下のときは、ブレーキホールド機能が解除されてパーキングブレーキが自動で作動します。

- 10 分以上ブレーキを保持したとき
- 運転席のシートベルトを外したとき
- エンジンを停止したとき
- オートマチックブレーキホールドシステムに問題が発生したとき

ABS（アンチロックブレーキシステム）

10km/h 以上で走行時に急制動や滑りやすい路面で制動するとき、車輪のロックを防止することで車両の姿勢を安定させ、ハンドルの効きを確保しようとするための装置です。

- ブレーキペダルを踏んだとき、ブレーキペダルが小刻みに動くことがありますが、これは ABS の正常な動作です。そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。

> **!** タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。
> 種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、ABS が正常に機能しないことがあります。

> **!** 運転中に ABS 警告灯が点灯するときは、システムの異常が考えられます。
> ABS が作動していない可能性があるため、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

> **!** ABS は、制動距離を短くするためのものではありません。路面が滑りやすいほど長い制動距離が必要になります。

エマージェンシーストップシグナル

60km/h 以上で走行時に急ブレーキをかけると、非常点滅表示灯が高速で点滅し、後続車に急ブレーキを知らせるシステムです。
以下の状態になると、エマージェンシーストップシグナルが停止します。

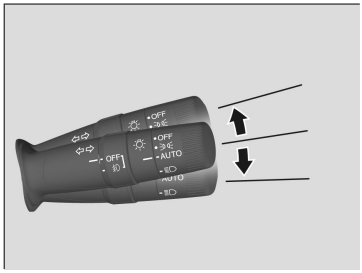
- ブレーキペダルを離したとき
- ABS が停止したとき
- 急減速でなくなったとき
- ハザードスイッチを ON にしたとき

> ! エマージェンシーストップシグナルは、追突されるおそれを低減するシステムであり、追突を完全に防ぐものではありません。
> 運転するときは不必要な急ブレーキを避け、安全運転を心がけてください。

ウィンカー・ライト

ウィンカー（方向指示器）の操作方法

ウィンカースイッチを上下に操作する。メーター内の ⇦⇨ 方向指示器表示灯が点滅します。



- ワンタッチターンシグナル：レバーを軽く押し下げ/押し上げて放すと、方向指示器が 3 回点滅します。
- 点滅中にレバーを反対方向に軽く押して放すと点滅が停止します。

ワンタッチターンシグナルの ON/OFF 設定を変更することができます。
時計✤/車両設定 ▶P.276

ヘッドライト・車幅灯

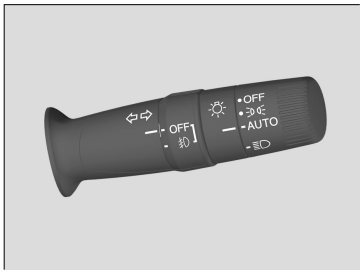
車外の明るさに応じて自動で点灯します。手動で点灯/消灯させることもできます。
≫メーター内の ≡DO≡ ライト点灯表示灯が点灯します。

手動点灯/消灯

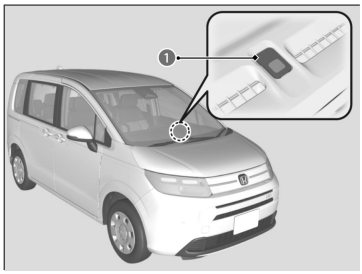
ヘッドライト・車幅灯の点灯：
ライトスイッチを ≡D にします。
車幅灯の点灯：
ライトスイッチを ≡DO≡ にして手を離します。
≫ヘッドライトは車外の明るさに応じて自動点灯します。
≫停車中に行うとヘッドライトは消灯します。低速でしばらく走行するか一定以上の車速で走行するとヘッドライトの自動点灯が再開します。
≫車幅灯の自動点灯を再開するにはスイッチを ≡D にしたあと、AUTO にし ます。または、≡DO≡ にして手を離します。

ヘッドライト・車幅灯の消灯：
シフトポジションが P もしくはパーキングブレーキをかけて停車しているとき、ライトスイッチを OFF にして手を離します。

≫発進すると車幅灯の自動点灯が再開します。低速でしばらく走行するか一定以上の車速で走行するとヘッドライトの自動点灯が再開します。



照度感知センサーは、図の位置にあります。センサーの上にものを置かないでください。



❶ 照度感知センサー

車幅灯が点灯しているときは尾灯、番号灯も点灯します。
重い荷物の積載時など、車両の姿勢の変化に応じてヘッドライト光軸の上下方向を自動的に調節するオートレベリング機能が付いています。ヘッドライト光軸の異常を感じたときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

> ❗ エンジンが停止しているときにライト類を点灯したままにしないでください。
> 運転席のドアを開けたときにライト消し忘れ警告ブザーが鳴ります。
> 12V バッテリーあがりの原因となります。

ハイビーム

ヘッドライトが点灯しているとき、レバーを前方に押すとハイビームに切り換わります。手前に引くとロービームに戻ります。

- パッシング：レバーを手前に引き、離します。

ハイビームが点灯しているときは、メーター内の ≡D ハイビーム表示灯が点灯します。

ヘッドライトオートオフ機能

パワーモードを OFF モードにして、すべてのドア、テールゲートを施錠するとライト類が消灯します。

≫運転席ドアを開けると再び点灯し、ライト消し忘れ警告ブザーが鳴ります。ライトスイッチを AUTO にしているときはパワーモードを OFF モードにすると消灯します。

デイタイムランニングライト

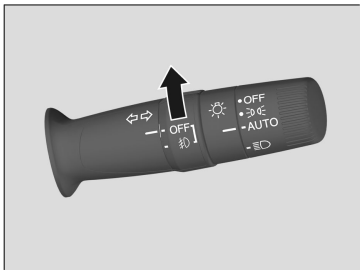
デイタイムランニングライトは以下の条件をすべて満たしたときに点灯します。

- パワーモードが ON モード
- 車両の周囲が明るい
- ヘッドライトが消灯している

停車しているときにライトスイッチを OFF にして手を放すとデイタイムランニングライトは消灯します。
車両を発進させると再び点灯します。

デイタイムランニングライトの ON/OFF 設定を変更することができます。
時計✤/車両設定 ▶P.276

フォグライト✤



メーター内の インジケーターが点灯しているときに、フォグライトスイッチを回すと点灯します。
メーター内の フォグライト点灯表示灯が点灯します。

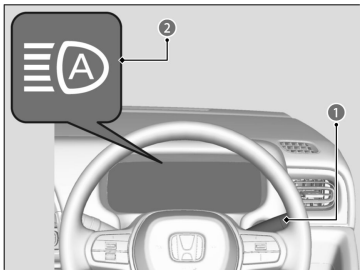
オートハイビーム✤

夜間走行時にフロントワイドビューカメラで前方車両のライトや街灯などを検知し、状況に応じてヘッドライトのハイビームとロービームを自動で切り換えるシステムです。

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

システムの作動

以下の条件をすべて満たすとオートハイビーム表示灯が点灯し、オートハイビームが作動します。



- パワーモードが ON モード
- ライトスイッチが AUTO の位置
- レバーがロービームの位置
- ヘッドライトが自動で点灯している
- 車両の周囲が暗い

❶ ライトスイッチ
❷ オートハイビーム表示灯

上記の条件を満たしていてもオートハイビーム表示灯が点灯しないときは、続けて以下のいずれかの操作を行うことで、オートハイビーム表示灯が点灯します。ハイビームが点灯しているときは、メーター内の ハイビーム表示灯が点灯します。

- レバーを手前(パッシングの位置)に引いた後すぐに手を放す
- ライトスイッチを に回したあと、 AUTO に戻す

オートハイビームはあらゆる状況で作動する機能ではなく、運転者をアシストするための機能です。常に周囲の状況を確認し、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切り換えてください。
カメラが認識できる範囲や距離は周囲の状況により変化します。

オートハイビームを正しく動作させるために次のことをお守りください。

- インストルメントパネルの上に光を反射するものを置かない
- カメラ付近のガラスはきれいにしておく
- フロントガラスのお手入れのときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにする
- カメラ付近のガラスにアクセサリー、ステッカーやフィルムを取り付けない
- カメラのレンズに触れない

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

フロントワイドビューカメラ ►P.189

カメラに強い衝撃が加わったときやカメラ周辺の修理を行うときは Honda 販売店にご相談ください。

オートハイビームの ON/OFF 設定を変更することができます。

時計✤/車両設定 ►P.276

ハイビーム/ロービームの自動切り換え

オートハイビーム表示灯が点灯しているとき、以下の条件によりハイビームとロービームが自動で切り換わります。

ハイビーム

以下の条件をすべて満たすとハイビームに切り換わります。

- 車速が 30km/h 以上
- 前方にライトを点灯した車両がいない
- 前方に街灯などの光が少ない

ロービーム

以下の条件のいずれかを満たすとロービームに切り換わります。

- 車速が 24km/h 以下
- 前方にライトを点灯した車両がいる
- 前方に街灯などの光が多い

ハイビーム/ロービームの手動切り換え

以下のいずれかの操作を行ってください。このとき、オートハイビーム表示灯が消灯し、オートハイビームが停止します。

レバーによる操作：
レバーを手前（パッシングの位置）に引いた後すぐに手を放す。または、レバーを前方（ハイビームの位置）に押す。

≫オートハイビームを復帰させる場合は、以下のいずれかの操作を行ってください。

- レバーを手前（パッシングの位置）に引いた後すぐに手を放す
- レバーがロービームの位置のときにライトスイッチを ≡D に回した後、AUTO に戻す

ライトスイッチによる操作：
ライトスイッチを ≡D に回す。

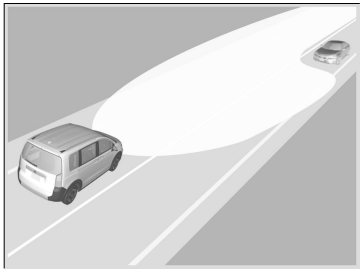
≫オートハイビームを復帰させる場合は、レバーがロービームの位置のときにライトスイッチを AUTO に戻してください。このとき、オートハイビーム表示灯が点灯します。

次のような場合、ヘッドライトの切り換えタイミングが変化したり適切に切り換えが行われない場合があります。運転者の感覚に合わない場合は手動で切り換えを行ってください。

- 対向車や先行車のランプが明るい場合や暗い場合、片側点灯や無灯火の場合
- 天候の状況(雨、雪、霧、フロントガラスの霜など)
- 周囲にある街灯、電光掲示、信号機などの光源が明るいとき
- 周囲の明るさが連続的に変わるとき
- カーブが多い道、起伏の激しい道路を走行しているとき
- 前方の車両が突然現れたり、適切な方向を向いていないとき
- カーゴスペースに重い荷物を積んで車が傾いているとき
- 車両前方に標識やミラーなどの光を強く反射するものがあるとき
- 中央分離帯、街路樹などで対向車が見え隠れするとき
- 対向車や先行車が二輪車、自転車などのとき

フロントワイパーが高速(HI)作動しているとき、または、フロントワイドビューカメラが濃霧と判断しているときは、ロービームが継続します。

アダプティブドライビングビーム✤

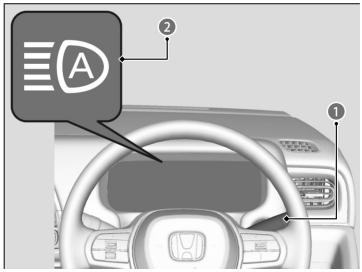


夜間走行時にフロントワイドビューカメラで前方車両のライトや街灯などを検知し、状況に応じてハイビームとロービームが自動で切り換わります。また、先行車や対向車への眩惑を軽減するため、ハイビームの配光が自動で調整されます
さらに、ロービーム点灯中、かつ車速 40km/h 以下ではロービームの照射範囲を広げ、左右の視認性を向上させます。

システムの作動

以下の条件をすべて満たすとアダプティブドライビングビーム表示灯が点灯し、状況に応じて自動的にハイビームの配光が調整されます。

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。



- パワーモードが ON モード
- ライトスイッチが AUTO の位置
- レバーがロービームの位置
- ヘッドライトが自動で点灯している
- 車両の周囲が暗い

❶ ライトスイッチ
❷ アダプティブドライビングビーム表示灯

上記の条件を満たしていてもアダプティブドライビングビーム表示灯が点灯しないときは、続けて以下のいずれかの操作を行うことで、アダプティブドライビングビーム表示灯が点灯します。ハイビームが点灯しているときは、メーター内の ハイビーム表示灯が点灯します。

- レバーを手前(パッシングの位置)に引いた後すぐに手を放す
- ライトスイッチを に回したあと、 AUTO に戻す

アダプティブドライビングビームはあらゆる状況で作動する機能ではありません。あくまでも、運転者をアシストするための機能です。常に周囲の状況を確認し、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切り換えてください。
カメラが認識できる範囲や距離は周囲の状況により変化します。

アダプティブドライビングビームを正しく動作させるために次のことをお守りください。

- インストルメントパネルの上に光を反射するものを置かない
- カメラ付近のガラスはきれいにしておく
- フロントガラスのお手入れのときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにする
- カメラ付近のガラスにアクセサリー、ステッカーやフィルムを取り付けない
- カメラのレンズに触れない
- カメラに強い衝撃が加わったときやカメラ周辺の修理を行うときは Honda 販売店にご相談ください。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。
フロントワイドビューカメラ ▶P.189

アダプティブドライビングビームの ON/OFF 設定を変更することができます
時計/車両設定 ▶P.276

ハイビームの配光の自動調整

車速が 10km/h 以上になるとハイビームの配光の自動調整が開始され、以下の条件または車速に応じてハイビームの配光が変化します。

- 前方にライトを点灯した車両がいる
- 前方に街灯などの光が多い

また、車速が 6km/h 以下になるとハイビームの配光の自動調整は停止しロービームに切り換わります。

ハイビーム/ロービームの手動切り換え

ハイビームとロービームを手動で切り換えたい場合は、以下のいずれかの操作を行ってください。このとき、アダプティブドライビングビーム表示灯が消灯し、アダプティブドライビングビームが停止します。

レバーによる操作：
レバーを手前(パッシングの位置)に引いた後すぐに手を放す。

≫アダプティブドライビングビームを復帰させる場合は、以下のいずれかの操作を行ってください。

- レバーを手前(パッシングの位置)に引いた後すぐに手を放す
- レバーがロービームの位置のときにライトスイッチを [≡D] に回した後、[AUTO] に戻す

このとき、アダプティブドライビングビーム表示灯が点灯します。

ライトスイッチによる操作：
ライトスイッチを [≡D] に回す。

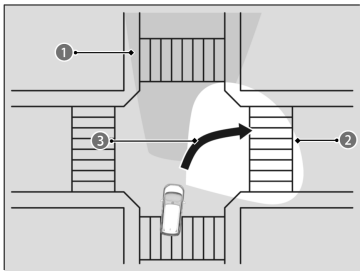
≫アダプティブドライビングビームを復帰させる場合は、レバーがロービームの位置のときにライトスイッチを [AUTO] に戻してください。このとき、アダプティブドライビングビーム表示灯が点灯します。

次のような場合、ヘッドライトの切り換えタイミングが変化したり適切に切り換えが行われない場合があります。運転者の感覚に合わない場合は手動で切り換えを行ってください。

- 対向車や先行車のランプが明るい場合や暗い場合、片側点灯や無灯火の場合
- 天候の状況(雨、雪、霧、フロントガラスの霜など)
- 周囲にある街灯、電光掲示、信号機などの光源が明るいとき
- 周囲の明るさが連続的に変わるとき
- カーブが多い道、起伏の激しい道路を走行しているとき
- 前方の車両が突然現れたり、適切な方向を向いていないとき
- カーゴスペースに重い荷物を積んで車が傾いているとき
- 車両前方に標識やミラーなどの光を強く反射するものがあるとき
- 中央分離帯、街路樹などで対向車が見え隠れするとき
- 対向車や先行車が二輪車、自転車などのとき

フロントワイパーが高速(HI)作動しているとき、または、フロントワイドビューカメラが濃霧と判断しているときは、ロービームが継続します。

アクティブコーナリングライト✤



車速が 40km/h 以下の状態でヘッドライトが点灯している場合に、方向指示器、ハンドル、シフトポジション R の操作をすると、アクティブコーナリングライトが点灯します。

≫夜間走行時にコーナーでの視認性が向上します。

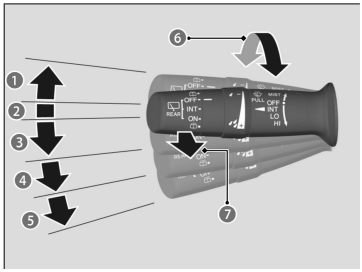
❶ ヘッドライト照射範囲
❷ コーナリングライト照射範囲
❸ ヘッドライト点灯中にハンドルを約 75 度以上操作すると点灯

- シフトポジションを R にすると、左右のアクティブコーナリングライトが同時に点灯します。
- アクティブコーナリングライトを 5 分以上連続点灯させると、自動的に消灯します。消灯後に再度、方向指示器、ハンドル操作を行うか、シフトポジションを R に入れると点灯します。

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

ワイパー・ウォッシャー

フロントワイパー・ウォッシャーの操作方法



❶ MIST:（レバーを操作している間作動）
❷ OFF: 停止
❸ INT:間欠（雨量が少ないとき）
❹ LO:低速（普通の雨量のとき）
❺ HI: 高速（雨量が多いとき）
❻ 間欠時間の調節
：間欠時間が長い
：間欠時間が短い

❼ ウォッシャー

MIST
レバーを押し上げている間、高速で作動します。霧や小雨のときに使用します。

ワイパースイッチ OFF（停止）
ワイパースイッチ INT（間欠）
雨量が少ないときに使用します。
ワイパースイッチ LO（低速）
普通の雨量のときに使用します。
ワイパースイッチ HI（高速）
雨量が多いときに使用します。

間欠時間の調節
リングを回して、ワイパーの間欠時間を調節します。

ウォッシャースイッチ
レバーを手前に引くと、ウォッシャー液が噴射します。
レバーを 1 秒以上引くとワイパーが作動します。レバーを放すと数回ワイパーが作動して止まります。

- 間欠作動中は、車速が速くなると間隔が停止時より数秒短くなります。 間欠時間を短いほうにいっぱいに回っている状態で車速が速くなると、ワイパーが間欠から低速作動に切り換わります。

⚠注意

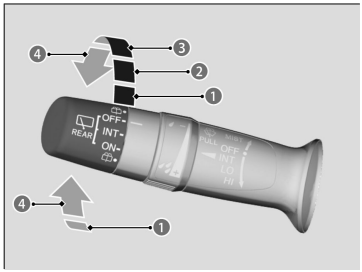
寒冷時はフロントガラスが暖まるまでウォッシャー液を噴射させない。

ウォッシャー液が凍りついて視界の妨げとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ワイパーを乾拭きさせないでください。
ガラスが傷付いたりブレードラバーを傷めたりします。

ウォッシャー液が出ないときは、スイッチを切ってください。
ポンプ故障の原因となります。

リヤワイパー・ウォッシャーの操作方法



❶ **リヤワイパースイッチ OFF（停止）**
❷ **リヤワイパースイッチ INT（間欠作動）**
❸ **リヤワイパースイッチ ON（低速作動）**
❹ **ウォッシャースイッチ**

スイッチを [ ] まで回すと、ウォッシャー液が噴射します。スイッチを回している間はワイパーが作動し、スイッチを放すと数回ワイパーが作動して止まります。

- フロントワイパー作動中にシフトポジションを [R] にするとリヤワイパーが連動します。

こんなときは

ワイパーが動かないとき

ワイパーモーターには、保護機能としてブレーカーを内蔵しています。ワイパーモーターの負荷が大きい状態が続いたときなどは、ブレーカーが作動し一時的にワイパーが停止することがあります。数分経過すると、ブレーカーが復帰し、通常通り使用できるようになります。

寒冷時、凍結によりワイパーブレードがガラスに張りつくとき

デフロスターやフロントガラス熱線✤でフロントガラスを暖めてから、ワイパーを作動させてください。

デフロスターの使用方法 ▶P.149

フロントガラス熱線スイッチ(霜取り)の使用方法 ▶P.151

ワイパーに雪がたまっているとき

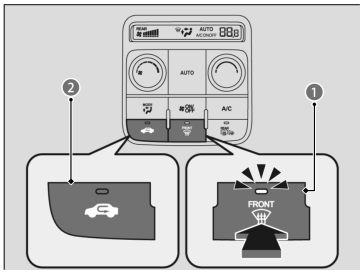
雪などがたまりワイパーが停止したときは、安全な場所に停車してください。ワイパースイッチを OFF、パワーモードをアクセサリーモードまたは OFF モードにしてから、ワイパーが作動できるように障害物を取り除いてください。

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

デフロスター（くもり止め）

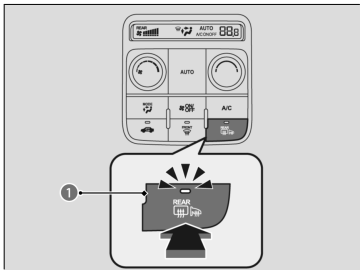
デフロスターの使用方法

フロント・サイドガラスのくもりを取りたい場合



フロント・サイドガラスのくもりを取りたい場合スイッチ（❶）を押すとエアコンが作動し、自動的に外気導入（❷ の表示灯が消灯）に切り換わります。
スイッチ（❶）をもう一度押すと曇り止めが停止し、前の状態に戻ります。

リヤデフロスター/ヒーテッドドアミラー✤スイッチ



スイッチ（❶）を押すと、リヤガラスとドアミラー✤を暖め、曇りをとることができます。

- 外気温に応じて約 10～30 分経過すると、システムは自動的に停止します。ただし、外気温が 0℃以下のときは自動的に停止しません。

❗ 安全のため、運転する前に視界が確保されていることを確認してください。

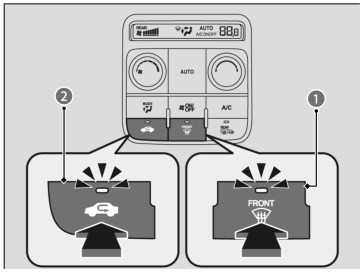
❗ 設定温度を最大冷房付近にしないでください。
冷風が前面ガラスに当たると、ガラスの外側が曇ることがあります。

❗ 消費電力が大きいため、曇りが取れたら OFF にしてください。12V バッテリー容量が低下し、エンジンの始動に影響することがあります。

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

こんなときは

急速に霜を取りたいとき



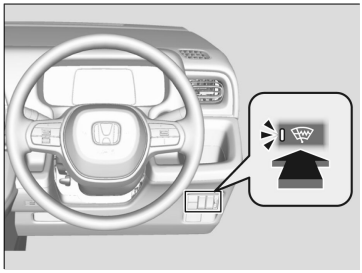
スイッチ（❶）を押し、スイッチ（❷）を押す。

> ❗ 霜が取れたら、ただちに外気導入に切り換えてください。
> 内気循環で使い続けると車内の湿気で窓ガラスが曇り、視界の妨げになります。

フロントガラス熱線スイッチ（霜取り）✤

フロントガラス熱線スイッチ(霜取り)の使用方法

パワーモードが ON モードのときに、フロントガラスの下端を暖め、雪の固着や凍結によるワイパーブレードラバーの損傷を防ぐことができます。



スイッチを押すと、フロントガラス熱線が ON になります。

≫約 15 分経過後、自動的に停止します。

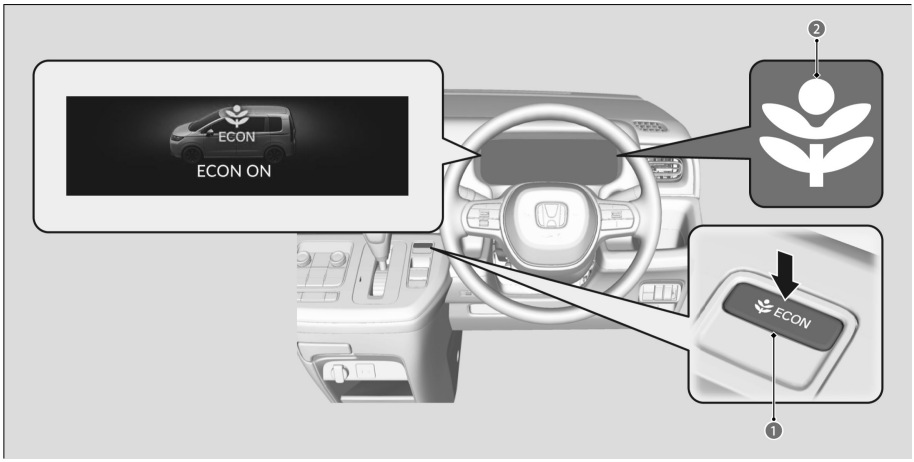
消費電力が大きいため、霜が取れたら OFF にし、エンジンの回転数が低いときに長時間使用しないでください。12V バッテリー容量が低下し、エンジン始動に影響することがあります。

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

走行に関する機能

ECON モード

ECON モードは、省燃費運転をしやすくなるように制御します。
≫ECON モードの ON と OFF を切り替えるには、ECON スイッチを押します。



❶ ECON スイッチ
❷ ECON モード表示灯

- ECON モードにするとエアコンの効きが弱くなり加速の応答性が低くなります。
- 運転状況などによってはモードの変更ができない場合があります。また、車両異常時なども、モードの変更ができません。

VSA（ビークルスタビリティアシスト）

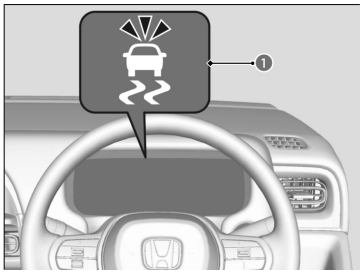
VSA とは、ABS 機能、TCS 機能および横滑り抑制機能を総合的に制御し、急激な車両の挙動変化を抑制しようとする装置です。

ABS（アンチロックブレーキシステム）
急制動や滑りやすい路面で制動するとき、車輪のロックを防止することで車両の姿勢を安定させ、ハンドルの効きを確保しようとします。
TCS（トラクションコントロールシステム）機能
滑りやすい路面などでの駆動輪の空転を防止し、駆動力、操舵能力を確保しようとします。
横滑り抑制機能
急激なハンドル操作や滑りやすい路面などでの旋回時に、車輪の横滑りなどを抑制して車両の安定性を確保しようとします。
また、緊急制動時に運転者のブレーキ操作を補助する電子制御ブレーキアシストも装備しています。

> VSA が作動した状態でも車両の安定性の確保には限界があるため、無理な運転はしないでください。
> ≫カーブ手前では十分に速度を落とす
> ≫雪道、凍結路を走行するときは、スノータイヤ、またはタイヤチェーンを装着して安全な速度で運転する

> VSA を正常に機能させるために、タイヤは必ず同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

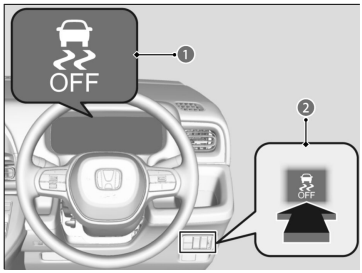
VSA の作動



TCS 機能または横滑り抑制機能作動中は、VSA 警告灯（❶）が点滅します。

> ❗ VSA 警告灯が運転中に点灯するときや、パワーモードを ON モードにしても点灯しない場合は、システムの異常が考えられます。
> 通常の運転には支障はありませんが、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

VSA の ON/OFF



VSA 機能を部分的に停止（OFF）状態にするには、OFF スイッチをブザーが鳴るまで押してください。
TCS 機能が制限され、低速で駆動輪が回転しやすくなります。

❶ VSA OFF 警告灯
❷ OFF （VSA OFF）スイッチ

> ❗ VSA を OFF にすると TCS 機能が制限されるため、新雪やぬかるみからの脱出に効果的な場合があります。

- 再度使用するには、OFF スイッチをブザーが鳴るまで押してください。
- 前回の走行時に OFF にした場合でも、再度エンジンを始動させると自動的に ON になります。

アジャイルハンドリングアシスト

運転者のハンドル操作に応じて、4 輪それぞれに軽いブレーキをかけることで、車両の動きを滑らかにし、安定感のあるコーナリングを可能にします。

- VSA 警告灯が点灯しているときは、アジャイルハンドリングアシストは作動しません。

> ! カーブ走行時は、状況に応じた適正な速度で、十分に車間距離をとって走行してください。
> アジャイルハンドリングアシストは、すべての走行条件で安定性を向上させる機能ではありません。

リアルタイム AWD ＜インテリジェント・コントロール・システム＞✤

リアルタイム AWD は、積雪地、砂地、ぬかるみ、急坂路など滑りやすい路面において、2WD 車（二輪駆動車）に比べて走破性にすぐれていますが、以下の点に注意してください。

- アクセル、ハンドル、ブレーキ操作は一般の車と同じく慎重に行う
- 砂地、ぬかるみなど、前輪が空転しやすい場所での連続走行はしない
- 渡河などの水中走行はしない
- ブレーキ性能は 2WD 車と比べてほとんど差がないため、滑りやすい路面では十分に車間距離をとって走行する

車輪の空転が続いてシステム内の油温が上がると、システム保護のため AWD から 2WD に切り換わることがあります。しばらくして油温が下がると、AWD に復帰します。

> ! AWD を正常に機能させるために、タイヤは必ず同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

各部の操作

室内灯

室内灯スイッチ…… 157
マップランプ……158
サードシート室内灯✤/カーゴスペース照明灯✤……
…… 158
テールゲート照明灯✤…… 159

室内装備品

グローブボックス……160
助手席アッパーボックス……160
ドリンクホルダー……161
停止表示板固定ベルト…… 162
アクセサリーソケット…… 162
コンビニフック…… 164
カーゴフック✤…… 164
ユーティリティーナット……165
ユーティリティサイドパネル✤……169
スライドドアウィンドウサンシェード……171
フロアボード✤…… 171

シートヒーター✤

シートヒーターの操作方法……173

USB ジャック

通信/充電用 USB ジャック…… 175
充電専用 USB ジャック✤……175

エアコン

エアコンについて……177
オートエアコンの使用方法……179
後席用クーラー✤……180

オーディオ

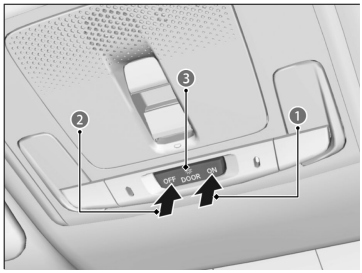
その他装備について……182

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

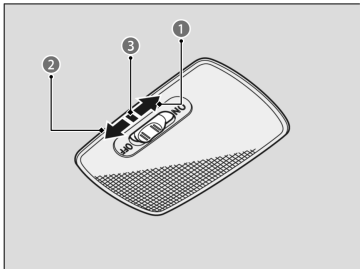
室内灯

室内灯スイッチ

フロントシート用



セカンド/サードシート✤用



❶ ON
ドア、テールゲートの開閉に関係なく室内灯が点灯。

❷ OFF
ドア、テールゲートの開閉に関係なく室内灯が消灯。

❸ ドア連動
以下のときに点灯
- いずれかのドア、テールゲートを開けたとき、運転席ドアを解錠したとき、パワーモードを OFF モードにしたとき

- ドア連動で室内灯が点灯している場合は、ドアを閉めると約 30 秒後に消灯します。また、運転席ドアの解錠や車両のパワーモード OFF 時に室内灯が点灯したときにドアを開けない場合、約 30 秒後に消灯します。
- パワーモードが OFF モードのときに、いずれかのドア、テールゲートを開けたままにすると、約 15 分後に室内灯は消灯します。

室内灯の消灯する時間を変更することができます。
時計✤/車両設定 ▶P.276

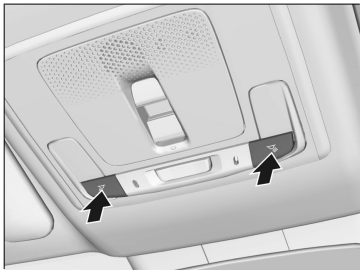
また、以下の操作を行うと室内灯はすぐに消灯します。
- 運転席のドアを施錠したとき
- パワーモードが OFF モード以外の状態でドアを閉めたとき
- パワーモードを ON モードにしたとき

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

12V バッテリーが上がる恐れがあるため、エンジンを停止しているときは、室内灯を長時間点灯させないでください。

マップランプ

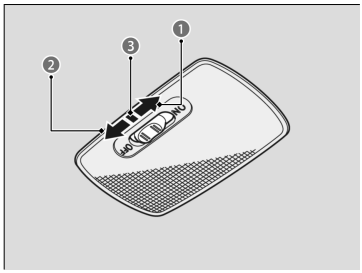
夜間、車を停めて地図を見るときなどに使用するライトです。スイッチを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。



次の場合はマップランプを消灯できません。

- 室内灯スイッチが ON のとき
- 室内灯スイッチがドア連動のときで、ドアが開いているとき

サードシート室内灯✤/カーゴスペース照明灯✤



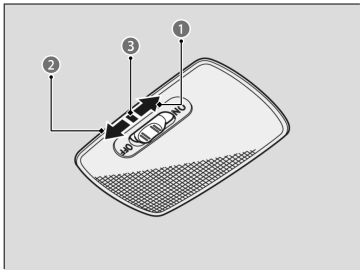
❶ ON
ドア、テールゲートの開閉に関係なく室内灯が点灯。

❷ OFF
ドア、テールゲートの開閉に関係なく室内灯が消灯。

❸ ドア連動
以下のときに点灯
- いずれかのドア、テールゲートを開けたとき、運転席ドアを解錠したとき、パワーモードを OFF モードにしたとき

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

テールゲート照明灯✤



❶ ON
テールゲートの開閉に関係なく点灯。

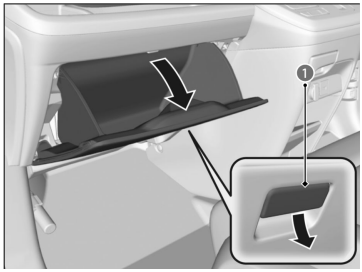
❷ OFF
テールゲートの開閉に関係なく消灯。

❸ テールゲート連動
テールゲートを開けると点灯し、閉めると消灯。

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

室内装備品

グローブボックス



ノブを引くと開きます。

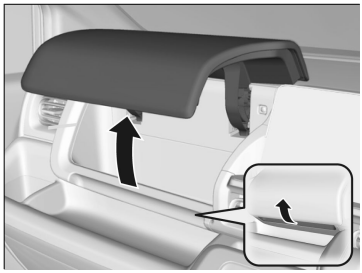
❶ ノブ

⚠警告

走行中は必ずグローブボックスを閉める。

グローブボックスが開いていると、衝突したときに同乗者が重大な傷害を負うおそれがあります。

助手席アッパーボックス



フタを上げて開きます。

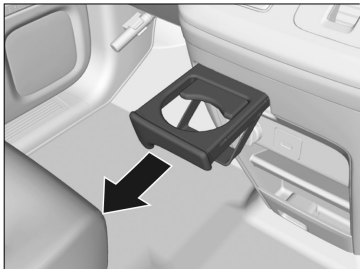
⚠警告

走行中は必ず助手席アッパーボックスを閉める。

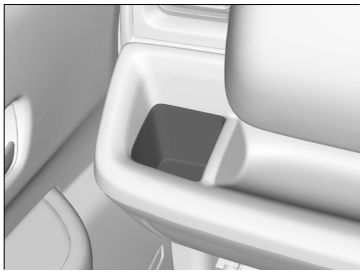
助手席アッパーボックスが開いていると、衝突したときに運転者が重大な傷害を負うおそれがあります。

ドリンクホルダー

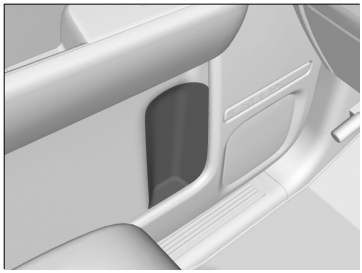
フロントシート用



センターコンソールドリンクホルダーは、引き出して使います。

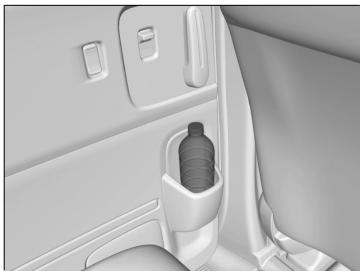


フロントパネルのドリンクホルダーは、運転席側と助手席側にあります。



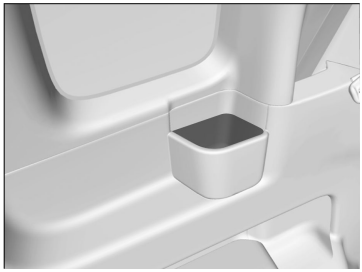
ドアのドリンクホルダーは、運転席側と助手席側にあります。

セカンドシート用



セカンドシートのドリンクホルダーは、運転席側と助手席側にあります。

サードシート✤用



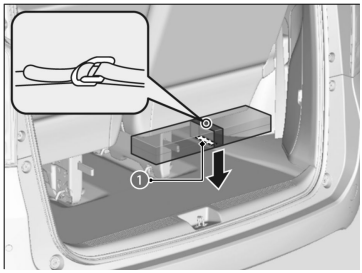
サードシートのドリンクホルダーは、運転席側と助手席側にあります。

⚠注意

飲み物などを電装品にこぼさないように注意する。

スイッチなどの電装品に飲み物がかかると故障の原因となったり車両火災につながったりするおそれがあります。

停止表示板固定ベルト



停止表示板にベルトを取り付けます。
ベルトのマジックファスナーの面を下にしてフロアカーペットに置きます。

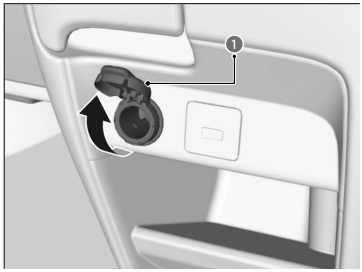
❶ マジックファスナー

アクセサリーソケット

パワーモードがアクセサリーモードまたは ON モードのときに使用できます。カバーを開けて使います。
消費電力 180W(15A)以下のアクセサリーに、直流 12V の電源を供給します。

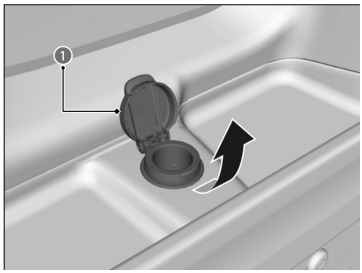
✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

フロントコンソール



❶ カバー

カーゴスペース✤



❶ カバー

シガレットライターは差し込まないでください。
発熱するおそれがあります。

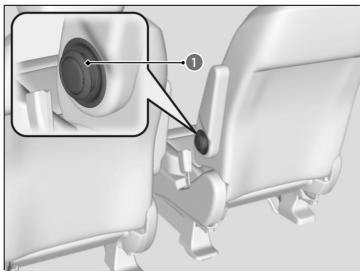
バッテリーあがりを防ぐため、エンジンがかかっている状態でご使用ください

使用しないときは異物の侵入を防ぐためカバーを閉めてください。

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

> ! アクセサリーソケットや USB ジャックなどの電装品に液体がかかったり、異物が入ったりしないように注意する。
> 電装品に水がかかったり、ゴミやほこりなどの異物が入ったりすると故障の原因となったり車両火災につながったりする恐れがあります。

コンビニフック

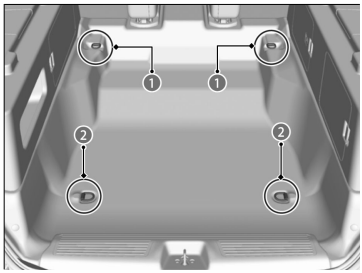


フロントシート（運転席側/助手席側✤）のアームレストにあります。
軽い荷物をかけておくのに便利です。

❶ コンビニフック

> ! 重いもの（約 3kg 以上）や大きいものをかけないでください。
> コンビニフックが破損するおそれがあります

カーゴフック✤



カーゴフックは市販のカーゴネットを使用して、収納したものを固定しておくときに便利です。

❶ フック✤
❷ フック

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

⚠注意

走行中は荷物の出し入れをしない。

急ブレーキなどのときに思わぬ事故につながるおそれがあります。

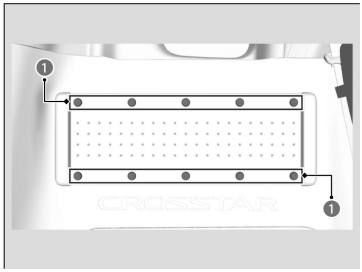
- 重い荷物はできるだけ前に積んでください。荷物を積むとき、荷重が 1 か所に集中しないように配置してください。

ユーティリティーナット

ユーティリティーナットは、市販のフックなどを取り付けて使用します。

ユーティリティーナットの位置（カーゴスペース側✤）

カーゴスペースの両側✤にユーティリティーナットを装備しています。
ユーティリティーナットを使用するときは、使用する箇所のクリップを取り外して使用します。

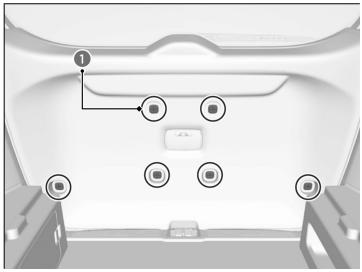


❶ ユーティリティーナット

ユーティリティーナットの位置（テールゲート側）

テールゲートにユーティリティーナットを装備しています。
ユーティリティーナットを使用するときは、キャップを取り外して使用してください。

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。



❶ ユーティリティーナット

⚠注意

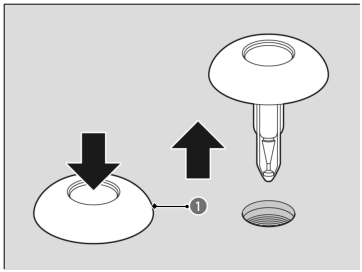
後席に乗車するときは後席周辺のユーティリティーナットに物を取り付けない。

シートベルトが正しく着用できなかったり、衝突時や旋回時などにものがぶつかるなど、けがをするおそれがあります。

❗ テールゲートのユーティリティーナットに物を取り付けたままテールゲートを閉める前に、テールゲートやカーゴスペースの周りを確認してください。

テールゲート周囲の部品等が破損することがあります。

クリップ脱着のしかた（カーゴスペース側✤）



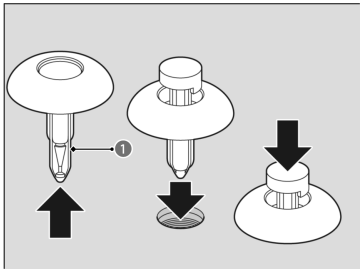
外すとき

[1] クリップ中央部のピンを「カチッ」と音がするまで軽く(2mm 程度)押し込む。

[2] クリップを引き抜く。

❶ クリップ

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。



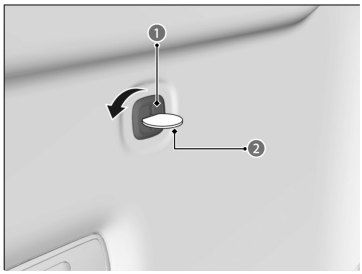
元に戻すとき

[1] 図のようにクリップ中央部のピンを押し戻す。
[2] ユーティリティーナットに差し込む。
[3] ピンを平らになるまで押し込む。

❶ ピン

クリップ脱着のしかた（テールゲート側）

コイン等で左に回して外します。

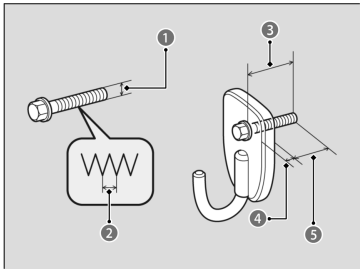


❶ クリップ
❷ コイン

市販品の取り付けかた（カーゴスペース側✤）

ユーティリティーナットや車体の損傷を防ぐため、取り付けボルトは以下のものを確実に締めてお使いください。
締め付けトルク：9.8 N・m (1.0 kgf・m)

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。



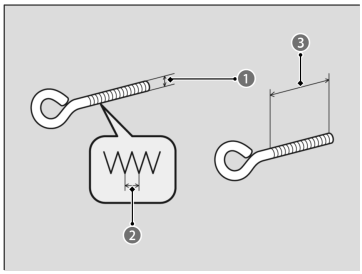
❶ ネジ径：M6 (6mm)
❷ ピッチ：1.0mm

ボルトネジ部の長さ＝ ❹+❺

❸ 20mm
❹ 固定するものの厚さ

市販品の取り付けかた（テールゲート側）

ユーティリティーナットや車体の損傷を防ぐため、取り付けボルトは以下のものを確実に締めてお使いください。
締め付けトルク：9.8 N・m (1.0 kgf・m)



❶ ネジ径：M6 (6mm)
❷ ピッチ：1.0mm
❸ ボルトネジ部の長さ：15mm
～25mm

規定以外のボルトを使用するとユーティリティーナットやボディが破損します。

市販品を取り付けるときは、使用する部品のサイズ、仕様と安全性を確認のうえ使用してください。

取り付け内容によっては、車検証等の記載事項の変更または、構造変更検査が必要な場合もあります。

お取り付けに関してご不明な点は Honda 販売店にご相談ください。

ユーティリティーナットが破損するおそれやテールゲートが下がるおそれがありますので、ナットひとつにつき約 3kg 以上、テールゲートには合計で約 3kg 以上の荷重をかけないでください。

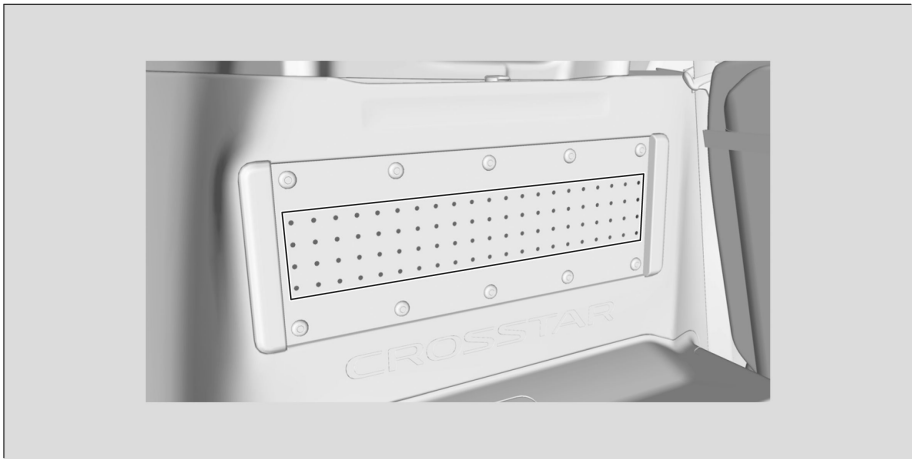
テールゲートが正しく操作できないおそれがありますので、ユーティリティーナットに物をかけたままテールゲートの開閉操作を行わないでください。

寒いときは 3kg 以下の荷重でもテールゲートが下がるおそれがあります。

火気器具など高温のものはかけないでください。熱でテールゲートの内装が変形する事があります。

ユーティリティサイドパネル✤

ユーティリティサイドパネルは、市販のフックや磁石などを取り付けて使用します。



✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

⚠注意

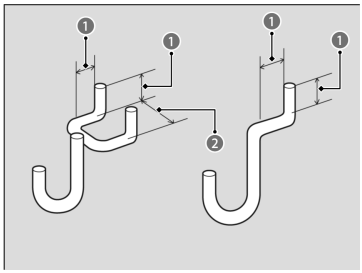
走行するときはユーティリティサイドパネルに物を取り付けない。
シートベルトが正しく着用できなっかたり、衝突時や旋回時などにものがぶつかるなど、けがをするおそれがあります。

車内が高温になったときはユーティリティサイドパネルに触れない。
触れるとやけどのおそれがあります。

- ユーティリティサイドパネルが破損するおそれがありますので、穴ひとつにつき約 2kg 以上、合計約 10kg 以上の荷重をかけないでください。
- 市販品を取り付けるときは、使用する部品のサイズ、仕様と安全性を確認のうえ使用してください。
- お取り付けに関してご不明な点は Honda 販売店にご相談ください。

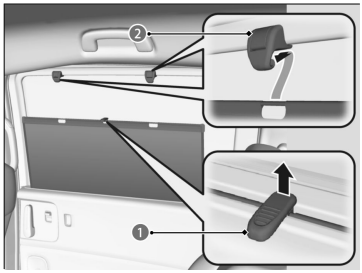
市販品の取り付けかた

市販品を取り付けるときは、使用する部品のサイズ、仕様と安全性を確認のうえ使用してください。
お取り付けに関してご不明な点は Honda 販売店にご相談ください。



❶ 厚さ 1mm の板に取り付けられるもの
❷ 25mm
太さ：直径 5mm 以下

スライドドアウィンドウサンシェード



使用するときはノブを持って引き上げます。
サンシェードをフックにかけます。

❶ ノブ
❷ フック

以下の場合、サンシェードが破損するおそれがあります。

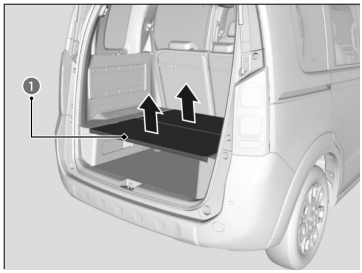
- 斜めに収納したり、勢いよく収納する
- フックにかけたままスクリーン部分をめくる

⚠注意

フックにはサンシェード以外のものをかけたりしない。

サイドカーテンエアバッグが正常に作動しなかったり、作動時にものが飛んだりしてけがをするおそれがあります。また、走行中は窓を閉めてください。風にあおられてサンシェードがフックから外れるおそれがあります。

フロアボード✤



フロアボードを外してカーゴスペースを広くできます。
外したフロアボードを車内に置く場合は、カーゴスペースの床面に置いてください。
フロアボードは表面、裏面どちらでも使用できます。

❶ フロアボード

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

⚠注意

走行中は荷物の出し入れはしない。

急ブレーキなどのときに思わぬ事故につながるおそれがあります。

フロアボードの上、およびカーゴスペースには人を乗せて走行しない。

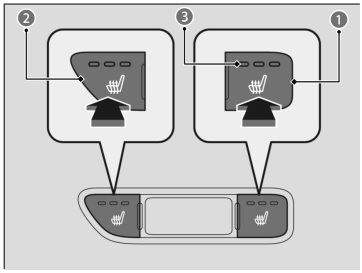
ブレーキや加速、衝突のときなどにけがをするおそれがあります。

操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意する。

シートヒーター✤

シートヒーターの操作方法

パワーモードが ON モードのときに使用できます。シートヒーターは、運転席、助手席のシートを暖めることができます。



❶ 運転席シートヒータースイッチ
運転席のシートを暖めます。

❷ 助手席シートヒータースイッチ
助手席のシートを暖めます。

❸ インジケーター
各シートのヒータースイッチを押すたびに、温度設定が切り替わりインジケーターの点灯数で温度を表示します。 点灯数が多いほど高温であることを示します。

- パワーモードを一度 OFF してから再度 ON にしても、シートヒーターは前回と同じ設定で復帰します。
- AUTO を押したときエアコンに連動して作動し、環境に応じて適切な温度に自動で切り替わります。
  ≫スイッチ操作をした場合は手動の設定に切り替わります。
- ある程度時間が経過するとシートヒーターの設定が自動で一段階低くなり、最終的に OFF になります。経過時間は使用環境により異なります。

自動で作動させたくない場合は、シート温度調節を OFF にすることができます。
時計✤/車両設定 ▶P.276

⚠警告

低温やけどに注意する。

毛布などの保温性の高いものをかけて使用すると低温やけどをすることがあります。

次のようなかたは、低温やけどに十分注意してください。

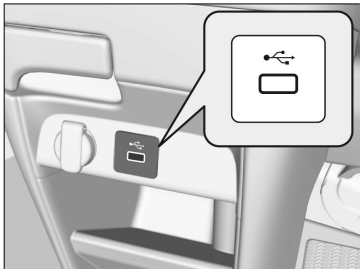
- 乳幼児、お年寄り、体の不自由なかた
- 皮膚の弱いかた
- 疲労の激しいかた

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

この装置は消費電力が大きいため、エンジンを始動させていないときは長時間使わないでください。
12V バッテリー容量が低下し、エンジンの始動に影響することがあります。

USB ジャック

通信/充電用 USB ジャック

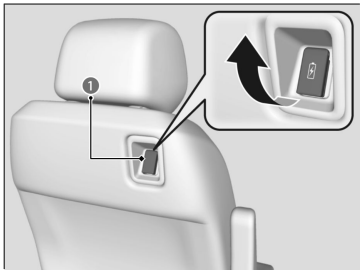


USB ジャック を使用して機器を充電する、オーディオファイルを再生できます。

≫ナビゲーションまたはオーディオ非装備車は使用できません。

充電専用 USB ジャック✤

フロントシート背面



USB ジャック （3.0A）は充電専用です。

≫ミュージックプレーヤー等を接続しても、音楽やビデオの再生はできません。

❶ USB ジャック

- 接続した機器の種類によっては充電できない場合があります。
- USB 延長コードを使用すると、充電できない場合があります。
- データ破損のおそれがあるため、ファイルのバックアップをおすすめします。

❗ 接続した機器を車内に放置しないでください。

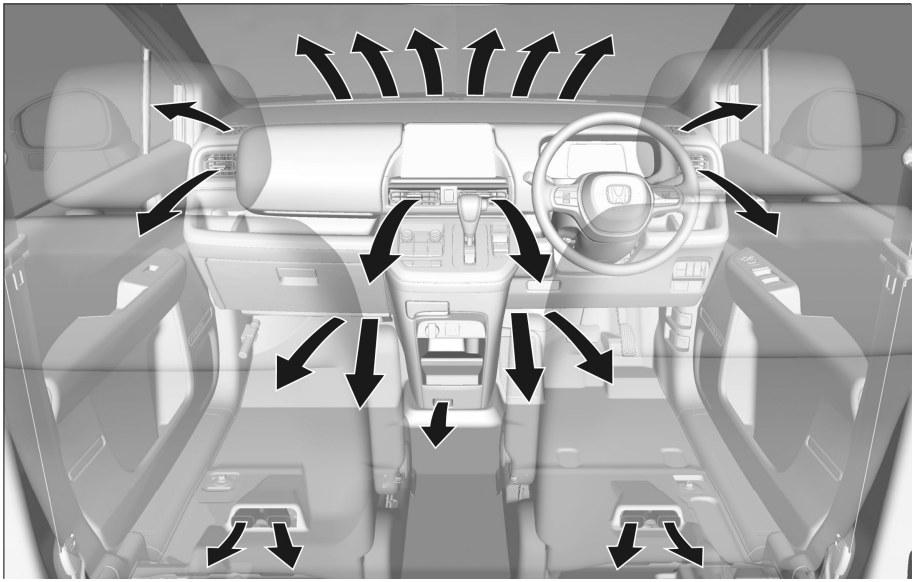
✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

ハードディスクやカードリーダー、メモリーリーダーは機器およびデータが破損することがあるため、使用しないでください。
誤って接続した場合はパワーモードを OFF モードにしてから取り外してください。

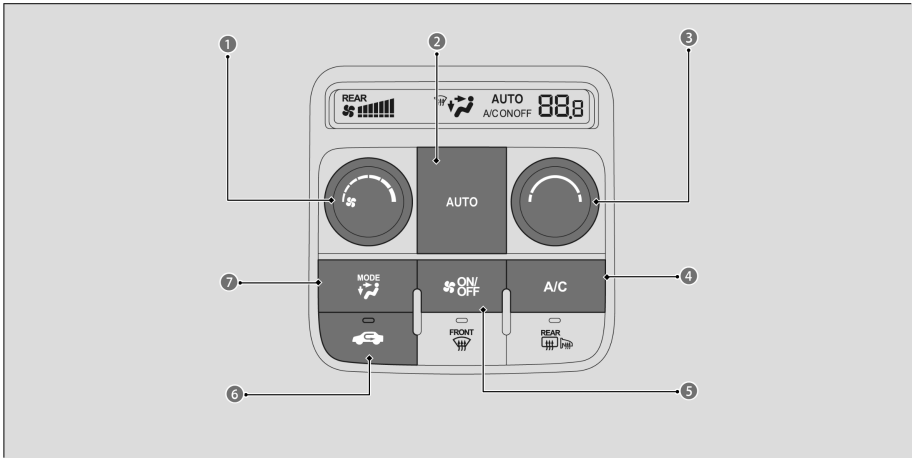
エアコン

エアコンについて

エアコンの吹き出し口



スイッチの説明



❶ ファンスピード切り換えダイヤル
風量を切り替えます。

❷ AUTO スイッチ
自動制御に切り替えます。冷房・暖房の切り替え、吹き出し口、風量、内気・外気切り換えを自動調節して設定した温度に保ちます。

❸ 温度調節ダイヤル
設定温度表示で Lo は最大冷房を、Hi は最大暖房を示します。

❹ A/C スイッチ
冷房・除湿機能の ON/OFF を切り替えます。

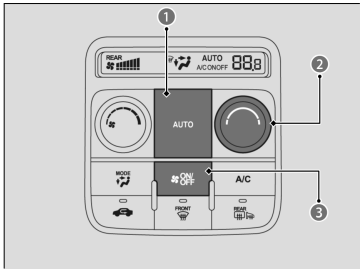
❺ ON/OFF スイッチ
エアコンの ON/OFF を切り替えます。
≫ON すると OFF する前の状態に戻ります。

❻ スイッチ
状況に合わせてスイッチを押して、内気/外気を切り換えます。
- 内気（表示灯点灯）：トンネルや渋滞などで、汚れた空気を車内に入れたくない場合
- 外気（表示灯消灯）：換気を行う場合

❼ MODE スイッチ
吹き出し口を切り替えます。
上半身送風
足元送風

足元送風、上半身送風
足元送風、窓ガラスの曇り取り

オートエアコンの使用方法

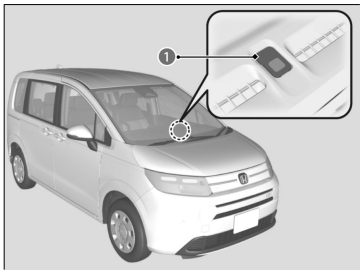


[1] AUTO スイッチ（❶）を押す。
[2] 温度調節ダイヤル（❷）で温度を調節する。
[3] 停止するときは、ON/OFF スイッチ（❸）を押す。

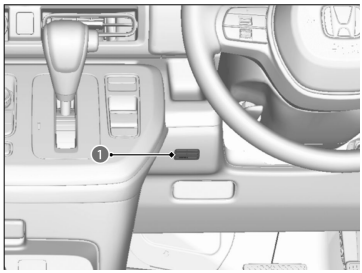
- オート（AUTO）で使用中いずれかのスイッチを押すと、押したスイッチの機能が優先されます。 このとき AUTO の表示は消灯しますが、押したスイッチ以外の機能は自動制御されます。
- ECON モードのときは、走行中にエアコンの効きが弱くなる場合があります。
- 外気温が低いときは、冷風の吹き出しを防ぐため、 AUTO を押してもすぐにファンが回転しないことがあります。
- パワーモードを ON モードにしたときには、前回と同じ設定になります。また、Honda スマートキーに刻印されている番号ごとにエアコンの設定を記憶します。
- シートヒーターの取り扱いについては、下記を参照してください。
シートヒーターの操作方法 ►P.173

> ! 炎天下に駐車していたときは、窓を開けて熱気を追い出しながら、冷房を開始してください。

オートエアコンセンサー



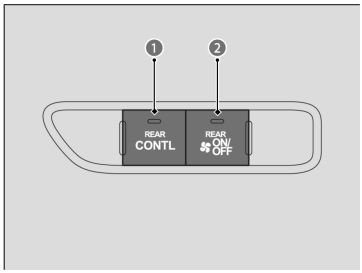
オートエアコンには、センサーが付いています。センサーの上にものを置いたり、水をかけたりしないでください。



❶ センサー

後席用クーラー✤

前席で操作するとき



エンジンを始動してから使用します。

[1] REAR CONTL を押す。

≫REAR ON/OFF を押しても操作できます。

[2] ファンスピード切り換えスイッチで風量を調節する。

[3] 停止するときは、REAR ON/OFF を押す。

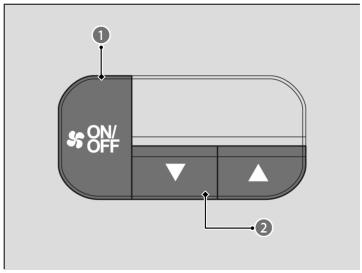
❶ REAR CONTL スイッチ
❷ REAR ON/OFF スイッチ

- 炎天下に駐車していたときは、窓を開けて熱気を追い出しながら、冷房を開始してください。

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

- 前席の A/C スイッチ、または AUTO スイッチが OFF のときは、後席用は送風のみとなります。
- 後席用クーラー設定画面は、 REAR CONTL を押すか、数秒間操作しないと自動的に元の画面に戻ります。

後席で操作するとき



❶ ON/OFF スイッチ
❷ ファンスピード切り換えスイッチ

エンジンを始動してから使用します。

[1] ON/OFF を押す。
[2] ファンスピード切り換えスイッチで風量を調節する。
[3] 停止するときは ON/OFF を押す。

オーディオ

その他装備について

ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

安全運転支援システム

Honda SENSING

Honda SENSING とは…… 185
各機能を作動させるための装備と表示……187
フロントワイドビューカメラ…… 189
ソナーセンサー…… 191

衝突軽減ブレーキ（CMBS）

CMBS について……193
システムの作動…… 194
作動条件…… 195
CMBS の ON/OFF…… 196
CMBS の制限…… 196

踏み間違い衝突軽減システム

踏み間違い衝突軽減システムについて……200
システムの作動…… 201
踏み間違い衝突軽減システムの ON/OFF…… 203
踏み間違い衝突軽減システムの制限…… 204

急アクセル抑制機能✤

急アクセル抑制機能について…… 205
システムを作動させるには……206
システムの作動…… 207
急アクセル抑制機能の制限……209

路外逸脱抑制機能

路外逸脱抑制機能について……210
システムの作動…… 210
作動条件…… 211
路外逸脱抑制機能の ON/OFF……212
路外逸脱抑制機能の制限……213

歩行者事故低減ステアリング

歩行者事故低減ステアリングについて……215
作動条件…… 216
歩行者事故低減ステアリングの ON/OFF…… 217
歩行者事故低減ステアリングシステムの制限……
…… 217

渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール（ACC）

渋滞追従機能付 ACC について…… 219
渋滞追従機能付 ACC の作動方法…… 220
クルーズモードへの切換え……226
渋滞追従機能付 ACC の制限……228

車線維持支援システム（LKAS）

LKAS について…… 231
作動条件…… 232
LKAS の作動方法……233
LKAS の制限…… 235

トラフィックジャムアシスト（渋滞運転支援機能）

トラフィックジャムアシストについて……237
作動条件…… 238
トラフィックジャムアシストの作動方法…… 239
トラフィックジャムアシストの制限…… 240

先行車発進お知らせ機能

先行車発進お知らせ機能について…… 242
作動条件…… 243
先行車発進お知らせ機能の制限……243

標識認識機能

標識認識機能について…… 245
作動条件…… 246
標識認識機能の制限……246

ブラインドスポットインフォメーション✤

ブラインドスポットインフォメーションについて
…… 249
作動条件…… 250
システムの ON/OFF…… 250
ブラインドスポットインフォメーションの制限……
…… 251

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

安全運転支援システム

後退出庫サポート✤

後退出庫サポートについて……252
システムの作動…… 253
画面表示について……253
後退出庫サポートの ON/OFF……254
後退出庫サポートの制限……254

パーキングセンサーシステム

パーキングセンサーシステムについて……255
パーキングセンサーの取付位置と検知範囲… 255
パーキングセンサーの ON/OFF…… 256
障害物を検知したときの作動…… 256
パーキングセンサーの制限……258

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

Honda SENSING

Honda SENSING とは

衝突被害の軽減、衝突事故の回避、運転者の負担を軽減するために、運転者のアクセル・ブレーキ・ハンドル操作などを支援します。
Honda SENSING には、次の機能があります。

作動させるためにスイッチ操作が不要な機能

CMBS について ▶P.193
踏み間違い衝突軽減システムについて ▶P.200
急アクセル抑制機能について ▶P.205
路外逸脱抑制機能について ▶P.210
歩行者事故低減ステアリングについて ▶P.215
先行車発進お知らせ機能について ▶P.242
標識認識機能について ▶P.245
ブラインドスポットインフォメーションについて ▶P.249
オートハイビーム❖ ▶P.139
アダプティブドライビングビーム❖ ▶P.142
パーキングセンサーシステムについて ▶P.255
後退出庫サポートについて ▶P.252

作動させるためにスイッチ操作が必要な機能

渋滞追従機能付 ACC について ▶P.219
LKAS について ▶P.231
トラフィックジャムアシストについて ▶P.237

⚠警告

Honda SENSING は、補助システムとして使用してください。

自動運転システムではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

各機能の能力（認識能力・制御能力）には限界があります。

機能に頼った運転をすると衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。常に周囲の状況を確認し、十分な車間距離を保ち安全運転を心がけ走行してください。

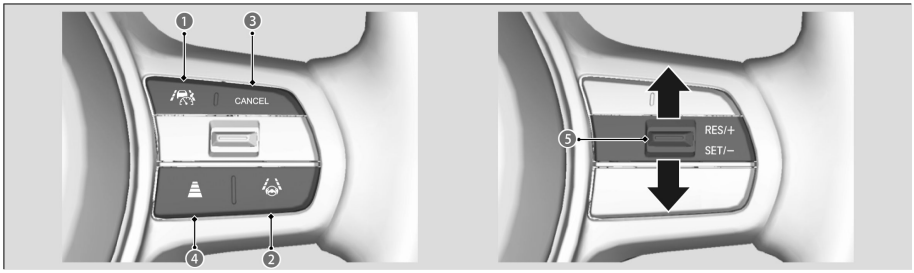
❗ 駐車場のターンテーブル上など、車両が動いているときにパワーモードを ON モードにしないでください、各機能が作動しない場合があります。

❗ システムを正常に作動させるために、以下をお守りください。

- タイヤは、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤを使う
- サスペンションの改造はしない

各機能を作動させるための装備と表示

ステアリングスイッチ



❶ スイッチ
渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール（ACC）、車線維持支援システム（LKAS）、トラフィックジャムアシストの待機状態の設定を行います。

❷ スイッチ
渋滞追従機能付 ACC 作動中に LKAS、トラフィックジャムアシストの作動と解除の設定を行います。

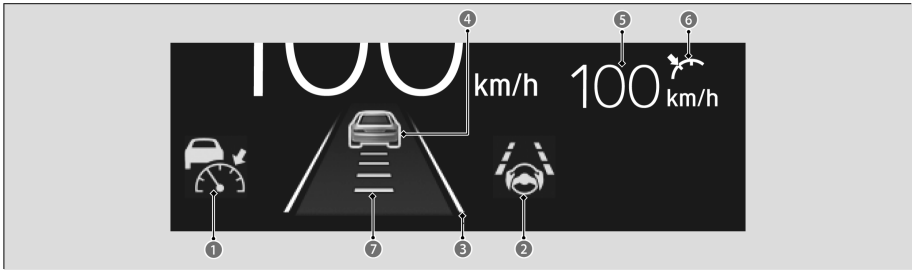
❸ CANCEL スイッチ
渋滞追従機能付 ACC、LKAS、トラフィックジャムアシストの解除を行います。

❹ ディスタンススイッチ
渋滞追従機能付 ACC の車間距離設定を行います。

❺ RES/+/SET/− スイッチ
渋滞追従機能付 ACC の車速のセットと復帰、設定車速の調整を行います。
LKAS、トラフィックジャムアシストの作動と復帰を行います。

メーターの表示

各機能の現在の状態を表示します。



❶ 渋滞追従機能付 ACC の作動状態
グリーン、ホワイト/グリーン：作動中
≫先行車を検知していないとき、ホワイト/グリーンで表示
ホワイト：待機中
オレンジ：システムが異常のとき

❷ LKAS、トラフィックジャムアシストの作動状態
グリーン：作動中
ホワイト：待機中
オレンジ：システムが異常のとき

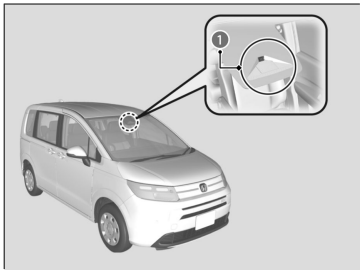
❸ LKAS およびトラフィックジャムアシストの ON と OFF の状態と制御状態
グリーン：作動中
ホワイト：車線を検知した状態
オレンジ：点灯した側の車線逸脱を検知

❹ 渋滞追従機能付 ACC の先行車検知状態
❺ 渋滞追従機能付 ACC の設定車速
ホワイト：設定車速
グレー：解除前の設定車速

❻ 渋滞追従機能付 ACC の設定状態
グリーン：作動中
グレー：解除中

❼ 渋滞追従機能付 ACC の設定車間

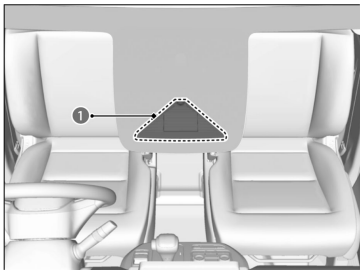
フロントワイドビューカメラ



フロントワイドビューカメラ（❶）は、フロントガラス上部に設置されています。

カメラの取り扱い

- カメラ機能の一時停止を防ぐため、室内温度が高温になることを避ける
  ≫駐車時は、太陽光を避けて日陰に駐車することをおすすめします。
- カメラへの熱の集中を避けるため、反射サンシェード使用時はカメラを覆わない
- フロントガラスにフィルムを貼ったり、カメラの視野を遮るものを取り付けない



❶ ステッカー貼り付け不可範囲

- カメラのレンズ、フロントガラスを汚したり傷つけたりしない
  ≫カメラの視野内に傷、打痕、損傷があると、システムが正常に作動しなくなることがあるため、フロントガラスの交換をお勧めします。Honda 純正品以外のフロントガラスを使用するとシステムが正常に作動しなくなる場合がありますので、修理や交換の際は Honda 販売店にご相談ください。
- インストルメントパネル上部に物を置かない
  ≫物がフロントガラスに反射して車線等を的確に検知できない場合があります。
- カメラを取り外さない
  ≫システムが正常に作動しなくなる場合があります。
- 必要に応じてデフロスターを使用し、フロントガラスを曇らせない
- ボンネットやフロントグリルの上にカメラの視野を妨げるものを装着しない

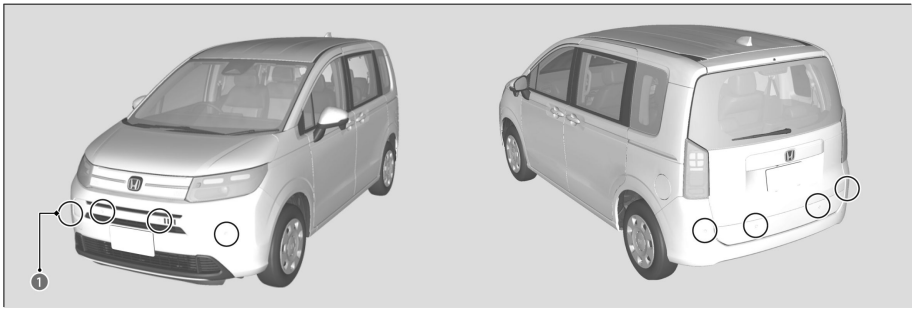
メーターに「運転支援システムの一部が使用できません　カメラの温度が下がるまでお待ちください」が表示されたときは、エアコンを使用して車内の温度を下げてください。必要に応じてデフロスターを使用し、カメラに向けて送風してください。
また、車両を走行させ、フロントガラスとカメラ周辺の温度を下げてください。

メーターに「運転支援システムの一部が使用できません　カメラ視界不良のため認識できません」が表示されたときは、安全な場所に駐車してフロントガラスが汚れていないか確認してください。汚れている場合は、清掃してください。
また、雨、霧、雪などの悪天候や、夜間やトンネル内、夜明け、夕暮れなど周囲が暗いときなどのカメラ視界不良のときも表示されます。

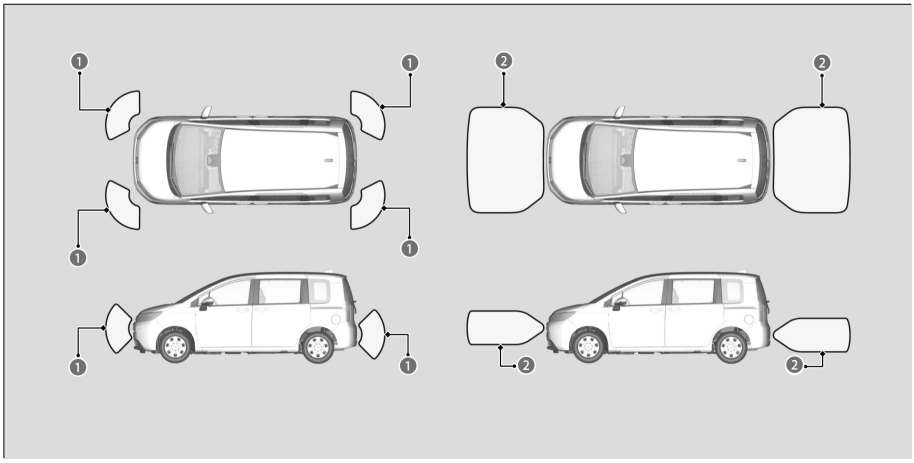
! 対処した後、しばらくしてもメッセージが消えない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

ソナーセンサー

ソナーセンサーはフロントバンパー、フロントグリル、リヤバンパー、およびテールゲートに設置されています。



❶ ソナーセンサー



❶ コーナーセンサーの検知範囲
❷ センターセンサーの検知範囲

ソナーセンサーの取り扱い

- センサーやその周囲にステッカーなどを貼り付けない。
- センサーの周囲に強い衝撃をあたえない。
- 分解は行わない。
- センサーの近くにアクセサリーを取り付けない。

以下の場合は、Honda 販売店にご相談ください。

- ソナーセンサーに衝撃が加わったとき
- ソナーセンサー周辺の修理を行うとき
- フロントバンパー、フロントグリル、リヤバンパー、およびテールゲートが段差、縁石、輪留め、盛り土などに接触したとき
- 深い水たまりに進入したとき
- 車両前方または後方が衝突、接触したとき

メーターに「踏み間違い衝突軽減システムが作動しません　ソナーの汚れを取り除いてください」が表示されたときは、安全な場所に駐車してソナーセンサーやその周囲の汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。

> ! 対処した後、しばらくしてもメッセージが消えない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

衝突軽減ブレーキ（CMBS）

CMBS について

自車が、前方の車両（二輪車含む）のほぼ真後ろから追突するおそれがあるときや、対向車両に正面から衝突するおそれがあるとき、前方の交差車両に衝突するおそれがあるとき、歩行者に衝突するおそれがあるとき、人が乗車し移動している自転車（移動する自転車）に衝突するおそれがあるときに、運転者のブレーキ操作を支援し、衝突回避を支援したり衝突被害の軽減を支援したりするシステムです。

⚠警告

CMBS は、あらゆる状況で衝突を回避できるシステムではありません。カメラは天候や速度、路面状況によって検知しにくいことがあります。
取扱説明書に従い使用しないと、衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。
周囲の状況を確認し、十分な車間距離を保ち安全運転を行ってください。

❗ 車両の整備や検査の際に、シャシーダイナモやフリーローラーを使用するときは CMBS を OFF にしてください。

❗ 頻繁に警報が作動するなど、異常を感じたときは Honda 販売店で点検を受けてください。

システムの作動

自車の車速が約 5km/h 以上になるとフロントワイドビューカメラが前方の車両（二輪車含む）、歩行者および移動する自転車の検知を開始します。システムが衝突のおそれがあると判断したときに CMBS が作動します。

フロントワイドビューカメラ ▶P.189

CMBS の作動には衝突の可能性に応じ 3 つの段階があります。

＜第 1 段階＞衝突のおそれがでてきた状況

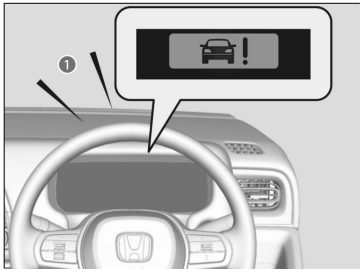
警告表示が点滅します。さらに接近すると、警告表示およびブザーによる警報を行います。

＜第 2 段階＞衝突の危険が増し、衝突するまでの余裕が少なくなった状況

警告表示およびブザーによる警報を行い、軽いブレーキがかかります。

＜第 3 段階＞回避が困難な状況

警告表示およびブザーによる警報を行い、強いブレーキがかかります。



メーターの警告表示や警告ブザー（❶）により、CMBS は衝突のおそれがあることを、運転者に知らせます。

- 状況によっては途中段階から作動することがあります。
- CMBS によるブレーキが作動しているときは制動灯が点灯します。
- CMBS の作動により停車、または減速した後は、システムの判断により CMBS は解除されます。
- 衝突を回避しようとして、運転者がハンドル、ブレーキペダル、アクセルペダルを操作したときは、システムが解除されることがあります。

CMBS の警報距離を遠め・標準・近めの 3 段階から選択することができます。

時計*/車両設定 ▶P.276

作動条件

CMBS が作動する条件と作動対象は、以下の通りです。

直進時

自車の速度が約 5km/h 以上かつ、作動対象との速度差が約 5km/h 以上のとき

- 前走する車両（二輪車含む）

自車の速度が約 5-100km/h かつ、作動対象との速度差が約 5km/h 以上のとき

- 停止している車両（二輪車含む）
- 対向する車両
- 交差する車両
- 歩行者
- 移動する自転車

右左折時（正面で衝突する恐れがあるときのみ）

自車の速度が約 5-30km/h かつ、作動対象との速度差が約 5km/h 以上のとき

- 対向する車両（二輪車含む）※1
- 歩行者
- 移動する自転車

※1: 対向車線側に曲がる場合のみ作動

- エンジン始動後、約 15 秒の間は CMBS は作動しません。
- アクセルペダルの踏み込み量が大きいときに、システムが作動しない場合があります。

CMBS の自動停止

以下の場合、CMBS が自動的に停止し、警告灯が点灯することがあります。

- 悪路の走行や山岳路を長時間走行したとき
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- パーキングブレーキをかけて走行したとき
- カメラの温度が高温のとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムなどによりカメラ前方が覆われているとき
- タイヤの異常を検出したとき

作動できる状態になると、CMBS は自動復帰します。

CMBS の ON/OFF

メーターでシステムの ON/OFF を切り換えることができます。

表示の切り換えかた ►P.271

安全支援情報 ►P.274

- CMBS を OFF にした状態でパワーモードを OFF にした場合でも、再度パワーモードを ON にすると自動的に ON になります。
- 運転中は CMBS を OFF にすることはできません。

CMBS の制限

次のような場合、カメラが作動対象や路面状況を正しく検知できず、CMBS が正常に作動しない場合があります。

環境によりカメラが正しく検知できない事例

- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで周囲の明るさが変化したとき
- 作動対象と背景のコントラストが低いとき
- 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行するとき
- 強い光が作動対象、または路面に反射しているとき
- 前方の車両（二輪車含む）による水しぶきや雪の巻上げがあるとき
- 夜間やトンネル内などで周囲が暗く、作動対象の全体が照らされていないとき

道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 不鮮明な車線、タイヤのあと、ライトの反射、水しぶき、高いコントラストなどがある雪道、または湿った路面のとき
- カーブ、うねった道路、坂道などのとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき

自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムなどによりカメラ前方が覆われているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- カーゴスペースや後席に重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- パーキングブレーキがかかった状態で走行中のとき
- ウィンドウォッシャーからの水滴またはワイパーブレードによってカメラの視野が遮られているとき
- 滑りやすい路面などで車の動きが不安定なとき

作動対象の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 作動対象との距離が極端に短いとき
- 作動対象が急に割り込んできたり、飛び出してきたとき
- 自転車が停止しているとき
- 前方の車両（二輪車含む）、対向車両が横、または斜めを向いているとき
- 作動対象が背景に紛れて検知できないとき
- 歩行者が集団で前方にいるとき
- 移動する自転車が集団で前方にいるとき
- 歩行者や移動する自転車の横断速度が速いとき
- 歩行者や移動する自転車が対向して接近してきたとき
- 暗がりで前方の車両、対向車両が片側点灯または無灯火のとき
- 歩行者の一部（頭や手足など）が荷物などによりかくれているとき
- 歩行者が前かがみやしゃがんだ姿勢をとっているとき、手を挙げたり、走っているとき
- 歩行者の身長が約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
- 歩行者がベビーカーや自転車などを押しているとき
- 車両（二輪車含む）が斜め横から接近してきたとき
- 特殊な形状の車両（タンクローリーなど）が側方から接近してきたとき
- カーブや坂を走行中の車両（二輪車含む）が側方から接近してきたとき

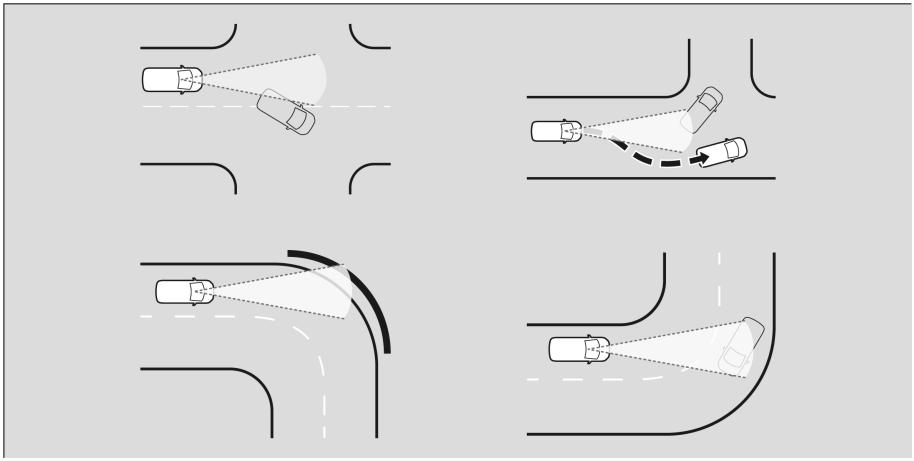
その他検知、作動できない事例

- 小さい二輪車やサイドカー付き二輪車、特殊な形状の車両および車いす
- 荷物を積んでいないトラックなど前側に対して後側の高さが低い、もしくは幅が狭い車両
- 作動対象が自車の正面にいないとき
- 作動対象と自車との速度差が大きいとき
- 作動対象と自車との速度差が小さく、距離が短いとき
- 側方から接近する作動対象と自車との速度差が大きいとき
- 側方から接近する作動対象と自車との速度差が小さく、距離が短いとき
- 前方の車両（二輪車含む）や移動する自転車が急減速したとき
- 運転者が衝突を回避しようとして、ブレーキやハンドルを操作したとき
- 運転者が急加速やハンドル操作（交差点などでの右折時を除く）※1 をしながら、作動対象に接近したとき
- 子供用自転車、折り畳み自転車、または三輪車などのタイヤ径が小さい自転車やタンデム自転車などの全長が長い自転車
- 作動対象の形状をカメラが正しく検知できないとき
- 前方または側方から接近する車両の最低地上高が極端に高いとき
- 右左折時に自車の進行方向と同方向に方向指示器（ウィンカー）を操作していないとき

※1: 右折時に対向車両に対して正面で衝突のおそれがあるときに CMBS が作動しますが、急なハンドル操作などによっては作動できない場合があります。

衝突の可能性が高くない場合の作動について

衝突の可能性が高くなくても、以下のとき CMBS が作動することがあります。
また、作動対象の動きによってシステムが衝突の可能性があると判断した場合には CMBS が作動することがあります。



- 右左折する前方の車両（二輪車含む）に接近したとき
- 追い越しのために先行車（二輪車含む）に接近して走行するとき
- カーブ周辺の道路付近に作動対象や構造物などがあるとき
- カーブ走行などで自車の正面に対向車両がいるとき
- 作動対象と自車が接近したとき
- 作動対象が自車の前方を通過したとき
- 低い構造物の下や狭いゲートの間などを規制速度を超えるような速度で通過しようとするとき
- 駐車時など、停止している車両（二輪車含む）や壁に接近するとき
- カーブを走行中に側方から車両（二輪車含む）が接近するとき
- 前方の側方から近づいてくる作動対象の前を通過するとき
- 左折または右折中に前方の車両（二輪車含む）、または自転車の前を通過しようとしたとき
- 左折または右折中に車両（二輪車含む）、または自転車が自車の前方を通過しようとしているとき
- 作動対象が自車の進路に入る手前で止まったとき、または進路変更したとき
- 左折または右折中に横断中の歩行者が自車の進路に入る手前で止まったとき、または進路変更したとき
- 作動対象の付近を通過するとき
- 路上の設置物（ガードレール、電柱、木、駐車車両、建物、壁など）や、路面標示と車線表示を作動対象と誤って認識したとき

踏み間違い衝突軽減システム

踏み間違い衝突軽減システムについて

踏み間違い衝突軽減システムは近距離衝突軽減ブレーキ、誤発進抑制機能、後方誤発進抑制機能の 3 つの機能を持ったシステムです。
ソナーセンサーによって、自車が、壁などの障害物に衝突するおそれがある場合のブレーキ制御や壁などの障害物があるにもかかわらずアクセルペダルを必要以上に強く踏み込んだ場合のエンジンの出力抑制により、衝突回避を支援したり衝突被害の軽減を支援したりするシステムです。

ソナーセンサー ▶P.191

⚠警告

踏み間違い衝突軽減システムは、あらゆる状況でアクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎ、または見落としによる衝突を回避したり、衝突による被害を軽減できるものではありません。

機能に頼った運転をすると衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

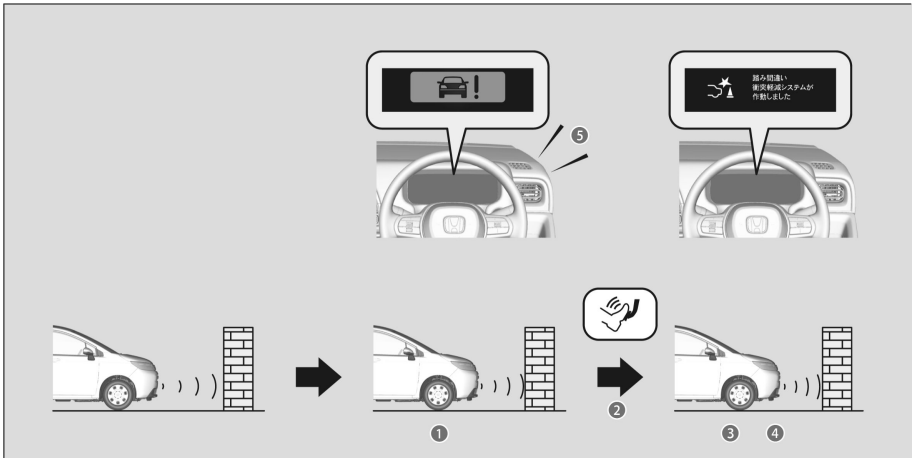
運転者がシフトポジションやペダルの位置および周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ走行してください。

- 踏切内に閉じ込められた場合など、意図しないタイミングで踏み間違い衝突軽減システムが作動したときは、ブレーキペダルを踏み、システムが解除されてから運転を続けてください。
- 縁石・輪留め、道路上の段差によりシステムが作動し、駐車や段差を乗り越えることができない場合には機能を OFF にしてください。
- システムが作動してから一定時間経過するとブレーキ操作の支援が解除されます。停車状態を保持するには、ブレーキペダルを踏み続けるか、シフトポジションを P にしてください。
- 不要な作動を防ぐために、車両の整備や船舶、トラックなどへの積載時、検査の際のシャシーダイナモやフリーローラーを使用するときは OFF にしてください。
- 近距離衝突軽減ブレーキ、誤発進抑制機能および後方誤発進抑制機能が一度作動した後は、同じ障害物に近づいた場合は作動しません。作動後一定距離走行した場合に再作動が可能となります。
- 近距離衝突軽減ブレーキ、誤発進抑制機能および後方誤発進抑制機能は、前進時と後退時にそれぞれ作動することができます。（例：前進時に作動し一定距離走行前でも、後退時には作動する）ただし近距離衝突軽減ブレーキが作動した場合、誤発進抑制機能および後方誤発進抑制機能の再作動には一定距離の走行が必要となります。

システムの作動

近距離衝突軽減ブレーキ

約 2km/h～約 10km/h で走行しているとき、壁などの障害物に衝突するおそれがあるとき運転者のブレーキ操作を支援し、音と表示でお知らせします。



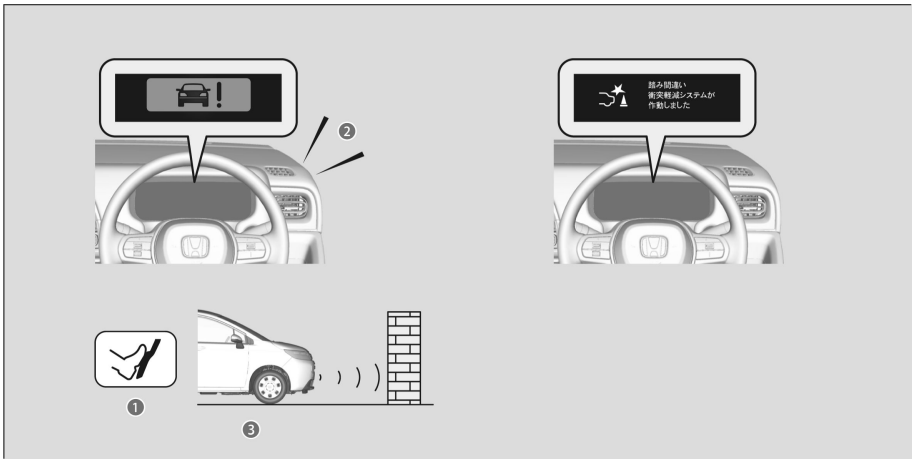
❶ 緊急ブレーキ作動開始
❷ ブレーキ
❸ 停車
❹ 停止保持後ブレーキ解除
❺ 警告音

リアパーキングセンサーのみを OFF にすることで、後退時の近距離衝突軽減ブレーキの作動を OFF にすることができます。

パーキングセンサーの ON/OFF ►P.256

誤発進抑制機能、後方誤発進抑制機能

停車時や約 10 km/h 以下で走行しているとき、自車のほぼ正面もしくは真後ろの近距離に壁などの障害物があるにもかかわらず、アクセルペダルを必要以上に強く踏み込んだ場合には、音と表示で知らせるとともに出力抑制をすることで急な前進・後退を防止します。



❶ アクセル誤踏み込み
❷ 警告音
❸ エンジンの出力を抑制

機能が作動しないとき
前進：急な坂道やシフトポジションが、P、R、Nのとき
後退：急な坂道やシフトポジションがR以外のとき

リヤパーキングセンサーのみを OFF にすると、後方誤発進抑制機能を OFF にすることができます。

パーキングセンサーの ON/OFF ▶P.256

作動解除の条件

誤発進抑制機能および後方誤発進抑制機能の解除条件

- アクセルペダルを離したとき
- アクセルペダルを約 4 秒間踏み続けたとき
- ブレーキペダルを踏んだとき

近距離衝突軽減ブレーキの解除条件

- 近距離衝突軽減ブレーキが作動してから、一定時間経過したとき

踏み間違い衝突軽減システムの ON/OFF

メーターでシステムの ON/OFF を切り換えることができます。

表示の切り換えかた ▶P.271

安全支援情報 ▶P.274

- 機能を OFF にした状態でパワーモードを OFF にした場合でも、再度パワーモードを ON にすると自動的に ON になります。
- 12V バッテリー再接続後、踏み間違い衝突軽減システムが一時的に OFF になる場合があります。車速 15km/h 以上でしばらく走行すると自動で ON になります。

踏み間違い衝突軽減システムの制限

次のような状態のときは、システムが正常に作動しない場合があります。

ソナーセンサーが検知しない障害物の事例

- 人・雪・布・スポンジなど音波を反射しにくい障害物のとき
- フェンス・自転車・標識の支柱など細い障害物のとき
- 背が低い・小さい障害物のとき
- バンパーのすぐ近くにある障害物のとき
- 地面に対して垂直でない壁などの障害物のとき
- 移動する物体など進路上に飛び出してきた障害物のとき

ソナーセンサーが障害物を正しく検知できない事例

- ソナーセンサーが汚れているとき（雪、氷、泥などで覆われているとき）
- 車両が高温または低温の状況にあるとき
- 障害物に対して斜めに接近する場合やハンドルを大きく切っているとき

その他システムが正しく作動しない事例

- カーゴスペースや後席に重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- 雨・霧・雪など悪天候のとき
- 気温・湿度が高いまたは低いとき
- 急勾配の坂道を走行するとき
- 他の車両のソナーセンサーなど、超音波を発するものが付近にあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- サスペンションを変更したとき

次のような場合は衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります

- 低いゲートや狭いゲートなどの間を通過しようとするとき
- 凸凹な路面や、草地、段差がある場所を走行するとき
- 高い位置に斜めの柱や壁などが突き出しているとき
- 道路脇に障害物があるとき
- 旗や幕、木の枝、踏切や ETC ゲートのバーなどに向かって走行するとき
- 冠水した道を走行するとき

急アクセル抑制機能✤

急アクセル抑制機能について

アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急加速を抑制するとともに、音と表示で知らせる運転支援機能です。

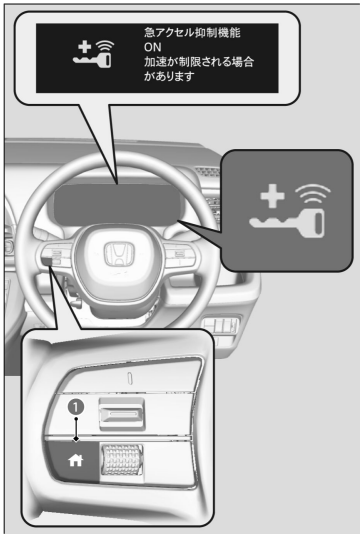
⚠警告

急アクセル抑制機能は、運転者の運転を支援するためのシステムであり、あらゆる状況でアクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる衝突を回避したり、衝突による被害を軽減できるものではありません。
システムに頼った運転をすると衝突など思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。運転者はシフトポジションやペダルの位置や常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ走行してください。

- 急アクセル抑制機能は Honda 販売店で機能が作動するように設定された Honda スマートキーが必要となります。設定については Honda 販売店にご相談ください。
- 急アクセル抑制機能が作動するように設定されていないキーと同時持ち込みをしないでください。
  同時持ち込みをすると急アクセル抑制機能が起動しないことがあります。起動のためには必ず設定されているキーで、内蔵キーを使わずに解錠するようにしてください。

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

システムを作動させるには



急アクセル抑制機能が作動するように設定されたHonda スマートキーを携帯していることを確認し、内蔵キーを使わずに解錠する。

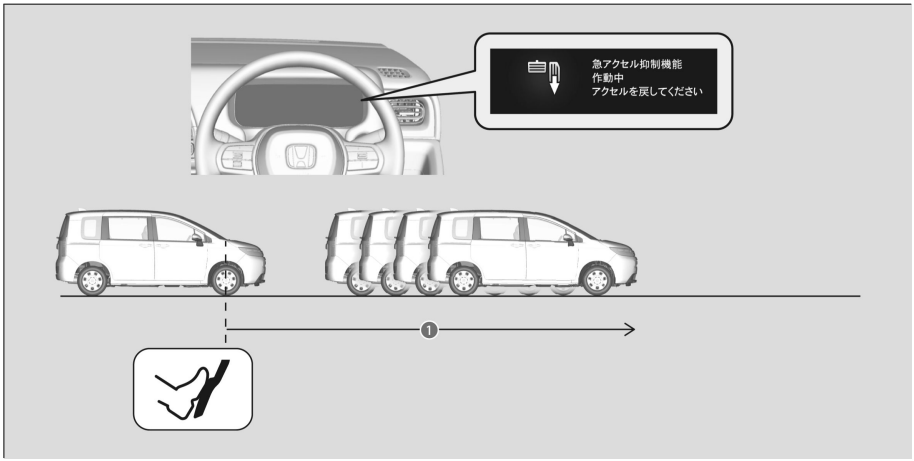
≫エンジンを始動したとき、急アクセル抑制機能の起動メッセージ、急アクセル抑制機能表示灯の点灯を確認してください。

≫起動メッセージを消すには、 スイッチ（❶）を押してください。

Honda スマートキーが電池切れの場合、急アクセル抑制機能が起動しない場合があります。

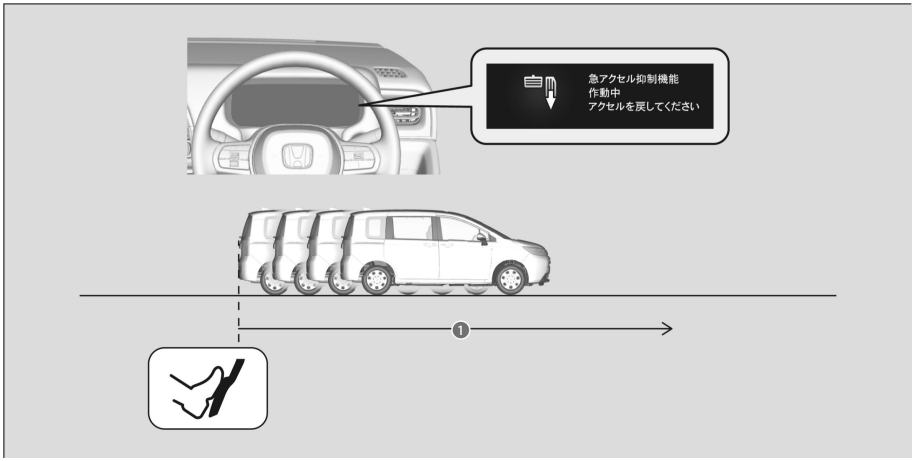
システムの作動

車速が約 30km/h 以下のとき、踏み間違いや踏みすぎでアクセルペダルを素早く強く踏み込んだ場合には、音と表示で知らせるとともに急加速を抑制します。



❶ 急加速を抑制

加速抑制状態中に、アクセルペダルを数秒間踏み続けたときや、加速抑制状態になった後、すぐにアクセルペダルを早く強く踏み直したときは、一定の速度まで徐々に加速します。



❶ 一定の速度まで徐々に加速

次の場合、急アクセル抑制機能は作動しません。

- 方向指示器が点滅中、または、消灯後、約 2 秒間
- ブレーキペダルを踏んでいるとき、またはブレーキペダルを離したあと、約 2 秒間
  ≫オートマチックブレーキホールド作動時に急発進しようとすると、急アクセル抑制機能が作動する場合があります。
- 上り坂を走行しているとき

作動解除の条件

アクセルペダルを離したとき

急アクセル抑制機能の制限

次のような状態のときは、急アクセル抑制機能が正常に作動しない場合があります。
また、加速したい場合に作動することがあります。

道路状況

- 坂道、凸凹道、砂利道など非舗装路の走行
- 雪道などスリップが発生するような道路の走行
- 坂道の出口など、車両姿勢が急激に変化したとき
- スピードブレーカー、縁石など、大きな段差を乗り越えたとき

自車の状態

カーゴスペースや後席に重い荷物を積んで、車が傾いているとき

その他

惰性走行から急いで加速したとき（たとえば、ETC レーン通過後の加速）

路外逸脱抑制機能

路外逸脱抑制機能について

フロントワイドビューカメラによりシステムが車両の車線逸脱、草、砂利などの道路境界や対向車両への接近の可能性を検知すると、路外逸脱を回避するように運転を支援し警告で知らせる機能です。

フロントワイドビューカメラ ▶P.189

⚠警告

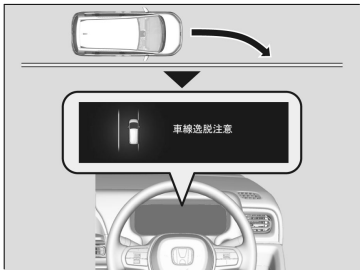
路外逸脱抑制機能は、補助システムとして使用してください。

路外逸脱抑制機能は、自動運転システムではなく、運転者のハンドル操作に代わるものではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

機能に頼った運転をすると衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、走行してください。

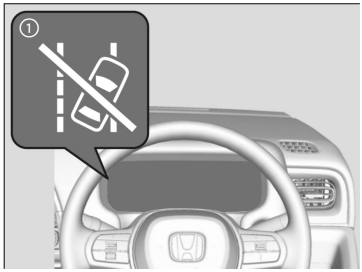
システムの作動



フロントガラス上部のフロントワイドビューカメラによって左右の白線（黄線）、草、砂利などの道路境界や対向車両を検知し、方向指示器（ウィンカー）を使用せずに白線（黄線）を逸脱した、または、草、砂利などの道路境界や対向車両へ接近したことを判断したとき、作動します。

≫車線区画線（白線や黄線）を検出できない場合、対向車両への接近を回避する支援は行いません。

メーターにより警告を行うとともに、ハンドルを短時間振動させることで運転者の操作を促し、さらに逸脱を防ぐ方向にハンドル操作を支援します。



繰り返し路外逸脱抑制機能が作動しても、運転者の操作がない場合は警報音が鳴ります。その後、路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯（❶）が点灯し、操舵アシストが一時停止して警報音のみで警告します。

≫数分経過すると、警告灯が消灯し機能は復帰します。

- 路外逸脱抑制機能は OFF になると、安全支援情報警告灯（オレンジ）、路外逸脱制御機能警告灯（オレンジ）が点灯します。
  警告灯と表示灯一覧 ▶P.260
- 運転者による操作が行われているときや、路面の状況によっては支援が感じられないことがあります。
- カーブ内側にはみ出して走行している、または車線幅が狭いときは、路外逸脱抑制機能の作動が抑制されます。

車線維持支援システム（LKAS）を作動させていない場合、車線逸脱、草、砂利などの道路境界や対向車両への接近の可能性を検知した場合にメッセージが表示される場合があります。

作動条件

以下の条件を満たすとき作動します。

- 白線（黄線）の場合：車速が約 60～120km/h のとき
  ≫対向車両が走行している場合：車速が約 30～120km/h のとき
- 草、砂利などの道路境界の場合：車速が約 30～120km/h のとき
- 直線またはゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- 方向指示器（ウィンカー）を使用していないとき
- システムがアクセル、ブレーキ、ハンドルの操作の量と頻度から運転意志がないと判断したとき

エンジンを始動後、約 15 秒の間は路外逸脱抑制機能は作動しません。

路外逸脱抑制機能のアシストタイミングの設定を変更することができます。
時計*/車両設定 ▶P.276

路外逸脱抑制機能の ON/OFF

メーターでシステムの ON/OFF を切り換えることができます。

表示の切り換えかた ►P.271

安全支援情報 ►P.274

- エンジンを始動したときは、パワーモードを OFF する前の状態（ON または OFF）を保持します。

路外逸脱抑制機能の制限

以下の条件下では、システムは白線（黄線）、草、砂利などの道路境界や対向車両を検知できず、システムが正しく機能しない場合があります。

環境の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 白線（黄線）と道路表面の区別ができないとき
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時の太陽に向かって走行するとき
- 白線（黄線）の付近に影が映っているとき（木々、建物、ガードレール、車両など）
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 強い光が道路に反射しているとき
- 夜間やトンネル内などで周囲が暗く、車線や路面、対向車両の全体が照らされていないとき
- 前方の車両との距離が極端に短く、車線や路面がかくれているとき
- 道路境界が草や砂利以外などのとき

道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や劣化などにより重複やかすれている白線（黄線）、タイヤ痕、さまざまな線が道路にあるとき
- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
- 車両などが白線（黄線）の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの（縁石、ガードレール、パイロンなど）を白線（黄線）と認識したとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 分岐・合流路などを走行するとき
- 雪上路や路上の雪・水溜まりなどで舗装路が部分的に見えているとき
- 未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき
- カーブ、うねった道路、起伏のある道など、道路状況により白線（黄線）を正しく認識できないとき

自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムなどによりカメラ前方が覆われているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき
- 運転者がアクセル、ブレーキまたはステアリングを操作したとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- カーゴスペースや後席に重い荷物を積んで、車両が傾いているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- サスペンションを変更したとき

対向車両の状態により正しく検知できない事例

- 対向車両が横、または斜めを向いているとき
- 前方に対向車両が飛び出したとき
- 対向車両が背景に紛れて検知できないとき
- 暗がりで対向車両が片側点灯または無灯火のとき
- 対向車両との距離が極端に短いとき
- 対向車両の一部が前方の車両によりかくれているとき
- 対向車線が複数あるとき、または右左折専用車線があるとき
- 隣接車線に駐停車もしくは極端に遅い速度で移動している車両があるとき
- 対向車両が特殊な形状の車両
- 対向車両の形状をカメラが正しく検知できないとき

衝突の可能性のない場合の作動について

以下のとき、路外逸脱抑制機能が作動することがあります。

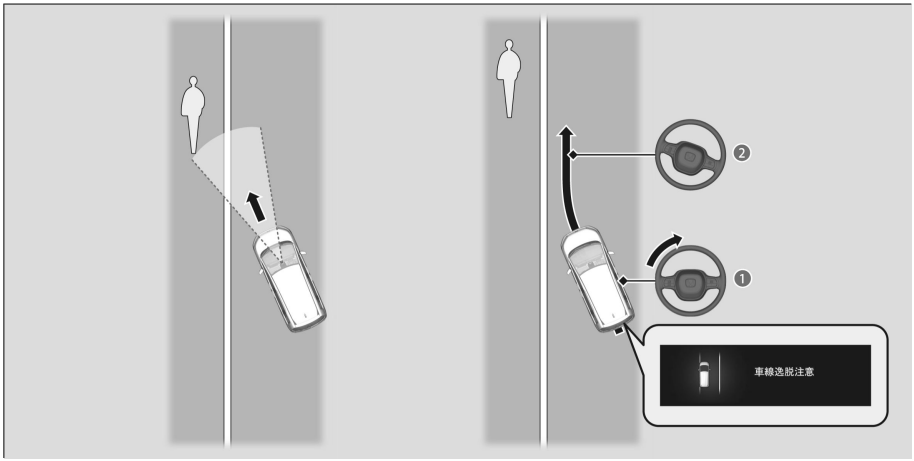
- カーブ走行などで自車の正面に対向車両がいるとき

歩行者事故低減ステアリング

歩行者事故低減ステアリングについて

フロントワイドビューカメラにより歩行者と白線（黄線）を検出し、路肩の歩行者との衝突のおそれがある場合、表示と警報音で警報します。さらに、ステアリング操作を支援することにより運転者の衝突回避操作を促します。

フロントワイドビューカメラ ▶P.189

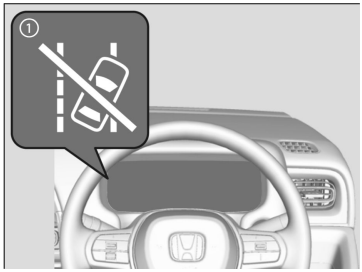


❶ 警報と支援
❷ 運転者の回避操作

⚠警告

歩行者事故低減ステアリング機能は、運転者の運転操作を支援するシステムです。

あらゆる状況での歩行者事故を、軽減したり回避できるものではありません。
機能に頼った運転をすると衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。
運転者は周囲の状況を確認し、歩行者と適切な距離を保ち安全運転を行ってください。



繰り返し歩行者事故低減ステアリングが作動しても運転者の操作がない場合は警報音が鳴ります。その後、路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯（❶）が点灯し操舵アシストが一時停止して、警報音のみで警告します。

数分経過すると、警告灯が消灯し機能は復帰します。

メーターの路外逸脱抑制機能の設定で「操舵アシストなし警報のみ」を選択した場合、歩行者事故低減ステアリングはステアリング制御を行いません。
時計*/車両設定 ▶P.276

- 車両と歩行者の位置関係によっては CMBS の作動が優先される場合があります。
CMBS について ▶P.193
- 運転者による操作が行われているときや、路面の状況によっては支援が感じられないことがあります。

作動条件

以下の条件を満たすとき作動します。
- 白線（黄線）が連続しているとき
- 車速が約 10～40km/h で走行しているとき
- 直線の道路を走行しているとき
- 方向指示器（ウィンカー）を使用していないとき
- システムがアクセル、ブレーキ、ハンドルの操作の量と頻度から運転意志がないと判断したとき

エンジンを始動後、約 15 秒の間は歩行者事故低減ステアリングは作動しません。

歩行者事故低減ステアリングの ON/OFF

歩行者事故低減ステアリングは、路外逸脱抑制機能を ON にすると作動します。メーターで路外逸脱抑制機能の ON/OFF を切り替えてください。

表示の切り換えかた ►P.271

安全支援情報 ►P.274

- エンジンを始動したときは、パワーモードを OFF する前の状態（ON または OFF）を保持します。

歩行者事故低減ステアリングシステムの制限

以下の条件で、歩行者事故低減ステアリングの支援が遅れたり、支援できない場合があります。
運転者が周囲の状況を確認し、歩行者と適切な距離を保ち安全運転を行ってください。

環境によりカメラが正しく検知できない事例

- 白線（黄線）と道路表面の区別ができないとき
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行するとき
- 強い光が歩行者や路面に反射しているとき
- 白線（黄線）の付近に影が映っているとき（木々、建物、ガードレール、車両など）
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで周囲の明るさが変化したとき
- 夜間やトンネル内などで周囲が暗く、車線や路面、歩行者の全体が照らされていないとき
- 前方の車両との距離が極端に短く、車線や路面がかくれているとき

道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や劣化などにより重複やかすれている白線（黄線）、タイヤ痕、さまざまな線が道路にあるとき
- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
- 車両などが白線（黄線）の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき

- 路上のもの（縁石、ガードレール、パイロンなど）を白線（黄線）と認識したとき
- カーブ、うねった道路、起伏のある道など、道路状況により白線（黄線）や歩行者を正しく認識できないとき
- 未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 分岐・合流路などを走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 雪上路や路上の雪・水溜まりなどで舗装路が部分的に見えているとき

自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ワイパーの拭き残しがあるとき
- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- カーゴスペースや後席に重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムなどによりカメラ前方が覆われているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき
- サスペンションを変更したとき
- 運転者がアクセル、ブレーキまたはステアリングを操作したとき

歩行者の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 歩行者との距離が極端に短いとき
- 前方に歩行者が飛び出したとき
- 歩行者がベビーカーや自転車などを押しているとき
- 歩行者の一部（頭や手足など）が荷物などによりかくれているとき
- 歩行者が背景に紛れて検知できないとき
- 歩行者が前かがみやしゃがんだ姿勢をとっているとき、手を挙げたり、走っているとき
- 歩行者の身長が約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
- 歩行者が集団で前方にいるとき

その他、作動できない事例

- 運転者が急加速やステアリング操作をしながら、前方の歩行者に接近したとき
- 歩行者の形状をカメラが正しく検知できないとき
- 自転車や二輪車、車いす、特殊な形状の車両など

渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)

渋滞追従機能付 ACC について

フロントワイドビューカメラが先行車との車間距離を測定して、高速道路の渋滞時に適切な加減速を行い、設定車間距離を保持しながら、運転者がアクセルやブレーキを操作せずに走行、停車出来るよう支援するシステムです。

フロントワイドビューカメラ ▶P.189

⚠警告

渋滞追従機能付 ACC は、補助システムとして高速道路や自動車専用道路でのみ使用してください。

渋滞追従機能付 ACC は、自動運転システムではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。
機能に頼った運転をすると衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、走行してください。

渋滞追従機能付 ACC で停車した車両から絶対に外に出ないでください。

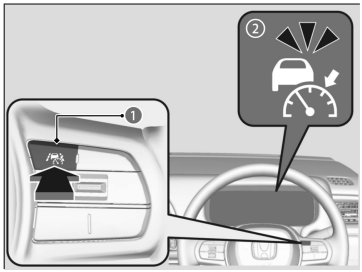
渋滞追従機能付 ACC の作動中に停車した車両から、適切な駐車操作無しで外に出ると車両が操作無しで動き出す可能性があり、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

! 以下の状況では、渋滞追従機能付 ACC を使用しないでください。

- 車線変更や急な加減速を繰り返すような交通状況
- 急カーブのある道
- 急な下り坂では設定車速を超えてしまう場合があります。このような場合は、渋滞追従機能付 ACC によるブレーキは作動しません。
- 高速道路などで、料金所、インターチェンジ、サービスエリア、パーキングエリアに進入するとき

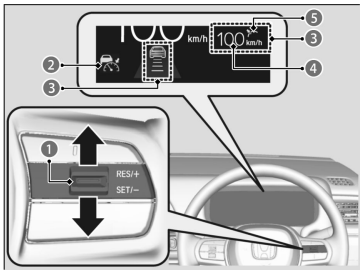
- 凍結路や積雪路などの滑りやすい路面ではタイヤが空転して車のコントロールを失うおそれがあります。
- 道路状況（カーブなど）や自車の状況（ハンドル操作や車線内の位置）によっては、一時的に隣の車線の車や周囲の物に対して車間距離制御を行う場合があります。

渋滞追従機能付 ACC の作動方法



[1] シフトポジションが D、S のときに スイッチ（❶）を押す。

≫メーター内に、 表示灯（ホワイト）（❷）が点灯します。



[2] RES/+/SET/- スイッチ（❶）を上か下に押す。

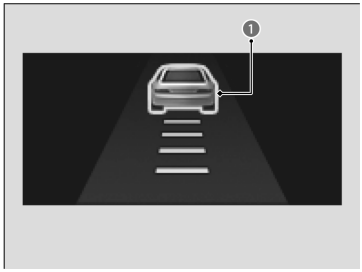
≫設定された車速で作動を開始します。

≫メーターにアイコンや設定車速が表示されます。

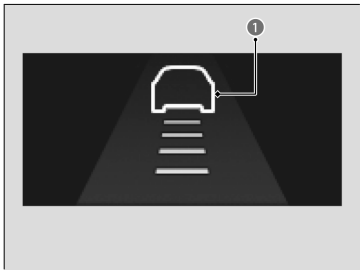
≫条件を満たせば、同時に車線維持支援システム（LKAS）が作動します。

❷ 表示灯（グリーン）
❸ 渋滞追従機能付 ACC 開始時に点灯
❹ 設定車速（ホワイト）
❺ 設定状態インジケーター（グリーン）

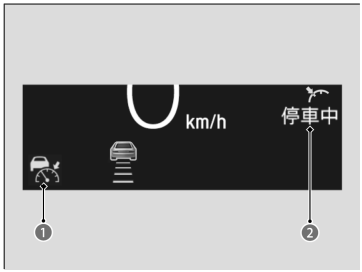
- ブレーキペダルを踏んでいるときは、渋滞追従機能付 ACC は作動しません。
- 30km/h 以下で走行しているときは、設定車速が 30km/h にセットされます。車両が動いていない場合は、ブレーキペダルを踏んでいても作動することができます。
- 車線維持支援システム（LKAS）を使用せずに、渋滞追従機能付 ACC を使用すると Straight Driving Assist（直進保舵支援機能）が作動します。これは EPS（電動パワーステアリング）の機能であり、直進におけるハンドル保舵力を低減し、直進走行しやすくします。



先行車が検知範囲に入ると、アイコン（❶）が表示され、先行車の車速変化に合わせ、設定車速の範囲内で車間距離を保ちながら追従走行します。



先行車がいないときは実線の車のアイコン（❶）が表示され、設定した車速で定速走行します。先行車が車線変更などでいなくなると、設定車速までゆるやかに加速してから定速走行します。



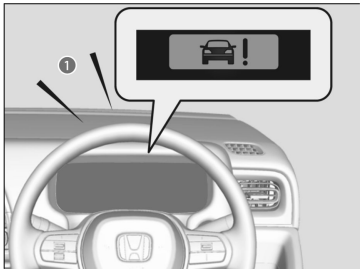
先行車が停車すると、自車も自動で停車して、メッセージ（❷）が表示されます。先行車の動きに合わせて、RES/+/SET/- スイッチを上か下に押すか、アクセルペダルを踏むことで発進し、以前の設定車速の範囲内で追従走行します。

≫先行車に追従して停車したときの車間距離は設定により変わります。

車間距離の設定方法 ▶P.223

❶ 表示灯（グリーン）

- 設定車速より遅い速度で走行する先行車や割り込み車が前方にあらわれた場合、システムは減速制御を行います。
- 先行車または割り込み車の車速が自車よりも速く、次第に離れていく場合、先行車との距離が短くても警報が出ず、そのまま追従することがあります。
- 先行車がインターチェンジやサービスエリアなどに入る際、自車の前から先行車がいなくなるときは、車間距離制御が少しの間継続する場合があります。
- 渋滞追従機能付 ACC によるブレーキが作動しているときは、制動灯が点灯します。



先行車が急減速したり、遅い車両が割り込んできたときは、メーターの警告表示や警告ブザー（❶）により、衝突のおそれがあることを運転者に知らせます。

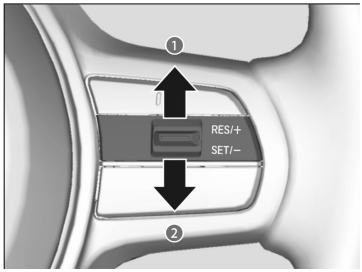
≫ブレーキを踏み、適切な車間距離を保ってください。

- アクセルペダルを踏み込むと、渋滞追従機能付 ACC が一時的に解除され車速が上がります。このとき、先行車がいても警告音や警告表示は出ません。アクセルペダルを離すと復帰します。

先行車検知音の有り/無しを設定することができます。

時計✤/車両設定 ▶P.276

車速の調整方法



❶ **RES/+** 側

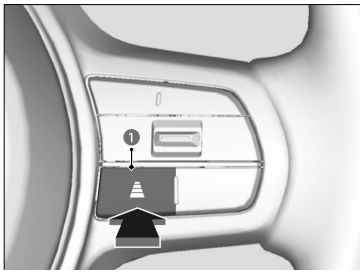
- 1 回押すごとに 1km/h ずつ設定車速が上がる
- 押し続けると 10km/h ずつ設定車速が上がり、手を離したときの設定車速に固定

❷ **SET/-** 側

- 1 回押すごとに 1km/h ずつ設定車速が下がる
- 押し続けると 10km/h ずつ設定車速が下がり、手を離したときの設定車速に固定

- 検知した先行車の車速が自車が上げた設定車速よりも遅い場合は、自車の車速を加速させない場合があります。
- アクセルペダルを踏み、**RES/+/SET/-** スイッチを下に押すと、現在の車速が設定車速になります。

車間距離の設定方法



スイッチ（❶）を押し、車間距離を設定する。

≫先行車との車間距離設定は、4 段階に切り換えることができます。

≫常に周囲の状況を確認し、交通状況に応じた車間距離の設定を選択してください。

≫車速が低くなるほど、車間距離は短くなります。

車間距離

- 約 27 m（車速 80km/h）
- 約 33 m（車速 100km/h）

車間距離

- 約 35 m（車速 80km/h）
- 約 43 m（車速 100km/h）

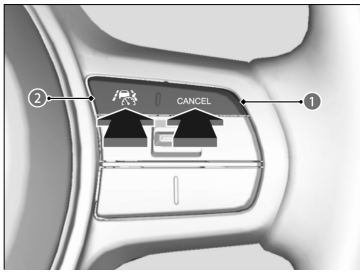
車間距離

- 約 44 m（車速 80km/h）
- 約 55 m（車速 100km/h）

車間距離

- 約 54 m（車速 80km/h）
- 約 67 m（車速 100km/h）

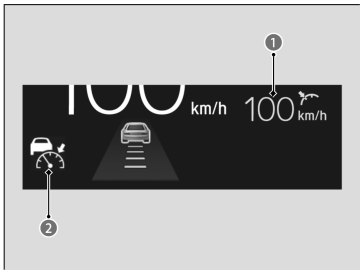
渋滞追従機能付 ACC の解除方法



以下のいずれかの操作をすると、渋滞追従機能付 ACC が解除されます。このとき同時に車線維持支援システム（LKAS）が解除されます。

- CANCEL スイッチ（❶）を押す
  ≫メーター内の 表示灯（グリーン）が 表示灯（ホワイト）になります。
- 車両が前進しているときにブレーキペダルを踏む
  ≫メーター内の 表示灯（グリーン）が 表示灯（ホワイト）になります。
- スイッチ（❷）を押す
  ≫メーター内の 表示灯（グリーン）が消灯します。

解除前の設定車速での復帰



❷ （ホワイト）

CANCEL スイッチまたは、ブレーキペダルで渋滞追従機能付 ACC を解除すると、直前の設定車速がグレー（❶）で表示されます。

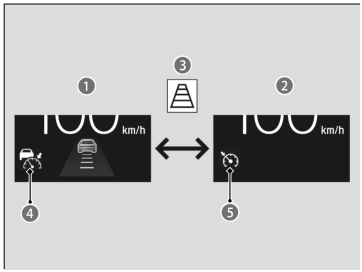
グレーの設定車速が表示されている場合は、RES/+/SET/- スイッチを上に押すとグレーの設定車速で作動を再開することができます。

停車中の解除

自車が自動的に停車しているときに渋滞追従機能付 ACC が解除された場合は、警告音が鳴りメーターに警告が表示されることがあります。すみやかにブレーキを踏み、適切な車間距離を保ってください。

加減速を多く繰り返す走行や長い下り坂の走行、重い荷物を積んで走行しているときなどに渋滞追従機能付 ACC が自動解除された後、条件が継続する場合は、その後一時的に渋滞追従機能付 ACC をセットできない場合があります。

クルーズモードへの切換え



スイッチ（❸）を約 1 秒間押し続ける。

≫メーター内の 表示灯（ホワイト）（❹）が、表示灯（ホワイト）（❺）に変わり、クルーズモードに切り換わります。

再度スイッチを約 1 秒間押し続けると、表示灯（ホワイト）に切り換わり、渋滞追従機能付 ACC に戻ります。

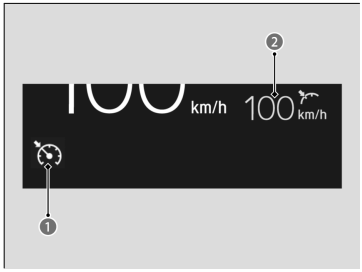
❶ 渋滞追従機能付 ACC 表示
❷ クルーズモード表示

車速をセットしているとき、または スイッチが OFF のときはモードを切り換えられません。

> ❗ 現在のモードがどちらなのかを常に意識して使用してください。
> クルーズモード中は先行車との車間距離を保持しません。

クルーズモードへ切り換えた状態でも スイッチを押して ON にし直すたびに、渋滞追従機能付 ACC に戻ります。

クルーズモードの作動方法



約 30km/h 以上で走行しているとき、**RES/+/SET/-** スイッチを上か下に押す。

≫設定された車速で自動定速走行を開始します。

≫メーターに設定車速やアイコンが表示されます。

❶ 表示灯（グリーン）
❷ 設定車速（ホワイト）

車速の調整方法

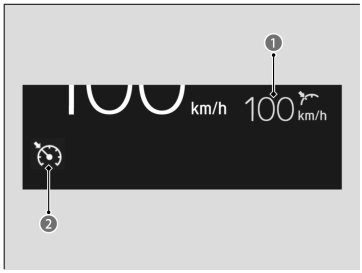
車速の調整方法は、渋滞追従機能付 ACC の操作と同じです。

解除方法

次の操作をすると、自動定速走行が解除されます。また、車速が 25km/h 未満になると自動的に自動定速走行が解除になります。

- CANCEL スイッチを押す
  ≫メーター内の 表示灯（グリーン）が 表示灯（ホワイト）になります。
- ブレーキペダルを踏む
  ≫メーター内の 表示灯（グリーン）が 表示灯（ホワイト）になります。
- スイッチを押す
  ≫メーター内の 表示灯（グリーン）が消灯します。

解除前の設定車速での復帰



CANCEL スイッチまたは、ブレーキペダルで自動定速走行を解除すると、直前の設定車速がグレー（❶）で表示されます。

グレーの設定車速が表示されていて車速が 30km/h 以上の場合は、RES/+/SET/- スイッチを上に押すとグレーの設定車速で作動を再開することができます。

❷ （ホワイト）

渋滞追従機能付 ACC の制限

一定の条件でシステムは自動解除する場合があります。
以下の条件では渋滞追従機能付 ACC の機能の一部を発揮できない場合があります。

環境によりカメラが正しく検知できない事例

- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで周囲の明るさが変化したとき
- 強い光が車両や路面に反射しているとき
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき
- 夜間やトンネル内などで周囲が暗く、車両の全体が照らされていないとき
- 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行するとき

道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- カーブ、うねった道路、坂道などのとき
- 雪道や未舗装路などわだちのある道路
- 路面に水溜まりや水膜があるとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき

自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- カーゴスペースや後席に重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムなどによりカメラ前方が覆われているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- サスペンションを変更したとき

前方の車両の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 前方に車両が急に割り込んだとき
- 前方の車両との距離が極端に短いとき
- 前方の車両が背景に紛れて検知できないとき
- 前方の車両の車高が低いとき
- 暗がりで前方の車両が片側点灯または無灯火のとき

その他、システムが正しく作動しない事例

- 前方の車両が駐停車していたり、自車との速度差が大きいとき
- 前方の車両が急減速したとき
- 前方の車両が特殊な形状の車両
- 荷物を積んでいないトラックなど前側に対して後側の高さが低い、もしくは幅が狭い車両
- 自車または前方の車両が、車線の片側にかたよって走行しているとき
- 前方の車両が二輪車など幅の狭い車両のとき
- 前方の車両の最低地上高が極端に高いとき
- 前方の車両の形状をカメラが正しく検知できないとき

渋滞追従機能付 ACC の自動解除

次の場合は、メッセージが表示されてブザーが鳴り、渋滞追従機能付 ACC が自動解除されます。

- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 先行車を安定して検知できないとき
- タイヤの異常を検知したとき
- 悪路の走行や山岳路を長時間走行したとき
- 急なハンドル操作をしたとき
- ABS、VSA、衝突軽減ブレーキ（CMBS）、踏み間違い衝突軽減システム、または衝突後ブレーキシステムや急アクセル抑制機能✤が作動したとき
- VSA 警告灯が点灯したとき
- 急斜面で停車しているとき
- パーキングブレーキをかけたとき
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき
- 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行するとき
- 検知した先行車との車間距離が短すぎるとき
- 停車状態で先行車がいなくなったとき
- 急加速したとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムなどによりカメラ前方が覆われているとき

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

- パワーモードを OFF モードにしたとき
- カーゴスペースや後席に重い荷物を積んでいるとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところを走行したとき
- 停車中に運転席のシートベルトを外したとき
- 車両が 10 分以上停車しているとき
- ブレーキシステム警告灯（オレンジ）が点灯したとき
- 長い下り坂などで減速を繰り返したとき
- LKAS が作動しているときに、システムが一定時間運転者の操作がないと判断したとき

車線維持支援システム（LKAS）

LKAS について

車線の中央付近を走行しているときに、フロントワイドビューカメラによって、左右の白線（黄線）をとらえ、ステアリングの操作をアシストし、車線維持走行を補助するためのシステムです。

フロントワイドビューカメラ ▶P.189

⚠警告

LKAS は補助システムとして使用してください。

LKAS は、自動運転システムではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。機能に頼った運転をすると衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。また、高速道路や自動車専用道路を走行するときに使用してください。

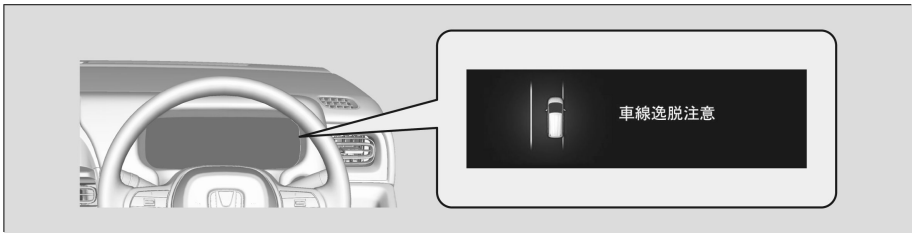
システムが作動しているときに、左右の白線（黄線）に偏る場合は、システムを停止し Honda 販売店で点検を受けてください。

車線維持支援機能

車が車線中央を走行するようにアシストします。白線（黄線）に近づくと電動パワーステアリングのアシストが強くなります。

車線逸脱警告機能

運転状況により、車が車線逸脱を検知すると車線逸脱の警報をハンドルの振動、音およびメーター表示で行います。



≫方向指示器（ウィンカー）を操作するとLKASが一時解除状態になります。

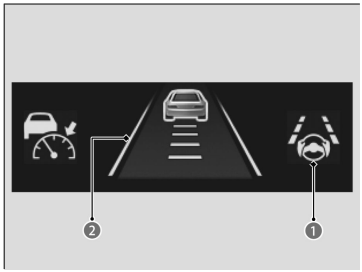
≫車線の中央を走行しカメラが白線（黄線）を検知すると、LKASが復帰します。

≫渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール（ACC）作動中に方向指示器（ウィンカー）を出さずに車線変更すると、LKASが解除されず車線逸脱警報が作動します。

作動条件

- 渋滞追従機能付ACCが作動しているとき
- 約65～120km/hで走行しているとき
- 左右に白線（黄線）が引かれている車線の中央付近を走行しているとき
- 直線またはゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- 方向指示器（ウィンカー）を出していないとき

LKAS の作動方法



渋滞追従機能付 ACC を作動させる。

≫車線中央付近を走行中に車線を検知すると、LKAS 表示灯（❶）と車線表示（❷）がホワイトからグリーンに切り替わり、LKAS が作動します。

渋滞追従機能付 ACC の作動方法 ►P.220

システムが作動中にハンドルから手を離したり、ハンドル操作量が少ない場合は警告を表示します。繰り返し表示されても操作がされない場合は警報音がなりシステムが解除されます。

LKAS の解除方法

スイッチを押すと、LKAS が解除されます。

≫LKAS を作動させるには、再度 スイッチを押してください。

自動的に一時解除される場合

次の場合、LKAS 表示灯がホワイトに切り替わり、LKAS が自動解除されます。

- 白線（黄線）を検知できないとき
- 急なハンドル操作をしたとき
- ハンドル操作をしていないとき
- 急なカーブを走行したとき
- 作動車速を超えたとき
- ABS、VSA が作動しているとき
- 渋滞追従機能付 ACC が作動していないとき

これらの条件が続かなければ、システムは自動的に再開されます。

LKAS の自動解除ブザーの ON/OFF を設定できます。

時計✤/車両設定 ►P.276

自動的にキャンセルされる場合

- カメラ内部の温度が一定以上高温になったとき
- カメラまたはカメラ付近のフロントガラスが汚れているとき

LKAS の制限

以下の条件では、システムは白線（黄線）を検知できず、LKAS が正しく機能しない場合があります。

環境によりカメラが正しく検知できない事例

- 白線（黄線）と道路表面の区別ができないとき
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時の太陽に向かって走行するとき
- 白線（黄線）の付近に影が映っているとき（木々、建物、ガードレール、車両など）
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで周囲の明るさが変化したとき
- 夜間やトンネル内などで周囲が暗く、車線や路面が照らされていないとき
- 前方の車両との距離が極端に短く、車線や路面がかくれているとき
- 強い光が路面に反射しているとき

道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や劣化などにより重複やかすれている白線（黄線）、タイヤ痕、さまざまな線が道路にあるとき
- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
- 車両などが白線（黄線）の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの（縁石、ガードレール、パイロンなど）を白線（黄線）と認識したとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 雪上路や路上の雪・水溜まりなどで舗装路が部分的に見えているとき
- 路面に水溜まりや水膜があるとき
- カーブ、うねった道路、起伏のある道など、道路状況により白線（黄線）を正しく認識できないとき
- 未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき
- 分岐・合流路などを走行するとき

自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムなどによりカメラ前方が覆われているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- カーゴスペースや後席に重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- サスペンションを変更したとき
- タイヤチェーンを装着しているとき

トラフィックジャムアシスト（渋滞運転支援機能）

トラフィックジャムアシストについて

フロントワイドビューカメラによって、左右の白線（黄線）をとらえ、車線の中央を走行するようにステアリング操作をアシストし、車線維持走行を補助するためのシステムです。

フロントワイドビューカメラ ▶P.189

⚠警告

トラフィックジャムアシストは補助機能として使用してください。

トラフィックジャムアシストは、自動運転システムではありません。あくまでも運転者をアシストするための機能です。

機能に頼った運転をすると、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。高速道路や自動車専用道路でのみ使用してください。

下記の状況のときは、トラフィックジャムアシストを使用しないでください。

- 急カーブのある道のとき
  ≫道路状況に応じた走行ができなくなることがあります。
- 高速道路などで、料金所、インターチェンジ、サービスエリア、パーキングエリアに進入するとき
- 悪天候（雨、霧、雪など）のとき
- 凍結路や積雪路などの滑りやすい路面のとき
  ≫タイヤが空転して車のコントロールを失うおそれがあります。

システムが作動しているときに車線に寄って走行する場合は、システムを停止し Honda 販売店で点検を受けてください。

車線維持支援機能

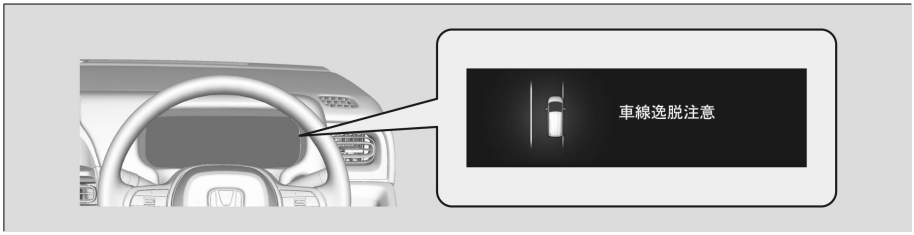
車線維持支援システム（LKAS）作動中の渋滞時に白線（黄線）を検知すると、車線の中央を走行するようにハンドル操作をアシストします。

≫機能の作動中に運転者が操作した場合は運転者の操作を優先します。

≫運転者による操作が行われているときや、路面の状況によってはアシストが感じられないことがあります。

車線逸脱警報機能

運転状況により、車が車線逸脱を検知すると車線逸脱の警報をハンドルの振動、音およびメーター表示で行う場合があります。



作動条件

- 渋滞追従機能付 ACC と LKAS が ON のとき
- 左右に白線（黄線）が引かれている車線の中央付近を走行しているとき
- 車速が約 0～65km/h で走行しているとき
- 直線またはゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- ハンドル操作をしているとき

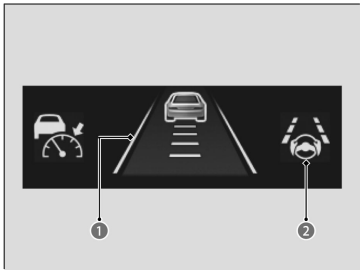
LKAS の取り扱いについては下記を参照してください。

LKAS について ▶P.231

各機能のステアリングスイッチと表示については下記を参照してください。

各機能を作動させるための装備と表示 ▶P.187

トラフィックジャムアシストの作動方法



車線の中央付近を走行する。

≫両側の白線（黄線）を検知するとシステムが作動を開始し、 車線表示（❶）と LKAS 表示灯（❷）がホワイトからグリーンに切り替わります。

システムが作動中にハンドルから手を離したり、ハンドル操作量が少ない場合は警告を表示します。繰り返し表示されても操作がされない場合は警報音がなりシステムが解除されます。

トラフィックジャムアシストの解除方法

スイッチを押すと、トラフィックジャムアシストが解除されます。

≫トラフィックジャムアシストを作動させるには、再度 スイッチを押してください。

一時的に待機状態となる場合

- 白線（黄線）を検知できないとき
- 急なハンドル操作をしたとき
- 作動中に運転者がハンドルから手を放したり、ステアリングの操作量が少ないとき
- 急なカーブを走行したとき
- 渋滞追従機能付 ACC が作動していないとき

これらの条件が長く続かなければ、機能は自動的に再開されます。

メーターの「レーンキープアシストシステム制御解除警報」設定で自動解除ブザーの ON/OFF を設定できます。

時計✤/車両設定 ▶P.276

自動的に解除となる場合

- カメラ内部の温度が一定以上高温になったとき
- カメラまたはカメラ付近のフロントガラスが汚れているとき

自動的に解除されると、メーターから車線表示が消えて警報音が鳴ります。

トラフィックジャムアシストの制限

以下の場合、システムは白線（黄線）を検知できず、トラフィックジャムアシストが正しく機能しない場合があります。

環境によりカメラが正しく検知できない事例

- 白線（黄線）と道路表面の区別ができないとき
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行するとき
- 白線（黄線）の付近に影が映っているとき（木々、建物、ガードレール、車両など）
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで周囲の明るさが変化したとき
- 夜間やトンネル内などで周囲が暗く、車線や路面が照らされていないとき
- 前方の車両との距離が極端に短く、車線や路面がかくれているとき
- 強い光が路面に反射しているとき

道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や劣化などにより重複やかすれている白線（黄線）、タイヤ痕、さまざまな線が道路にあるとき
- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
- 車両などが白線（黄線）の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの（縁石、ガードレール、パイロンなど）を白線（黄線）と認識したとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 雪上路や路上の雪、水溜まりなどで舗装路が部分的に見えているとき
- 路面に水溜まりや水膜があるとき

- カーブ、うねった道路、起伏のある道など、道路状況により白線（黄線）を正しく認識できないとき
- 未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき
- 分岐・合流路などを走行するとき

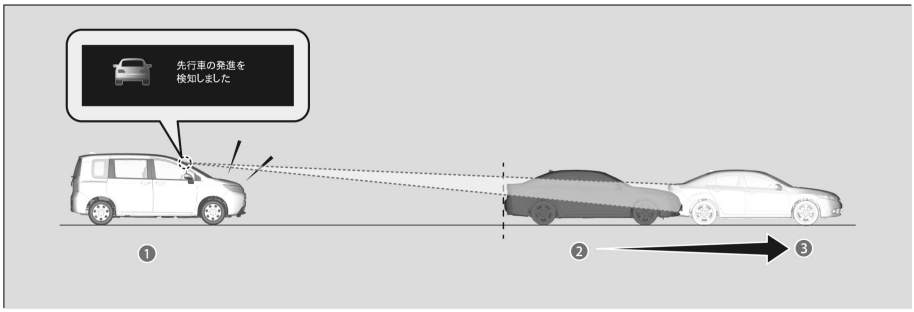
自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムなどによりカメラ前方が覆われているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- カーゴスペースや後席に重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- サスペンションを変更したとき
- タイヤチェーンを装着しているとき

先行車発進お知らせ機能

先行車発進お知らせ機能について

信号待ちなど、先行車の発進に気づかず停止を続けると、音と表示で運転者にお知らせします。



❶ 停止
❷ 先行車停止
❸ 先行車発進

⚠警告

先行車発進お知らせ機能は、運転者をアシストするための補助システムです。

安全に発進できる状況を知らせるシステムではありません。機能に頼った運転をすると衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。発進するときは、運転者が目視で周囲と前方の安全を十分に確認し、適切な車間距離を保ち運転してください。

先行車発進お知らせ機能を OFF にしたり、作動のタイミングを変更することができます。

時計✤/車両設定 ▶P.276

作動条件

- ブレーキペダルを踏んでいるとき
- オートマチックブレーキホールドのブレーキ保持機能が作動しているとき
- 渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール（ACC）が作動中で停車しているとき
- N でパーキングブレーキをかけているとき

先行車との車間距離が約 10m 以上離れているとき、また渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール（ACC）警告灯が点灯しているときは作動しません。

先行車発進お知らせ機能の制限

次のような場合、先行車が発進していなくてもシステムが作動したり、先行車が発進していてもシステムが作動しないことがあります。

環境によりカメラが正しく検知できない事例

- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで周囲の明るさが変化したとき
- 強い光が車両や路面に反射しているとき
- 夜間やトンネル内などで周囲が暗く、車両の全体が照らされていないとき
- 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かっているとき

道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- カーブ、うねった道路、右左折直後、坂道などのとき

自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- カーゴスペースや後席に重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- 自車の停車している時間が短いとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムなどによりカメラ前方が覆われているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- サスペンションを変更したとき
- タイヤチェーンを装着しているとき

先行車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 先行車の停車している時間が短いとき
- 先行車との距離が極端に短いとき
- 先行車が極端に遅い速度で移動しているとき
- 先行車が右左折や急旋回したとき
- 先行車が背景に紛れて検知できないとき
- 暗がりで先行車が片側点灯または無灯火のとき

その他、カメラが正しく検知できない事例

- 歩行者や自転車、二輪車、特殊な形状の車両など
- 自車と先行車の間に別の車両や歩行者、自転車などが割り込んできたとき
- 先行車が自車の正面にいないとき

その他、作動できない事例

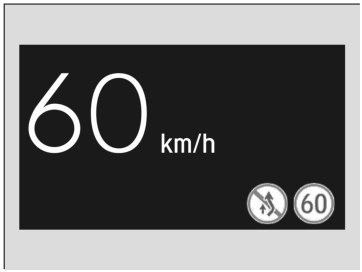
- 先行車の形状をカメラが正しく検知できないとき
- 先行車の最低地上高が極端に高いとき
- 先行車が荷物を積んでいないトラックなど前側に対して後側の面積が小さい車両

標識認識機能

標識認識機能について

走行中に、フロントワイドビューカメラで認識した道路標識のアイコンをメーターに表示して、運転者にお知らせします。

フロントワイドビューカメラ ▶P.189



最高速度、はみ出し通行禁止、一時停止、車両進入禁止の道路標識アイコンを同時に二つまで表示します。

≫認識された最高速度の標識に対して、速度超過したときは表示された最高速度アイコンが点滅します。

≫車両進入禁止区域に進入すると車両進入禁止アイコンが 5 秒間点滅します。その後、アイコンは消えます。

標識認識機能表示の ON/OFF を設定できます。

時計*/車両設定 ▶P.276

速度超過お知らせの ON/OFF や、お知らせするタイミングを設定できます。

時計*/車両設定 ▶P.276

⚠警告

標識認識機能は補助機能として使用する。

標識認識機能は、あらゆる状況で作動する機能ではありません。あくまでも、運転者をアシストするための機能です。常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、走行してください。

標識認識機能が故障した場合はメーターに ⊘ が表示されます。⊘ アイコンが消えないときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

すべての標識が表示されるわけではありません。また、表示される道路標識であっても新しいデザインの道路標識は表示されません。

作動条件

最高速度、はみ出し通行禁止アイコンの表示条件

- 速度に関係なく作動

一時停止、車両進入禁止アイコンの表示条件

- 自車の速度が約 60km/h 以下のとき

別の道路標識アイコンに切り替わる条件

- 表示中の最高速度と異なる最高速度標識を認識したとき
- 一時停止標識または、車両進入禁止標識を認識したとき

道路標識アイコンが消える条件

- 最高速度とはみ出し通行禁止は、標識を通過してから標識ごとに設定された距離（数百～千数百m）を走行したとき、または終了を示す補助標識を認識したとき
- 一時停止は、標識を通過したとき
- 車両進入禁止は、進入せず標識を通過したとき
- 交差点で方向指示器（ウィンカー）を出しながら右左折したとき

エンジンを始動後、約 15 秒の間は標識認識機能は作動しません。

標識認識機能の制限

以下の場合などにおいては、標識を正しく認識できない場合や、標識の認識が遅れたり、認識できない場合があります。

環境によりカメラが正しく検知できない事例

- 夜明けや夕暮れ時の太陽に向かって走行するとき
- 強い光が路面に反射しているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところ
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 先行車による水しぶきや雪の巻上げがあるとき

道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 段差などにより車両が大きく揺れたとき

自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムなどによりカメラ前方が覆われているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- カーゴスペースや後席に重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- サスペンションを変更したとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき

標識の位置や状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 標識の周囲が煩雑で標識を見つけにくい場合
- 自車から遠く離れた位置にある標識
- 自車のヘッドライトの光が届きにくい位置にある標識
- 曲がり角やカーブの先に設置された標識
- 色あせた標識や折れ曲がった標識
- 向きが変えられた標識や破損した標識
- 泥、雪、又は、霜で覆われた標識
- 一部が樹木などで隠れていたり、車両などの陰になった標識
- 標識の表面上に光（街灯など）や影が映り込んでいる場合
- 明るすぎたり、暗い標識（電光式標識）
- 小さいサイズの標識（終了を示す補助標識など）

その他、カメラが正しく検知できない事例

- 高い速度で走行しているとき

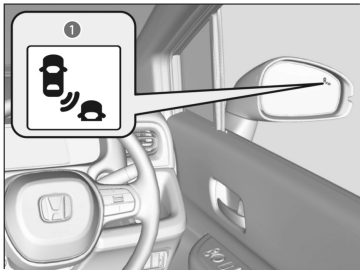
以下の場合などにおいては、標識認識が正しく作動せず、自車の走路に対する規制内容とは異なる表示をしたり、実際には対象となる標識が無いのに表示したりすることがあります。（最高速度標識においては、実際の規制速度よりも高い数値を表示したり、低い数値を表示したりすることがあります。）

- 標識の上や下に、規制の地点（始まり、終わりなど）や条件（曜日、時間帯など）を示す補助標識がある場合
- 数字の判別がつきにくい標識（電光式標識、数字がかすれた標識など）
- 自車の走路に対しての標識ではないが、自車の走路付近にあり、標識が自車の走路に向いている場合（側道が本線に合流する地点の一時停止標識など）
- 認識対象の標識の色、形、図形に似たものがある場合（類似の標識、電光掲示板、看板、のぼり旗、構造物など）

ブラインドスポットインフォメーション✤

ブラインドスポットインフォメーションについて

隣接する車線後方に他の車両が走行していることを知らせ、運転者の車線変更などの操作の際の負担を軽減するシステムです。



車両を検知したとき、両側のドアミラー内にあるブラインドスポットインフォメーション警告灯（❶）が点灯します。

≫約 50km/h 以下の速度差で他の車両が検知範囲に入ったとき、約 20km/h 以下の速度差で他の車両を追い越したとき

車両を検知した状態で検知された車両の方向にウィンカー操作を行ったとき、ブラインドスポットインフォメーション警告灯は点滅し、警告音が鳴ります。
他の車両が検知範囲内を走行している場合でも、以下のように作動することがあります。

- ブラインドスポットインフォメーション警告灯が点灯せず、メーターに「ブラインドスポットインフォメーションがセンサーの汚れ/高温のため作動しません」と表示される
- メーターに「ブラインドスポットインフォメーションがセンサーの汚れ/高温のため作動しません」と表示されていても、ブラインドスポットインフォメーション警告灯が点灯する

警報音、警報表示の設定をカスタマイズすることができます。
時計✤/車両設定 ▶P.276

⚠警告

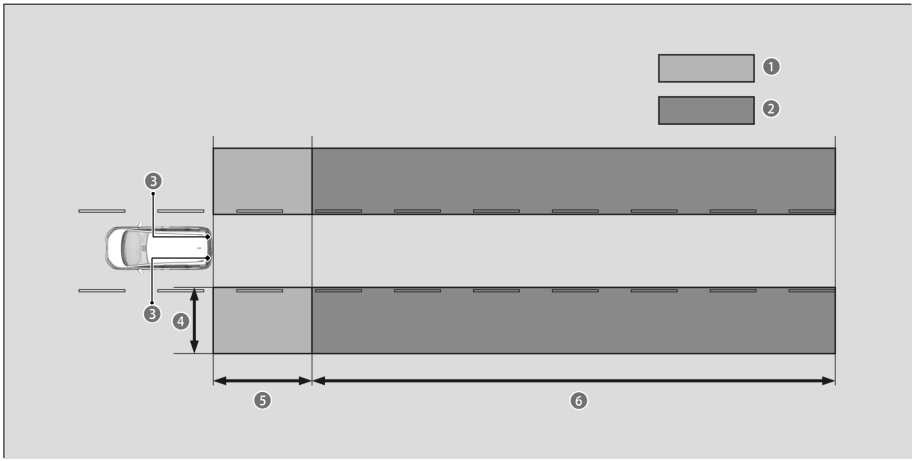
車線変更の際は、目視やミラーなどで確認する。

状況により、車両を検知できない場合があります。直接確認をせずに車線変更を行うと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

作動条件

自車の車速が 20km/h 以上で前進しているとき、レーダーセンサーが検知範囲内に走行している車両を検知します。



❶ 検知範囲 1
❷ 検知範囲 2
❸ レーダーセンサー：リヤバンパーコーナーの内側にあります
❹ 検知距離 A：側面から約 0.5～3m
❺ 検知距離 B：リヤバンパーから約 3m 後方
❻ 検知距離 C：リヤバンパーから後方約 3～25m（接近する車両が自車に対して速いほど、より遠くから検知します。）

- 工場出荷直後の検知範囲は検知範囲 1 です。交通量のある直線道路を一定時間走行することで、検知範囲が広くなります（検知範囲 1 と 2）。
- リヤバンパーや関連するシステムの修理を行うと検知範囲は工場出荷直後の状態（検知範囲 1）になります。

システムの ON/OFF

メーターでシステムの ON/OFF を切り換えることができます。

表示の切り換えかた ►P.271

安全支援情報 ►P.274

- エンジンを始動したときは、パワーモードを OFF する前の状態（ON または OFF）を保持します。

ブラインドスポットインフォメーションの制限

システムを正しく作動させるために、必ず次のことをお守りください。

- リヤバンパーやレーダーセンサー周辺は常にきれいにしておく
- リヤバンパーの周辺にシールなどを貼り付けない

以下のような場合、ブラインドスポットインフォメーション警告灯が点灯しないことがあります。

- 自車と隣接する車線を走行する車両との速度差が大きいとき
- 隣接する車線に駐車車両があるとき
- レーダーセンサーによって検知されていないものに接近したり、通過したりしたとき
- 自車と隣接する車線を走行する車両が二輪自動車などの小型な車両のとき

以下の場合、システムが影響を受け正確に表示しないなどの可能性があります。

- 交差点を右左折しているとき
- 路側の設置物（ガードレール、電柱、木、駐車車両、建物、壁など）を検知したとき
- 二輪車が検知範囲に入ったときや、電波を反射しないものが検知範囲にあるとき
- カーブした道路を走行しているとき
- 他の車両が隣接する車線よりさらに外側から接近してきたとき
- 他の車両のレーダーや強い電波を発する設備などによりシステムが干渉を受けたとき
- リヤバンパーやレーダーセンサー周辺が土・泥・雪・氷で覆われているとき
- リヤバンパーやレーダーセンサー周辺が破損、変形しているとき
- 悪天候（雨、雪、霧など）のとき
- 旋回や路面の凸凹により車体が傾いているとき
- 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを取り付けているとき

> ❗ リヤバンパーやレーダーセンサー周辺に衝撃が加わったときや、リヤバンパーや関連システムの修理を行うときは、Honda 販売店にご相談ください。

後退出庫サポート✤

後退出庫サポートについて

駐車場などから後退するときに、リヤバンパーのレーダーにより車両後方の左右から接近する他の車両を検知し、運転者に知らせる機能です。

⚠警告

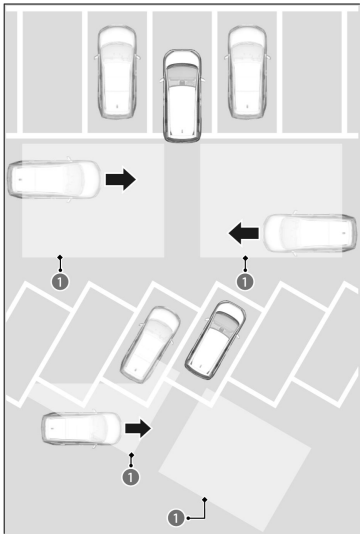
このシステムは出庫時の後方確認などをサポートするためのものであり、衝突を防止するためのシステムではありません。

後退時は、必ず目視やミラーなどで後方および周囲の安全を直接確認して運転してください。

状況によっては、検知のできない可能性があるため、ブザーや画面の表示のみを頼って後退すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

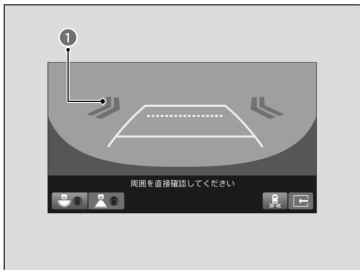
システムの作動



シフトポジションが R でシステムが ON のとき、自車の車速が約 5km/h 以下の場合に車両後方の左右から接近する他の車両を検知し、ブザーと表示でお知らせします。
自車の真後ろから接近する他の車両は検知しません。また、検知している他の車両が自車の真後ろまで到達した時点でお知らせを停止します。
また接近する歩行者、自転車、二輪車を検知する場合があります。

❶ 検知範囲

画面表示について

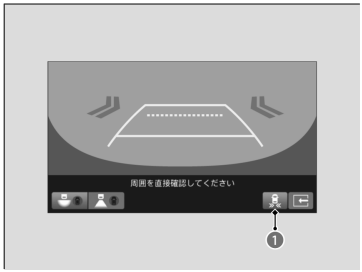


接近してくる車両を検知している間は、接近方向矢印（❶）が表示されます。

画面右下のアイコンが から （オレンジ）に変わったときは、リヤバンパー側面に雪や泥などが付着していることにより一時的にシステムが動作しません。リヤバンパー側面の付着物を取り除いてください。
アイコンに変わったときは、システムに異常がありますので、システムを使用せず Honda 販売店で点検を受けてください。

- シフトポジションを R にしても画面が切り換わらないときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

後退出庫サポートの ON/OFF



後退出庫サポートアイコン（❶）を押して、システムの ON/OFF を切り換えます。
また、カスタマイズ機能を使用して、システムの ON/OFF を切り換えることができます。
ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

後退出庫サポートの制限

以下のような状況では、接近する車両を検知できないことや、検知が遅くなることがあります。また、接近する車両がいないときでも検知する場合があります。

- リヤバンパーの周囲に他の車両や壁などがあり、レーダーの検知範囲が影響を受けたとき
- 自車の車速が約 5km/h を越えているとき
- 接近する他の車両の車速が約 10～25km/h 以外のとき
- レーダーなどを装備した他の車両が近くにいるとき
- 近くに強い電波を発する設備があるとき
- リヤバンパー側面に雪や泥などが付着しているとき
- 悪天候で、接近する他の車両をシステムが認識できないとき
- 坂道またはカーゴスペースや座席に重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- 壁、ポール、他の車両などに近付くように後退したとき

❗ リヤバンパーやレーダーセンサー周辺に衝撃が加わったときや、リヤバンパーや関連システムの修理を行うときは、Honda 販売店にご相談ください。

❗ システムを正しく作動させるために、リヤバンパー側面は常にきれいにしてください。また、リヤバンパー側面にシールなどを貼らないでください。

パーキングセンサーシステム

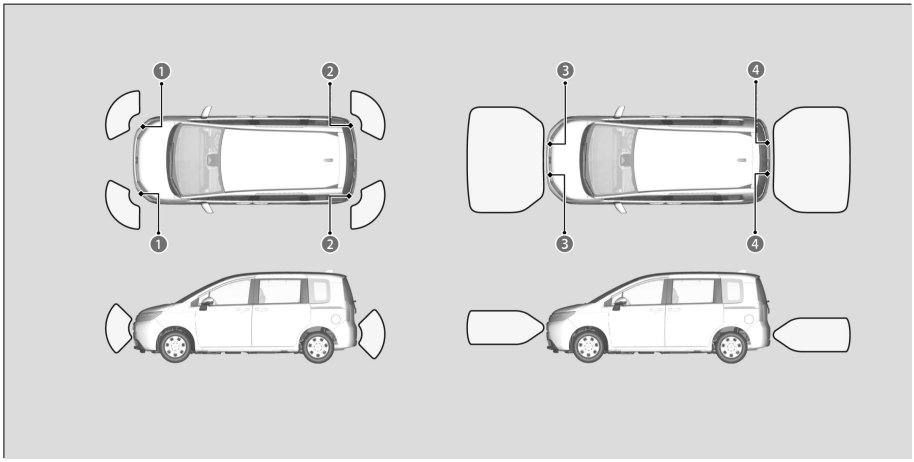
パーキングセンサーシステムについて

パーキングセンサーが障害物を検知し、障害物と車両の距離を警告音と表示で知らせます。

ソナーセンサー ▶P.191

駐車する前に車両の周りに障害物がないことを確認してください。

パーキングセンサーの取付位置と検知範囲



1. フロントコーナーセンサー
2. リアコーナーセンサー
3. フロントセンターセンサー
4. リアセンターセンサー

パーキングセンサーの ON/OFF

メーターでシステムの ON/OFF を切り換えることができます。

- エンジン始動時は、パワーモードを OFF する前の状態（ON または OFF）を保持します。

表示の切り換えかた ►P.271
安全支援情報 ►P.274

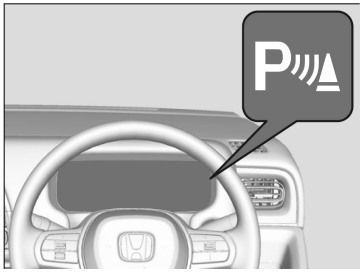
リアパーキングセンサーだけを OFF にすることもできます。リアパーキングセンサーを OFF にすると、後退中の踏み間違い衝突軽減システムは作動しません。

時計✤/車両設定 ►P.276
踏み間違い衝突軽減システムについて ►P.200

障害物を検知したときの作動

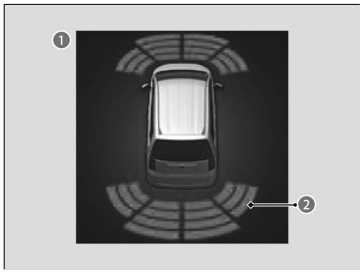
フロントコーナーセンサーおよびリアセンサーは、シフトポジションが R で、車速が 8km/h 以下のとき障害物を検知します。
フロントセンサーは、シフトポジションが P、R 以外で、車速が 8km/h 以下のとき障害物を検知します。

≫障害物との距離が近づくと前方カメラ✤の画像がディスプレイの画面✤に表示されます。障害物が検知されなくなると前の画面に戻ります。



パーキングセンサー警告灯が点滅します。

≫システムを OFF にしても障害物を検知するとパーキングセンサー警告灯のみが点滅します。



検知した場所をインジケーターでお知らせします。

❶ メーター表示
❷ インジケーター

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

▼ フォグライト非装備車

インジケーター色	警報音の間隔	障害物との距離	
		コーナーセンサー	センターセンサー
イエロー※	長い	—	フロント：約 73-61cm リア：約 111-71cm
オレンジ	短い	フロント: 約 57-45cm リア: 約 55-45cm	フロント：約 61-46cm リア：約 71-56cm
	非常に短い	約 45-35cm	フロント：約 46-36cm リア：約 56-46cm
レッド	連続	約 35cm 以下	フロント：約 36cm 以下 リア：約 46cm 以下

▼ フォグライト装備車

インジケーター色	警報音の間隔	障害物との距離	
		コーナーセンサー	センターセンサー
イエロー※	長い	—	フロント：約 85-74cm リア：約 111-61cm
オレンジ	短い	フロント: 約 54-45cm リア: 約 58-45cm	フロント：約 69-59cm リア：約 61-46cm
	非常に短い	約 45-35cm	フロント：約 59-49cm リア：約 46-36cm
レッド	連続	約 35cm 以下	フロント：約 49cm 以下 リア：約 36cm 以下

※：イエローのときは、センターセンサーのみが障害物を検知します。

警報音を一時的に OFF にするには、警報音がなっているときにレフトセレクターホイールを押してください。シフトポジションを切り替えるか 14km/h 以上で走行すると一時 OFF が解除されます。

パーキングセンサーの制限

次のようなときは、システムが正常に働かないことがあります。

- センサーが雪、氷、泥などで覆われているとき
- 車両が高温または低温の状況にあるとき
- 超音波や周波数の高い音を発するものが近くにあるとき
- 雨・霧・雪など悪天候のとき

次のようなときは、システムが障害物を検知できないことがあります。

- 障害物が細いとき、または低いとき
- 雪、布、スポンジなど吸音しやすい材質があるとき
- バンパーの真下に障害物があるとき

次のようなときは、システムが誤って障害物を検知することがあります。

- 凸凹な路面や、草地、段差があるとき
- 他の車両のソナーセンサーなど、超音波を発するものが付近にあるとき
- 大雨などによりセンサー付近に水しぶきがかかったとき

! センサーの近くにアクセサリーを取り付けないでください。

メーターについて

警告灯と表示灯

警告灯と表示灯一覧……260
警告灯が点灯/点滅したときは…… 261

メーター

メーターの種類…… 267

マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイについて
…… 271
表示について……271

警告灯と表示灯

警告灯と表示灯一覧

※1 ブレーキ警告灯（レッド） P.262	※1 ブレーキシステム警告灯（オレンジ） P.262	※1 12V バッテリー充電警告灯 P.262	シートベルト非着用警告灯 P.262	※1 エアバッグシステム警告灯 P.263
※1 PGM-FI 警告灯 P.263	燃料残量警告灯 P.263	※1 ABS（アンチロックブレーキシステム）警告灯 P.263	※1 VSA（ビークルスタビリティアシスト）警告灯 P.264	※1 VSA OFF 警告灯 P.264
※1 EPS（電動パワーステアリング）システム警告灯 P.264	パーキングセンサー警告灯 P.264	インフォメーション表示灯 P.278	トランスミッション警告灯 P.264	シフトポジション表示灯 P.128
※1 オートマチックブレーキホールドシステム表示灯 P.134	※1 オートマチックブレーキホールド表示灯 P.134	急アクセル抑制機能表示灯✤ P.206	ECON モード表示灯 P.152	クルーズコントロール表示灯（ホワイト/グリーン） P.226
方向指示器表示灯 P.137	非常点滅表示灯	ライト点灯表示灯 P.137	※1 オートハイビーム表示灯✤ P.139	※1 アダプティブドライビングビーム表示灯✤ P.142

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

フォグライト点灯表示灯✤ P.139	ハイビーム表示灯 P.138	※1 渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール（ACC）警告灯（オレンジ） P.265	渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール（ACC）表示灯（ホワイト/グリーン） P.220	※1 車線維持支援システム（LKAS）警告灯（オレンジ） P.265
車線維持支援システム（LKAS）表示灯（ホワイト/グリーン） P.233	※1 衝突軽減ブレーキ（CMBS）警告灯（オレンジ） P.265	衝突軽減ブレーキ（CMBS）表示灯（グレー） P.274	※1 路外逸脱抑制機能警告灯（オレンジ） P.265	路外逸脱抑制機能表示灯（グレー） P.274
路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯 P.265	※1 安全支援情報警告灯（オレンジ） P.266	安全支援情報表示灯（グリーン/グレー） P.274	イモビライザーシステム表示灯 P.48	セキュリティアラームシステム作動表示灯 P.49

※1: これらの警告灯と表示灯は、パワーモードを ON モードにしたときに点灯し、エンジン始動後または、数秒後に消灯します。点灯しない場合や消灯しないときは、システム異常のおそれがありますので、取扱説明書の指示に従い対処してください。

警告灯が点灯/点滅したときは

警告灯は、車両状態に応じて点灯/ 点滅します。 点灯/ 点滅と同時にメッセージが表示されることがあります。メッセージの内容に従い Honda 販売店で点検を受けてください。
走行できないメッセージが表示されている場合は、ただちに安全な場所に停車し、Honda 販売店にご連絡ください。
12V バッテリー再接続後、複数の警告灯が点灯し「システム初期化中です」と表示した場合は、車速 20km/h 以上でしばらく走行してください。警告灯が消灯しないときは Honda 販売店で点検を受けてください。

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

ブレーキ警告灯（レッド）

パーキングブレーキをかけると点灯
ブレーキフルード量が低下したときに点灯
≫ただちに安全な場所に車を停めてください。
ボンネット内のメンテナンス項目 ▶P.283
≫ブレーキペダルを軽く踏んで、ペダルの圧力を確認してください。ブレーキペダルに抵抗がない場合は、必要に応じてギヤを落とし、安全な場所に車を停めてください。

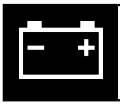
ブレーキシステムが異常のときに点灯
電子制御パーキングブレーキが異常のときに点滅
≫パーキングブレーキを使用しないでください。
≫パーキングブレーキが作動していない可能性があるため、車両が動き出さないように、シフトポジションを P にしてください。

- 電子制御パーキングブレーキを短時間にくり返し操作するとシステムの過熱防止のために作動が停止し警告灯が点滅します。約 1 分経過すると元に戻ります。

ブレーキシステム警告灯 （オレンジ）

ブレーキに関係するシステムが異常のときに点灯
≫点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されています。

電子制御パーキングブレーキシステム、オートマチックブレーキホールドシステムが異常のときに点灯
≫パーキングブレーキを使用しないでください。



12V バッテリー充電警告灯

充電システムに異常があるときに点灯

シートベルト非着用警告灯

シートベルトを着用していないときに点灯もしくは点滅
≫すみやかにシートベルトを正しく着用してください。

- リアシートはシートベルトを外すと点灯もしくは点滅し、しばらくすると消灯します。
- シートベルトを正しく着用していても警告灯が点灯もしくは点滅する場合は、センサーの誤検知などの要因が考えられるため、Honda 販売店に修理を依頼してください。
- 各シートの着用状況は、マルチインフォメーションディスプレイで確認することができます。
表示の切り換えかた ▶P.271

エアバッグシステム警告灯

エアバッグシステム、シートベルトプリテンショナーシステムが異常のときに点灯
エアバッグについて ▶P.38

PGM-FI 警告灯

エンジンの排気ガス制御システムに異常があると点灯
- PGM-FI 警告灯が点灯したまま運転すると、排気ガス制御システムとエンジンを損傷する場合があります。

エンジン各気筒の失火状態を検知したときに点滅
≫枯草などの可燃物のない安全な場所に停車し、10 分以上エンジンを停止して冷えるまでお待ちください。

燃料残量警告灯

燃料の残量が少なくなった（2WD 車はおよそ 6.3 リットル以下、AWD 車はおよそ 6.0 リットル以下）ときに点灯
燃料計に異常があるときに点滅

ABS（アンチロックブレーキシステム）警告灯

ABS が異常のときに点灯
- 点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されていますが、ABS は作動しません。 急ブレーキ時に車両が不安定になる可能性がありますので、高速走行や急ブレーキを避けてください。

VSA（ビークルスタビリティアシスト）警告灯

VSA が作動しているときは点滅
VSA システム、ヒルスタートアシストシステム、電子制御ブレーキアシスト、アジャイルハンドリングアシストのいずれかが異常のときに点灯

- 点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されています。

VSA OFF 警告灯

VSA を OFF にしたときに点灯

VSA（ビークルスタビリティアシスト） ▶P.153

EPS（電動パワーステアリング）システム警告灯

EPS システムが異常のときに点灯

≫安全な場所に停車し、エンジンを再始動してください。常時点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

パーキングセンサー警告灯

パーキングセンサーが障害物を検知したときに点滅

パーキングセンサーシステムについて ▶P.255

トランスミッション警告灯

トランスミッションが異常のときに点滅

渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール（ACC）警告灯（オレンジ）

渋滞追従機能付 ACC システムが異常のときに点灯

- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているときに点灯する場合があります。

車線維持支援システム（LKAS）警告灯（オレンジ）

LKAS が異常のときに点灯

- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているときに点灯する場合があります。

衝突軽減ブレーキ（CMBS）警告灯（オレンジ）

CMBS が異常のときやカメラ付近のフロントガラスの汚れなどで機能停止しているときに点灯

- 安全支援情報警告灯（オレンジ）が同時に点灯します。

安全支援情報警告灯（オレンジ） ►P.266

路外逸脱抑制機能警告灯（オレンジ）

路外逸脱抑制機能が異常のときやカメラ付近のフロントガラスの汚れなどで機能停止しているときに点灯

- 安全支援情報警告灯（オレンジ）が同時に点灯します。

安全支援情報警告灯（オレンジ） ►P.266

路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯

路外逸脱抑制機能の操舵アシストが一時停止しているときに点灯

路外逸脱抑制機能について ►P.210

安全支援情報警告灯（オレンジ）

安全支援システムが異常のときに点灯

安全支援情報 ►P.274

- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているときに点灯する場合があります。

パーキングセンサーが異常のときに点灯

≫パーキングセンサー周辺に泥、氷、雪などの付着物がないか確認してください。

パーキングセンサーシステムについて ►P.255

カメラの温度が高温になり、運転支援システムの一部が使用できなくなると点灯

フロントワイドビューカメラ ►P.189

雨、霧、雪などの悪天候や、夜間やトンネル内、夜明け、夕暮れなど周囲が暗いときなどのカメラ視界不良により、運転支援システムの一部が使用できなくなると点灯

- カメラ付近に遮蔽物があるときにも点灯します。

フロントワイドビューカメラ ►P.189

▼ ブラインドスポットインフォメーション装備車

ブラインドスポットインフォメーションのレーダーセンサーが汚れたときに点灯

≫安全な場所に停車してブラインドスポットインフォメーションのレーダーセンサー周辺の汚れをふき取ってください。

ブラインドスポットインフォメーションについて ►P.249

ブラインドスポットインフォメーションのレーダーセンサーの温度が高温のときに点灯

≫温度が下がるとシステムは復帰します。

▼ 共通

ソナーセンサーに遮蔽物があり、踏み間違い衝突軽減システムが使用できなくなると点灯

ソナーセンサー ►P.191

踏み間違い衝突軽減システムについて ►P.200

メーター

メーターの種類

❶ 水温計
❷ アンビエントメーター
❸ タコメーター
❹ スピードメーター
❺ 標識認識機能表示
❻ 燃料計
❼ 時計
❽ オドメーター
❾ 渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール（ACC）/車線維持支援システム（LKAS）/トラフィックジャムアシスト（渋滞運転支援機能）表示
❿ 外気温表示

スピードメーター

走行速度を表示します。

タコメーター

1 分間あたりのエンジン回転数を表示します。

- エンジン故障の原因となりますので限界回転数以上（レッドゾーン）に入らないよう運転してください。
- 特に、高速走行時にシフトダウンするときには、注意してください。
- シフトポジションが R のときや、空ぶかしをしたときは、エンジンの限界回転数より低い回転数でも、トランスミッション保護のため燃料供給が停止されます。

マルチインフォメーションディスプレイで「シンプル」を選択しているときはタコメーターは表示されません。

表示の切り換えかた ►P.271

燃料計

燃料の残量を表示します。

- 燃料計が E に近づいたら、早めに給油してください。
- 燃料がなくなるとエンジンが点火しなくなり、触媒装置を損傷することがあります。
- 少量給油（約 5 リットル以下）を行ったときや車両の状況によっては、実際の燃料残量と、メーターに表示される量は異なる場合があります。

アンビエントメーター

運転の状態を表示します。省燃費状態の時はアンビエントメーターの色が緑色に変化します。

水温計

エンジン冷却水の温度を表示します。通常は H のマークまで上がらない状態で走行します。
水温計が H のマークを示した場合、オーバーヒートのおそれがあります。ただちに安全な場所に停めて、エンジンを冷やしてください。

オーバーヒートしたときの対処方法 ►P.330

外気温表示

外気温を表示します。

パワーモードを ON モードにしたとき、外気温が 3℃以下の場合は、外気温低下メッセージがホワイトで表示されます。
運転中に外気温が 3℃以下に低下した場合は、外気温低下メッセージがオレンジで表示されます。

- 温度センサーはフロントバンパー付近に付いています。
- 速度がおよそ 30km/h 以下のときは、表示される温度が、自車、周囲の車、路面の熱の影響を受けることがあります。また、温度の読み取り値が安定するまで更新されないため、温度表示の更新に数分かかることがあります。

メーターに表示される温度を補正することができます。
時計*/車両設定 ▶P.276

標識認識機能表示

走行中に認識した道路標識情報を表示します。
認識した最高速度の道路標識に対して、速度超過したときは点滅してお知らせします。
標識認識機能について ▶P.245

渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール（ACC）/車線維持支援システム（LKAS）/ トラフィックジャムアシスト（渋滞運転支援機能）表示

渋滞追従機能付 ACC/LKAS/トラフィックジャムアシストの現在の状態を表示します。
渋滞追従機能付 ACC について ▶P.219
LKAS について ▶P.231
トラフィックジャムアシストについて ▶P.237

オドメーター

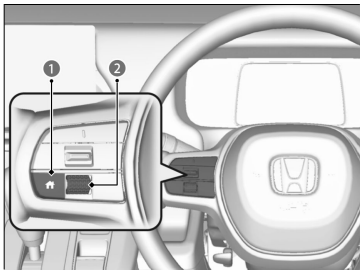
走行距離の累計を表示します。
マルチインフォメーションディスプレイで「シンプル」を選択しているときはオドメーターは表示されません。
表示の切り換えかた ▶P.271

時計

時刻を表示します。

時計設定

マルチインフォメーションディスプレイに「時計設定」が表示されない場合は、時計は人工衛星からの情報を利用していますので、時刻合わせは不要です。
その他の設定については、装備されているナビゲーションもしくはオーディオの取扱情報をご覧ください。



パワーモードが ON モードでシフトポジションが P のときに、 スイッチを押します。
レフトセレクターホイールを回して表示を切り換え、レフトセレクターホイールを押して決定します。

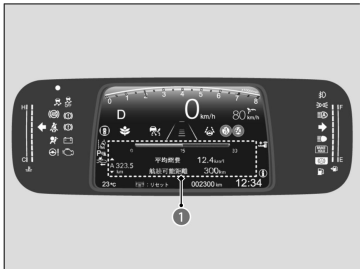
❶ スイッチ
❷ レフトセレクターホイール

[1] マルチインフォメーションディスプレイの「時計/車両設定」を選択する。
時計*/車両設定 ►P.276
[2] レフトセレクターホイールで「時計設定」を表示させ、決定する。
[3] レフトセレクターホイールで「時刻調整」を表示させ、決定する。
≫「時」の調整ができます。
[4] レフトセレクターホイールで希望の数値を表示させ、決定する。
≫「時」が設定され、「分」の調整ができます。
[5] レフトセレクターホイールで希望の数値を表示させ、決定する。
≫「分」が設定されます。

- 手順 3 で「12h/24h」を選択すると 12h/24h の切り替えができます。

マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイについて



❶ マルチインフォメーションディスプレイ

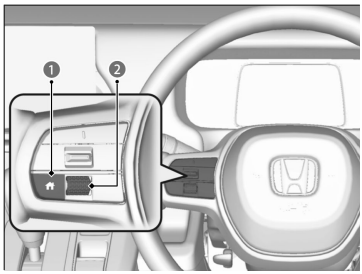
マルチインフォメーションディスプレイは、車両状態などの表示や、異常を検知すると警告メッセージが表示されます。
警告メッセージが表示された場合は、メッセージの内容を確認して必要に応じて Honda 販売店にご連絡し、点検を受けてください。
マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン油圧異常」または、「エンジン冷却水高温」が表示した場合は、下記を参照してください。

「エンジン油圧異常」の警告メッセージが表示された ▶P.332

オーバーヒートしたときの対処方法 ▶P.330

表示について

表示の切り換えかた



❶ スイッチ
❷ レフトセレクターホイール

スイッチを押し、レフトセレクターホイールを回すと表示が切り換わります。レフトセレクターホイールを押して決定してください。

- メーターに表示する機能を追加または削除することができます。

メーター表示設定 ▶P.278

シンプル

シンプルモードを選ぶことで、メーター表示を必要最小限に設定することができます。

航続可能距離

燃料残量と平均燃費をもとに推定航続可能距離を表示します。

- 表示される航続可能距離は、実際に航続可能な距離とは異なる場合があります。

平均燃費

トリップメーター A、B と連動し、それぞれの平均燃費を一定時間ごとに更新して表示します。

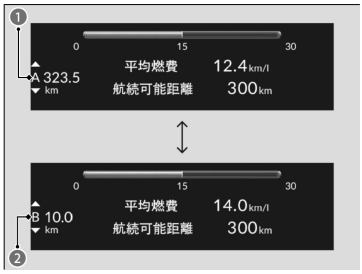
- 表示される平均燃費は実際に走行した燃費と異なる場合があります。
- 停車時または低速走行中にリセットした場合は、走行を始めてから燃費の計算を開始します。

瞬間燃費

瞬間燃費をバーグラフで表示します。

❶ 瞬間燃費

トリップメーター



リセットしてからの走行距離を表示します。
レフトセレクターホイールを回すと、トリップメーターの A、B が切り換わります。
トリップメーター A と、トリップメーター B があり、それぞれ独立して計測するため 2 つの走行距離を知ることができます。

❶ トリップメーター A
❷ トリップメーター B

- トリップメーターをリセットするには、リセットしたいトリップメーターが表示されている状態でレフトセレクターホイールを押し、「リセット」を選択してください。トリップメーターが 0.0 にリセットされます。 また、平均燃費表示、平均車速表示、経過時間表示も同時にリセットされます。
- トリップメーターは走行距離が 9999.9km を超えると、0.0km に戻ります。

トリップメーターを給油と連動させて自動的にリセットさせることができます。
時計✤/車両設定 ▶P.276

平均車速

トリップメーター A、B をリセットしてからの平均車速を表示します。

経過時間

トリップメーター A、B をリセットしてからの経過時間を表示します。
- 経過時間表示は 999 時間 59 分まで表示できます。

オーディオ✤

各種音楽メディアの表示を行います。

電話✤

ハンズフリー電話の表示を行います。

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

ナビゲーション✤

コンパス

コンパスが表示されます。

交差点案内表示

ナビゲーションシステムによるルート案内の際に、交差点や分岐点などで進路案内を表示します。

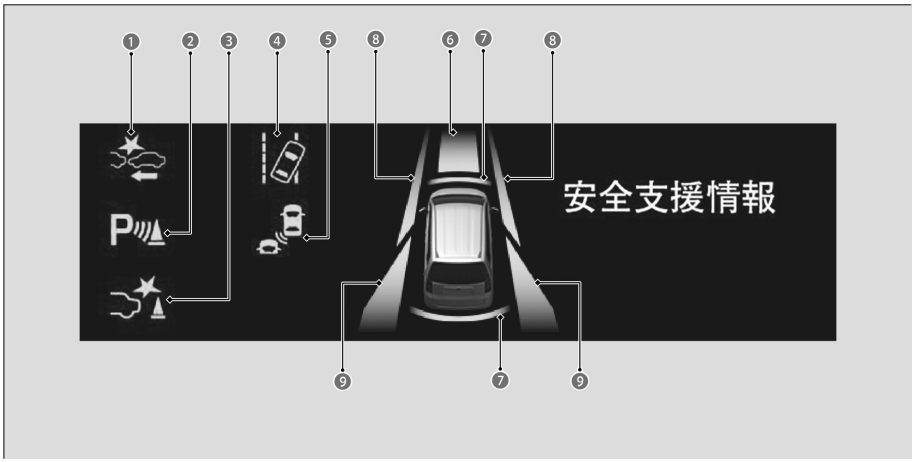
交差点案内表示の ON/OFF を設定することができます。
時計✤/車両設定 ▶P.276

全席シートベルト

全席シートベルトの使用状況を表示します。
シートベルトリマインダー ▶P.85

安全支援情報

安全支援情報は、以下のシステムの作動状態を表示します。
- グリーン：作動中
- グレー：停止中
- オレンジ：システムが異常のとき



❶ 衝突軽減ブレーキ

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

❷ パーキングセンサー警報
❸ 踏み間違い衝突軽減システム
❹ 路外逸脱抑制機能
❺ ブラインドスポットインフォメーション✤
❻ 衝突軽減ブレーキ作動状態
❼ パーキングセンサー警報作動状態/踏み間違い衝突軽減システム作動状態
❽ 路外逸脱抑制機能作動状態
❾ ブラインドスポットインフォメーション作動状態✤

- 各機能の ON と OFF を切り換えるには、レフトセレクターホイールを回して機能を選択し、次にレフトセレクターホイールを押して ON/OFF を切り換えます。

ブラインドスポットインフォメーションについて ►P.249
路外逸脱抑制機能について ►P.210
CMBS について ►P.193
踏み間違い衝突軽減システムについて ►P.200
歩行者事故低減ステアリングについて ►P.215
パーキングセンサーシステムについて ►P.255

- 歩行者事故低減ステアリングは、路外逸脱抑制機能が ON のときに作動します。
- すべての機能が ON のとき、安全支援情報表示灯がグリーンで点灯します。
いずれかが ON のときは、グリーン/グレーで点灯し、すべてが OFF のときはグレーで点灯します。
- 衝突軽減ブレーキが OFF のときは、衝突軽減ブレーキ（CMBS）表示灯（グレー）も点灯し、路外逸脱抑制機能が OFF のときは、路外逸脱抑制機能表示灯（グレー）も点灯します。
- オレンジで点灯したときは下記を参照してください。

衝突軽減ブレーキ（CMBS）警告灯（オレンジ） ►P.265
路外逸脱抑制機能警告灯（オレンジ） ►P.265
路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯 ►P.265
安全支援情報警告灯（オレンジ） ►P.266

- 踏み間違い衝突軽減システムがグリーンのときでも、「リアパーキングセンサー警報設定」を OFF にしている場合は、後退時の踏み間違い衝突軽減システムは作動しません。

時計✤/車両設定 ►P.276

- パーキングセンサー警報がグリーンのときでも、「リアパーキングセンサー警報設定」を OFF にしている場合は、後方のパーキングセンサーシステムは作動しません。

時計✤/車両設定 ►P.276

明るさ設定

メーターの明るさ設定を表示します。

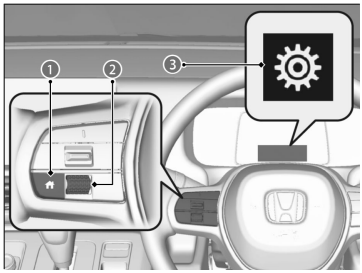
✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

レフトセレクターホイールを回して明るさ調整を行います。
明るくする：レフトセレクターホイールを上に回す
暗くする：レフトセレクターホイールを下に回す
レフトセレクターホイールを押すと設定が完了します。

- 車外の明るさに応じて、メーター内の照明の明るさが自動で変化します。
  ≫周囲が暗いときは照明が暗くなる
  ≫周囲が明るいときは照明が明るくなる
- 周囲が明るいときも設定変更はできますが、画面の明るさが変わらないことがあります。

時計✤/車両設定

設定変更のしかた



パワーモードが ON モードでシフトポジションが P のときに、 スイッチを押し、レフトセレクターホイールを回して、 を選択します。レフトセレクターホイールを押したあと、レフトセレクターホイールを回して、設定を変更したい項目を選択してください。

❶ スイッチ
❷ レフトセレクターホイール
❸ マルチインフォメーションディスプレイ

設定項目

時計設定✤

時刻調整✤

時間（1 ～ 12※/0 ～ 23）、分（00 ～ 59）

12h/24h✤

24h、12h※、非表示

運転支援システム設定

CMBS 警報距離

遠め、標準※、近め

ACC 先行車検知音

有り、無し※

先行車発進お知らせ設定

標準※、早め、OFF

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

路外逸脱抑制システム設定

アシストタイミング早め、アシストタイミング標準※、アシストタイミング遅め、操舵アシストなし警報のみ

レーンキープアシストシステム制御解除警報音

ON、OFF※

ブラインドスポットインフォメーション設定✤

警報音/警報表示※、警報表示

標識認識機能表示

ON※、OFF

標識認識機能速度超過お知らせ

注意喚起する※、注意喚起しない

標識認識機能速度超過量

+0km/h※、+5km/h、+10km/h、+15km/h

リアパーキングセンサー警報設定

ON※、OFF

メーター設定

外気温表示補正

-3 ℃～ ±0 ℃※ ～ +3 ℃

TRIP A 自動リセットタイミング

満タン給油時、IGN OFF 時、手動のみ※

TRIP B 自動リセットタイミング

満タン給油時、IGN OFF 時、手動のみ※

アラーム音量

大、中※、小

アンビエントメーター照明色変化設定

ON※、OFF

交差点案内表示✤

ON※、OFF

リアシートリマインダー

ON※、OFF

タイヤ角度モニター

ON※、OFF

Honda スマートキーシステム設定

アンサーバックブザー音量

大※、小

ドアハンドル操作アンサーバックブザー

作動※、非作動

ライティング設定

オートハイビーム✤

ON※、OFF

アダプティブドライビングビーム✤

ON※、OFF

インテリアライト点灯時間

60 秒、30 秒※、15 秒

デイタイムランニングライト

ON※、OFF

ワンタッチターンシグナル

ON※、OFF

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

ドア設定

降車時オートドアロック

作動、非作動※

キーレス アンサーバック

作動※、非作動

オートリトラミラー格納✤

キーレス連動※、手動のみ

予約ロック

ON※、OFF

エアコン設定✤

運転席シート空調連動

ON※、OFF

助手席シート空調連動

ON※、OFF

初期化設定

中止、実行

※：工場出荷時の設定

メーター表示設定

機能の表示/非表示をお好みに合わせて設定変更することができます。

[1]「メーター表示設定」の画面が表示されているときに、レフトセレクターホイールを回す。

[2] レフトセレクターホイールを回して表示または非表示にしたい機能を選択する。

[3] レフトセレクターホイールを押して決定する。

≫チェックマークが入っている項目は表示され、入っていない項目は非表示になります。

- 文字色がグレーの機能を非表示にすることはできません。
- 設定変更するときはシフトポジションを P にしてください。

警告メッセージ

警告メッセージがある場合は、警告メッセージが表示されます。

- 複数のメッセージがある場合は、 レフトセレクターホイールを回すとその他のメッセージが表示されます。
- 警告メッセージがある場合は、 ⓘ インフォメーション表示灯が点灯します。

タイヤ角度モニター

以下のとき、車速が約 15km/h になるまで、ハンドルの回転量とタイヤの角度に合わせ、タイヤの向きを 7 段階で表示します。

- ハンドル角度が左右 90 度以上で、パワーモードを ON モードにしたとき
- ハンドル角度が左右 90 度以上で、シフトポジションを D または S にしたとき
- シフトポジションを 1 秒以上 R にしたとき

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

タイヤ角度モニターの ON/OFF を選択することができます。

時計✤/車両設定 ▶P.276

メンテナンス

メンテナンスの前に

メンテナンスについて…… 281
メンテナンス時の備品や場所に関する注意事項…
…… 282
メンテナンス時の車に関する注意事項…… 282

ボンネット内のメンテナンス

ボンネット内のメンテナンス項目…… 283
ボンネットの開閉方法…… 284
推奨エンジンオイル……285
ウィンドウォッシャー液の補給方法…… 286

ワイパー

フロントワイパーブレードラバーの交換方法……
…… 287
リヤワイパーブレードラバーの交換方法…… 289

タイヤ

タイヤのメンテナンスについて……291
タイヤとホイールの交換について…… 294
冬期のタイヤ……294
タイヤのローテーション……295

エアコンのお手入れ

エアクリーンフィルターの交換方法…… 296

清掃

車内の清掃方法…… 298
車外の清掃方法…… 300

メンテナンスの前に

メンテナンスについて

道路運送車両法により、定期点検（法定点検）と日常点検が義務づけられています。正しい点検整備で、車を安全・快適にお使いください。
普段と違う点（音、におい、ブレーキフルードの不足、地面に油のあとが残っているなど）に気づいたら、Honda 販売店で点検を受けてください。
メンテナンスを行う際は、メンテナンスノートと下記の安全に関する注意事項をよくお読みのうえ、安全を確保して行ってください。
お客さま自身でメンテナンスを実施したときは、メンテナンス点検整備記録簿のメンテナンスレコードに記録してください。

定期点検（法定点検）

12 か月および 24 か月ごとに実施する点検です。法律で定められているものと、Honda が指定するものがあります。

日常点検

長距離走行前や洗車・給油時などに、お客様自身の判断で行う点検です。

その他

新車時の無料点検や定期交換、厳しい使われかたをしたときの点検整備があります。

- 作業に不慣れな場合や難しい場合は、Honda 販売店にご相談ください。

⚠警告

適切なメンテナンスを行い、走行前に故障がないようにする。

走行時に故障がある状態や、適切なメンテナンスがなされていないと、重大な傷害や死亡に至る事故を引き起こす可能性があります。必ず、取扱説明書に記載されている点検とメンテナンスに関する注意事項や別冊のメンテナンスノートに記載の点検時期を守ってください。

メンテナンスは、指示と注意事項を守って行う。

メンテナンスの指示と注意事項を守らないと重大な傷害や死亡のおそれがあります。

メンテナンス時の備品や場所に関する注意事項

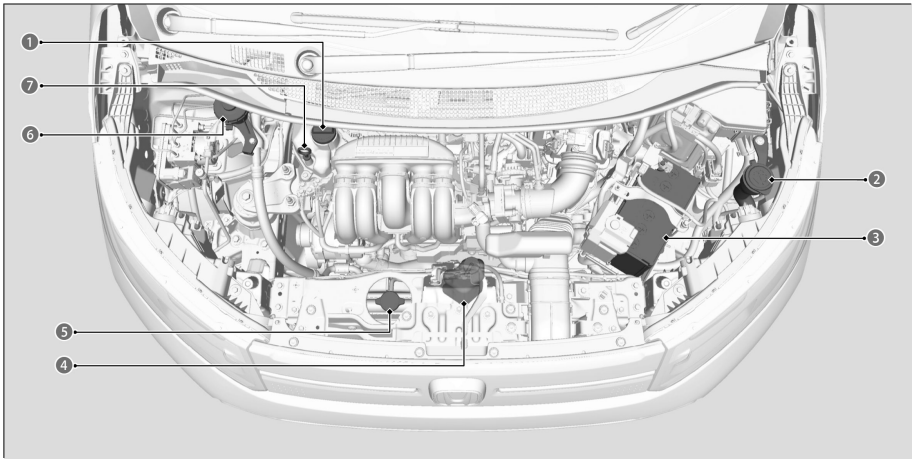
- タバコの火、火花、炎を引火性の液体やガスから遠ざけているか
- タオルや可燃物をボンネット内に置き忘れていないか
  ≫火災や爆発などの思わぬ事故につながるおそれがあります。
- エンジンを始動するときに十分な換気を行っているか
  ≫換気が十分でないと、排気ガスに含まれる一酸化炭素の毒作用で意識不明になったり、死亡するおそれがあります。

メンテナンス時の車に関する注意事項

- 冷却ファンが止まっているか
  ≫車両の状態によっては、パワーモードを OFF モードにしていても冷却ファンが作動することがあります。ボンネット内を点検するときは、冷却ファンに手や衣類が巻き込まれないように注意してください。
- エンジンと排気システムの各部が十分に冷えているか
  ≫エンジンルーム内の部品には高温になるものがあり、やけどをするおそれがあります。
- パワーモードを OFF モードにしているか
  ≫パワーモードを ON モードにしていると、エンジンが自動的に動き出し、可動部品によってけがをするおそれがあります。
- メンテナンスサービスを受けるときは、Honda 純正部品やオイル類を使用することをおすすめします。Honda 純正部品は、車で使われている部品と同じ高品質の基準に基づいて製造されているため、性能と耐久性の面で安心です。

ボンネット内のメンテナンス

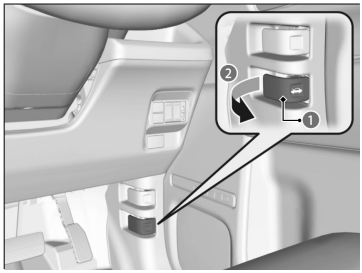
ボンネット内のメンテナンス項目



❶ エンジンオイル注入口※
❷ ウィンドウォッシャー液注入口
❸ 12V バッテリー※
❹ 冷却水リザーブタンク※
❺ ラジエーターキャップ※
❻ ブレーキフルードリザーブタンク※
❼ エンジンオイルレベルゲージ※

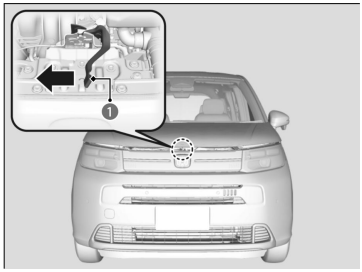
※: 点検整備については、別冊の「メンテナンスノート点検整備について」をご覧ください。

ボンネットの開閉方法



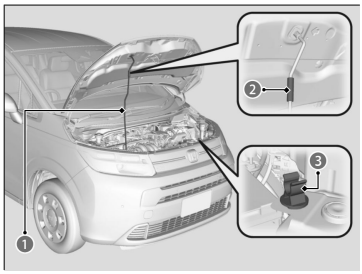
[1] ボンネット解除ノブを引く。
≫ボンネットが少し浮き上がります。

❶ ボンネット解除ノブ
❷ 引く



[2] ボンネット中央のレバーを左に押し、ボンネットを開ける。

❶ レバー



[3] ステーのグリップを持って、クランプから取り外し、ボンネットにかける。

❶ ステー
❷ グリップ
❸ クランプ

- 車を停め、パーキングブレーキをかけた状態で作業してください。
- ボンネットを閉める場合は、約 30cm の高さから手を離して閉めてください。
- ボンネットを閉めたときは、ボンネットが確実にロックされていることを確認してください。

⚠警告

ステーの金属部分は、エンジンから発生する熱により非常に熱くなります。

やけどを負うおそれがあるので、必ずグリップを持って使用する。

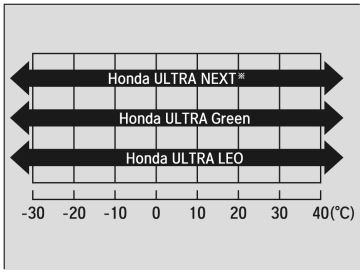
⚠注意

ボンネットを閉めるときは、手などをはさまないように注意する。

ワイパーアームを起こした状態で、ボンネットを開けないでください。
ボンネットがワイパーに当たり、ボンネットやワイパーが損傷するおそれがあります。

推奨エンジンオイル

純正および市販のエンジンオイルは、種類と外気温に応じた粘度について以下の表にもとづきお使いください。

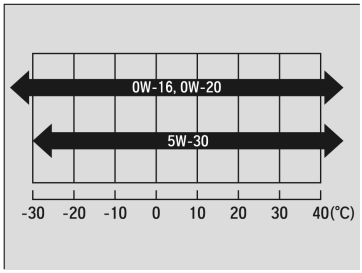


<純正エンジンオイル>

Honda 純正油

- Honda ULTRA NEXT※
- Honda ULTRA Green
- Honda ULTRA LEO

※: 最も省燃費性に優れた Honda 純正オイルです。



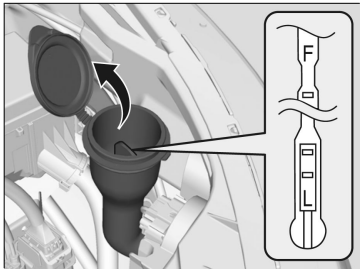
<市販エンジンオイル>

API SN 級以上か
オイル缶に API CERTIFICATION（エーピーアイサーティフィケーション）マークの入ったエンジンオイル
ACEA A5/B5

API CERTIFICATION（エーピーアイサーティフィケーション）マークは左記のとおりです。

- エンジンオイルは、量が少なかったり劣化したものを使用していると、エンジンの不調や破損につながることがあります。
- 冬期はエンジンオイルの劣化が激しくなります。冬期に主として短距離、市街地を運転する場合は、早めに交換してください。

ウィンドウォッシャー液の補給方法



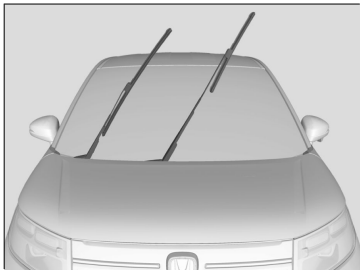
ウォッシャー液が減っていた場合は、ウォッシャー液を補給してください。
ウォッシャー液の量は、ウォッシャー液レベルゲージで確認します。

- ウォッシャー液以外の液体を、タンクに入れないでください。
- ウォッシャー液は必要に応じて水（軟水）で薄めてください。
- 冬期はウォッシャー液の凍結を防ぐため、ウォッシャー液の濃度を上げてください。

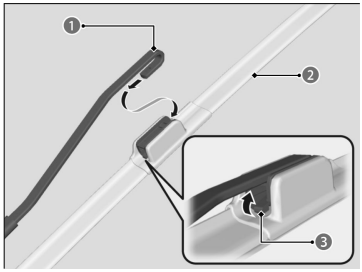
ワイパー

フロントワイパーブレードラバーの交換方法

ウィンドーガラスに拭きムラがでたり、傷ついたりする場合は、ワイパーブレードラバーを交換してください。

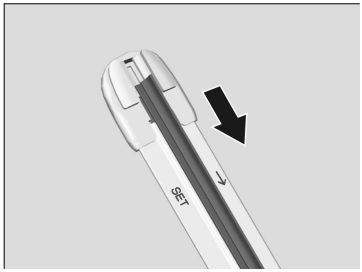


[1] 運転席側、助手席側の順にワイパーアームを起こす。

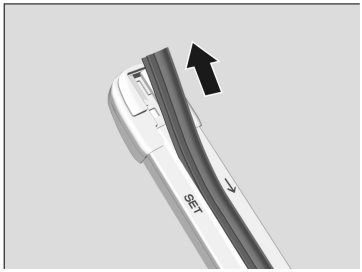


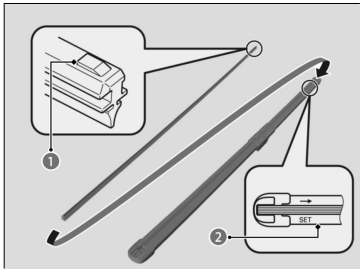
[2] ノブを押し上げながら、ワイパーアームからブレードをスライドさせて外す。

❶ アーム
❷ ブレード
❸ ノブ



[3] ラバーのストッパーがブレードのツメから外れるまで引き、ラバーをブレードから引き抜く。



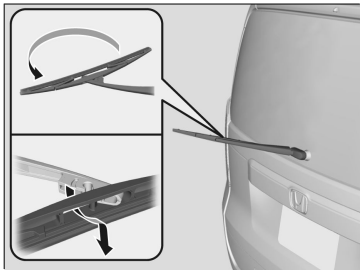


[4] ラバーの突起部のない側をブレードに沿って差し込み、ブレードをワイパーアームに取り付ける。

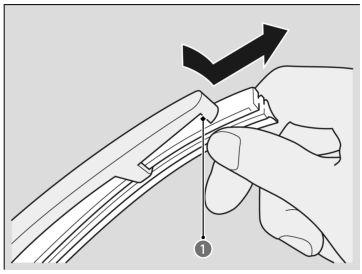
❶ 突起部
❷ ブレード

- ラバーの突起部がブレード先端の溝に挿入されるまで差し込んでください。
- 交換後は、ワイパーアームを戻してください。
- ブレードをワイパーアームに取り付けた後、正しく固定されているか確認してください。
- ブレードを外した状態でワイパーアームが倒れると、ガラスが損傷するおそれがあります。
- ワイパーアームを起こした状態でボンネットを開けたりワイパーを作動させたりすると、ボンネットとワイパーアームを損傷します。

リヤワイパーブレードラバーの交換方法

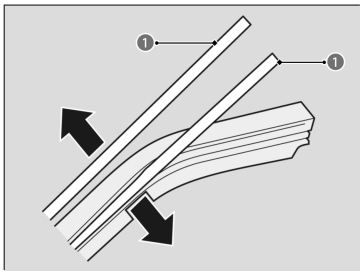


[1] ワイパーアームを起こす。
[2] ブレードを回転させ、アームのホルダー部からブレードを引き抜いて取り外す。



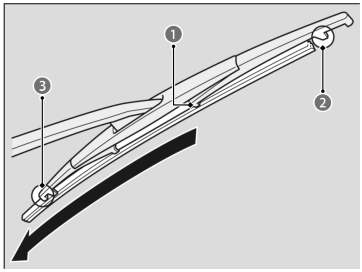
[3] ラバーの先端部をブレードのストッパーから外れるまで引き、そのままラバーをブレードから引き抜く。

❶ ストッパー



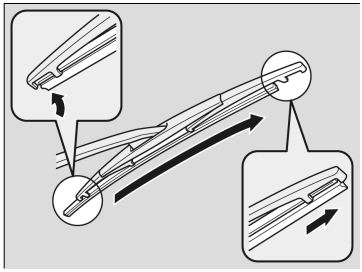
[4] 引き抜いたラバーからリテーナーを外し、新しいラバーに取り付ける。

❶ リテーナー



[5] ラバーをブレードの 2 番目のツメからブレードに沿って差し込み、ラバーをブレードのストッパーから約 2cm 引き出す。

❶ 2 番目のツメ
❷ 先端のツメ
❸ ストッパー



[6] ブレードの先端のツメにラバーを通す。
[7] ブレードの先端のストッパーにラバーを戻して固定する。

- ワイパーアームを無理に持ち上げようとすると、ワイパーアームが破損するおそれがあります。
- ブレードを外した状態でワイパーアームが倒れると、ガラスが損傷するおそれがあります。

タイヤ

タイヤのメンテナンスについて

タイヤが摩耗・損傷していたり、適正な空気圧でないと、安全な走行ができないばかりか乗り心地も損なわれます。以下の条件を満たすために点検を行い、常にタイヤを最適な状態に保ってください。

安全な走行のために求められるタイヤの条件

- 種類とサイズが適正であること
- 接地面の状態が良好であること
- 空気圧が適正であること
- 摩耗、傷、亀裂、異物などがないこと

日常点検

乗車前に必ず行う点検です。状況によってはメンテナンスをしてください。

- タイヤがつぶれているように見えないか
  ≫つぶれているように見えたら、すぐに空気圧をチェックしてください。
- 激しい摩耗、傷、亀裂、異物はないか
  ≫状況に応じて、タイヤを交換してください。

空気圧測定器による点検

すべてのタイヤの空気圧を測定してください。空気圧が下がっている場合は、パンクを入念に調べます。
タイヤの指定空気圧は、運転席横の車体に貼ってあるラベル、もしくは下記を参照してください。

仕様について ▶P.347

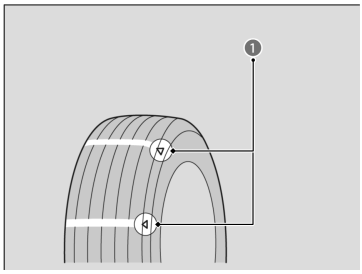
- タイヤの空気圧は、タイヤ温度が低いときに測定してください。空気圧の調整が必要な場合は、指定空気圧になるまで空気を注入または排出してください。

損傷、異物、摩耗の点検

- タイヤの接地面と側面の突起、膨らみが正常か
  ≫異常が見られた場合は、タイヤを交換する必要があります。
- タイヤ側面に、裂け目、亀裂がないか
  ≫裂け目や亀裂がある場合は、タイヤを交換する必要があります。

- 接地面とウェアインジケーター※が同じ高さになっていないか
  ≫接地面が摩耗して、ウェアインジケーターと同じ高さになったら、タイヤを交換する必要があります。

※: ウェアインジケーター（摩耗限界表示）



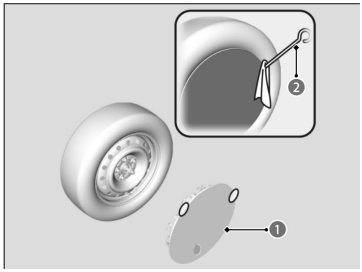
ウェアインジケーターはタイヤの接地面にあり、他の部分より溝が 1.6mm 浅くなっています。

❶ ウェアインジケーターの位置を示すマークの代表例

⚠警告

摩耗が激しいタイヤ、空気圧が適正でないタイヤを使用しない。
不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害や死亡に至る事故につながるおそれがあります。

ホイールカバー✤の脱着方法



❶ ホイールカバー
❷ ジャッキハンドルバー

ジャッキハンドルバー（別売り）または先端が平らな固い金属の棒の先を切り欠き溝に差し込み、タイヤ側にこじってホイールカバーを外す。

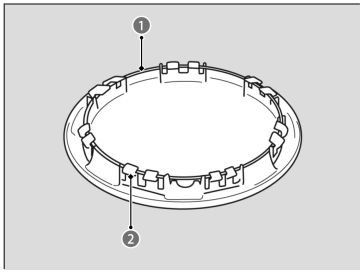
✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

≫ホイールカバーが傷付かないよう、ジャッキハンドルバーまたは先端が平らな固い金属の棒に布などを巻き付けてください。
≫場所を変えて 2、3 カ所繰り返すと楽に外れます。

⚠注意

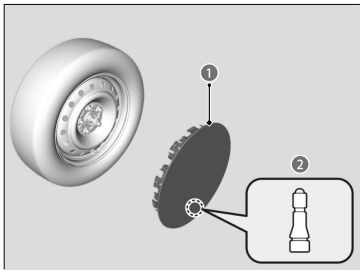
ホイールカバーを取り外すときは、手などをはさまないように十分注意する。

ホイールカバーを取り付ける前に、裏面の爪がリングに正しく組み付いていることを確認してください。 正しく組み付いていないとホイールカバーが外れる原因となります。また、爪が折れているときはホイールカバーを取り付けないでください。



❶ リング
❷ 爪

ホイールカバーを取り付けるときは、ホイールにあるタイヤバルブの位置にホイールカバーのバルブマークを合わせてから取り付けてください。



❶ ホイールカバー
❷ バルブマーク

タイヤとホイールの交換について

タイヤは、四輪とも指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。
同時にすべての 4 つのタイヤを交換することをお勧めします。それができない場合は、前輪または後輪タイヤの左右を一緒に交換してください。
ホイールの仕様が純正ホイールと同一のものか確認してください。

⚠警告

必ず、サイズと種類が適切なタイヤを使用する。
不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害や死亡に至る事故につながるおそれがあります。

冬期のタイヤ

雪道や凍結した道路を走行する場合は、スノータイヤやタイヤチェーンを装着し、速度を落として十分に車間距離を取って運転してください。また、横滑りの原因となりますのでハンドルやブレーキの操作は、特に慎重に行ってください。
スノータイヤおよびタイヤチェーンは、走行条件や法令により装着が必要とされた場合に使用します。

スノータイヤを装着する場合

四輪とも同じ種類、指定サイズのタイヤを選び、四輪すべてにスノータイヤを装着してください。

タイヤチェーンの場合

Honda 純正スチールチェーンを付属の取扱説明書にしたがって前輪に装着し、ブレーキラインやサスペンションと接触していないか確認してください。
また、チェーン装着時は 30km/h 以下でゆっくりと走行してください。

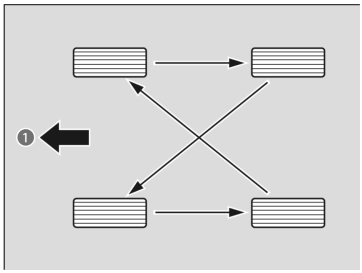
! タイヤサイズに適合したチェーンを装着してください。
サイズが不適切なチェーンを装着したり、装着のしかたが不適切だと、車のブレーキライン、サスペンション、ボディー、ホイールを損傷するおそれがあります。

乾燥路面ではタイヤチェーンを装着したまま走行するのは避けてください。タイヤチェーンの摩耗を早めます。

タイヤのローテーション

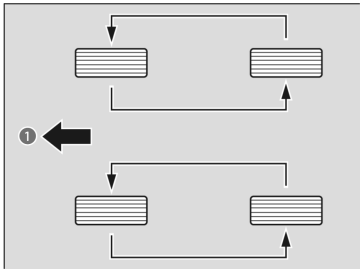
特定のタイヤが摩耗するのを防ぐために、5,000km 走行したときタイヤローテーションをしてください。

回転指示マークがないタイヤの場合



❶ 前

回転指示マークがあるタイヤの場合



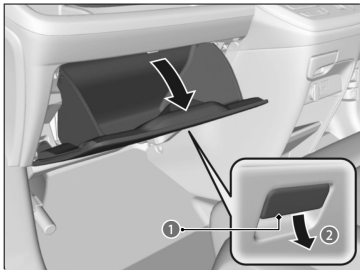
❶ 前

- 回転指示マークが前へ向くようにタイヤをローテーションさせます。
- 標準で装着されているタイヤのホイールナット締め付けトルクは 108N・m（11kgf・m）です。

エアコンのお手入れ

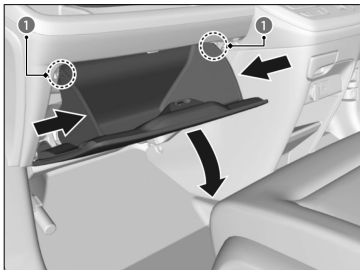
エアクリーンフィルターの交換方法

エアクリーンフィルターは、通常 1 年または 15,000 km ごとに交換してください。また、エアコンの風量が著しく減少したり、ガラスが曇りやすくなったと感じる場合は、フィルターを交換してください。



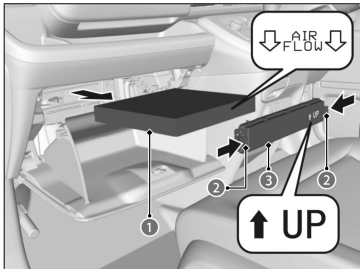
[1] グローブボックスを開ける。

❶ ノブ
❷ 引く



[2] グローブボックスの両側に付いているストッパーを内側に押し込み、グローブボックスを下ろす。

❶ ストッパー



❶ エアクリーンフィルター
❷ ツメ
❸ カバー

[3] 左右にあるツメを押しながら、エアクリーンフィルターケースのカバーを外す。
[4] エアクリーンフィルターを引き出す。
[5] 新品と交換する。
≫「AIR FLOW」マークの矢印が、下向きになるように取り付けます。

清掃

車内の清掃方法

内装の清掃は、掃除機で塵やほこりを取り除いてから汚れを落としてください。ぬるま湯に中性洗剤を溶かしたものを柔らかい布に軽く含ませ、固く絞って汚れを落とします。その後、真水を含ませたきれいな布で、洗剤分をきれいに落としてください。

室内に水をかけないでください。
室内の部品に水がかかると故障や、さびの原因となります。

オーディオ、スイッチなどの電装品にシリコン系のスプレーを塗布しないでください。
故障や車両火災の原因となるおそれがあります。万一、電装品にシリコン系のスプレーを塗布したときは、Honda 販売店にご相談ください。

ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤、酸、アルカリ性の溶剤は使用しないでください。
ケミカル類、液体芳香剤は成分により、樹脂部品、布材の変色、しみ、ひび割れなどを起こすおそれがあります。

ケミカル類を使用したあとは、必ず乾いた布で軽く拭き取り、使用した布をそのまま樹脂部品、布材の上に長時間放置しないでください。

シートベルトの清掃

ぬるま湯に中性洗剤を溶かしたものをブラシにつけて清掃し、その後空気乾燥させます。

ガラスの清掃

ガラスクリーナーなどで拭いてください。
前席ウィンドー（ドアガラス）の車内側に UV カット膜や IR カット膜がコーティングしてあります。水またはぬるま湯を含ませた布などで汚れを拭き取ってください。

リヤガラスは、ガラスの内側に電熱線が装着されています。傷付けないよう、これに沿って柔らかい布で拭いてください。

UV カット膜や IR カット膜を長持ちさせるために次のことをお守りください。

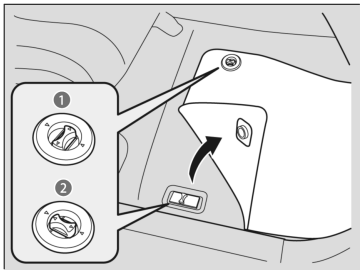
- 汚れがひどいときは、開閉をなるべく行わない
- みがき粉（コンパウンド）入りガラスクリーナーやワックス、洗剤等は使わない

ルームミラー周辺にある電子機器のカバーや周辺に水やガラスクリーナーなどの液体がかからないようにしてください。

フロアマット

運転席のフロアマットが前方にずれるのを防止するため、フロアアンカーで確実に固定してください。フロアマットの上に、他のフロアマットを重ねないでください。

フロアマット固定方法（例）



❶ 解錠
❷ 固定

他のフロアマットをご使用の際は、フロアアンカーでしっかりと固定できるものをご使用ください。
後席のフロアマットを使用する際は、正しく取り付けてください。

車外の清掃方法

走行後は、塗装面に付着したほこりなどを毛はたきなどで払い落としてください。飛び石などによる塗装面の傷は錆の原因になります。見つけたら早めに補修してください。

洗車

月に一度は洗車をするようにしてください。以下の場合は、必ず洗車をしてください。

- 凍結防止剤を散布した道路を走行したとき
- 海岸地帯を走行したとき
- コールタール、ばい煙、鳥のふん、虫、樹液などが付いたとき
- フェンダー内側の通気口に泥、雪、氷などの汚れがたまりやすい道路状況で走行したとき

! 故障の原因になるため、故意にボンネット内や空気取り入れ口に水をかけないでください。

! 洗車時に水やケミカル類がブレーキに付着した際は、走行してブレーキを数回かけてから駐車してください。
ブレーキが濡れたまま駐車しておくと、錆びて張り付くことがあります。

高圧洗浄機を使用する場合の注意点

- 洗車ノズルと車体の距離を十分に離す
- ドアガラスやドアまわりなど開閉部分を近づけすぎない
  ≫室内に水が入ることがあります。
- ボンネット内には水をかけない
- カメラやカメラ周辺には、直接水をかけない
  ≫レンズ内に水が入り、故障の原因となります。
- 塗装面に細かい傷が残ることがあるため、みがき粉（コンパウンド）入りのワックスは、使わないでください。ワックスは Honda 純正ケミカル用品をお使いください。

バンパーなどの樹脂塗装部品の清掃

樹脂塗装部品に、ガソリン、オイル、ラジエーター液、12V バッテリー液などが付着するとしみや塗膜はがれの原因となります。付着した場合は、すぐに柔らかい布で拭き取ってください。

- 樹脂塗装部品の補修をする場合は、Honda 販売店にご相談ください。不適当な塗料を使うと塗膜を傷めます。

ガラスの清掃

ガラスクリーナーなどで拭いてください。
はっ水ガラスは、前席ウィンドー（ドアガラス）にはっ水膜がコーティングしてあり、水滴をはじきます。水洗いするか、柔らかい湿った布などで拭き取ってください。ガラスクリーナーを使うと一時的に水はじきが悪くなることがありますが、水洗いをすれば元に戻ります。水はじきが悪くなったときは、Honda 販売店にご相談ください。

> **!** 水滴をはじく効果の持続時間には限りがあります。長持ちさせるために次のことをお守りください。
> - 泥などの汚れがひどいときは、開閉をなるべく行わない
> - 金属製のもので霜取りなどを行わない
> - 自動洗車機を使うときは、先に泥などの汚れを落とす

アルミホイール✤の清掃

アルミは塩分や汚れを嫌います。道路凍結防止剤や海水が付いたときは、柔らかい布やスポンジに中性洗剤を含ませ汚れを早めに落としてください。洗車後は、水が乾かないうちに拭きとってください。

> **!** この車専用のホイールをお使いください。
> 専用以外のホイールを使うと、走行装置やブレーキ装置に支障をきたすおそれがあります。ホイール交換は、Honda 販売店にご相談ください。

親水ミラー✤の清掃

雨天時の視認性向上のため、ミラー表面に付着した雨滴を膜のように広げる親水効果を持つコーティングを施しています。
ミラー表面に汚れなどが付着して親水効果が低くなったときは、以下の手順を行うことにより効果が回復します。

[1] ミラー表面を水洗いし、汚れを落とし、水を含ませたきれいな布で拭き取る。
≫汚れが落ちない場合は純正ガラスクリーナーや家庭用中性洗剤を使用し、しっかりと洗い流してください。

[2] 5〜9 時間ほどミラー表面に太陽光を当てる。

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

ミラーの親水効果が失われますので、以下の点にご注意ください。

- ミラー表面に撥水剤やワックスを付着させない
- 砂の付いた布や油膜取り剤（コンパウンドなど）でミラー表面をこすらない

万一の場合には

工具、発炎筒

工具の種類……304
発炎筒……305

電球が切れたとき

LED 車外灯について……307
電球の交換方法……307

スマートキーの電池が切れたとき

スマートキーの電池交換方法……309

パンクしたとき

パンクしたときの対処方法……311
タイヤの応急修理方法……314
空気圧の補充方法……319

ジャッキの取り扱い

ジャッキのかけかた……321

エンジンが始動しない

確認事項……323
スマートキーの電池が切れたときの始動方法……324
緊急時のエンジンの停止方法……324
緊急時のエンジン始動方法……324

12V バッテリーがあがったとき

ジャンプスタートの方法……326
ジャンプスタート後の作業……327

シフトレバーが動かない

ロックを解除する……329

オーバーヒートしたとき

オーバーヒートしたときの対処方法……330

異常が起きたとき

「エンジン油圧異常」の警告メッセージが表示された……332

ヒューズが切れたとき

ヒューズの確認方法……333
ボンネット内のヒューズボックス A……333
ボンネット内のヒューズボックス B……334
室内運転席右側のヒューズボックス……335
室内運転席左側のヒューズボックス……337
ヒューズの点検と交換方法……339

けん引したいとき

けん引について……340

テールゲートが開かないとき

テールゲートが開かないときの対処方法……343

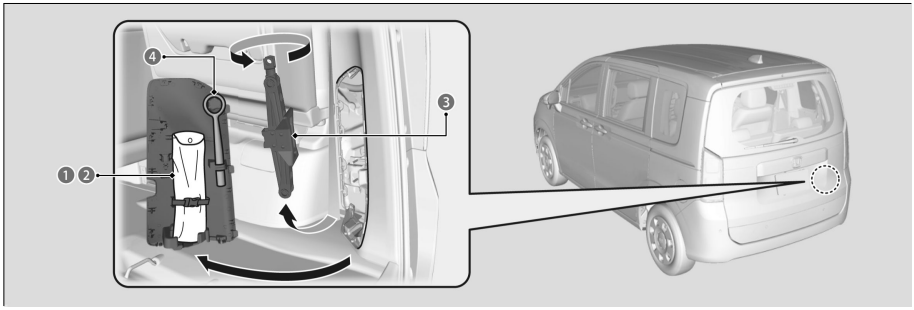
緊急時や車両トラブルのとき

緊急通報……344
トラブルサポート……345

工具、発炎筒

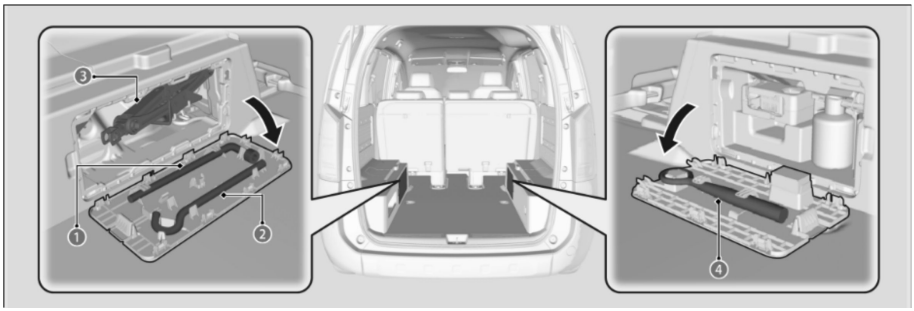
工具の種類

▼ 3 列仕様車



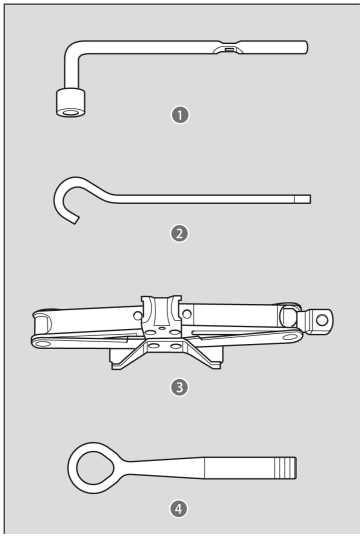
❶ ホイールナットレンチ（兼ジャッキハンドル）（別売り、ツールバッグ収納）
❷ ジャッキハンドルバー（別売り、ツールバッグ収納）
❸ ジャッキ（別売り）
❹ アイボルト（けん引用）

▼ 2 列仕様車



❶ ホイールナットレンチ（兼ジャッキハンドル）（別売り）
❷ ジャッキハンドルバー（別売り）
❸ ジャッキ（別売り）
❹ アイボルト（けん引用）

▼ 共通



❶ ホイールナットレンチ（兼ジャッキハンドル）（別売り）
❷ ジャッキハンドルバー（別売り）
❸ ジャッキ（別売り）
❹ アイボルト（けん引用）

工具はカーゴスペース内に収納できます。

発炎筒

高速道路や踏切などの危険な場所で故障したときに使います。発炎筒に記載されている次のことをよく読んであらかじめ確認しておいてください。

- 使い方
- 使用上の注意
- 発炎時間
- 有効期限

⚠警告

ガソリンなどの燃えやすいもののそばで使わない。

火災や爆発のおそれがあります。

⚠注意

発炎筒を使うときは、以下のことに注意する。

- お子さまにさわらせないでください。いたずらなどにより発炎筒が発火して思わぬ事故ややけどの原因になります。
- 顔や身体に向けないでください。思わぬ事故ややけどの原因になります。
- トンネル内では視界を悪くするので使用しないでください。トンネル内では非常点滅表示灯を使ってください。

電球が切れたとき

LED 車外灯について

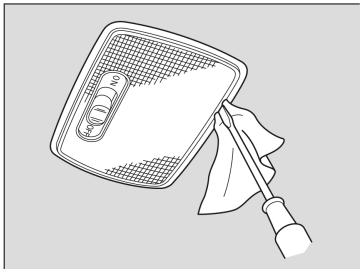
下記のライトは LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

- ヘッドライト
- 前面方向指示器/ 前面非常点滅表示灯
- デイタイムランニングライト/ 車幅灯
- アクティブコーナリングライト✤
- フォグライト✤
- 側面方向指示器/側面非常点滅表示灯
- 制動灯
- 尾灯
- 番号灯
- ハイマウントストップランプ
- 後面方向指示器/ 後面非常点滅表示灯
- 後退灯

電球の交換方法

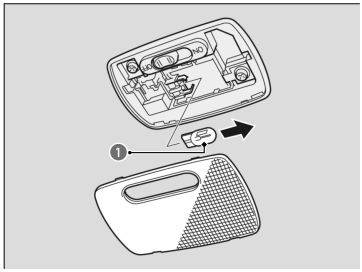
室内灯/カーゴスペース照明灯✤/テールゲート照明灯✤

交換する場合は、**「12V ー 8W」**の電球をご使用ください。



［1］ランプ本体にマイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。



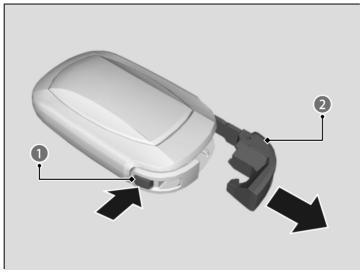
［2］古い電球（❶）を抜き取り、新しい電球を差し込む。

- ランプが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。

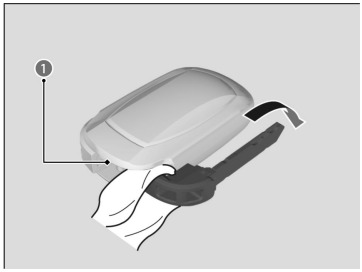
スマートキーの電池が切れたとき

スマートキーの電池交換方法

ボタンを押したときにインジケーターが点灯しない場合は、電池を交換してください。



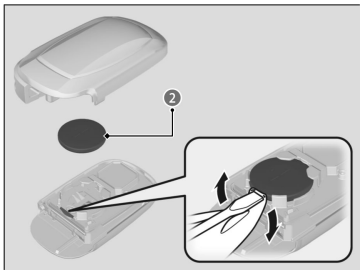
[1] ボタン（❶）を押しながら、内蔵キー（❷）を取り出す。



[2] ボタンを下にしてカバー（❶）を外す。

≫内蔵キーのグリップを差し込んで回します。

[3] ＋ と- を間違えないよう、電池※（❷）を交換する。



※電池は「ボタン電池：CR2032」をご使用ください。

- 電池交換の際は、破損などのおそれがあるため、Honda 販売店での交換をおすすめします。
- カバーに傷が付かないように、内蔵キーのグリップに布などを巻いてカバーを取り外してください。
- ケースに傷が付かないように、マイナスドライバーに布などを巻いて電池を取り外してください。

- 電池交換の際は、カバーを確実に取り付けてください。確実に取り付けられていないと、耐水性能の低下や故障の原因となります。
- 電池は Honda 販売店または時計店、カメラ店などでお求めください。

⚠警告

ボタン電池は、お子さまが飲み込まないように注意する。

重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。飲み込んだ時は、ただちに医師の診察を受けてください。

パンクしたとき

パンクしたときの対処方法

スペアタイヤの装備はありません。タイヤの損傷が激しい場合は、車両をけん引する必要があります。単にタイヤに小さな穴がある場合、永久的な修理をするために最寄りの販売店へ運転することができるよう、損傷を一時的に補修するタイヤパンク応急修理キットで応急修理ができます。

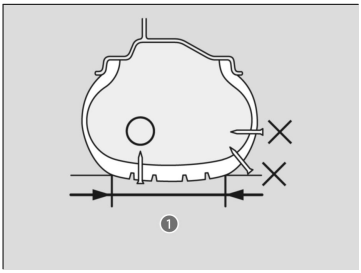
車の停車方法

パンクしたときは、ハンドルをしっかり握り徐々にブレーキをかけてスピードを落とし安全な場所に停車してください。

[1] 地面が固く、滑らない、水平なところに車を停める。
[2] シフトポジションを P に入れ、パーキングブレーキをかける。
[3] 非常点滅表示灯を点滅させ、パワーモードを OFF モードにする。

! 以下のような場合、タイヤパンク応急修理キットは使用できません。Honda 販売店またはロードサービスにご連絡ください。

- 応急修理剤の有効期限が切れているとき
- タイヤが 2 本以上パンクしているとき
- 約 4mm 以上の切り傷や刺し傷によるパンクのとき
- 路面接地部以外が損傷を受けパンクしたとき
- ほとんど空気が抜けた状態で走行したとき
- ホイールが破損または外れているとき



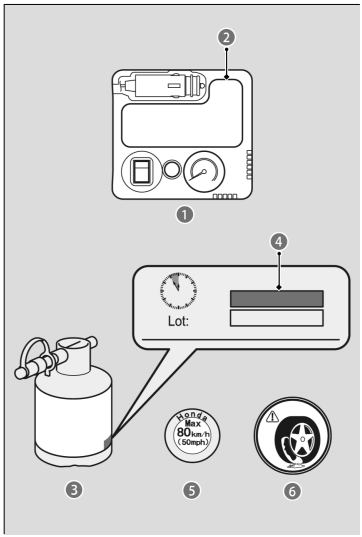
❶ 接地面

タイヤに刺さったクギなどは抜かないでください。
抜いてしまうと、タイヤパンクの応急修理キットでは応急修理が不可能になるおそれがあります。

応急修理したタイヤで走行し続けないでください。
応急修理は、最寄りの販売店で本格的な修理をするために車両を移動する目的以外では使用しないでください。

タイヤの応急修理方法（事前準備）

タイヤパンク応急修理キット



❶ エアコンプレッサー(PUMP)
❷ ラベル
❸ タイヤパンク応急修理剤(BOTTLE)
❹ 有効期限年月 MM／YYYY
(M：月、Y：年)

❺ 速度制限シール
❻ タイヤパンク応急修理剤注入済みシール

▼ 3 列仕様

- エアコンプレッサーやタイヤパンク応急修理キットを収納袋に収納する際は、エアコンプレッサーを「PUMP」、タイヤパンク応急修理剤を「BOTTLE」と書かれた位置に収納してください。
- 収納袋は収納袋に記載された矢印を車両前方に向け、ベルトが収納袋の中央にくるように取り付けてください。

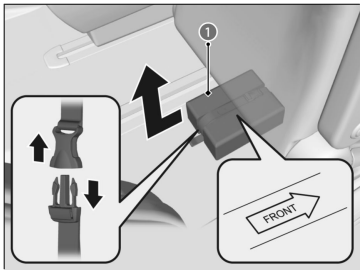
▼ 共通

- 応急修理をスムーズに行うため、タイヤパンク応急修理キットに付属のラベルをお読みください。

コンプレッサーを使用する際は、以下の点に注意してください。

- 降雨時などは水がかからないようにしてください。
- 砂埃などを吸い込むと故障の原因になるため砂地など砂埃の多い場所に直接置いて使用しないでください。
- オイルや潤滑油などを注油しないでください。
- 分解、改造などは絶対にしないでください。
- 衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

タイヤパンク応急修理キットの取り出し方

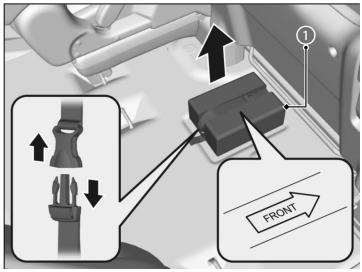


▼ 3 列仕様セカンドキャプテンシート装備車

[1] 運転席側のセカンドシートを前方いっぱいまで動かす。

セカンドキャプテンシート*の調整方法 ▶P.67

[2] タイヤパンク応急修理キット（❶）を取り出す。

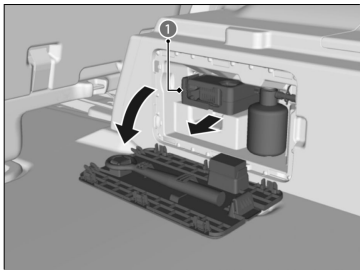


▼ 3 列仕様セカンドベンチシート装備車

[1] 運転席側のセカンドシートをはね上げる。

セカンドベンチシートのはね上げかた ▶P.70

[2] タイヤパンク応急修理キット（❶）を取り出す。

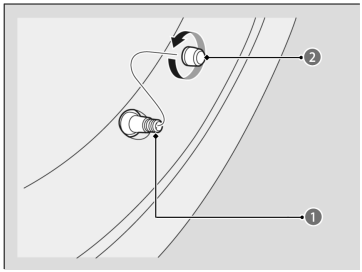


▼ 2 列仕様

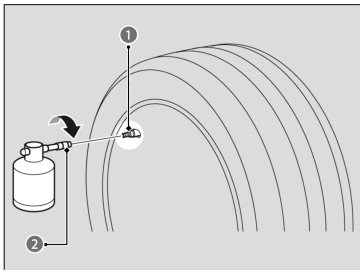
[1] カーゴスペース右側のリッドを開ける。

[2] タイヤパンク応急修理キット（❶）を取り出す。

タイヤの応急修理方法



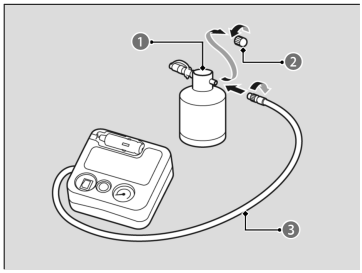
[1] バルブ（❶）からバルブキャップ（❷）を取り外す。



[2] 応急修理剤のボトルをよく振る。

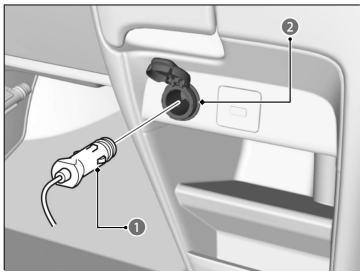
[3] タイヤのバルブ（❶）にボトルホース（❷）をきつく締め付ける。

≫応急修理剤がすべてタイヤに流れ込むようにボトルを垂直にする。



[4] ボトルアダプター（❶）からボトルキャップ（❷）を外す。

[5] ボトルアダプター（❶）にエアコンプレッサーのコンプレッサーホース（❸）をきつく締め付ける。

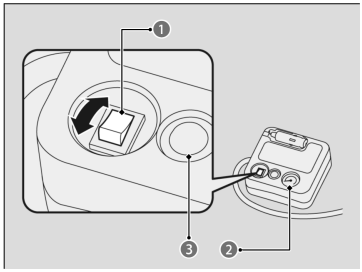


[6] エアコンプレッサーの電源コードのプラグ（❶）を、アクセサリーソケット（❷）に差し込む。

アクセサリーソケット ▶P.162

[7] エンジンを始動する。

一酸化炭素について ▶P.36



[8] エアコンプレッサーのスイッチ（❶）を ON にして、指定の空気圧まで高める。

駆動方式	車輪	指定空気圧
2WD 車	前輪	250kPa（2.5kgf/cm²）
	後輪	240kPa（2.4kgf/cm²）
AWD 車	前輪	240kPa（2.4kgf/cm²）
	後輪	240kPa（2.4kgf/cm²）

[9] 指定の空気圧に達したら、エアコンプレッサーのスイッチ（❶）を OFF にする。

≫コンプレッサーの空気圧計（❷）を確認してください。

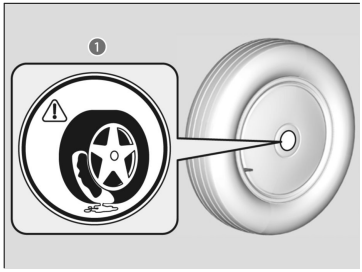
≫空気を入れすぎたときは、減圧ボタン（❸）を押して空気を抜きます。応急修理剤のふきこぼれに注意してください。

[10] エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセリーソケットから外す。

≫使用直後は電源プラグ先端が熱くなるため、素手で触らないように注意してください。

[11] タイヤバルブからボトルホースを外しバルブキャップを取り付ける。

≫ボトルホースを外すときは応急修理剤のふきこぼれに注意してください。ふきこぼれた修理剤は、布などで拭き取ってください。



[12] 修理が完了したタイヤに、タイヤパンク応急修理剤注入済みシール（❶）を貼る。

≫ホイールの平らな部分に貼ってください。

[13] キットを車両に戻す。

- 応急修理剤を注入しているときはエンジンを停止しないでください。
- 応急修理剤が注入されている間、圧力は一時的に高くなります。注入が完了すると圧力は落ちますが、再度上昇します。
- 正しい空気圧を測定するためには、応急修理剤が注入された後にエアコンプレッサーのスイッチを OFF にしてください。

- 10 分以内に指定空気圧にならないときは、応急修理剤による応急修理はできません。Honda 販売店やロードサービスに連絡してください。
- タイヤパンク応急修理剤の購入および空きボトルの適切な処分については販売店にお尋ねください。
- コンプレッサーホースを取り付けるときは、エアコンプレッサーのスイッチを OFF にしてください。
- エアコンプレッサーのスイッチを ON にすると、振動して音が聞こえます。
- Honda 販売店やロードサービスにタイヤ交換または修理を依頼する際には、タイヤパンク応急修理剤を使用したことを知らせてください。
- 空ボトルは元の位置に収納してください。

エアコンプレッサーの電源は自動車用 12V 専用です。他の電源は使用しないでください。

10 分以上エアコンプレッサーを使用しないでください。
エアコンプレッサーは過熱し、破損するおそれがあります。

応急修理剤の保管、取り扱いに注意してください。
お子さまが誤って手を触れないようにしてください。また、衣類などに付着すると、落ちないおそれがあります。

ボトル・キャップを外した後、ボトルを振らないでください。
修理剤がホースから飛び出るおそれがあります。

⚠警告

応急用修理剤は、飲用すると有害で、致命的になりうる物質を含んでいます。

誤って飲用した場合、できるだけたくさんの水を飲んで、ただちに医師の診察を受けてください。目に入ったり皮膚に付いた場合、水でよく洗い流してください。異常を感じたときはただちに医師の診察を受けてください。

⚠警告

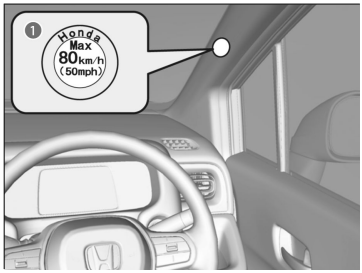
一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。

一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

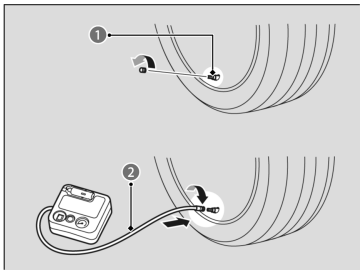
降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。

周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

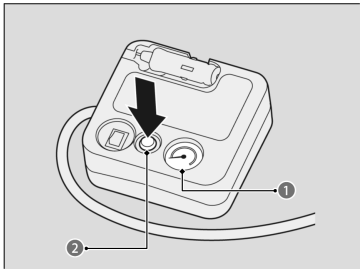
点検走行



[1] 速度制限シール（❶）を、運転者のよく見える位置に貼る。
[2] 点検走行を開始する。
[3] 10 分または 5km 走行したあと安全な場所に車を停める。



[4] タイヤのバルブ（❶）にエアホース（❷）をきつく締め付ける。



[5] 空気圧計（❶）で空気圧を測定する。

【空気圧が 130kPa 未満の場合】
運転を中止して Honda 販売店またはロードサービスに連絡してください。

【空気圧が 130kPa 以上、指定空気圧以下の場合】
エアコンプレッサーを使って指定空気圧まで高めてください。
Honda 販売店または専門修理工場に到着するまでステップ 2 から 5 までを繰り返してください。

≫空気を入れすぎたときは、減圧ボタン（❷）を押して空気を抜きます。応急修理剤のふきこぼれに注意してください。

【空気圧が指定空気圧の場合】
応急修理は完了です。

駆動方式	車輪	指定空気圧
2WD 車	前輪	250kPa（2.5kgf/cm²）
	後輪	240kPa（2.4kgf/cm²）
AWD 車	前輪	240kPa（2.4kgf/cm²）
	後輪	240kPa（2.4kgf/cm²）

[6] タイヤバルブからエアホースを外しバルブキャップを取り付ける。

[7] キットを車両に戻す。

- 高速道路を走行する場合は、80km/h 以下で走行してください。
- 急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け通常より注意深く慎重に運転してください。
- 速やかに Honda 販売店または専門修理工場でタイヤの修理、交換を行ってください。
- 走行前に、エアコンプレッサーなどの積み忘れがないか、しっかりと確認してください。

⚠注意

ハンドルのパッドにシールを貼らない。

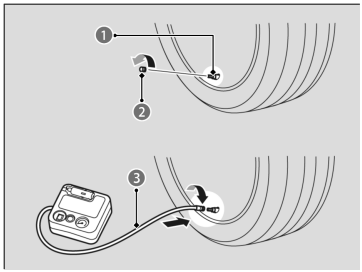
SRS エアバッグが正常に機能しなくなります。

警告灯やスピードメーターが見えない位置に貼らない。

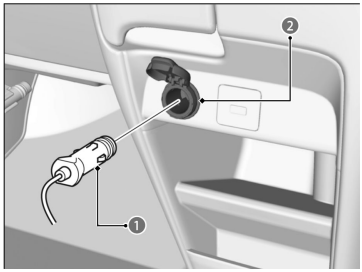
安全運転の妨げとなります。

空気圧の補充方法

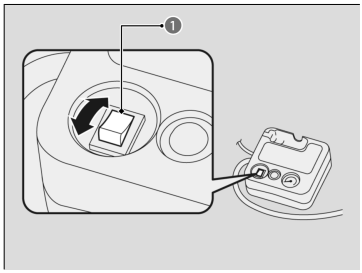
装備されているエアコンプレッサーを使用して、パンクしていないタイヤの空気圧を補充することができます。



[1] エアコンプレッサーを準備する。
[2] 交通から遠ざけ、空気を補充するタイヤ付近にキットを水平に置く。
[3] バルブ（❶）からバルブキャップ（❷）を取り外す。
[4] バルブにエアコンプレッサーのホース（❸）を確実に取り付ける。

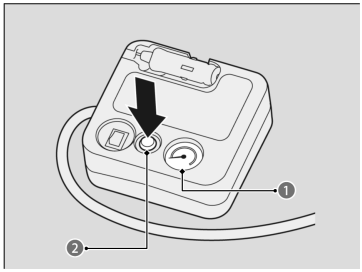


[5] エアコンプレッサーの電源コードのプラグ（❶）を、アクセサリーソケット（❷）に差し込む。
アクセサリーソケット ▶P.162
[6] エンジンを始動する。
一酸化炭素について ▶P.36



[7] エアコンプレッサーのスイッチ（❶）を ON にして、指定空気圧まで高める。

駆動方式	車輪	指定空気圧
2WD 車	前輪	250kPa（2.5kgf/cm²）
	後輪	240kPa（2.4kgf/cm²）
AWD 車	前輪	240kPa（2.4kgf/cm²）
	後輪	240kPa（2.4kgf/cm²）



[8] エアコンプレッサーのスイッチを OFF にする。

≫エアコンプレッサーの空気圧計（❶）を確認し、空気圧が高ければ、減圧ボタン（❷）を押して減圧する。

[9] エンジンを停止し、エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリーソケットから外す。

[10] タイヤバルブからエアホースを外しバルブキャップを取り付ける。

[11] キットを車両に戻す。

- エアを注入しているときはエンジンを停止しないでください。
- タイヤの空気圧を空気圧計で確認するときは、エアコンプレッサーの電源を OFF にしてください。
- エアコンプレッサーのスイッチを ON にすると、振動して音が聞こえます。

❗ エアコンプレッサーの電源は自動車用 12V 専用です。他の電源は使用しないでください。

❗ 10 分以上エアコンプレッサーを使用しないでください。
エアコンプレッサーは過熱し、破損するおそれがあります。

⚠警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。

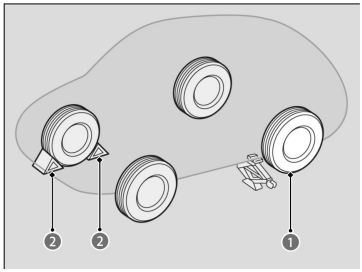
一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。 密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、エンジンを始動したままにしない。

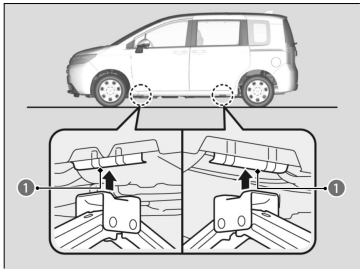
周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

ジャッキの取り扱い

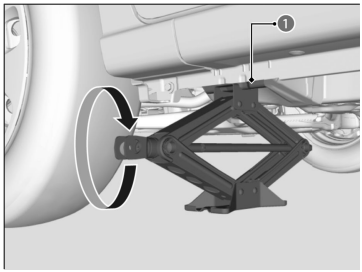
ジャッキのかけかた



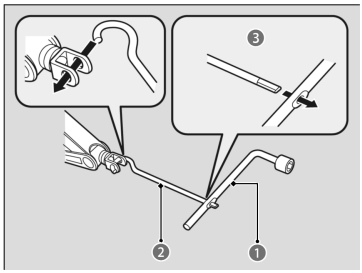
[1] 地面が固く、滑らない、水平なところに車を停める。
[2] シフトポジションを P にする。
[3] パーキングブレーキをかける。
[4] パワーモードを OFF モードにする。
[5] 交換するタイヤ（❶）の対角線上にあるタイヤの前後に、石などで輪留め（❷）をする。



[6] 交換するタイヤにもっとも近いジャッキポイント（❶）の下にジャッキ（別売り）を置く。



[7] ジャッキの上部がジャッキポイント（❶）に接触するまで図の部分を矢印の方向に回す。
≫ジャッキの溝にジャッキポイントがはまったことを確認してください。



[8] ジャッキハンドル（別売り）（❶）とジャッキハンドルバー（別売り）（❷）を使って、タイヤが地面から離れるまで車体を上げる。
≫ジャッキハンドルバーはジャッキハンドルに奥まで差し込んでください。（❸）

この車には、ジャッキが標準で搭載されていません。ジャッキアップをする場合は、この車専用のジャッキをお使いください。詳しくはHonda 販売店にご相談ください。
他のジャッキでは支えられる重量（呼荷重）が不足したり、形状が合わないことがあります。

⚠警告

車がジャッキだけで支えられているときは、車の下に入らない。

車がジャッキから外れて、車の下にいる人が重大な傷害を負うおそれがあります。

⚠注意

ジャッキを使うときは安全のため、次のことを必ず守る。

- エンジンをかけたままにしない
- 地面が固い平らなところ以外では使用しない
- ジャッキポイント以外にかけない
- 人や荷物を乗せたままにしない
- ジャッキ使用中に車内に入らない
- ジャッキの上や下にものを入れたりしない

⚠注意

後輪タイヤを交換するときは、パワースライドドアのメインスイッチを OFF にする。

誤ってスイッチに触れたりしてドアが開き、思わぬ事故を起こすおそれがあります。

エンジンが始動しない

確認事項

エンジンが始動しない場合、スターターの状態を確認してください。
以下の確認をしてもエンジンが始動しない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

スターターが全く回らないか回転が非常に遅いとき

バッテリーがあがっていることなどが考えられます。下記の項目をチェックして適切な対応をしてください。

- **マルチインフォメーションディスプレイの表示を確認する**
  「キーでスイッチに触れてください」のメッセージが表示されているとき
  スマートキーの電池が切れたときの始動方法 ►P.324
  ボタンを押してもキーのインジケーターが点灯しないとき
  スマートキーの電池交換方法 ►P.309
- **ヒューズを点検する**
  全てのヒューズを確認してください。
  ヒューズの点検と交換方法 ►P.339

スターターが正常に回るがエンジンが始動しないとき

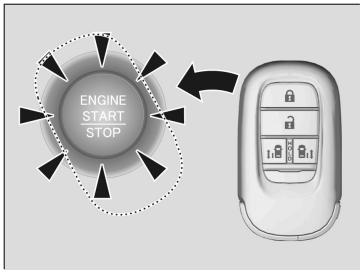
ヒューズに問題があることなどが考えられます。下記の項目をチェックして適切な対応をしてください。

- **エンジン始動の手順を実行する**
  もう一度、正しいエンジン始動操作をしてみてください。
  エンジンの始動 ►P.104
- **イモビライザーシステム表示灯を確認する**
  イモビライザーシステム表示灯が点滅しているときは、エンジンの始動ができません。
  イモビライザーシステム ►P.48
  警告灯と表示灯一覧 ►P.260
- **燃料の量を点検する**
  燃料が入っているか確認してください。
  燃料計 ►P.268
- **ヒューズを点検する**
  全てのヒューズを確認してください。
  ヒューズの点検と交換方法 ►P.339

- すぐに車を動かす必要がある場合は、ブースターバッテリーを利用してジャンプスタートさせます。
ジャンプスタートの方法 ►P.326
- 状況によっては、緊急時のエンジン始動方法を行うことで、一時的にエンジンを始動することができます。
緊急時のエンジン始動方法 ►P.324

スマートキーの電池が切れたときの始動方法

ENGINE START/STOP によるパワーモードの操作やエンジンの始動ができない場合、以下の手順を行ってください。



[1] ENGINE START/STOP を押す。
[2] 30 秒以内に、スマートキーのキーレスボタンを手前に向けて ENGINE START/STOP に接触させる。
[3] 10 秒以内に、ブレーキペダルを踏みながら ENGINE START/STOP を押す。
≫ペダルを踏んでいないときは、アクセサリーモードになります。

緊急時のエンジンの停止方法

走行中、緊急事態の場合にエンジンを停止することができます。エンジンを停止しなければならない場合は、以下のいずれかを行ってください。

- ENGINE START/STOP を約 2 秒以上押す
- ENGINE START/STOP を連続して 3 回押す
- この操作を行った場合は、ハンドルはロックせず、パワーモードはアクセサリーモードになります。

> ! 緊急時など必要な場合以外は、走行中にエンジンを停止しないでください。

緊急時のエンジン始動方法

通常のエンジンの始動方法で、エンジンが始動しない場合は、次の操作でエンジンが始動する場合があります。

緊急時など必要な場合以外は、この操作をしないでください。

[1] パーキングブレーキがかかっていることを確認する。

[2] シフトポジションが P であることを確認し、パワーモードをアクセサリーモードにする。

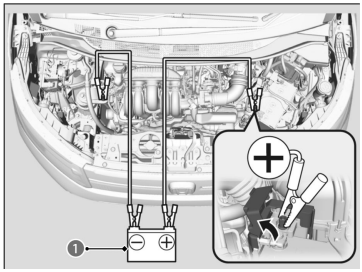
[3] ブレーキペダルをしっかり踏んだまま、ENGINE START/STOP を約 15 秒以上押し続ける。

上記の操作でエンジンが始動できてもシステムの異常が考えられます。
ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
シフトポジションが、P の位置でロックされて動かなくなったら、下記を参照してください。

ロックを解除する ▶P.329

12V バッテリーがあがったとき

ジャンプスタートの方法



[1] ボンネットを開け、12V バッテリー液の状態を確認する。

≫バッテリー液が凍っている場合はバッテリー液が溶けるまでジャンプスタートはできません。

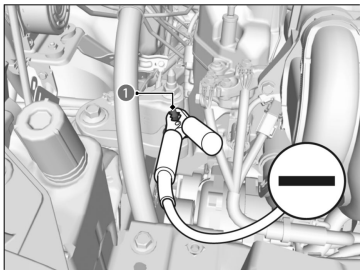
[2] オーディオやライトなどの電源を OFF にする。

[3] 自車と救援車のパワーモードを OFF モードにする。

[4] ブースターケーブルを、自車の 12V バッテリーの⊕端子に接続する。

[5] ケーブルの反対側を、救援車のバッテリー（❶）の⊕端子に接続する。

[6] もう 1 本のブースターケーブルを、救援車のバッテリーの⊖端子に接続する。



[7] ケーブルの反対側を、自車のエンジンのスタッドボルト（❶）に接続する。

[8] 救援車のエンジンを始動し、回転数を少し高めにする。

[9] 自車のエンジンを始動する。

- 救援車には、12V のバッテリーを装着している車を使用してください。
- 自動車用充電器を使用する場合は、電圧を 15V 以下に設定してください。
- 金属どうしがきちんと接続されているか確認してください。
- ケーブルをエンジンのスタッドボルト以外に接続しないでください。

❗ 気温が極端に低い場所に 12V バッテリーを長時間にわたって置かないでください。

内部のバッテリー液が凍結するおそれがあります。バッテリー液が凍結した 12V バッテリーでジャンプスタートすると、12V バッテリーが壊れることがあります。

寒冷時は、12V バッテリーの液量、比重の確認をし、必要に応じて液の補給や補充電をしてください。
12V バッテリーの性能が低下し、エンジン始動に支障をきたすおそれがあります。

バッテリー液が不足しているときは、使用しないでください。
12V バッテリー内部の劣化が進むおそれがあります。

⚠警告

ジャンプスタートは、正しい手順で慎重に行う。
ジャンプスタートの操作を間違えると、12V バッテリーが爆発し、重大な傷害を受けるおそれがあります。タバコの火、火花、炎を 12V バッテリーから遠ざけ、正しい手順で行ってください。

ジャンプスタート後の作業

自車のエンジンが始動したら、下記の手順でブースターケーブルを取り外し、Honda 販売店や最寄りのガソリンスタンドなどで点検を受けてください。

[1] 自車のエンジンのスタッドボルトからケーブルを外す。
[2] ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの⊖端子から外す。
[3] 自車の 12V バッテリーの⊕端子からケーブルを外す。
[4] ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの⊕端子から外す。

- ブースターケーブルの端子どうしが接触しないよう注意してください。

12V バッテリー再接続後、複数の警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにこのメッセージが表示された場合は、車速 20km/h 以上でしばらく走行してください。警告灯が消灯しないときは Honda 販売店で点検を受けてください。

⚠警告

12V バッテリーを扱うときは、火気を近づけない。

12V バッテリーから発生する可燃性のガスに引火すると、12V バッテリーが爆発し、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。
12V バッテリーを扱うときは、保護衣・保護面を着用するか、Honda 販売店で 12V バッテリーのメンテナンスを受けてください。

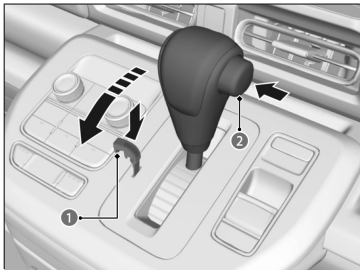
バッテリー液の取り扱いに注意する。

バッテリー液は希硫酸です。目や皮ふに付くとその部分が侵されますので十分注意してください。万一、付着したときはすぐに多量の水で少なくとも 5 分間以上洗浄してください。飲み込んだときはすぐに多量の飲料水を飲んでください。応急処置後は、専門医の診察を受けてください。

シフトレバーが動かない

ロックを解除する

シフトレバーが、P の位置でロックされて動かなくなったら、下記の方法で解除してください。



[1] パーキングブレーキをかける。
[2] パワーモードを OFF モードにする。
[3] シフトロック解除穴に内蔵キー（❶）を差し込む。
[4] キーを押しながらシフトレバーのボタン（❷）を押し、シフトレバーを N に入れる。

≫ロックが解除されました。Honda 販売店で、早めに点検を受けてください。

オーバーヒートしたとき

オーバーヒートしたときの対処方法

次のようなときは、オーバーヒートです。

- 水温計が H の目盛に入ったり、エンジンの力が急に落ちる
- マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温 安全な場所に停車し運転を停止してください」とメッセージが表示される
- ボンネット内から蒸気が立ちのぼっている

⚠警告

蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けない。

ラジエーターから噴き出る蒸気や熱湯に触れると、重大な傷害を受けるおそれがあります。

エンジンが熱いうちにラジエーターキャップを外さない。

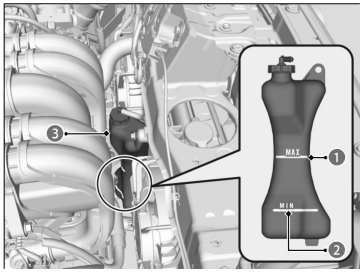
冷却水が噴き出し、重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずラジエーターが十分に冷えてからキャップを外してください。

❗ 水温計が H の目盛りまで上がった状態で運転すると、エンジンを著しく損傷するおそれがあります。

❗ マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温 安全な場所に停車し運転を停止してください」とメッセージが表示された状態で運転すると、エンジンを著しく損傷するおそれがあります。

マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温 安全な場所に車両を停車してください」と表示しているとき

[1] ただちに車を安全な場所に停める。
[2] シフトポジションを P にして、パーキングブレーキをかける。
[3] すべてのアクセサリーの電源を切り、非常点滅表示灯を点滅させる。
≫蒸気が出ていない場合は、エンジンを始動したままボンネットを開ける。
≫蒸気が出ている場合は、エンジンを停止し、蒸気が出なくなってからボンネットを開ける。



❶ 上限
❷ 下限
❸ リザーブタンク

[4] 冷却ファンの作動を確認し、メッセージが表示されなくなったらエンジンを停止する。

≫冷却ファンが作動していない場合は、すぐにエンジンを停止してください。

[5] エンジンが冷えてから冷却水量、ホースなどからの水漏れを点検する。

≫冷却水量が不足していたら、ラジエーターとリザーブタンクに冷却水を補給してください。冷却水がない場合は、応急的に水を補給してください。

[6] 十分にエンジンが冷えたら、エンジンを始動する。

- 警告メッセージが消えない場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
- 冷却水がもれている場合は、Honda 販売店に修理を依頼してください。

異常が起きたとき

「エンジン油圧異常 」の警告メッセージが表示された

油圧が低い状態でエンジンを回転させると、エンジンが破損するおそれがあります。

表示の理由

エンジン内部を潤滑しているオイルの油圧が低下すると表示されます。

表示されたらすぐにすること

[1] ただちに車を水平で安全な場所に停車する。
[2] 非常点滅表示灯を点滅させる。

車を停車してからすること

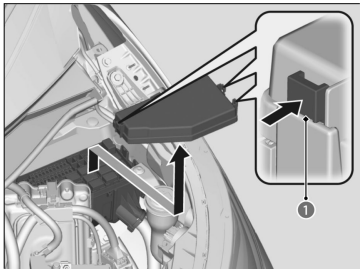
[1] エンジンを停止し、3 分間ほど放置する。
[2] ボンネットを開け、エンジンオイルの量を確認する。
≫必要に応じて、エンジンオイルを補給してください。
[3] エンジンを始動する。
≫「エンジン油圧異常 安全な場所に停車し運転を停止してください」の警告メッセージが消えた：運転を再開してください。
≫「エンジン油圧異常 安全な場所に停車し運転を停止してください」の警告メッセージが消えない：エンジンを止めて、ただちに Honda 販売店に修理を依頼してください。

ヒューズが切れたとき

ヒューズの確認方法

電気装置が作動しない場合、パワーモードを OFF モードにして、ヒューズが切れていないか確認します。ヒューズは、ボンネット内と室内のヒューズボックスに入っています。

ボンネット内のヒューズボックス A



エンジンルーム内の助手席側にあります。
≫タブ（❶）を押してフタを開けてください。

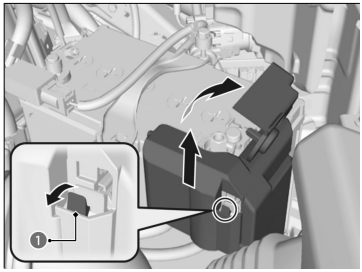
ヒューズの場所は次のイラストに示しています。
表のヒューズ番号とイラストで、該当するヒューズの位置を確認してください。
容量に（　）がついているヒューズは、装備が無い場合でもヒューズが入っている場合があります。

ボンネット内のヒューズボックス A の装備と容量

	表示	装備	容量
1	–	ワイパー	30A
2	–	左側ライトコントロールモジュール	10A
3	–	非常点滅表示灯	10A
4	–	制動灯	10A
5	–	–	–
6	–	AWD✤	(20A)
7	–	TCU	10A
8	–	IGP	15A
9	–	イグニッションコイル	15A
10	–	ドライブバイワイヤー	15A
11	–	ABS/VSA モーター	40A
12	–	メインファン	30A
13	–	スターターマグネチックスイッチ	30A
14	–	Honda スマートキーシステム	10A
15	–	バッテリーセンサー	7.5A
16	–	右側ライトコントロールモジュール	10A

	表示	装備	容量
17	–	バックアップ FI-ECU	10A
18	–	ホーン	10A
19	–	リヤブロアモーター✤	(20A)
20	–	フロントフォグライト✤	(10A)
21	–	オーディオ✤	(15A)
22	–	バックアップ	15A
23	–	サブファン	30A
24	–	ABS/VSA FSR	40A
25	–	IGP2 サブ	7.5A
26	–	IGPS[LAF]	10A
27	–	–	–
28	–	–	–
29	–	–	–
30	–	–	–
31	–	START DIAG	7.5A
32	–	–	–
33	–	–	–

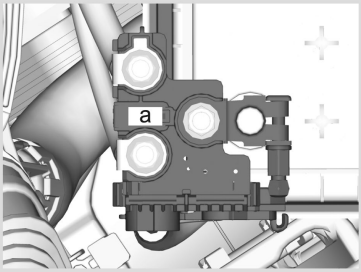
ボンネット内のヒューズボックス B

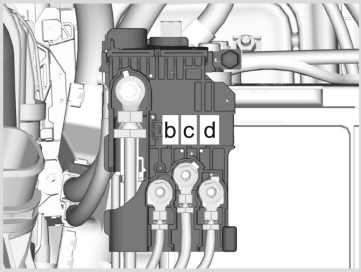


ボンネット内にある 12V バッテリーの⊕ 端子の隣にあります。
[1] ⊕ 端子部分のフタを開ける。
[2] タブ（❶）を引いてカバーを取り外す。

このヒューズの交換については、Honda 販売店にお問い合わせください。

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。



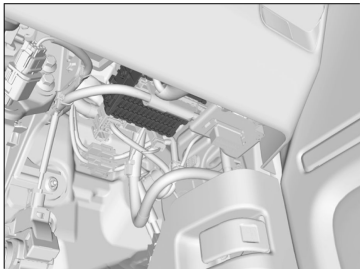


ボンネット内のヒューズボックス B の装備と容量

	表示	装備	容量
a		バッテリーメイン	100A
b		バッテリーメイン（ファン）	70A
c		バッテリーメイン（エンジン）	80A

	表示	装備	容量
d		電動パワーステアリング	70A

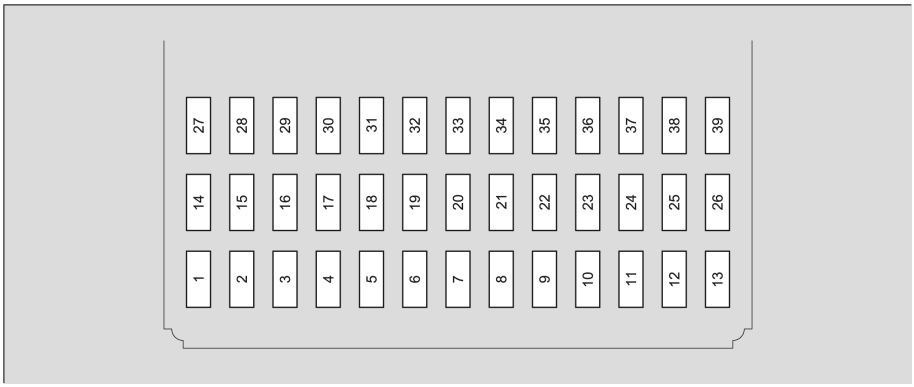
室内運転席右側のヒューズボックス



ハンドル右側のインストルメントパネルの奥にあります。

≫下から確認できます。

ヒューズの場所は次のイラストに示しています。
表のヒューズ番号とイラストで、該当するヒューズの位置を確認してください。
容量に（　）がついているヒューズは、装備が無い場合でもヒューズが入っている場合があります。



室内運転席右側のヒューズボックスの装備と容量

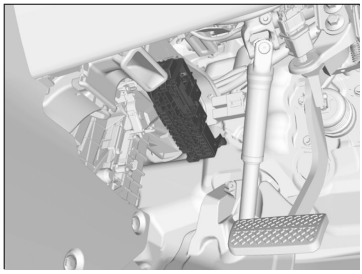
	表示	装備	容量
1	–	ACC	7.5A
2	–	ACC キーロック	7.5A
3	–	BSI✤/AWD✤	(10A)
4	–	ライトコントロールモジュール	7.5A
5	–	オプション	10A
6	–	オプション 2	10A
7	–	メーター	10A
8	–	フューエルポンプ	15A
9	–	エアコン	10A
10	–	リヤアクセサリーソケット✤	(20A)
11	–	MON	5A
12	–	右側ドアロック	10A
13	–	左側ドアアンロック	10A
14	–	後席左側パワーウィンドー	20A
15	–	助手席パワーウィンドー	20A
16	–	ドアロック	20A
17	–	TCU	10A
18	–	—	—
19	–	—	—
20	–	スターターカットリレー	7.5A
21	–	ACG	10A
22	–	デイタイムランニングライト	7.5A
23	–	—	—
24	–	オプション	10A
25	–	—	—
26	–	右側ドアアンロック	10A
27	–	後席右側パワーウィンドー	20A
28	–	運転席パワーウィンドー	20A
29	–	フロントアクセサリーソケット	20A
30	–	デアイサー✤	(10A)
31	–	セカンドシート用 USB チャージャー✤	(15A)
32	–	シートヒーター✤	(20A)
33	–	—	—
34	–	ABS/VSA	10A
35	–	SRS	10A
36	–	—	—

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

	表示	装備	容量
37	–	—	—
38	–	左側ドアロック	10A

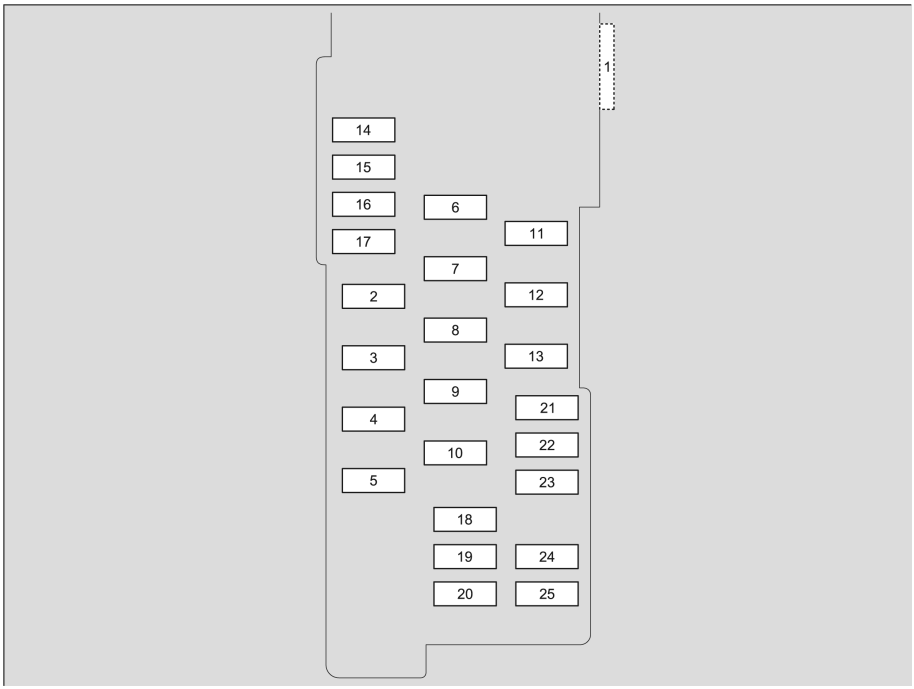
	表示	装備	容量
39	–	—	—

室内運転席左側のヒューズボックス



ハンドル左側のインストルメントパネルの奥にあります。
下から確認できます。

ヒューズの場所は次のイラストに示しています。
表のヒューズ番号とイラストで、該当するヒューズの位置を確認してください。
容量に（　）がついているヒューズは、装備が無い場合でもヒューズが入っている場合があります。
このヒューズの交換については、Honda 販売店にお問い合わせください。



1 番のヒューズのみヒューズボックス側面にあります。

室内運転席左側のヒューズボックスの装備と容量

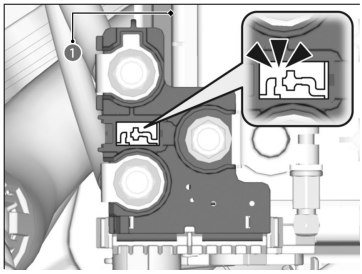
	表示	装備	容量
1	–	ヒューズボックスメイン	60A
2	–	イグニッションメイン	30A
3	–	イグニッションメイン 2	30A
4	–	リレーモジュール 1	30A
5	–	リレーモジュール 2	30A
6	–	ヒューズボックスメイン 2	40A
7	–	–	–
8	–	ヒーターモーター	30A
9	–	–	–
10	–	リヤデフロスター	30A
11	–	ヒューズボックスメイン 3	40A

	表示	装備	容量
12	–	右側パワースライドドア	30A
13	–	左側パワースライドドア	30A
14	–	SRS	10A
15	–	–	–
16	–	MG クラッチ	7.5A
17	–	IMG	10A
18	–	右側パワースライドドアクローザー	20A
19	–	–	–
20	–	–	–
21	–	左側パワースライドドアクローザー	20A

	表示	装備	容量
22	–	–	–
23	–	ウォッシャー	15A

	表示	装備	容量
24	–	ヒーテッドドアミラー	(10A)
25	–	–	–

ヒューズの点検と交換方法

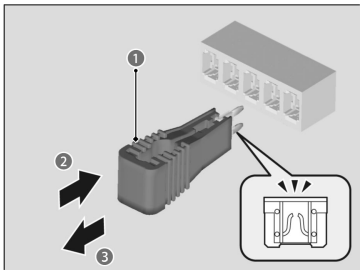


[1] パワーモードを OFF モードにし、ヘッドライトとすべてのアクセサリーを OFF にする。

[2] 12V バッテリーの⊕ 端子の隣にあるカバーを開ける。

[3] 内部のヒューズを点検する。

≫切れているヒューズがあったら、Honda 販売店に修理を依頼してください。



❶ ヒューズプラー
❷ 取り付ける
❸ 外す

[4] ボンネット内のヒューズボックス A のフタを取り外す。

[5] 内部のヒューズを点検する。

≫切れているヒューズがあったら、市販のヒューズプラーで引き抜き、新しいものと交換してください。

[6] 室内の小さいヒューズを点検する。

≫切れているヒューズがあったら、市販のヒューズプラーで引き抜き、新しいものと交換してください。

- 規定容量より大きいヒューズに交換すると、電気系統を損傷する危険性が高くなります。 交換したあと、すぐにヒューズが切れるような場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。
- ヒューズは同じ規定容量のヒューズと交換してください。

けん引したいとき

けん引について

けん引するときは、Honda 販売店またはロードサービスにご連絡ください。
2WD 車は四輪または前輪、AWD 車は四輪を持ち上げてけん引してください。

- バンパーで車を持ち上げたり、けん引すると、バンパーがいちじるしく損傷します。バンパーは車の重量を支えるようにはできていません。

▼ 2WD

- 前輪を持ち上げてけん引するときは、パーキングブレーキが解除されていることを確認してください。パーキングブレーキが解除できないときは、必ず四輪を持ち上げてけん引してください。

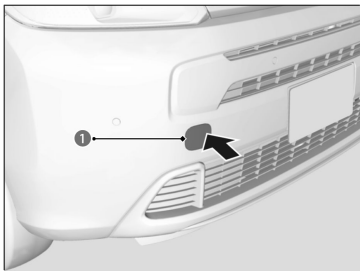
電子制御パーキングブレーキ ▶P.130

> ! ロープやチェーンなどを使ってけん引されるときは、車体に当たる部分に布を巻いてください。
> そのままけん引されると、車体に傷が付くことがあります。

緊急時の脱出

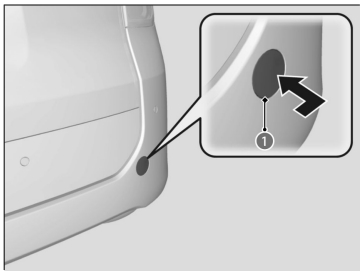
新雪やぬかるみから緊急で脱出するときは、次の方法で行ってください。

▼車両前方からけん引する場合

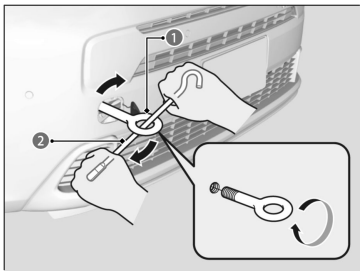


［1］リッド（❶）の右側を押し込んで外す。

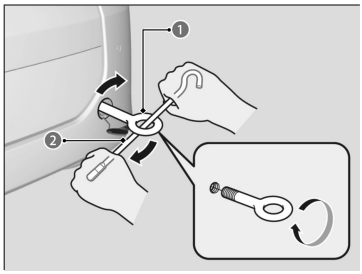
▼車両後方からけん引する場合



▼車両前方からけん引する場合



▼車両後方からけん引する場合



[2] アイボルト（❶）がガタつかない程度まで手で締めつけてから、ジャッキハンドルバー（別売り）（❷）や固い金属の棒などを使用し確実に締め付ける。

[3] ロープをアイボルトにかける。

[4] エンジンを始動して、シフトレバーを N に入れる。

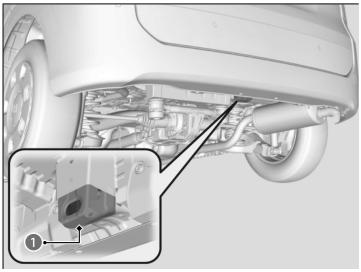
≫シフトレバーがロックされて動かない場合は、手動でロックを解除してください。

ロックを解除する ▶P.329

[5] パーキングブレーキを解除し、けん引してもらう。

≫他車をけん引することはできません。

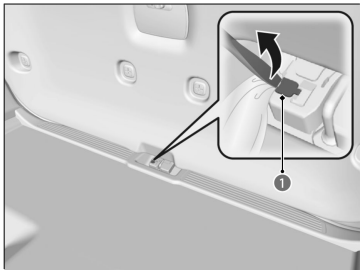
❗ 車両後方についている部品（❶）を他車のけん引や緊急時の脱出に使用することはできません。



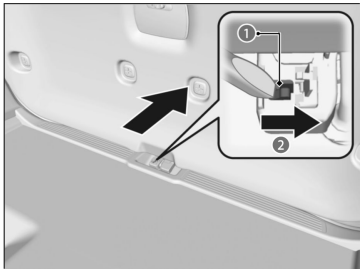
テールゲートが開かないとき

テールゲートが開かないときの対処方法

万一、テールゲートを開けることができなくなったときは、応急処置として次の方法で開けてください。



[1] テールゲートのロック部分のリッド（❶）に、マイナスドライバーの先端を差し込み、リッドを開ける。



[2] マイナスドライバーを使ってレバー（❶）を右（❷）に動かしたままの状態で、テールゲートを押し開ける。

- リッドが傷付かないよう、ドライバーに布を巻き付けてください。
- 応急処置後は、Honda 販売店で点検を受けてください。

⚠注意

テールゲートを内側から開けるときは、周囲の安全と車の上方や後方に十分なスペースがあることを確認する。

人やものにぶつかり思わぬけがをするおそれがあります。

緊急時や車両トラブルのとき

緊急通報

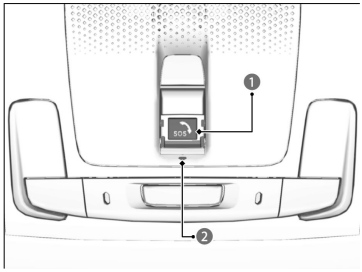
緊急通報とは、事故発生時や急病などの緊急時に、オペレーターがお客様のかわりに警察や消防へ通報するサービスです。

自動通報機能

車両のエアバッグが展開した場合、車両は自動的にオペレーターへの接続を開始します。接続時には車両に関する情報（場所、車両の状態など）がオペレーターに送信されます。

手動通報機能

事故発生時や急病などの緊急時に、緊急通報ボタンを押すことで手動でオペレーターに接続することが可能です。



［1］緊急通報ボタンのカバーを開ける。
［2］緊急通報ボタン（❶）を押す。
≫オペレーターに接続されます。
≫オペレーターに接続中はインジケーター（❷）が緑色に点滅します。

- ご利用には、Honda Total Care プレミアムのお申込みが必要です。詳しくは Honda Total Care プレミアムのホームページをご確認ください。 https://www.honda.co.jp/hondatotalcare/premium/
- 緊急通報はパワーモードが ON モードのときに利用可能です。
- オペレーターとの接続は、車両側から終了させることはできません。オペレーターのみが車両との接続を終了することができます。
- エアバッグが展開しなくても、車両に一定以上の衝撃が加わった場合、車両は自動的にオペレーターへの接続を開始します。

次の場合にはインジケーターが赤色に点滅し、オペレーターに接続できない可能性があります。

- バックアップバッテリーの電圧が低いとき
- トンネル内や地下駐車場など電波環境が悪いとき

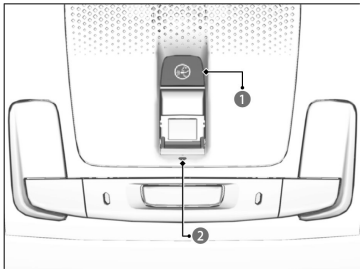
次の場合にはインジケーターが赤色に点灯し、オペレーターに接続できない可能性があります。

- システム、またはマイクやスピーカーなどの機器に問題があるとき
- インジケーターが赤色で点灯を続ける場合は Honda 販売店で点検を受けてください。

> **!** インストルメントパネル上部に物を置かないでください。
> 通信用のアンテナが内蔵されているため、オペレーターとの通話が繋がりにくくなったり、車両の位置情報がずれる場合があります。

トラブルサポート

トラブルサポートとは、警告灯が点灯した場合や車両トラブルなど、乗車中の困ったときに Honda Total Care 緊急サポートセンターへ接続して、車の使い方やロードサービスの手配をサポートするサービスです。



トラブルサポートボタン（❶）を押す。

≫接続中はインジケーター（❷）が緑色に点滅します。

≫再度トラブルサポートボタンを押すと接続が終了します。

- ご利用には、Honda Total Care プレミアムのお申込みが必要です。詳しくは Honda Total Care プレミアムのホームページをご確認ください。 https://www.honda.co.jp/hondatotalcare/premium/
- トラブルサポートはパワーモードが ON モードのときに利用可能です。

次の場合にはインジケーターが赤色に点滅し、 Honda Total Care 緊急サポートセンターに接続できない可能性があります。

- バックアップバッテリーの電圧が低いとき
- トンネル内や地下駐車場など電波環境が悪いとき

次の場合にはインジケーターが赤色に点灯し、 Honda Total Care 緊急サポートセンターに接続できない可能性があります。

- システム、またはマイクやスピーカーなどの機器に問題があるとき
- インジケーターが赤色で点灯を続ける場合は Honda 販売店で点検を受けてください。

> **!** インストルメントパネル上部に物を置かないでください。
> 通信用のアンテナが内蔵されているため、オペレーターとの通話が繋がりにくくなったり、車両の位置情報がずれる場合があります。

車両仕様

仕様

仕様について……347

オープンソースライセンス

一覧……349

仕様

仕様について

基本情報	
名称	フリード
排気量	1,496 cm³
車体形状	4 ドアステーションワゴン
乗車定員	5 名※1 6 名※2 7 名※3

※1: サードシート非装備車
※2: セカンドキャプテンシート装備車
※3: セカンドベンチシート装備車

点火プラグ	
NGK	DILZKAR7C11H

ブレーキペダル	
遊び	2-9mm
床板とのすき間	103mm 以上 {約 196N (20kgf)の力}

燃料	
燃料種類	無鉛レギュラーガソリン レギュラーバイオ混合ガソリン (E10/ETBE22)
燃料タンク容量	42L※1 53L※2

※1: 2WD 車
※2: AWD 車

エアクリーナーエレメント	
タイプ	湿式

12V バッテリー	
容量/タイプ	36Ah(5)、45Ah(20)/55B24L

ウォッシャー液	
タンク容量	2.0L

電球	
ヘッドライト（ロービーム）✤	LED
ヘッドライト（ハイビーム）✤	LED
ヘッドライト（ハイ/ロービーム）✤	LED
前面方向指示器/前面非常点滅表示灯	LED
車幅灯/デイタイムランニングライト	LED
アクティブコーナリングライト✤	LED
フォグライト✤	LED
側面方向指示器/側面非常点滅表示灯	LED
制動灯	LED
尾灯	LED
後面方向指示器/後面非常点滅表示灯	LED
後退灯	LED
ハイマウントストップランプ	LED
番号灯	LED
マップランプ	LED
セカンドシート室内灯	12V-8W
サードシート室内灯✤	12V-8W
カーゴスペース照明灯✤	12V-8W
テールゲート照明灯✤	12V-8W
アンビエントランプ	LED

デファレンシャルオイル（AWD 車のみ）	
指定液	Honda 純正ウルトラ DPSF-II
規定量	1.247L（交換時）

ブレーキフルード	
指定液	Honda 純正ブレーキフルード DOT3 または DOT4

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

トランスミッションフルード	
指定液	Honda 純正ウルトラ HCF-2
規定量	2.8L（交換時）※1 3.4L（交換時）※2

※1: 2WD 車
※2: AWD 車

エンジンオイル	
推奨	・Honda ULTRA NEXT ※ ・Honda ULTRA Green ・Honda ULTRA LEO ・API SN 級以上 0W-16, 0W-20, 5W-30 ・ACEA A5/B5 0W-16, 0W-20, 5W-30
規定量	3.1L（オイル交換時）3.3L（オイル、オイルフィルター同時交換時）

※: 最も省燃費性に優れたオイルです。

冷却水	
指定液	Honda 純正ウルトラ e クーラント
規定濃度	50%
規定量	3.79L（交換時：リザーブタンク 0.42L 含む）

タイヤ	
サイズ	185/65R15 88S
空気圧 kPa (kgf/cm²)	前輪 250（2.5）後輪 240（2.4）※1 前輪 240（2.4）後輪 240（2.4）※2
リムサイズ	15×6J

※1: 2WD 車
※2: AWD 車

オープンソースライセンス

一覧

TCU オープンソースライセンス

Free/Open Source Software 情報
この製品は、Free/Open Source Software(FOSS)を含みます。
FOSS のライセンス情報及びソースコードは下記 URL を参照ください。
https://www.denso.com/global/en/opensource/tcu/honda/

マルチビューカメラ オープンソースライセンス✤

Free/Open Source Software 情報
この製品は、Free/Open Source Software(FOSS)を含みます。
FOSS のライセンス情報及びソースコードは下記 URL を参照ください。

http://car.panasonic.jp/oss/n03pkdl6

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

索引

数字

12V バッテリー充電警告灯……262

A

A/C（エアコン）……177
ABS（アンチロックブレーキシステム）……135
　ABS 警告灯……132, 263
ACC（アダプティブクルーズコントロール）‥219
　ACC 警告灯……265
　ACC 表示灯……220

C

CMBS（衝突軽減ブレーキ）……193
　CMBS 警告灯……265
　CMBS 表示灯（グレー）……275

E

ECON モード……152
　ECON モード表示灯……152
ENGINE START/STOP スイッチ……103
EPS（電動パワーステアリング）システム警告灯‥
……264

H

Honda SENSING……185
Honda Total Care プレミアム……2

I

IR カットドアガラス……298
ISOFIX/i-Size……30

L

LKAS（車線維持支援システム）……231
　LKAS 警告灯……265

P

PGM-FI 警告灯……263

S

SRS エアバッグ……40
　エアバッグシステム警告灯……44, 263

U

USB ジャック（充電専用）……175

V

VSA OFF 警告灯……264
VSA（ビークルスタビリティアシスト）……153
　VSA OFF 警告灯……154, 264
　VSA 警告灯……154, 264

W

W（ワット）数……347

ア

アイボルト……304
明るさ設定……275
アクセサリー……37
アクセサリーソケット……162
アクティブコーナリングライト……145
　電球の交換……307
アジャイルハンドリングアシスト……155
アダプティブドライビングビーム……142
　アダプティブドライビングビーム表示灯…142
安全支援情報……274
　安全支援情報警告灯（オレンジ）……266
　安全支援情報表示灯（グリーン/グレー）‥275
　衝突軽減ブレーキ（CMBS）警告灯（オレンジ）
……265
　衝突軽減ブレーキ（CMBS）表示灯（グレー）
……275
　路外逸脱抑制機能警告灯（オレンジ）……265
　路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯
……265
　路外逸脱抑制機能表示灯（グレー）……275
安全に関する表示について……1
アンチロックブレーキシステム（ABS）……135
　ABS 警告灯……132, 263
アンビエントメーター……268
アームレスト
　セカンドキャプテンシート……68
　セカンドベンチシート……70
　フロントシート……67

イ

一酸化炭素の危険性 36
イモビライザーシステム 48
　イモビライザーシステム表示灯 49
インフォメーション表示灯 278
イージードアクローザー 101

ウ

ウィンカー（方向指示器） 137
ウィンドウォッシャー 146
ウィンドウォッシャー液の補給 286
ウィンドーの開閉 89
ウェアインジケーター 292
運転
　エンジンの始動 104
　シフト操作 127
　ブレーキ 129
運転時の注意事項 16
運転の準備 14

エ

エアクリーナーエレメント 347
エアコン 177
　エアクリーンフィルター 296
　オートエアコンの使用方法 179
　後席用クーラー 180
　スイッチの説明 178
エアバッグ
　SRS エアバッグ 40
　エアバッグシステム警告灯 44, 263
　エアバッグについて 38
　エアバッグのお手入れ 45
　サイドエアバッグ 41
　サイドカーテンエアバッグ 43
エクステンションボード 74
エマージェンシーストップシグナル 136
エンジンオイル
　推奨エンジンオイル 285, 348
エンジンスイッチ
　パワーモード警告ブザー 103
エンジンの始動 104, 323, 326
　エンジンが始動しない 323
　ジャンプスタート 326

オ

応急修理剤（タイヤパンク） 311
オドメーター 269
温度センサー 268
オーディオ 182, 273
オートハイビーム 139
　オートハイビーム表示灯 139
オートマチックブレーキホールド 133
　オートマチックブレーキホールドシステム表示灯 134
　オートマチックブレーキホールド表示灯 134
オートリトラミラー 88
オーバーヒート 330
オープンソースライセンス 349

カ

外気温表示 268
鍵(かぎ) 46
ガソリン 124, 347
カーゴスペース照明灯 158
　電球の交換 307
カーゴフック 164

キ

キックダウン 108
急アクセル抑制機能 205
給油 124
　給油のしかた 125
　指定燃料 124, 347
　燃料計 268
　燃料残量警告灯 263
給油のしかた 125
緊急通報 344
キー 46
　Honda スマートキー 46
　キー閉じ込み防止装置 56
　キーナンバータグ 50
　キーレスエントリー 51
　スマートキーの電池が切れたとき 324
　スマートキーの電池が切れたときの始動方法 324
　電池交換方法 309
　内蔵キー 49

キーレスエントリー……309
電池交換方法……309

ク

空気圧……348
空気圧測定器による点検……291
グラブレール……7
クリープ現象……108
車の改造……37
クルーズコントロール表示灯（ホワイト/グリーン）……226
グローブボックス……160

ケ

経過時間……273
警告灯……260
12V バッテリー充電警告灯……262
ABS（アンチロックブレーキシステム）警告灯……132, 263
EPS（電動パワーステアリング）システム警告灯……264
PGM-FI 警告灯……263
VSA OFF 警告灯……154, 264
VSA（ビークルスタビリティアシスト）警告灯……132, 264
安全支援情報警告灯（オレンジ）……266
エアバッグシステム警告灯……44, 263
シートベルト非着用警告灯……85, 262
車線維持支援システム（LKAS）警告灯（オレンジ）……265
渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール（ACC）警告灯（オレンジ）……265
衝突軽減ブレーキ（CMBS）警告灯（オレンジ）……265
トランスミッション警告灯……264
燃料残量警告灯……263
パーキングセンサー警告灯……264
ブレーキ警告灯（レッド）……262
ブレーキシステム警告灯（オレンジ）……262
路外逸脱抑制機能警告灯（オレンジ）……265
路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯……265
警告メッセージ……278, 332
けん引……340

コ

交換
エアクリーンフィルター……296
カーゴスペース照明灯電球……307
後退灯電球……307
後面方向指示器/後面非常点滅表示灯電球……307
室内灯電球……307
制動灯電球……307
前面方向指示器/前面非常点滅表示灯電球……307
側面方向指示器/側面非常点滅表示灯電球……307
デイタイムランニングライト/車幅灯電球……307
テールゲート照明灯電球……307
ハイマウントストップランプ電球……307
番号灯電球……307
尾灯電球……307
ヒューズ……339
フォグライト電球……307
ヘッドライト電球……307
ワイパーブレードラバー……287
工具……304
交差点案内表示……274
航続可能距離……272
後退出庫サポート……252
後退灯……307
後方誤発進抑制機能……202
後面方向指示器/後面非常点滅表示灯……307
誤発進抑制機能……202
コンパス……274
コンビニフック……164

サ

サイドエアバッグ……41
サイドカーテンエアバッグ……43
サードシート
シートをはね上げて固定するとき……75
調整方法……75
サードシート室内灯……158

シ

時刻の設定……270
室内装備品……160
室内灯……157
電球の交換……307

指定燃料 124
シフト操作 127
シフトポジション 127
シフトポジション表示灯 128
シフトレバー
シフトレバーが動かない 329
シフトレバーの操作 128
車外の清掃 300
車線維持支援システム（LKAS） 231
車線維持支援システム（LKAS）警告灯（オレンジ） 265
ジャッキ 304, 321
ジャッキハンドルバー 304
ジャッキハンドル（ホイールナットレンチ） 304
車内の清掃 298
車幅灯 137
車両データの記録について 3
ジャンプスタート 326
渋滞運転支援機能（トラフィックジャムアシスト） 237
渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール（ACC） 219
渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール（ACC）警告灯（オレンジ） 265
渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール（ACC）表示灯（ホワイト/グリーン） 220
渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール（ACC）/車線維持支援システム（LKAS）/トラフィックジャムアシスト（渋滞運転支援機能）表示 269
瞬間燃費 272
衝突軽減ブレーキ（CMBS） 193
衝突軽減ブレーキ（CMBS）警告灯（オレンジ） 265
衝突軽減ブレーキ（CMBS）表示灯（グレー） 275
助手席アッパーボックス 160
仕様 347
親水ミラー 301
シンプル 272
シートの調節
サードシート 75
シートをはね上げて固定するとき 70
セカンドキャプテンシート 67
セカンドベンチシート 69
フロントシート 66
シートヒーター 173
シートベルト 79
アンカーポイント 86
シートベルトの点検方法 79
シートベルト非着用警告灯 85, 262
シートベルトプリテンショナー 79
シートベルトリマインダー 85
正しい着用法 80
妊娠中のかたの着用法 82
分離収納式シートベルトの着用法 83

ス

水温計 268
スイッチ
ECON スイッチ 152
ENGINE START/STOP スイッチ 103
ウィンカー（方向指示器）の操作方法 137
パーキングブレーキスイッチ 130
フォグライト 139
フロントガラス熱線スイッチ（霜取り） 151
リヤデフロスター/ヒーテッドドアミラースイッチ 149
ワイパー・ウォッシャー 146
ステアリング 61
ステアリングスイッチ 187
スノータイヤ 294
スピードメーター 267
スマートキー 309
電池交換方法 309
スライドドアウィンドウサンシェード 171
スライドドアの開閉 94

セ

清掃 298
制動灯 307
セカンドキャプテンシート 67
セカンドベンチシート 69
セキュリティシステム
イモビライザーシステム 48
セキュリティアラームシステム 49
セキュリティアラームシステム作動表示灯 49
先行車発進お知らせ機能 242

全席シートベルト 274
前面方向指示器/前面非常点滅表示灯 307

ソ

側面方向指示器/側面非常点滅表示灯 307
ソナーセンサー 191

タ

タイヤ
指定空気圧 348
タイヤの点検 291
タイヤのローテーション 295
タイヤパンク応急修理キット 312
冬期のタイヤ 294
パンク 311
タイヤ角度モニター 278
タイヤチェーン 294
タコメーター 267

チ

チェーン 294
チャイルドシート 18
ジュニアシート 35
取り付けかた 30
乳児のチャイルドシート 19
幼児のチャイルドシート 20
チャイルドプルーフ 59
駐停車の操作 109

テ

停止表示板固定ベルト 162
デイタイムランニングライト 139
デイタイムランニングライト/車幅灯 307
デファレンシャルオイル 347
デフロスター
リヤデフロスタースイッチ 149
デフロスター（くもり止め） 149
点火プラグ 347
電子制御パーキングブレーキ 130
電子制御ブレーキアシスト 129
電池交換 309
電話 273
データの取り扱いについて 4
テールゲート
テールゲートが開かないとき 343
テールゲート照明灯 159
電球の交換 307
テールゲートの開閉 92

ト

ドアの施錠と解錠 51
Honda スマートキーを使わない施錠方法 56
Honda スマートキー 51
Honda スマートキーを携帯した施錠/解錠方法 52
キー閉じ込み防止装置 56
キーナンバータグ 50
キーレスエントリー 51
降車時オートドアロック機能を用いた施錠方法 53
車内の施錠/解錠方法 57
衝撃感知ドアロック解除システム 58
チャイルドプルーフ 59
内蔵キーを使った施錠/解錠方法 55
マスタードアロックスイッチでの施錠/解錠 58
予約ロック機能を用いた施錠方法 55
ドアミラー 87
冬期のタイヤ
スノータイヤ 294
タイヤチェーン 294
時計 270
時計/車両設定 276
ドリンクホルダー 161
トラフィックジャムアシスト（渋滞運転支援機能） 237
トラブルサポート 345
トラブルシューティング
警告灯が点灯/点滅した 332
けん引してもらいたい 340
シフトレバーが動かない 329
ジャンプスタートしたい 326
パンクした 311
ヒューズが切れた 339
トランスミッション警告灯 264
トランスミッションフルード 348
トリップメーター 273

ナ

ナビゲーション…… 274

ネ

燃料…… 124, 347
燃料残量警告灯……263

ハ

排気ガスの危険性…… 36
ハイビーム……138
電球の交換…… 307
ハイビーム表示灯…… 139
ハイマウントストップランプ…… 307
バッテリー
12V バッテリー充電警告灯…… 262
ジャンプスタート…… 326
容量/タイプ…… 347
発炎筒……305
バニティミラー…… 7
パワーウィンドーの開閉…… 89
パワースライドドアの開閉…… 96
キーレスエントリーシステムで開閉する… 100
自動開閉と手動開閉の切り換え……99
自動で開閉するときの条件…… 96
ドアハンドルで開閉する…… 100
パワースライドドアスイッチで開閉する…… 99
パワーモード……103
パワーモードオートオフ機能……103
パワーモード警告ブザー…… 103
パワーモードの切り替え…… 103
パンク……311
番号灯……307
ハンドル……61
パーキングセンサー警告灯……264
パーキングセンサーシステム…… 255
パーキングブレーキ……130

ヒ

尾灯…… 307
ヒューズ…… 333
各ヒューズの装備と容量……
……333, 334, 335, 337
ヒューズの点検と交換……339
標識認識機能……245
標識認識機能表示…… 269
表示灯……260
ECON モード表示灯…… 152
アダプティブドライビングビーム表示灯… 142
安全支援情報表示灯（グリーン/グレー）‥ 275
イモビライザーシステム表示灯……49
インフォメーション表示灯…… 278
オートハイビーム表示灯…… 139
オートマチックブレーキホールドシステム表示灯 …… 134
オートマチックブレーキホールド表示灯… 134
クルーズコントロール表示灯（ホワイト/グリーン）…… 226
シフトポジション表示灯…… 128
渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール（ACC）表示灯（ホワイト/グリーン）‥220
衝突軽減ブレーキ（CMBS）表示灯（グレー）……275
セキュリティアラームシステム作動表示灯‥ 49
ハイビーム表示灯…… 139
フォグライト点灯表示灯…… 139
方向指示器表示灯…… 137
ライト点灯表示灯…… 137
路外逸脱抑制機能表示灯（グレー）…… 275
表示の切り換えかた……271
ビークルスタビリティアシスト（VSA）…… 153

フ

フォグライト……139
電球の交換…… 307
フォグライト点灯表示灯 ……139
踏み間違い衝突軽減システム…… 200
フューエルリッド
フューエルリッドの開けかた……125
フューエルリッドの開けかた…… 125
ブラインドスポットインフォメーション…… 249
ブレーキ警告灯（レッド）……262
ブレーキシステム……129
ABS（アンチロックブレーキシステム）… 135
エマージェンシーストップシグナル…… 136
オートマチックブレーキホールド…… 133
電子制御パーキングブレーキ……130
電子制御ブレーキアシスト…… 129

フットブレーキ……129
ブレーキ警告灯（レッド）……262
ブレーキシステム警告灯（オレンジ）……262
ブレーキシステム警告灯（オレンジ）……262
ブレーキフルード……347
ブレーキ警告灯（レッド）……262
フロアボード……171
フロントガラス熱線スイッチ（霜取り）……151
フロントシート
フロントシートアームレスト……67
フロントワイドビューカメラ……189
ブースターケーブル……326

へ

平均車速……273
平均燃費……272
ヘッドライト
電球の交換（ハイビーム）……307
電球の交換（ロービーム）……307
ヘッドライト・車幅灯……137
ライト点灯表示灯……137

ホ

ホイールカバー……292
ホイールサイズ……348
ホイールナットレンチ（ジャッキハンドル）……304
方向指示器表示灯……137
補給……330
歩行者事故低減ステアリング……215
ボンネット内のメンテナンス
ウィンドウォッシャー液の補給……286
推奨エンジンオイル……285, 348
ボンネット内のメンテナンス項目……283
ボンネットの開閉方法……284
ホーンスイッチ……10

マ

マップランプ……158
マルチインフォメーションディスプレイ……271
明るさ設定……275
安全支援情報……274
オーディオ……273
経過時間……273
警告メッセージ……278
交差点案内表示……274
航続可能距離……272
コンパス……274
瞬間燃費……272
シンプル……272
全席シートベルト……274
タイヤ角度モニター……278
電話……273
時計/車両設定……276
トリップメーター……273
ナビゲーション……274
表示の切り換えかた……271
平均車速……273
平均燃費……272
メーター表示設定……278
マルチビューカメラシステム……112

ミ

ミラー……87
サイドアンダーミラー……88
ドアミラー……87
バニティミラー……7
ルームミラー……87

ム

無段変速オートマチック……108

メ

メンテナンス
エアコンのお手入れ……296
スマートキー……309
清掃……298
タイヤ……291
ボンネット内のメンテナンス……283
メンテナンスに関する注意事項……282
ライト類の点検と整備……307
ワイパー……287
メーター……267
アンビエントメーター……268
オドメーター……269
外気温表示……268

渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール（ACC）/ 車線維持支援システム（LKAS）/ トラフィックジャムアシスト（渋滞運転支援機能）表示……269
水温計……268
スピードメーター……267
タコメーター……267
時計……270
燃料計……268
標識認識機能表示……269
メーター表示設定……278

ユ

ユーティリティサイドパネル……169
ユーティリティーナット……165

ラ

ライト点灯表示灯……137
ライト類の点検と整備
カーゴスペース照明灯電球……307
後退灯電球……307
後面方向指示器/後面非常点滅表示灯電球……307
室内灯電球……307
制動灯電球……307
前面方向指示器/前面非常点滅表示灯電球……307
側面方向指示器/側面非常点滅表示灯電球……307
デイタイムランニングライト/車幅灯電球……307
テールゲート照明灯電球……307
ハイマウントストップランプ電球……307
番号灯電球……307
尾灯電球……307
フォグライト電球……307
ヘッドライト電球……307
ラジエーター……330

リ

リアルタイム AWD <インテリジェント・コントロール・システム>……155
リアワイドカメラシステム……111
リザーブタンク……330
リムサイズ……348
リヤシートリマインダー……77
リヤデフロスタースイッチ……149

ル

ルームミラー……87

レ

冷却水……330, 348
レーダーセンサー……250

ロ

路外逸脱抑制機能……210
路外逸脱抑制機能警告灯（オレンジ）……265
路外逸脱抑制機能表示灯（グレー）……275
路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯……265
ロービーム
電球の交換……307

ワ

ワイパーブレードラバー……287
ワイパー・ウォッシャー……146